履修の手引き

学校法人桜花学園 建学の精神

Philosophy behind the Foundation

心豊かで、気品に富み、洗練された近代女性の育成

Instilling a sense of grace and refinement in the heart and minds of modern women

創設者の大渓 専(おおたに もはら)先生は、宗教家であり、社会活動家であり、そして教育者でした。先生は人格教育を重んじ、日常生活の中での実践を何より大切にする方でした。

そして宗教精神に基づく女子教育を創設の理念として、その具体化を建学の精神に盛り込みました。

その意味するところは極めて哲学的であり、時代の変化に左右されることのない、永遠の目標 を内容としており、現在の各学校で受け継がれています。

Mohara Ohtani, the founder of the school, was a ma of religion, a social activist and an educator. He valued humane education and treasured the practice in everyday life. He aimed a school for girls' education based on religious spirit and materialized it as the Philosophy behind the Foundation of the school.

It's meaning is extremely philosophical. It indicates an eternal aim which is unaffected by the change of time, and it is inherited in every schools run by Ohkagakuen.

目次

カリキュラムポリシー・デ	ィプロマポリシー・目指す教師像/保育士像
	とルーブリック・カリキュラムマップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
大学の授業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	·····1
保育学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •
国際学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •
学則、諸規程・・・・・・・	•••••9
教育・保育宝習について	7

カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー・目指す教師像/保育士像 とルーブリック・カリキュラムマップ

桜花学園大学のカリキュラムポリシーとディプロマポリシー、目指す教師像・保育士像カリキュラムポリシー

桜花学園大学は、建学の精神に基づき「信念ある女性」を育成することを基本目的とし、幅広い知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性をかねそなえた優れた人材を育成し、深く真理を探究して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを社会的使命とする。

桜花学園大学は、各学部・学科が定める教育目的・教育目標に基づき、学生に幅広い教養的知識を提供する「共通教育科目」と各学部学科において求められる専門的知識・技能を修得するための「専門教育科目」の2本の柱でカリキュラムを編成する。

「共通教育科目」は、幅広い視野を育成し、多面的・論理的な思考力とグローバルなコミュニケーション能力を養い、総合的な人間力を身につけることを目的とする。各学部の「専門教育科目」は、専門的な知識と技能を身につけ、社会の変化に対応し、現代の多様な課題を解決し、社会に貢献できる能力の育成を目的とする。

免許・資格については、段階的・体系的に学修できるようカリキュラムを編成する。

ディプロマポリシー

桜花学園大学は、建学の精神に基づき「信念ある女性」を育成することを基本目的とし、幅広い知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性をかねそなえた優れた人材を育成し、深く真理を探究して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを社会的使命とする。

各学部の教育目的・教育目標に沿って設定された教育課程を履修し、厳格な成績評価を経て、幅広く専門的知識と教養を修得することにより、現代の多様な課題を発見、分析、解決し、社会に貢献できる能力を身につけたと認められる者に対して学士の学位を授与する。

桜花学園大学が目指す教師像・保育士像

【教師像】

学習指導要領等を踏まえた幅広い基本的知識・理解に基づき、個々の幼児・児童・生徒に適した実践を自ら省察しつつ指導技術の向上に努め、社会的変化に 対応できるよう他者と連携・協働しながら、教育専門職としての倫理観と社会貢献に資する意識をもって実践することができる豊かな人間性を兼ね備えた教師。

【保育士像】

児童福祉法や保育所保育指針等を踏まえた幅広い基本的知識・理解に基づき、個々の乳幼児・児童に適した保育や養護を自ら省察しつつ援助技術の向上に 努め、社会的変化に対応できるよう他者と連携・協働しながら、保育専門職としての倫理観と社会貢献に資する意識をもって実践することができる豊かな人間 性を兼ね備えた保育士。

ディプロマポリシー (DP) に基づく学修指標とルーブリック

1. 学修指標とは

「何ができるようになるのか」、学修により達成する能力を具体的に示したものです。

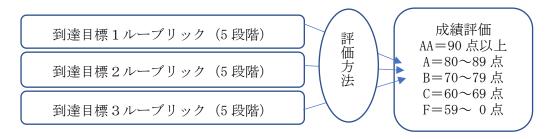
2. ルーブリックとは

従来のテストでは測ることが難しかったパフォーマンス (レポートやプレゼンテーション、議論やグループワークなど)を評価する基準です。評価の観点と学修者の到達度を一覧表にします。これにより、評価の明確化、公正化を実現します。

3. 教養科目「桜花学」「基礎科目」のルーブリック

①ルーブリックと成績評価基準

到達目標ごとのルーブリックを集約した評価は成績評価と正比例します。



②DP に基づく学修指標とルーブリック

※「DP」=ディプロマポリシー

「桜花学」

DPに基づく	桜花学説明			ルーブリック		
学修指標	女化子 就明	5	4	3	2	1
DP1. 高い教養に 資する知 識・理解 DP2. 課題発見・ 分析・解	て、場面や相手の特性を意識しながら発信できる。 ② 自分、人間、社会、世界、自然に関する多様な情報を	人間の存在および人間側の生み出した文化について側で い知識を習得したうえで、 基礎的・総合的視野に基づき、教養を体系的に関連付けながら課題を理解することができる 情報を適正に管理し、場面 や相手の特性を意識しながら、適切にやりとりをする	人間の存在および人間の生 み出した文化について知識 を習得したうえで、基礎的 視野に基づき、教養を体系 的に関連付けながら課題を 理解することができる 情報を管理し場面や相手の 特性を意識しながらやりと	人間の存在および人間の生 み出した文化に関する学修 を通して、既定の知識を習 得し、体系的に関連付けな がら課題を理解することが できる 他者とのやりとりに努め、 提供された情報を閲覧し自 己の意見を形成・発信する	人間の存在および人間の生 み出した文化に関する学修 を通して一定の知識を習得 することができるが、体系 的に関連付けながら課題を 理解することができない。 他者とのやりとりに努める ことができるが、情報を解 釈することができず自己の	一定の知識の習得と理解ができず、体系的に関連付けながら理解することができていない。 他者とのやりとりが見られず、自己の意見を発信する
の汎用的技	モラルをもって質的量的に収集・加工・整理し、分析・解釈することができる。 ●自分、人間、社会、世界、自然に関する多様な情報や知識を論理的に思考・分析・表現することができる。 ●変化に富んだ現代の多様な公共的課題を、女性の視座から発見・判断・解決することができる。	事象に対して学問分野を越 えて基礎的・総合的知識と 論理性をもって思考し、変 化・発展する現代社会を見	野における基礎的・総合的 知識と論理性をもって思考 し、変化・発展する現代社 会における課題を女性の視	的知識と一定の論理性を もって思考し、女性の視点 から課題を発見・構想する	はできるが、基礎的・総合 的知識と論理性をもって女	から思考、構想することが
度・志向性	て、女性の視点から社会へ広く発信することができる。	な自己管理と倫理観・責任 感をもって参加・協働し、 持続的な自己開発意欲のも と、女性の視点を生かしな がら創造的に問題解決に取	管理と倫理観・責任感を もって参加するよう努め、 持続的な自己開発意欲のも と、女性の視点を生かしな	感をもって他者と協働し、 女性の視点を生かしながら 問題解決に取り組むことが	者と協働することができる が、問題解決に向けて役割	れず問題解決への意欲が見
・ 統合的な学 習経験と創	●獲得した知識と総合的視野、多面的・論理的な思考力とコミュニケーション能力等をもとに、女性の視点から新たな知見を創造することができる。 ●変化に富んだ多様な現代的課題に最新の知見を適用し、他者と共に解決することで、持続可能な社会の発展に寄与することができる。	を越えた幅広い知識と理解 を生かし、女性の視点から 多面的・論理的に思考しな	に基づき、女性の視点から 多面的・論理的に思考し、 社会の発展に資する新たな 知見を他者と創造しようと	き、女性の視点から多面 的・論理的に思考し、他者 と共に何らかの知見を見出	既有の知識と理解に基づき 思考を働かせることができ るが、他者と共に何らかの 知見を見出すことができな い。	た思考ができず、他者と共 に知見を見出すこともでき

「基礎科目」

DPに基づく	TT /85 4/5 4/5 TR UD			ループリック		
学修指標	共通教育説明	5	4	3	2	1
DP1. 高い教養に 資する知 識・理解	●グローバル化・ユニバーサル化した現代社会の 諸課題に対して、真理を深く探究することができる。 ②複眼的視点から多様なアプローチを通して、学 間領域の境界を文理横断的に越えながら、基本 的・総合的視野に基づく幅広い教養的知識を身に つける ③専門性との往還・統合などを体系的に理解する ことができる。	識を習得し、真理を追	幅広い知識を習得した うえで自己の専門性と 結びつけることができ る	自己の専門性と結びつ	一定の知識を習得する ことができるが、学修 した内容を自己の専門 性あるいは幅広い分野 と結びつけることがで きない。	知識の習得と理解ができていない。
DP2. 課題発見・ 分析・解 決・発信等 の汎用的技 能	●母国語および外国語を用いて口頭・文章等に よって、場面や相手の特性を意識しながら発信で きるグローバルなコミュニケーション能力を身に つける。 ●自然や社会的事象に関する多様な情報をモラル をもって質的量的に収集・加工・整理し、分析・ 解釈することができる。	場面や相手の特性を意	相手の特性を意識しな がらやりとりをするこ	他者とのやりとりに努 め、提供された情報を 関覧し自己の意見を形 成・発信することがで きる。	めることができるが、 情報を解釈することが	られず、自己の意見を 発信することができな
	●知識や情報に基づき、学問や文化の境界を越えて多面的に考察し、論理的に思考・分析・表現することができる。 ●人間や社会における普遍的・根幹的な在り方を 模索しながら、公共的課題を見出し判断・解決することができる。	野を越えた多様な視点 と論理性をもって思考	学問分野における多様 な視点と論理性をもっ て思考し、人間や社会	課題を発見・構想する	事象に対して思考する ことはできるが、論理 性をもって課題を発 見・構想することがで きない。	
	●自らのキャリア展望を主体的に考え、生涯にわたって自己の主体性を軸に学ぶ意欲を持つ。 ●関心とモラル、責任感をもって、社会の一員としての役割を担おうとすることができる。 ●幅広い知識に基づく理解力・思考力・判断力をもって、社会へ広く発信することができる。 ●多様性を尊重し異なる価値観を有する他者とともに、持続可能な社会を創り上げるために積極的に関与することができる。	倫理観・責任感をもっ	ら倫理観・責任感を もって参加・協働する よう努め、持続的な自 己開発意欲のもと、創	自己を管理し、倫理 観・責任感をもって他 者と協働し、問題解決 に取り組むことができ る。	とができるが、問題解	の参加する姿勢が見ら れず、問題解決への意
習経験と創	●獲得した知識と総合的視野、多面的・論理的な 思考カとコミュニケーション能力等をもとに、新 たな知見を創造することができる。 ●変化に富んだ多様な現代的課題に最新の知見を 適用し、他者と共に解決することで、持続可能な 社会の発展に寄与することができる。	識と理解を生かし、多 様な視点から多面的・ 論理的に思考しなが	理解に基づき、多様な 視点から多面的・論理 的に思考し、社会の発 展に資する新たな知見 を他者と創造しようと	づき、多様な視点から 多面的・論理的に思考 し、他者と共に何らか	づき思考を働かせることができるが、他者と 共に何らかの知見を見	かした思考ができず、 他者と共に知見を見出

4. 共通教育科目「桜花学」「基礎科目」のカリキュラムマップ

①カリキュラムマップとは
DP に基づく学修指標と各授業科目との関係を示す一覧表です。学修指標(卒業までに身 につける能力)のためにそれぞれの授業科目が果たす役割(どの学修指標と関連が深いか) を示します。

※専門科目を含む全体の教育課程表は、学部ごとのページに掲載しています。

(保育学部)

◎ - 深い関連がある、○ - 関連がある(空欄は全く関連がないわけではない)

				0 7,1 10,2 10 0	5、○=関連がある(空欄は全く関連がある)			
l×,	公		授業科目	科目ナンバー		DPに基づ	く学修指標	
12.	.),		1又来1十口	147 11 7 7 7 1		DP2. 課題発見・分析・解		
數	t	白	ライフコース論	OK11L0001	知識・理解 ◎	決・発信等の汎用的技能	向性 〇	と創造的思考力
数 自分を知る 上 の		分		0K11L0001	0		Ö	
演				OK11L0003	0		0	
				OK11L0101	©		0	
科			文学の世界	0K11L0102	©		0	······
			心の探求	0K11L0103	0		0	
目			生き方の探求	0K11L0104	0		0	
			生活と経済	0K12L0201	0		0	
_	. 4	を	地域社会	0K12L0202	©		0	
			人間と歴史	0K12L0203	0		0	
松	`		異文化理解	0K12L0301	0		0	
			日本の文化	0K12L0302	0		0	
花				0K12L0303	0		0	
	Ŀ	る	グローバル社会と宗教	0K12L0304	©		0	
学				0K21L0401	0		0	
			食と生命の科学	0K21L0402	0		0	
)	1	る		0K21L0403	0		0	
	1	康	スポーツ健康論	OK12K1001	0		0	
	ッ	,		0K22K1001	0		0	
	係	ミス		0K22K1002	0	_	0	
	IJ	盘		0K22K1101	0	0		
	テラ	· 的		0K22K1101		0	<u> </u>	
				0K22K1102		0	0	
				OK11K1101	0	0		
	係	情		OK12K1101	0	0		
				OK31K1201	<u> </u>	0		
	1.		~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	0K31K1202 0K31K1203	0	0	© ○	
	4	会	心域励力演音 インターンシップ(国内)A	0K21K1203		0	©	
			インターンシップ (国内) B	0K21K1201		0	0	
	3	-	インターンシップ (海外) A	OK12K1202		Ö	0	
全学			インターンシップ (海外) B	OK12K1201		Ö	0	
共		験	インターンシップ(海外)C	OK12K12O3			0	0
			インターンシップ(海外)D	0K12K1204			0	0
			ボランティア (海外)	OK12K12O5		0	©	
			海外英語資格実習	0K21K1203		0	©	
		IJ		OK11K1301	0	0		
			総合英語Ⅱ	OK12K1301	0	0		
			総合英語Ⅲ	0K21K1301	0	0		
荷鞋	i .		総合英語IV	0K22K1301	0	0		
科目	ŀ		英語コミュニケーション I	OK31K1301		0		0
		E	英語コミュニケーションⅡ	OK32K1301		0		0
			英語コミュニケーションⅢ	0K41K1301		0		0
			英語コミュニケーションIV	0K42K1301		0		0
			ポルトガル語と文化 I	OK11K1302	0	0		
			ポルトガル語と文化Ⅱ	0K12K1302	0	0		
			スペイン語と文化I	OK11K1303	0	0		
			スペイン語と文化Ⅱ	0K12K1303	0	0		
	1	=	フランス語と文化 I	0K11K1304	0	0		
	1	ケー	フランス語と文化Ⅱ	0K12K1304	0	0		
	١,	· •		OK11K1305	0	0		
				0K12K1305	0	0		
	1	ン		0K21K1302	0	0		
	- 3	z		0K22K1302 0K11K1306	0	0		
			~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	0K11K1306 0K12K1306	0	0		
	- 1		韓国語と文化Ⅲ	0K12K1306	0	0		
	- 1	関	韓国語と文化版	0K22K1303	0	0		
		係総	日本国憲法	0K22K1401	© ©	0		
			海外研修A	0K21K1401	-	0	©	
			海外研修B	0K21K1401		<b>1</b>	0	0
			基礎演習I	OK11K1401		0		0
	4	合	基礎演習Ⅱ	0K12K1401		0		0
	ン	T.	①他学部履修科目					
科目	1 2	ス	②大学間連携科目 ③愛知学長懇話会科目					
Ш	ン	テ	<ul><li>④資格認定</li></ul>		<u> </u>	1	<u> </u>	l

#### (国際学部)

国際学部 国際学科 共通教育カリキュラムマップ ◎=深い関連がある、○=関連がある

国际	(子部)	国際学科 共通教育カリキュラ	フムマッソー(	<b>9=深い関連か</b>	<i>め</i> る、∪=関理	かめる						
区分					DPに基づく学修指標							
		授業科目名	科目ナンバー	DP1. 高い教養に資す る知識・理解	DP2. 課題発見・分析・解 決・発信等の汎用的技 能	DP3. 価値観・態度・志 向性	DP4. 統合的な学習経験 と創造的思考力					
		= 1	01/11/10001		100	0						
		ライフコース論	OK11L0001	0								
		ジェンダー論 	0K11L0002	0		0						
		自分と家族	OK11L0003	0		0						
	区分 教養科目	芸術の世界	OK11L0101	0		0						
		文学の世界	OK11L0102	0		0						
		心の探求	OK11L0103	0		0						
		生き方の探求	0K11L0104	0		0						
		生活と経済	OK12L0201	0		0						
		地域社会	0K12L0202	0		0						
		人間と歴史	0K12L0203	0		0						
		異文化理解	OK12L0301	0		0						
		日本の文化	OK12L0302	0		0						
		国際関係論	OK12L0303	0		0						
		グローバル社会と宗教	0K12L0304	0		0						
		環境の科学	0K21L0401	0		0						
		食と生命の科学	0K21L0402	0		0						
		生き物の社会	0K21L0403	©		Ö	······					
		スポーツ健康論	OK12K1001	0		0						
	分     教養科目         基礎科	スポーツ I	0K22K1001	0		0						
		スポーツⅡ	0K22K1001	Ö		0						
(区)       数養科目       (日本)       (日本)	統計学	0K21K1101	0	0	Ü							
		社会調査法	OK21K1101		0	0						
		情報社会論	0K22K1101 0K22K1102		<u> </u>	Ö						
	ŀ	コンピュータⅠ	0K2ZK110Z 0K11K1101	0	Ö	<u> </u>						
			•	0	0		·					
		コンピュータ II	OK12K1101	0	0							
		NGO・NPO論	OK31K1201	0								
		現代社会と企業	0K31K1202	0	©	0						
		地域協力演習	0K31K1203			0						
		インターンシップ(国内)A	0K21K1201		0	0						
		インターンシップ(国内)B	0K21K1202		0	0						
H		インターンシップ(海外)A	OK12K1201		0	0						
		インターンシップ(海外)B	OK12K12O2		0	0						
		インターンシップ(海外)C	OK12K12O3			0	0					
		インターンシップ(海外)D	OK12K12O4			0	0					
		ボランティア (国内)	OK12K12O5		0	0						
		ボランティア(海外)	0K12K1206	******************************	0	0	4					
		海外英語資格実習	0K21K1203		0	0						
生地 人 異 日 国 グ 環 食 生 ス ス ス 統 社 情 コ コ M 現 地 イ イ イ イ イ イ ボ ボ 海 ボ ボ ス ス フ フ 中 中 中 中 中 中 韓 韓 韓 日 海 海 田 本 徳 科 目	ポルトガル語と文化 I	OK11K1302	0	0	************	***************************************						
		ポルトガル語と文化Ⅱ	OK12K1302	0	0							
		スペイン語と文化 I	OK11K1303	0	0							
		スペイン語と文化Ⅱ	OK12K1303	0	0							
		フランス語と文化 I	OK11K1304	0	0							
		フランス語と文化Ⅱ	OK12K1304	0	0	***************************************						
		中国語と文化 I	OK11K1305	0	0							
		中国語と文化Ⅱ	OK12K1305	0	0							
		中国語と文化Ⅲ	OK21K1302	0	0							
		中国語と文化IV	OK22K1302	0	0							
		韓国語と文化 I	OK11K1306	0	0							
		韓国語と文化Ⅱ	OK12K1306	0	0							
		韓国語と文化Ⅲ	OK21K1303	0	0		••••••••••••					
		韓国語と文化IV	OK22K1303	0	0		···········					
		日本国憲法	0K22K1401	0	0							
		海外研修A	0K21K1401		Ö	0						
		海外研修B	0K21K1401			0	0					
		基礎演習I	OK11K1401		0		0					
		基礎演習Ⅱ	OK11K1401	***************************************	Ö	***************************************	0					
	$\vdash \vdash$	エクステンション科目	0K12K1401 0K00K2001				)					
	1	· / · / · · · □ · · 1T □	ONOUNZUU1	l	1	<u>l</u>	l .					

## 大学の授業

#### 大学の授業

将来への夢と期待をもって入学されたみなさんは、大学教育を初めて受けることになります。

大学では、学生の主体的な学修姿勢が求められ、自分で調べたことや意見を発表する機会が増えてきます。教員による講義形式の授業を多人数で受講することもありますが、演習や実技の授業やゼミ学修では、アクティブ・ラーニングが基調となり、各自が調べたことを発表したり、自分の意見を述べる機会が多くなります。そして、試験では、レポート(小論文)試験があったり、筆記試験でも「〇〇とは何か論ぜよ」というように、その知識を生かして考えを述べる問題が出されることもあります。このように、大学の授業は、高等学校までの学びとは大きく異なっているのです。

以下では、文部科学省の法令等に則って実施している本学の授業運営のポイントを示します。入学後の学部ガイダンスや、教務課が行う履修指導等を通して、自己の学修目的に合わせた各授業科目の区分の意義や関連を踏まえて、個々の授業を選択・履修するように心掛けてください。

一人一人の学生によって学修目的が異なりますので、科目の履修でわからないことは、自分から進んで教務課等に尋ねるようにしてください。

#### 1.カリキュラムの編成と桜花学

本学は、本学園の設置目的である「信念ある女性の育成」、および建学の精神である「心豊かで、気品に富み、洗練された近代女性の育成」を踏まえ、各学部・学科が定める教育目的・教育目標に基づき、教育課程を【共通教育科目】と【専門教育科目】に区分して編成しています。

(1) 桜花学園大学の【共通教育科目】は主となる 2 つの柱①建学の精神を踏まえた「教養科目(桜花学)」、②汎用的能力の育成を目指す「基礎科目」と、③学びの幅を広げる「エクステンション科目」で構成されています(図 1)。



図 1 桜花学園大学の【共通教育科目】

#### ①建学の精神を踏まえた人間教育の核である「教養科目(桜花学)」

「共通教育科目(桜花学)」は、「自分を知る」「人間を知る」「社会を知る」「世界を知る」「自然を知る」の5領域の科目群で構成されています(図2)。「桜花学」の学修を通して、人間存在および人間の生み出した文化を広く理解し、変化・発展しつつある現代社会の課題を多様な視点を踏まえて理解しうる基礎的・総合的視野を養います。もって「心豊かで、気品に富み、洗練された近代女性(人)」としての「信念ある人」の基礎を培うことが期待されます。



花びら群	定義
「自分を知る」	自分を客観的に見つめながら、社会でたくましく生きていく上で必要となる自身の考えを深めるために、家庭や地域の一員として、暮らしを営み、活躍する人のあり方を学ぶ。
「人間を知る」	これからの時代を生きる中で必要な人としての在り方に関する自身の考えを深めるために、芸術・文学・心理学・哲学を通して、人間の心の様々な在り様を見つめたり感じたりしながら学ぶ。
「社会を知る」	周りの人々とより良い社会を創り出していく上で必要となる自身の考えを深めるために、地域や社会が形成されてきた歴史的な移り変わりや現代社会の仕組み等を学ぶ。
「世界を知る」	グローバルな観点から物事をとらえながら国際社会に対する自身の考えを深めるために、国内外の 多様な文化や宗教などに目を向けて学ぶ。
「自然を知る」	暮らしをより良くする上で必要な自然との向き合い方に関する自身の考えを深めるために、環境や 食・生命の科学などの多様な自然科学について学ぶ。

#### ②現代社会が大学教育に求める汎用的能力の育成を目指す「基礎科目」

「基礎科目」は、「健康・スポーツ関係」「数量的スキル関係」「情報リテラシー関係」「社会貢献ないし職業体験関係」「グローバル化に対応したコミュニケーションスキル関係」等の科目群で構成されています。「基礎科目」の学修を通して、国際化・情報化という今日の社会変化に対応しうる汎用的能力を身につけます。それにより心身ともに健康で、自主的・総合的に思考し判断しうる、数的リテラシー、情報リテラシー、外国語運用能力、表現能力、問題発見・解決能力をそなえた社会人基礎力を自ら育み、「信念ある女性」としての基礎を培うことが期待されます。

#### ③特定の領域に関する学びのさらなる伸長をはかる「エクステンション科目」

「エクステンション科目」は、「教養科目」(桜花学)と「基礎科目」を結び、好奇心や自分の進路に根差して学びの幅を広げ、多様な学生との触れ合い、学修意欲を高めるための科目群です。他学部履修科目、愛知学長懇話会開放科目(https://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp/)などが該当します。「エクステンション科目」の学修を通して、特定の領域に関する知識を深めます(各学部の専門科目とも関連し、一定の限度内において卒業単位として認定します)。

(2) 桜花学園大学の【**専門教育科目**】は、各学部・学科の教育目的・教育目標に基づき学部ごとに 編成しています。

【専門教育科目】は、学生の社会的・職業的な自立に向けて、それぞれの専門分野における基礎的知識と技能を身につけ、現代社会のニーズと変化に対応し、多様な課題の解決や貢献しうる思考力・判断力・表現力の育成を目的としており、学部ごとに【専門教育科目】として構成しています。学部固有の【専門教育科目】の学修を通して、それぞれの職業等の専門分野において社会的・職業的自己実現を達成し、「信念ある女性」としての自己開発能力の基礎を培うことが期待されます。桜花学園大学は、両学部の【共通教育科目】である教養科目としての「桜花学」「基礎科目」「エクステンション科目」と、学部ごとの【専門教育科目】の履修を通して、すべての学生が現代社会の有能な担い手としての総合的な人間力を培うとともに、将来の社会的・職業的自立に向けて、それぞれの専門分野における免許・資格の取得を含めた基礎的な能力を培う上での必要な科目を体系的・段階的・系統的に学修できるようカリキュラムが編成されています。

#### 2.授業と自主的な学修

大学の学修は、授業の受講とその予復習が学生の自主的な学修によって、成り立っています。したがって、授業を受けるだけでは十分ではなく、授業時間中に学修した内容を自学自習によって整理したり、課題を調べたりするなど自主的で主体的な学びが求められます。そのためには、図書館・ESC (English Study Center)・自主レッスン室などの施設を活用して、自ら課題意識をもって自学自習する学修習慣を身につけるように心がけてください。

#### 3.単位制

#### (1)「単位」とは

単位とは、授業科目ごとに定められた学修時間に対して付与される数量(ユニット)のことです。1つの授業科目の単位を取得するためには、その授業科目に定められている所定時間(自学自習も含めた)の学修をし、試験を受けて合格しなければなりません。

そして卒業するためには、学年配当された授業科目を修業年限(4年間)以上在学して、各学科の卒業要件を充足し、定められた単位(124単位)以上の単位を取得することが必要となります。

#### (2) 単位の計算

大学設置基準に則り、本学では45時間の学修を必要とする内容をもって1単位としています。これを標準として、授業形態に応じて、単位数を計算しています。

例)授業形態が講義(2単位)の場合、2単位修得するためには合計90時間の学修が必要となります。 1週間に1回の授業(90分を2時間と計算しています)を半期で15回受けると30時間の授業時間となり、残りの60時間は予復習の時間となります。

上記以外に、卒業研究や修了研究等学修の成果をもって所定の単位を与える科目もあります。

#### 4.学期制

本学では、1年間を2分割し、春学期を「前期」・秋学期を「後期」と呼ぶ2学期制を採り入れています。学則上、前期は4月1日~9月30日の期間、後期は10月1日~翌年3月31日の期間と定められ、前期と後期にはそれぞれ15週、年間30週の授業が設定されています。

ただし国民の祝日の関係で、各曜日の開講時間数を確保するために後期の始まりを早めることがあります。

#### 5. 授業時間

本学の授業時間は、通常90分(2時間換算)で行います。 本学の 始業と終業の授業時間帯は右の通りです。

時 限	時 間 割
第1時限	9:00 ~ 10:30
第2時限	10:40 ~ 12:10
第3時限	13:10 ~ 14:40
第4時限	14:50 ~ 16:20
第5時限	16:30 ~ 18:00

#### 履修登録

#### 1. 履修登録とは

各学部の教育課程表には、必修科目と選択科目があり、学年・学期ごとに授業科目が配当されています。必修科目とは卒業要件科目(資格・免許の取得に関わらず、本学を卒業するために履修が必要な科目)です。必修科目を含んで、選択科目の中から自分が受講したい科目を選んで登録することとなります。このことを「履修登録」といいます。

大学における学修は、学生自身による履修登録から始まります。一人一人が学修目標を立て、自らの意思のもと、卒業要件単位以上の授業科目を履修することに加え、資格取得や教員免許状取得要件を充たすように、毎学年の履修登録期間中に提出しなくてはなりません。履修登録の手続きがなされていない授業は受講することができません。

#### 2. 履修登録の方法

「履修の手引き」の諸要件や授業概要(シラバス)をよく読み、どの授業科目を履修するかをよく 考えながら学修計画をたて、所定の期間中に履修登録をします。

登録の無い授業科目や既に単位認定されている授業科目を受けた場合には、その履修は無効となります。また、登録後の変更は一定期間を除いては特別の事情の無い限り認められません。履修登録をした後でやむをえない事情で取り消す場合は、原則として各学期授業開始後6週間目の期間内に、教務課へ「受講取消願」を提出してください。

履修登録に関しては学科ごとに、毎年「履修ガイダンス」がありますので必ず出席して、担当者からアドバイスを受けてください。わからないことは曖昧にせず、各学部の専任教員や教務課担当者に相談してください。

#### 3. 他学部の履修(エクステンション科目)

本学では、みなさんに広く学ぶ機会を提供するため、所属学部学科以外の授業科目を履修することができます。希望する学生は、指定の期日までに「他学部履修願」を教務課に提出してください。ただし開講学科の許可が必要ですので、事前に教務課で確認してください。

#### GPA制度と履修登録単位数の上限制度

#### 1. GPAとは

履修科目ごとの5段階の成績評価に対して、AA(秀) $\rightarrow$ 4点、A(優) $\rightarrow$ 3点、B(良) $\rightarrow$ 2点、C(可) $\rightarrow$ 1点、F(不可) $\rightarrow$ 0点というグレード・ポイント(GP)を付与し、個々の履修科目のGPに各授業科目の単位数を乗算し、その合計値を履修登録科目の総単位数で除算して出てきた、その平均値のことをGPAといいます。ただし、履修登録取消期間中に取消申込をした場合には、その科目はWとして扱われGPAの算出対象になりませんが、無断で履修放棄した科目はF(不可) $\rightarrow$ 0点となります。

GPA 制度の活用により保育学部・国際学部では、学生の学修効果を高めるために、セメスターごとに 履修単位数を制限しています。

#### 2.各学期の履修登録の上限単位数

前学期のGPAに基づいて、学生が各学期に履修登録できる上限単位数について、学部ごとに次のように定められていますので、留意して下さい。

#### 【保育学部】

- 13 3 F-1- 2							
前学期のGPA	次学期の履修上限単位						
3.0以上	34						
2.5~2.9	32						
1.5~2.4	30						
1.5未満	26						
新入学生、編入学生、再入学生の上限単位数は30							

#### 【国際学部】

前学期のGPA	次学期の履修上限単位
3.5以上	24
3.0~3.4	22
2.5~2.9	20
2.0~2.4	18
2.0未満	16
新入学生、編入学生、再入学	生の上限単位数は20

なお、卒業研究・学外実習科目・集中講義科目・自由科目(国際学部国際学科)はこの上限制限に含まれません。

GPA及び履修単位数の上限に関しては、「桜花学園大学保育学部 GPA制度および履修登録単位数の上限制度に関する細則」及び「桜花学園大学国際学部 GPA制度および履修登録単位数の上限制度に関する要項」を参照してください。

#### 単位認定と成績

#### 1.単位認定の基準

登録した授業科目を履修し、その授業科目の試験において合格と判定された場合、教授会の議を経て所定の単位が認定されます。本学の単位認定に関する成績評価の基準は次の通りです。

毎学期終了時点の成績発表日に学生一人一人に 成績通知表が渡されます。成績通知表や履修登録 票を在学期間中は大切に保存し、卒業・資格・免

評 価	成績	合 否
秀	100 点~90 点	
優	89 点~80 点	合格
良	79 点~70 点	口俗
可	69 点~60 点	
不可	59 点~0 点	不合格

許との関わりで履修した科目や単位数、ならびに未修得の科目や単位数を自分で確認するよう心掛けてください。

#### 2.成績の確認

成績発表の後、成績内容について確認をしたい場合は「成績確認依頼書」を提出することにより、担当の先生から回答を得ることができます。詳細は巻末の「桜花学園大学 成績取扱要領」を参照してください。

#### 既修得単位等の認定

#### 他の大学又は短期大学における授業科目の履修等

本学では文部科学省の定めるところに従い、次のような措置を取っていますので、該当者は教務課に申し出てください。他の大学又は短期大学等を卒業又は中途退学し、社会人入学(一般入学者選抜試験により入学した者を含む)、編・転入学等で入学した者が、それまでの大学等で取得した単位の一部について、本学において単位取得したものとみなすことがあります。

該当者は、成績(単位修得)証明書等を用意し、教務課担当者と履修登録時に相談してください。 詳細は「保育学部編入学既修得単位認定規程」又は「国際学部編入学既修得単位認定規程」を参照して ください。

#### 試 験

#### 1. 定期試験

試験は原則として、その学期末に行われます。試験方法は科目に応じて、筆記試験・レポート試験および実技試験・その他の試験があります。試験方法は、授業担当教員によって決められ、シラバスにも明記されています。

本学の学則では、以下のような履修規程を設けています。

#### 受験資格(履修規程第26条)

- ① 当該授業科目が履修登録されていること。
- ② 当該授業科目の出席が開講時数の2/3以上であること。
- ③ 授業料等の学納金が納められていること。

#### 定期試験実施の要領(履修規程第27条)

- ① 試験開始後20分を経過してからは入場することは出来ません。
- ② 受験資格のない者は、試験場に入場出来ません。
- ③ 試験場には筆記用具(筆箱、下敷き等は不可)、時計、学生証および特別に許可された以外のもの(もちろん不正行為を目的とした物品も)は持ち込めません。
- ④ 受験生は学生証を所持しなければなりません。
- ⑤ 定期試験の実施要領(試験時間割、および試験方法)はおそくとも試験開始日の一週間前には提示します。

#### 2. 追試験 (履修規程第 28 条)

定期試験当日やむを得ない事由により受験が不可能となった者は、願い出により、追試験を認められることがあります。

追試験の受験資格者は次の者で、試験実施前に教務課まで連絡し指定された日までに追試験を願い出た者に対して、大学が指定する期間及び方法によって原則として一回限り、実施されます。

#### 追試験受験資格者について

- ① 天変地異で当日出席不可能になった者
- ② 疾病のため受験不可能になり、試験実施までに教務課に連絡し、すみやかに医師の診断書を提出し た者

- ③ 就職試験のため受験不可能になり、試験実施までに申し出た者
- ④ その他学長が認めた者

追試験を願い出ようとする者は、所定の追試験願に詳細に事由を記載し、教務課へ提出しなければならない。試験日時、場所、試験方法などは科目ごとに掲示します。

#### 3. 再試験 (履修規程第29条)

定期試験において不可と評価された科目については、願い出により、再試験によって再評価されることがあります。この場合における単位認定の評価は可となります。

#### 再試験受験資格者について

次のいずれかに該当する者は、受験資格がありません。

- ① 試験場において答案を提出せず、または棄権の意思を表明した者
- ② 定期試験において不正行為のために答案を没収された者

再試験を願い出ようとする者は、所定の再試験願に所定事項を記載のうえ指定された日までに教務課 へ提出しなければなりません。

再試験は、大学が指定する期間及び方法によって、原則として1回限り行われます。

#### 4. 試験における不正行為の処罰 (履修規程第31条)

不正行為を行った者に対しては、当該科目は無効となり教授会の議を経て、無期停学の懲戒が行われます。

#### 欠課・欠席

#### 1. 長期欠席届

疾病または傷病その他の事故でやむをえず連続して**7**日間以上にわたって欠席する場合は、医師の 診断書、事故を証明する事由書等を添えて教務課へ届け出てください。

#### 2. 公用による欠課(通称「公欠」)

公用による欠課とは、学長が授業運営上必要と認め当該学生を欠課させることをいいます。 公用による欠課は、欠課時数に含めません。

本学では、就職試験や学外実習等による授業欠席は、公欠扱いになりません。

#### 3. 忌引による欠課

忌引の取扱いは次の通りです。

忌引による欠課は指定された日数に限り欠課時数に含めません。

忌引による欠課をする者は、ただちに忌引届(所定様式)を教務課に提出してください。

T-1	忌引日数								
死亡した者	血族	姻族							
父母	7	3							
祖父母	3	1							
兄弟姉妹	3	1							
配偶者	10								
子	5	•							

#### 非常時の授業運営措置について

非常時における授業運営措置を以下のように定めます。

- 1、非常時とは、以下のことを指します。
  - 1) 愛知県の尾張西部・尾張東部・知多地域・西三河北西部・西三河南部のうちいずれかの地域 に「特別警報」又は「暴風警報」が発令された場合
  - 2) 上記の地域に「東海・東南海地震注意情報」又は「東海・東南海地震予知情報」が発令され た場合
  - 3) 名鉄電車名古屋本線(東岡崎駅~名鉄一宮駅間)又は名古屋市営地下鉄・バスが、ストライキや自然災害などにより運休した場合
  - 4) その他、特別な事由により学長が非常時を宣言した場合
- 2、非常時の授業運営は、以下のとおりとします。
  - 1) 午前6時までに解除された場合は、平常通り授業を行う。
  - 2) 午前6時現在、発令されている場合は午前中の授業は休講とし、午前10時までに解除された場合は、午後(3時限)から授業を行う。
  - 3) 午前10時現在、発令されている場合は全日休講とする。
  - 4)授業開始以降に警報等が発令された場合の授業は中止し、その後は休講とする。

#### ◇愛知県予報区の地図



#### 学籍 異動

#### 1.休 学 (学則第 17 条)

休学とは、病気、その他の理由で止むを得ず3ヶ月以上出席することが困難となり、一時的に就学を 離れる場合をいいます。

休学しようとする者は、あらかじめ自分が所属するゼミの担当教員に相談をし、本学所定の用紙(休学願)に保証人連署の上、その理由を具体的かつ明確に記載し、医師の診断書又は事由を証する書類を添付し、教務課へ願い出てください。

休学期間は、許可された日から1年以内に限ります。その後引き続き休学するときは改めて、休学願を提出しなければなりません。

休学の許可は、教授会の議を経て学長が行い、許可・不許可は教務課を通じ、本人宛通知します。 休学中は学生としての身分が停止されるので、休学中の学費は免除されます。休学期間中は在学期間 に算入しません。

#### 2.復 学 (学則第 18 条)

休学期間が満了したとき、または、休学期間内において休学の事由が止んだときは、直ちにその旨を本学指定の用紙(復学願)に保証人連署の上、具体的に事由を記載し、教務課へ願い出てください。 復学の許可は、教授会の議を経て学長が行います。

#### 3.退 学 (学則第21条)

退学とは、経済的または健康上等の事由から修学の継続が困難となった者、および修学の意思がなくなった者が、就学の状態から全く離れる場合をいいます。

退学する者は、あらかじめ自己が所属するゼミの担当教員に相談をし、本学所定の用紙(退学願)に その事由を具体的かつ明確に記載し、保証人連署の上、学生証を添付し教務課へ願い出てください。 退学者には、再入学する機会があります。(再入学規程を参照)

#### 4.除 籍(学則第22条)

次の事項に該当する者は、教授会の議を経て、除籍されます。この場合、その決定を本人および保証 人宛に書面で通知します。

- ① 在学年限をこえた者
- ② 休学期間をこえても、何らかの手続きもとらない者
- ③ 長期間にわたり行方不明の者
- ④ 授業料納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- ⑤ 在学中に死亡した者

#### 5.復 籍(学則第23条)

除籍された者のうち、次の事項に該当する者は、教授会の議を経て、「復籍」することができます。

- ① 長期間にわたり行方不明で除籍された者が、復籍を願い出た場合
- ② 授業料等未納により除籍された者が、未納授業料等を納入し、復籍を願い出た場合

#### 6. 転学部・転学科 (学則第19条)

入学した学科に1年以上在籍し、年度終了時に充分な転学部・転学科の理由がある場合、審査の上転 学部・転学科を認められる場合があります。(詳細は「桜花学園大学転学部・転学科規程」参照)

#### 7. 懲 戒 (学則第 39 条)

教育上必要と認める学生には、事情によって訓告・停学・退学などの懲戒を加えることがあります。 懲戒による退学は次のいずれかに該当する者に対して行う。

- ① 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- ② 正当な理由がなく出席が常でない者
- ③ 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

### 保育学部

#### 保育学部の教育理念と教育課程の特徴

#### 1. 保育学部の教育理念

保育学部の教育理念は**〈参加〉〈共同〉〈創造〉**です。内容は以下の通りです。学生のみなさんはしっかりと自らの課題として受けとめて学んでほしいと思います。

#### 【保育学部の基本理念】

教育・保育学に関する体系的な教育・研究を通して、学生の社会参加と自己実現を支援し、もって人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる高度の専門性を具えた有為な職業人を養成するとともに、社会の要請に応えつつ教育・保育の社会的な発展に貢献する。

#### 【3つの目標と9つの課題】

- (1) 男女共同参画社会の実現という現代社会の課題に応え、学生の自己実現を支援し、能動的で自己開発的な学修主体として社会参加の意識の高い能力を持もった学生を形成する。<参加>
  - a、授業への積極的な参加を促し、自主的・主体的で、自己開発的な学修主体として学生を形成する。
  - b、学部の責任ある構成員として学部づくりへの積極的な参加を促し、その行動と経験 を通して社会参加 の意識と能力を醸成する。
  - c、ボランテイア活動、実習、インターンシップ、演習等の授業および授業外の社会参加・体験学修の豊かな機会を保障し、責任ある社会の構成員としての意識と能力を醸成する。
- (2) 個人としての責任感と同時に共同の責任感をもって、問題解決と課題実現のために豊かな研究と活動を共同で展開しうる意識と能力をもった学生を形成する。<共同>
  - a、サークル活動等学生の自主的諸活動を積極的に促進し、相互に協力して問題解決と 課題実現のために活動する機会を豊かに実現する。
  - b、ゼミなどの活動を通して、学生が個人としてまた相互に協力し、かつ学生と教員と が目標を共有して、 特定のテーマについて研究し、様々な課題に則して活動する経験 を豊かに保障する。
  - c、社会参加の多面的な機会を通して、責任ある活動のために組織されている協力関係 を体験的に学び、そのような協力関係を取り結ぶ責任ある社会の構成員としての意識 や能力を醸成する。
- (3) 子どもの発達保障や子どもの最善の利益を実現しうる社会の形成等の責任ある社会的活動に従事しうる想像力と創造力を豊かにもった学生を形成する。<創造>
  - a、時代の要請に応え教育・保育学の体系として構造化された保育学部の教育課程を系 統的に学ぶことを通して、学問的な想像力を豊かに涵養し、教育・保育学の創造的な 学修主体としての学生の自己確立を支援する。
  - b、学生にとって学修と生活の基盤であり環境である保育学部を「私の大学」としての アイデンティティを持ちうるように、学生一人ひとりが責任ある構成員としての意識 をもって学部を創造する活動を積極的に展開し体験する。
  - c、社会参加の多面的な機会を通して、教育・保育や子育て支援等の仕事や活動において求められる課題を理解し解決するために必要な想像力と創造力を体験的に学び、専門職としての創造的な力量を豊かに形成する。

#### 保育学部保育学科のディプロマポリシー

保育学科は、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という保育学部の教育理念のもとで、学則に定める所定の単位を修得し、以下の力を身につけた学生に、学士(保育学)の学位を授与する。

- 1. 自主的、主体的に学び活動する力(高い学習意欲、永続的な自己開発意欲の育成)を身につけている。
- 2. 他者と交流・協力し、学び合う力(豊かな人間性と人間理解、豊かなコミュニケーション能力・自己表現能力・共感能力、信頼されうる社会的モラル)を身につけている。
- 3. 課題を発見・理解し解決しうる力(豊かな教養、専門的な知識・技術、思考力、判断力、表現力)を身につけている。

#### 保育学部保育学科が目指す教師像・保育士像

【小学校教諭·特別支援学校教諭】

- 1. 教育に対する使命感や情熱、教師に求められる高い倫理観や規範意識を持ち、子どもの心身の発達・成長を第一に考え、適切な指導ができるように、自ら学び続けることができる教師。
- 2. 組織の一員として他の教職員と協力し、職務を遂行することができるとともに、家庭や地域社会と良好な関係を築くことができる教師。
- 3. 小学校学習指導要領および特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領に基づいて、授業を計画し、身につけた指導技術を生かして授業をすることができる。また、生徒指導およびキャリア教育の意味を理解し、複雑化・多様化する児童が抱える様々な課題に対し指導することができる教師。
- 4. 子どもとの信頼関係を築くとともに、子ども一人ひとりの発達の状況に応じて、自らの学習指導や学級経営の在り方を省察し改善を図ることができる教師。

#### 【幼稚園教諭】

- 1. 教育に対する使命感や情熱、教師に求められる高い倫理観や規範意識を持ち、子どもの心身の発達・成長を第一に考え、適切な指導ができるように、自ら学び続けることができる教師。
- 2. 組織の一員として他の教職員と協力し、職務を遂行することができるとともに、家庭や地域社会と良好な関係を築くことができる教師。
- 3. 幼稚園教育要領に基づいて、指導計画を工夫し、環境構成を行い、身につけた保育技術を活かして 指導することができる教師。
- 4.子どもとの信頼関係を築くとともに、子ども一人ひとりの発達の状況や幼児教育に係る知見を元に、 個と集団に応じた指導・援助、学級運営の在り方を省察し改善を図ることができる教師。

#### 【保育士】

- 1. 保育・養護に対する使命感や情熱、保育士に求められる高い倫理観や規範意識を持ち、子どもの心身の発達・成長を第一に考え、適切な指導ができるように、自ら学び続けることができる保育士。
- 2. 組織の一員として他の保育士や職員と協力し、職務を遂行することができるとともに、家庭や地域社会と良好な関係を築くことができる保育士。
- 3. 児童福祉の法令や保育所保育指針等に基づいて、指導計画を工夫し、環境構成を行い、身につけた保育技術を活かして、子どもの最善の利益を保障しながら援助することができる保育士。
- 4. 子どもとの信頼関係を築くとともに、子ども一人ひとりの発達の状況や保育・養護に係る知見を元に、個と集団に応じた援助の在り方を省察し改善を図ることができる保育士。

#### 保育学部国際教養こども学科ディプロマポリシー

国際教養こども学科は、「人類の福祉と世界の子どもの最善の利益に貢献できる高度な専門性を具えた有為な人材を養成する」という保育学部の教育理念のもとで、学則に定める所定の単位を修得し、以下の力を身につけた学生に、学士(保育学)の学位を授与する。

- 1. 共通教育科目・専門教育科目の学修を通して、教育・保育に関する専門的知識・技能を修得し、国際社会で活躍するために必要な幅広い視野と知識と教養を身につけている。
- 2. 日本と海外の保育を学修して2ヵ国の保育士資格取得を目指すとともに、各国の保育の比較を通して

自らのより望ましい保育のあり方について考察する力を身につけている。

- 3. 国内外での実習と卒業研究に取り組むことで、課題を見出し解決する力と論理的思考力を身につけている。
- 4. 多文化共生社会に生きる子どもと保護者の支援を行うのに必要な異文化受容能力を身につけている。
- 5. グローバル時代に対応できる日本語及び英語を中心とする外国語による高いコミュニケーション能力を身につけている。

#### 保育学部国際教養こども学科が目指す教師像・保育士像

【幼稚園教諭・保育士】

- 1. 幼稚園教育要領や保育所保育指針等を理解するとともに、海外の教育指針を複眼的に省察することで教育の本質に根差し、幼児教育の現在から未来を展望する知識と技能を持つ教師及び保育士。高い教養と人間性により、子どもとの深い信頼関係を築く教師及び保育士。
- 2. 教育・保育における問題点を把握し解決に導き、目的や場面、状況等に応じた多様な考えの理解に努める教師及び保育士。子どもや周りの人々との関係性において、様々な方法により互いの思いや考えを適切に伝え合い、意味や価値を創造して表現する教師及び保育士。
- 3. 子どもを取り巻く背景についての問題意識を持ち、自らの幼児教育観・保育観に基づき、高い人間性と専門性により、情熱と創意工夫をもちながら教育する教師及び保育士。時代の要請により、自ら変化し続ける柔軟性を持った教師及び保育士。
- 4. 職場などの仲間と思いやりと相互理解を図りながら、チームの中での自分の役割に責任感を持ち、協働して教育・保育していく教師及び保育士。豊富なコミュニケーション力を発揮し、様々な状況に応じた適切な教育と援助が出来る教師及び保育士。

#### 保育学部保育学科のカリキュラムポリシー

保育学部保育学科の教育課程は、教育・保育の課題を乳幼児期から児童期の子どもの発達理解と発達環境の諸側面の課題をふまえ、総合的・構造的に、理論と実践を結びつけて探求できるように編成するとともに、保育士資格、幼稚園教諭一種免許、小学校教諭一種免許、特別支援学校教諭一種免許の取得に必要な科目を希望するすべての学生が履修できるように編成する。

#### 1. ゼミ・実習

保育学部保育学科は、1 年から 4 年までゼミと実習を系統的に配置している。ゼミ(1 年:基礎演習、2 年:総合演習 I、3 年:総合演習 II、4 年:卒業研究)は、大学における学修及びの保育学部における教育への参加学生の基盤であり、個別指導のチュートリアルシステムである。実習は、取得を希望する免許・資格に対応して、幼稚園、保育所、児童福祉施設、小学校等で段階的に実施される。

#### 2. 教育課程

学生は、保育学科の教育課程の系統的な学修を通して、教育・保育専門職として求められる高度な専門職としての力量の基礎を総合的に培うとともに、現代社会の有能な担い手として社会に貢献しうる人材として自らを開発することが可能となっている。保育学科では幅広い教養と高い専門性を養うために以下のようなカリキュラムを編成している。講義・演習・実技科目においては、アクティブ・ラーニングの手法を用いた双方向型の授業や、ICTを利活用した授業等を展開する。

- 1. 幅広い教養と豊かな人間性を涵養する。 「教養科目(桜花学)」と「基礎科目」からなる「共通教育科目」を設置し、幅広い教養 と各領域の基礎知識を身につける。
- 2. 教育・保育に関する専門的な知識・技能を身につける。 「教育・保育の本質・目的に関する科目」「教育・保育の対象理解に関する科目」「教育・保育の内容・方法に関する科目」「特別支援教育に関する科目」「体験学習科目」「総合的な学修・研究科目」を設置し、教育・保育の分野に関する保育者・教師に必要な知識とスキルを理論・実践の両側面から身につける。

#### 【学修成果の評価】

学修成果は、試験等を科しそれぞれの科目において身についた「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」を測定する。評価における客観的評価指標として、ルーブリック等を用いる。

#### 保育学部国際教養こども学科カリキュラムポリシー

保育学部国際教養こども学科の教育課程は、教育・保育の課題を就学前の子どもの発達理解と発達環境の諸側面を踏まえ、総合的・構造的に、理論と実践を結びつけて探究できるよう編成するとともに、保育士資格、幼稚園教諭一種免許、Certificate III in Early Childhood Education and Care(オーストラリアのアシスタント保育士資格)の取得に必要な科目を希望するすべての学生が履修できるように編成する。

#### 1. ゼミ・実習

保育学部国際教養こども学科は、1年から4年までゼミと実習を系統的に配置している。 ゼミ (1年:基礎演習、2年:総合演習、4年:卒業研究) は、大学における学修及びの保育学部における 教育への参加学生の基盤であり、個別指導のチュートリアルシステムである。実習は、取得を希望する免 許・資格に対応して、幼稚園、保育所、施設、オーストラリアの保育施設等で段階的に実施される。

#### 2. 教育課程

学生は、国際教養こども学科の教育課程の系統的な学修を通して、教育・保育専門職として求められる 高度な専門職としての力量の基礎を総合的に培うとともに、現代社会の有能な担い手、且つ、社会に貢献 しうる人材として自らを開発することが可能となっている。国際教養こども学科では幅広い教養と高い専 門性を養うために以下のようなカリキュラムを編成している。講義・演 習・実技科目においては、ア クティブ・ラーニングの手法を用いた双方向型の授業や、ICT を利活用した授業等を展開する。

1. 幅広い教養と豊かな人間性を涵養する。

「教養科目(桜花学)」と「基礎科目」からなる「共通教育科目」を設置し、幅広い教養と各領域の基礎知識を身につける。

- 2. 教育・保育に関する専門的な知識・技能を身につける。
- ・「こども教育科目」、「国際教養科目」、「実習科目」、「演習科目」からなる「専門教育科目」を設置し、教育・保育の分野に関する保育者に必要な知識とスキルを理論・実践の両側面から身につける。
- 3. グローバル社会で通用する異文化適応能力及び異文化コミュニケーション能力を身につける。
- ・「専門教育科目」内の「国際教養科目」の一部に必修留学を含め、異なる文化的背景を持つ他者を受け入れる力を養うための科目を設置し、国内外の教育・保育現場で必要とされるコミュニケーション能力を身につける。

#### 【学修成果の評価】

学修成果は、試験等を科しそれぞれの科目において身についた「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」を測定する。評価における客観的評価指標として、ルーブリック等を用いる。

#### 保育学部保育学科教育課程表(2024年度入学者)

<b>∀</b> /	~		授業科目	科目ナンバー	単位	形態	卒必	選択	小・幼 資格を	j・保の ·取得す	免許・ る場合	1	年	2	年	3	3年	4	年
区2	ਹ ਹ		<b>汉耒</b> 代日	村日ナンハー	平位.	形態	华必	迭代	小	幼	保	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後
	教	自分	ライフコース論		2	講義		必遍				0							
	关	を知	ジェンダー論	0K11L0002	2	講義		必修2			$\triangle$	0							
養 科 目 ( 桜 花 学 )     全学共通科目       基礎科目     基礎科目	食	る・	自分と家族		2	講義						0							
	私	人間	芸術の世界文学の世界	0K11L0101	2	講義		選択				0							
	451	を	文学の世界心の探求	OK11L0102 OK11L0103	2	講義講義		必修				0							
	目	知る	生き方の探求	0K11L0104	2	講義		2				0							
		社	生 活 と 経 済	0K12L0201	2	講義		選択					0						
	$\overline{}$	る る を	地 域 社 会	0K12L0202	2	講義		必					0						
		知	人 間 と 歴 史	0K12L0203	2	講義		修 2					0						
	桜	世界	異文 化 理解	0K12L0301	2	講義		選択					0						
		を	日本の文化国際関係論	0K12L0302 0K12L0303	2	講義講義		必					0						
	花	知る	グローバル社会と宗教	0K12L0303	2	講義		修 2					0						
	334	自	環境の科学	0K21L0401	2	講義								0					
	字	然を	食と生命の科学	0K21L0402	2	講義		必修 2						0					
	$\overline{}$	知	生き物の社会	0K21L0403	2	講義		2 択						0					
-	区     基礎科目       ( 桜 花 学 )     基礎科目	る ツ健	スポーツ健康論	OK12K1001	2	講義		選	0	0	0		0						
		康・						択											
	区     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     ()     <	関ス	スポーツ I	OK22K1001	1	実技		- 修	$\triangle$	$\triangle$	Δ				0				
		ボスト ほうしん ボース はんしょう はんしょう はいしょう はいしょ かいしん ボール かいしん ボール はいし かいしん かいしん ボース かいしゅう はいしゅう はいしゅう はいしゅう はいしゅう はいしょう はいしゅう はいしゅう はいしゅう はいしょう はい	スポーツⅡ	0K22K1002	1	実技		1							0				
		ラ数 量	統計学	0K21K1101	2	講義		選							0				
		一的ス	社会調査法	OK22K1101	2	講義		· 択 必							0				
		キール						修 2											
		•	情報社会論	0K22K1102	2	講義			_					0					
		関報	コンピュータ I	OK11K1101	1	演習	1		0	0	0	0							
		リ 係テ	コンピュータⅡ	OK12K1101	1	演習	1		0	0	0		0						
			NGO · NPO論	OK31K1201	2	講義										0			
		社	現代社会と企業 地域協力演習	0K31K1202	2	講義										0			
		会貢	地域協力領省 インターンシップ(国内)A	OK31K1203 OK21K1201	2	演習 演習		1						0	0	0	0	0	-
学		献・	インターンシップ (国内) B	0K21K1202	2	演習		選択						0	0	0	0	0	
		職	インターンシップ (海外) A※	OK12K12O1	1	演習		必				0	0	0	0	0	0	0	
斗		業体	インターンシップ (海外) B※	OK12K12O2	2	演習		修 2					0	0	0	0	0	0	
╛		験関	インターンシップ (海外) C% インターンシップ (海外) D%	0K12K12O3	3	演習 演習							0	0	0	0	0	0	
		係	ボランティア(海外)	OK12K1204 OK12K1205	2	実技							0	0	0	0	0	0	
			海外英語資格実習	0K21K1203	2	実技								0	0	0	0	0	
	基	グ	総合英語 I	OK11K1301	1	演習	1		0	0	0	0							
	礎	П ]	総合英語Ⅱ	OK12K1301	1	演習	1		0	0	0		0						
		バ	総合英語III	0K21K1301	1	演習		1						0					
		ル	総合英語IV 英語コミュニケーション I	OK22K1301 OK31K1301	1	演習 演習		1							0	0			
		化に	英語コミュニケーションⅡ	0K32K1301	1	演習		1									0		
		対	英語コミュニケーションⅢ	0K41K1301	1	演習		1										0	
		応し	英語コミュニケーションIV	0K42K1301	1	演習		1											L
	) 基礎科目 基礎科目	た	ポルトガル語と文化 I	0K11K1302	1	演習		-	_			0	0	-				-	
		П	ポルトガル語と文化Ⅱ スペイン語と文化Ⅰ	OK12K1302 OK11K1303	1	演習		-	-			0		<del>                                     </del>					-
		111	スペイン語と文化Ⅱ	0K11K1303	1	演習		1					0	<u> </u>					
	学 ) 関係ラシュ 関係 ***********************************	11	フランス語と文化 I	OK11K1304	1	演習		1 言				0							
		ケー	フランス語と文化Ⅱ	OK12K1304	1	演習		語					0						
		シ	中国語と文化 I 中国語と文化 II	OK11K1305 OK12K1305	1	演習 演習		2 単	_			0	0	-					
		77	中国語と文化Ⅱ 中国語と文化Ⅲ	OK12K1305 OK21K1302	1	演習 演習		位						0					
		ンス	中国語と文化IV	0K22K1302	1	演習		以上						Ľ	0			L	T
		イキ	韓国語と文化Ⅰ	0K11K1306	1	演習						0							E
		ル	韓国語と文化Ⅱ 韓国語と文化Ⅲ	OK12K1306 OK21K1303	1	演習 演習							0	0					
		関係	韓国語と文化IV	0K21K1303 0K22K1303	1	演習		1							0				-
	ŀ	総	日本国憲法	0K22K1303	2	講義		2	0	0					0			L	T
			海外研修A	0K21K1401	2	実習		2						0	0	0	0	0	
			海外研修B	0K21K1402	4	実習	-	4	_					0	0	0	0	0	
		合	基礎演習 I 基礎演習 II	OK11K1401 OK12K1401	1	演習	1				0	0	0						
		/エ /ク ョス	①他学部履修科目 ②大学間連携科目 ③愛知学長懇話会科目 ④資格認定	0K00K2001	6	∠ · ⊢		6											

#### 保育学部保育学科教育課程表(2024年度入学者)

区分			授業科目	科目ナンバー	単位	形態	卒必	選択		)・保の免許 する場	合			年		年		年		1年
	1			,,,,,		,,,,,,		-*`	小	特支		_	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	1
	奉			0H12S0001 0H12S0002	2	講義講義	2		0		0	0		0						Ŧ
	育.	1		OH12S0002 OH12S0003	2	講義	2					0								+
	伢	R	保育・教育・福祉の制度と理論 I	OH31S0001	1	演習		1									0			t
	する	<b>育</b>	保育・教育・福祉の制度と理論Ⅱ	OH32S0001	1	演習		1										0		1
	る科質		社会福祉 子ども家庭支援論	0H11S0001 0H22S0001	2	講義講義	2					0	0			0				+
	目	<b></b>	社会的養護 I	0H21S0001	2	講義	2					0			0					t
	E	1	社会的養護Ⅱ	0H22S0002	1	演習		1				0				0				İ
	的に		保育者論	OH11S0002	2	講義	2				0	0	0							Ī
			教育職論 教育制度	0H21S0002	2	講義講義	2		00			_			0					+
	奉	*		0H41S0001 0H11S0101	2	講義	2		Δ		0	Δ	0						0	+
	育	ì	子ども家庭支援の心理学	OH32S0101	2	講義		2	1			O	)					0		1
	に・関係		子ども理解の理論と方法	OH21S0101	2	演習	2				0	_			0					Į
	すす		教育心理学	OH31S0101	2	講義	2		00		0	Δ					0			+
	るの		特別支援基礎論 保幼小連携基礎論	0H21S0102 0H11S0102	1	講義講義	1		Δ		Δ	$\triangle$	0		0					+
	科対目象		保幼小連携総論	OH41S0101	1	講義	1		Δ		Δ	Δ							0	t
	廷		教育・保育学特講 I	OH32S0102	1	講義		1										0		I
	角	<b>単</b>	教育・保育学特講Ⅱ ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	0H41S0102	1	講義	0	1											0	+
			教育課程論 保育カリキュラム論	0H22S0201 0H32S0201	2	講義講義	2		0		0	0				0		0		+
			保育内容総論	OH11S0201	2	演習	2				Ö	_	0							†
			保育内容指導法(健康)	0H32S0202	2	演習	2				0	0						0		I
			保育内容指導法(人間関係)	OH22S0202	2	演習	2				0	0				0				1
			保育内容指導法(環境) 保育内容指導法(言葉)	0H12S0201 0H12S0202	2	演習	2				0	0		0						+
			保育内容指導法(表現)	0H12S0202 0H22S0203	2	演習	2				0	0				0				†
			国語科教育法	OH22S0204	2	講義		2	0							Ŏ				1
			社会科教育法	OH32S0203	2	講義		2	0									0		1
			算数科教育法 理科教育法	0H22S0205 0H32S0204	2	講義講義		2	00							0		0		+
			生活科教育法	0H22S0204	2	講義		2	0							0				t
			音楽科教育法	OH42S0201	2	講義		2	0											
			図画工作科教育法	OH22S0207	2	講義		2	0							0				1
			家庭科教育法 体育科教育法	0H42S0202 0H32S0205	2	講義講義		2	00									0		+
			英語科教育法	0H42S0203	2	講義		2	0											†
			道徳教育の指導法	0H21S0201	2	講義		2	Ö						0					İ
		!	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	OH41S0201	2	講義		2	0										0	Į
			生徒・進路指導論	0H42S0204	2	講義講義	2	2	00		0									+
			教育の方法  ICT活用の理論と実践	0H21S0202 0H21S0203	2	講義		1	$\frac{0}{0}$		0				0					+
			幼児と健康	OH31S0201	1	演習		1			0	0					0			T
			幼児と人間関係	0H21S0204	1	演習		1			0	0			0					Į
			<u>幼児と環境</u> 幼児と言葉	0H11S0202 0H11S0203	1	演習		1			0		0							+
専	教		<u> </u>	0H21S0205	1	演習		1			0				0					+
	育		国語	OH21S0206	1	講義		1	0						Ō					Ī
攻			社会	OH31S0202	1	講義		1	0								0			1
教	保			0H21S0207 0H31S0203	1	講義講義		1	0						0		0			+
30	育の		生活	OH21S0208	1	講義	1	1	0						0					t
育	の内		音楽	OH41S0202	1	演習		1	0										0	I
<b>3</b> N	容		図画工作	0H21S0209	1	演習		1	0						0					4
科	•		家庭 	0H41S0203 0H31S0204	1	演習 演習		1	00								0		0	+
目	方		英語	0H41S0204	1	演習		1	0										0	t
	法に		幼児音楽 I A	0H11S0204	1	演習		1			Δ	Δ	0							I
	関		幼児音楽IB	OH12S0203	1	演習		1			$\triangle$	$\triangle$		0						4
	す			0H21S0210 0H31S0205	1	演習 演習		1			$\triangle$	$\triangle$			0		0			+
	る科		ピアノ演習 I A	0H11S0205	1	演習		1					0			L	L_			t
	科目		ピアノ演習IB	0H12S0204	1	演習		1						0						1
	"		ピアノ演習Ⅱ 表現の探求(造形)	0H22S0208 0H31S0206	1	演習 演習		1								0				+
			表現の探求(造形) 表現の探求(音楽)	0H31S0206 0H41S0205	1	演習 演習		1									0		0	+
			幼児造形 I	0H11S0206	1	演習		1			Δ	Δ	0							t
			幼児造形Ⅱ	0H12S0205	1	演習		1			Δ	Δ	_	0						Į
			幼児体育 I 幼児体育 I	0H11S0207	1	演習 演習		1			Δ	Δ	0							+
			幼児体育Ⅱ ネイチャーワーク	0H41S0206 0H31S0207	1	演習 演習		1									0		0	+
			児童文化	0H21S0211	1	演習		1			Δ	Δ			0	L				†
			子どもの保健	OH31S0208	2	講義	2					0					0	_		1
			子どもの健康と安全	0H32S0206	1	演習	0	1				0						0		+
			子どもの食と栄養 I 子どもの食と栄養 II	0H31S0209 0H32S0207	2	演習 演習	2	2				Ο					0	0		+
			障害児保育	0H31S0210	2	講義		2				0					0	Ľ		t
			乳児保育 I	OH22S0209	2	講義	2					0				0				1
			乳児保育Ⅱ	0H31S0211	1	演習		1				0					0			1
			保育環境マネジメント 子ども学演習	0H41S0207 0H31S0212	1	演習 演習		1									0		0	+
				0H31S0212 0H42S0205	1	講義	1	1	0		0									†
			教育相談B	OH42S0206	1	講義		1	0		Ĺ									j
			子育て支援	0H41S0208	1	演習	1					0							0	1
			親と子どもの発達支援	0H32S0208	1	演習		1			-	$\vdash$						0		+
			<u>チーム保育論</u> 医療保育 I	0H42S0207 0H32S0209	1 1	演習講義		1			l -							0		+
				0H3ZS0Z09 0H41S0209	1	演習		1											0	†
Ī			インクルーシブ保育論	0H32S0210	1	講義		1									İ	0		+

F /\		N. D. L. L.	224 64-	TT/ blo	>,	Non Les	小・幼	<b>か・保の免許</b> する場	・資格 合	を取得	1	年	2	年	3	年	4	1年
区分	授業科目	科目ナンバー	単位	形態	卒必	選択	小	特支	幼	保	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後
	特別支援教育論	0H22S0301	2	講義	2			0						0				T
特	知的障害児の心理・生理・病理	0H31S0301	2	講義		2		0							0			
別	肢体不自由児の心理・生理・病理	0H31S0302	2	講義		2		0							0			
支	病弱児の心理・生理・病理	0H31S0303	2	講義		2		0							0			
援	知的障害教育論 I	0H32S0301	2	講義		2		0								0		
教	知的障害教育論Ⅱ	0H41S0301	2	講義		2		0									0	Τ
育	肢体不自由教育論 I	0H32S0302	2	講義		2		0								0		
に	肢体不自由教育論Ⅱ	0H42S0301	2	講義		2		0										
関	病弱教育論	0H32S0303	2	講義		2		0								0		
	視覚障害児の心理・生理・病理	0H31S0304	1	講義		1		0							0			
	聴覚障害児の心理・生理・病理	0H42S0302	1	講義		1		0										
科ト	発達障害の理解	0H41S0302	1	講義		1		0									0	
	視覚障害教育論	0H31S0305	1	講義		1		0							0			
	聴覚障害教育論	0H42S0303	1	講義		1		0										
	重複障害等教育論	0H41S0303	1	講義		1		0									0	
L	教育実習 I	OH12S1001	1	実習		1			$\circ$			0						
L	教育実習Ⅱ	OH32S1001	3	実習		3			$\circ$							0		
L	教育実習Ⅲ	0H41S1001	3	実習		3	$\circ$										0	
L	教育実習Ⅳ	0H42S1001	2	実習		2		0										
	教育実習指導 I	OH11S1001	1	演習		1			$\circ$		0							
	教育実習指導Ⅱ	0H32S1002	1	演習		1			0							0		
	教育実習指導Ⅲ	0H41S1002	1	演習		1	$\circ$										0	
体 —	教育実習指導Ⅳ	0H41S1003	1	演習		1		0									0	
験	教職実践演習(幼・小)	0H42S1002	2	演習		2	$\circ$		0									
学 _	保育実習I(保育所)	0H31S1001	2	実習		2				$\circ$					0			
学 一 習	保育実習 I (施設)	0H22S1001	2	実習		2				$\circ$				0				
科 —	保育実習Ⅱ	0H41S1004	2	実習		2				$\triangle$							0	
	保育実習Ⅲ	0H41S1005	2	実習		2				$\triangle$							0	
	保育実習指導 I (保育所)	0H31S1002	1	演習		1				0					0			
<u> </u>	保育実習指導I(施設)	0H22S1002	1	演習		1				0				0				
<u> </u>	保育実習指導Ⅱ	0H41S1006	1	演習		1				$\triangle$							0	
<u> </u>	保育実習指導Ⅲ	0H41S1007	1	演習		1				Δ							0	
<u> </u>	保育実践演習	0H42S1003	2	演習		2				0								┸
l L	学校インターンシップ指導	0H21S1001	1	演習		1	0						0					
	学校インターンシップ	0H22S1003	1	実習		1	0							0				$\bot$
	海外幼児教育インターンシップ	0H12S1002	2	実習		2	<u> </u>					0						4
修総 _	総合演習IA	0H21S2001	1	演習	1								0					+
・ 総 _	総合演習IB	0H22S2001	1	演習	1									0				4
・研究科目	総合演習ⅡA	0H31S2001	1	演習	1										0			4
完的 —	総合演習ⅡB	0H32S2001	1	演習	1											0		4
科なー	卒業研究演習 I	0H41S2001	1	演習	1								ļ				0	+
一 字 _		0H42S2001 0H42S2002	1 2	演習	1 2													

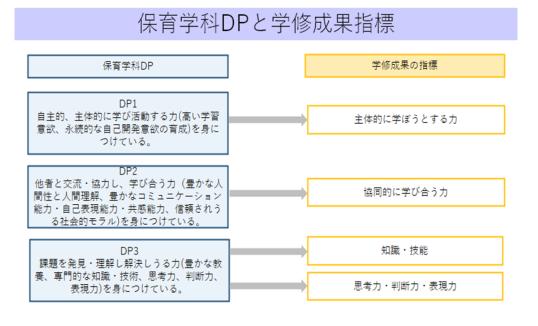
#### 保育学部 国際教養こども学科 教育課程表(2024年度入学者)

	$\wedge$		拉米 幻 口	利日上八岭。	出任	此能	ない	155.	小・幼 資格を	り・保の 取得す	免許・ る場合	1	年	2	年	3	年	4	年
区分	ガ		授業科目	科目ナンバー	単位	形態	卒必	選択	小	幼	保	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後
	教	自分	ライフコース論	0K11L0001	2	講義		必選				0							
	養	を 知	ジェンダー論	0K11L0002	2	講義		必修2			0	0							
	食	る	自分と家族芸術の世界	0K11L0003	2	講義						0							
	科	間	芸術の世界文学の世界	OK11L0101 OK11L0102	2	講義講義	=	選択				0							
	4F1	を 知	心の探求	OK11L0103	2	講義		必修				0							
	目	る	生き方の探求	0K11L0104	2	講義		2				0							
		社へ	上 10 C /庄 171	0K12L0201	2	講義		選択					0						
	_	る る を	地 域 社 会	OK12L0202	2	講義		必					0						
		知		0K12L0203	2	講義		修 2					0						
	桜	世界	異文 化 理解	OK12L0301	2	講義	-	選択					0						
		を	日本の文化国際関係論	0K12L0302	2	講義		必					0						
	花	知る	国際関係論グローバル社会と宗教	OK12L0303 OK12L0304	2	講義講義	-	修 2											
	10	自	環境の科学	0K21L0401	2	講義								0					
	学	然					-	必湿						0					
	1	を	食と生命の科学	0K21L0402	2	講義		必修 ₂						0					
	$\smile$	知る	生き物の社会	0K21L0403	2	講義		_						0					
-		ツ健	スポーツ健康論	OK12K1001	2	講義		選	0	0	0		0						
		康・						択	Ĕ	$\vdash$									
		関 ス ポ	スポーツ I	0K22K1001	1	実技		· 修	$\triangle$	$\triangle$	Δ				0				
		係一	ス ポ ー ツ Ⅱ	OK22K1002	1	実技		1							0				
		リ数 _テ 量	統計学	OK41K1101	2	講義		選						$\bigcirc$				0	
		一的	社 会 調 査 法	OK42K1101	2	講義		択必											(
		フス シキ						· 修 2											(
		ルル	情報 社会論	0K42K1102	2	講義													,
		関情	コンピュータⅠ	OK11K1101	1	演習	1		0	0	0	0							
	į	係報		0K12K1101	1	演習	1		0	0	0		0						
			NGO     ・     NPO     論       現代社会と企業	OK41K1401 OK41K1402	2	講義講義												0	
		社会	地域協力演習	0K41K1402	2	演習												0	
<b>共</b>		貢	インターンシップ (国内) A	0K21K1201	1	演習		選						0	0			0	(
<b>通</b> 教		献	インターンシップ(国内)B	0K21K1202	2	演習		択必						0	0			0	(
育		職業	インターンシップ (海外) A※	OK12K1201	1	演習		修						0	0			0	(
〕 〕		体	インターンシップ(海外) B※ インターンシップ(海外) C※	0K12K1202	2	演習		2						0	0			0	(
_		験関	インターンシップ (海外) C% インターンシップ (海外) D%	OK12K12O3 OK12K12O4	3	演習 演習								0	0			0	(
		係	ボランティア(海外)	OK12K1205	2	実習							0	) (	0			0	
			海外英語資格実習	0K21K1203	2	実習								0	0			0	(
	基	グー	総 合 英 語 I	OK11K1301	1	演習	1		0	0	0	0							
	礎	П 	総合英語Ⅱ	OK12K1301	1	演習	1		0	0	0		0						
	科目	バ	総 合 英 語 Ⅲ 総 合 英 語 Ⅳ	OK21K1301 OK22K1301	1	演習 演習	1							0	0				
	П	ル	英語コミュニケーション I	0K41K1301	1	演習	1	1							0			0	
		化に	英語コミュニケーションⅡ	0K42K1301	1	演習		1											(
		対	英語コミュニケーションⅢ	0K41K1303	1	演習		1										0	
		応	英語コミュニケーションIV		1	演習		1											(
		た	ポルトガル語と文化 I ポルトガル語と文化 II	OK11K1302	1	演習		-				0							
		コ・	スペイン語と文化Ⅰ	OK12K1302 OK11K1303	1	演習						0	0						
		? .	スペイン語と文化Ⅱ	0K11K1303	1	演習		-					0						
		=	フランス語と文化Ⅰ	0K11K1304	1	演習		1 言				0							
		ケ	フランス語と文化Ⅱ	OK12K1304	1	演習		語					0						
		シ	中国語と文化Ⅰ	0K11K1305	1	演習		2 単				0							
		3	中 国 語 と 文 化 Ⅱ 中 国 語 と 文 化 Ⅲ	OK12K1305 OK21K1302	1	演習 演習		位	<u> </u>				0	0					
		ン	中国語と文化 IV	0K21K1302 0K22K1302	1	演習		以						)	0				
		スキ	韓 国 語 と 文 化 I	OK11K1306	1	演習		上				0							
		ル	韓国語と文化Ⅱ	OK12K1306	1	演習							0						
		関	韓国語と文化Ⅲ 韓国語と文化Ⅳ	0K21K1303	1	演習		1						0					
	ŀ	係総	韓   国   語   と   文   化   IV     日   本   国   憲   法	OK22K1303 OK22K1401	1 2	演習講義		2	0	0					0				
		\langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \langle \lang	海 外 研 修 A	0K22K1401 0K21K1401	2	実習		2						0	0			0	(
			海 外 研 修 B	0K21K1402	4	実習		4						0	0			0	(
		^	基礎演習I	OK11K1401	1	演習	1				0	0							
}	,	<u>合</u> /エ	基 礎 演 習 Ⅱ	OK12K1401	1	演習	1		-		0		0						$\vdash$
	科シ	/ ク	①他学部履修科目		c			c	ĺ										
	<b>—</b> =	ョス			6	1	1	6							ı	ı	i	ı	Í

#### 保育学部 国際教養こども学科 教育課程表(2024年度入学者)

保育	字削	国際教養こども学科 教育課程表(2024年	+度人字者)														
区分		授業科目	科目ナンバー	単位	形態	卒必	選択	幼・保の変を取得	免許・資格 する場合	1	年	2	年	3	年	4	年
<u> </u>		以未行口	11 17 27 1	十匹	/IV/IES	十七	2517	幼	保	前	後	前	後	前	後	前	後
		保 育 原 理		2	講義	2		_	0	0							
		数     育     原       子     ど     も     家     庭     福	-	2 2	講義講義	2		0	0		0						-
		社 会 福 和	+	2	講義	2			0	0							
		子 ど も 家 庭 支 援 論	0K22S0005	2	講義	2			0				0				
		社 会 的 養 護 I		2	講義		2		0			0					
		社 会 的 養 護       G       A       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B       B   <	-	2	演習講義	2	1	0	0		0		0				-
		<b>教</b> 育 制 <b>度</b>	+	2	講義	2		0	Δ		0					0	
		発 達 心 理 学	1	2	講義	2		0	0	0							
		子ども家庭支援の心理学	1	2	講義	2			0				0				
		子ども理解の理論と方法	+	2	演習	2		0	0			0					
		数     育     心     理     字       特別     支援     基礎     a	+	2	講義講義	2	1	0	Δ			0				0	
		保育カリキュラム iii		2	講義	2		0	0								0
		保 育 内 容 総 諸	0K11S0016	2	演習	2		0	0	0							
		保育内容指導法(健康)	0K22S0101	2	演習	2		0	0				0				
		保育内容指導法(人間関係)保育内容指導法(環境)	0K22S0102 0K12S0103	2	演習	2		0	0	-	0		0				-
	_	保育內容指導法(言葉)	0K12S0103	2	演習	2		0	0		0						
	ど	保育内容指導法(表現)	0K22S0105	2	演習	2		0	0				0				
	t	教 育 の 方 注	+	2	講義	2		0				0					
	教 育	幼 児 と 健 康	+	1	演習		1	0	0			0					
	科	幼児と人間 関係       幼児と 景 境		1	演習		1	0	0	0		0					
	目	か 児 と 言 <b>業</b>	+	1	演習		1	0	0	0							
		幼 児 と 表 明	0K21S0005	1	演習		1	0	0			0					
		幼 児 音 楽 /	0K11S0006	1	演習		1	Δ	Δ	0	_						
		幼     児     音     楽     I       幼     児     音     楽     0	0K12S0007 0K21S0011	1	演習		1	Δ	Δ		0	0					
		が 児 音 楽 I		1	演習		1						0				
		幼 児 造 形		1	演習		1	Δ	Δ	0							
		幼 児 造 形 !	0K12S0008	1	演習		1	Δ	Δ		0						
		幼 児 体 育 月	-	1	演習		1	Δ	Δ	0							
		幼     児     体     育     !       児     童     文     化		2	演習		2	Δ	Δ		0					0	
専		子 ど も の 保 領	+	2	講義		2		0			0					
		子どもの健康と安全	0K22S0019	1	演習		1		0				0				
門		子どもの食と栄養	+	2	演習		2		0	-		0					
		障     害     児     保     育       乳     児     保     育     I	1	2 2	演習講義		2		0			0					
教		乳 児 保 育 🗓	1	1	演習		1		0			0				0	
		教 育 相 談	6 OK42S0024	1	講義		1	0									0
育		子 育 て 支 援	+	1	演習	1			0							0	
		海   外   の   保   育     多   文   化   共   生   研   労		2	講義	0	2	Δ	0	0			0				
科		多 文 化 共 生 研 究       地 域 研 究	1	2	講義講義	2		Δ		0			0				
		地 域 研 究 🛭	-	2	講義	_	<u>ت بر</u>			0							
目		地 域 研 究 Ⅱ	0K21S1004	2	講義		以上選択必修ここから2単位						0				
		地域研究「		2	講義		要ら 2						0				
	_	地         域         研         究         V           地         域         研         究         V	-	2	講義講義		必 修 位					0	0				
	国際			2	講義	2	11/2.					0				0	
	教	Teaching English for Children	0K11S1201	2	講義		2			0							
	養科	チームビルディング実践	OK21S1102	2	講義		2					0					
	目	Study Abroad Preparation	+	1	演習	1							0				
		Basic Communication in English I Basic Communication in English I	0K11S1103 0K12S1104	1	演習	1				0	0						
		Intermediate Communication in English	0K21S1105	1	演習	1						0					
		Intermediate Communication in English I	0K22S1106	1	演習	1							0				
		海 外 語 学 研 修	† · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	5	演習	5								0	0		
		海     外     保     育     留     字       国     際     教     養     総     a	+	10	実習演習	10								0	0	0	
		教育 実習 入 門		1	実習	1		0			0						
		教 育 実 習 I		2	実習		2	0					0				
		教 育 実 習 Ⅱ	0K42S2005	2	実習		2	0									0
		教育実習指導工	+	1	講義		1	0		1		0	-				-
		数 育 実 習 指 導 即       数 職 実 践 演 習 ( 幼 )	0K41S2004 0K42S2006	2	講義		1 2	0		1			-			0	0
		保育実践演習		2	演習		2		0							0	$\vdash$
	実羽	保育実習Ⅰ(保育所)	0K32S2102	2	実習		2		0			0					
	実習科	保育実習I(施設)	0K32S2104	2	実習		2		0						0		
	目	保     育     実     習       G     全     宝     翌	<del> </del>	2	実習		2	-	Δ	-						0	
		保     育     実     習     II       保     育     実     習     I     (保     育所)	0K41S2108 0K32S2101	2	実習演習		2		Δ	1		0				0	<del>                                     </del>
		保育実習指導Ⅰ(施設)	0K32S2101 0K32S2103	1	演習		1		0	l					0		
		保育 実習 指 導 🛚 🖺	<del> </del>	1	演習		1		Δ							0	
		保育実習指導Ⅲ		1	演習		1		Δ							0	
		海外保育フィールド・スタディ		2	実習実習	2	0	<u> </u>		0	0		-				-
		海外幼児教育インターンシップ総 合 演 習 A		2	実習 演習	1	2	1		1	U	0					<del>                                     </del>
	演		0K22S3002	1	演習	1							0				
	44	卒 業 研 究 演 習 I	† · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	1	演習	1										0	
	目	卒業研究演習□		1	演習	1											0
ldot		卒 業 研 穷	0K42S3103	2	演習	2											0

#### ディプロマポリシー (DP) に基づく学修指標とルーブリック、カリキュラムマップ ディプロマポリシー (DP) に基づく学修指標とルーブリック 〇保育学科



#### 専門教育科目共通

			保育学科の専門教育科目	<b>ヨルーブリック</b>		
DPに基 づく学修 指標	学修目標の説明	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
主体的に学ぼうとする力	教育・保育の専門的知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけるために、自らの学修状況を把握し、学修の錯誤するなど、自分につけてした。	教育・保育の専門的知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけるために、自らの学修状況を把握し、学修の進め方について試行錯誤を続けている。	教育・保育の専門的知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけるために、自らの学修状況を把握し、学修の進め方について試行錯誤を続けようとしている。	教育・保育の専門的知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけるために、自らの学修状況を把握し、学修の進め方について試行錯誤をしようとしている。	教育・保育の専門的知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけるために、自らの学修が、派を把握し、学修の進め方について試行錯誤をしようとすることに消極的である。	教育・保育の専門的知識、技能を獲得したり、思考力を身につける表現力でを自らの学修状況を把握し、学修の進設方についの、直の学年であるなどの、 するなどの、 するなどの、 するなどの すいない。
協同的に 学び合う カ	教育・保育の専門的知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけるために、集団内での自分の役割や責任を理解し、他者に働きかけ、互いに力を合わせていくことができる力を身につけている。	教育・保育の専門的知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけるために、集団内での自分の役割や責任を理解し、他者に働きかけ、互いに力を合わせて学び合いを続けている。	教育・保育の専門的知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけるために、集団内での自分の役割や責任を理解し、他者に働きかけ、互いに力を合わせて学び合いを続けようとしている。	教育・保育の専門的知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけるために、集団内での自分の役割や責任を理解し、他者に働きかけ、互いに力を合わせて学び合っている。	教育・保育の専門的知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけるために、集団内での自分の役割や責任を理解し、他者に働きかけ、互いに力を合わせて学び合うことに消極的である。	教育・保育の専門的知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけるために、集団内での付割や責任を理解し、他者に働きかけ、互いに力を合かせていくなどの学び合う力を身につけていない。
知識・技 能	教育・保育の専門職と して求められる高度な 知識や技能を備え、科 目間の関連性を理解し ている。	教育・保育の高度な知 識や技能を習得し、科 目間の関連性を理解し ている。		与えられた事象に対す る教育・保育の知識や 技能を習得している。	教育・保育に関し、一 定の知識や技能の習得 している。	教育・保育に関する一 定の知識や技能を習得 できていない。
	いく思考力を身につ	自ら現実の教育・保育 に関する問題を発見・ 提起し、それに関する 情報を収集・分析し、 解決策を立案し、他者 に適切な方法で伝える ことができる。	自ら現実の教育・保育 に関する問題を発見・ 提起し、それに関する 情報を収集・分析し、 解決策を立案した上 で、他者に伝える力を 身につけている。	自ら現実の教育・保育 に関する問題を発見・ 提起し、それに関する 情報を収集・分析し、 解決策を立案できる力 を身につけている。	与えられる知識や技能を自分なりに検討し、 教育・保育に検討る現 代的課題に対する解決 策を立案する力を身に つけている。	与えられる知識や技能 を自分なりに検討し、 教育・保育に関する現 代的課題に対する現決 策を立案する力を身に つけていない。

#### 区分共通

		教育·	保育の本質・目的に関す	る科目ルーブリック		
DPに基 づく学修 指標	学修目標の説明	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
主体的に学ぼうとする力	乳幼児期および児童期 の教育の特性や、教育 と子ども家庭福祉の関連性などを関すの本質や技能を身につけるために理し、学修の 状況を把握し、学修の 進め方について試行管 誤するなど、自らの学修 すっなど、自らの学り うとする力を身につけている。	乳幼児期および児童期 の教育の特性や、教育 と子ども家庭福祉の関 連性など、教育・保育 の本質や目的に関する 知識や技能を身につけ るために、自らの学修 状況を把握し、学修の 進め方について試行錯 誤を続けている。	乳幼児期および児童期 の教育の特性や、教育 と子ども家庭福祉の関 連性など、教育 保育 の本質や目的に関 の本質や目的に関 力能や技能を身につけ るために、自らの学修 状況を把握し、学修の 進め方について試行錯 誤を続けようとしてい る。	乳幼児期および児童期 の教育の特性や、教育 と子ども家庭福祉の関 連性など、教育・保育 の本質や目的に関する 知識や技能を身につけ るために、自らの学修 状況を把握し、学修の 進め方について試行錯 誤をしようとしてい る。	乳幼児期および児童期 の教育の特性や、教育 と子ども家庭福祉の関 連性など、教育・保育 の本質や目的に関 の本質や目的に関 が技能を身につけ るために、自らの学修 状況を把握し、学修の 進め方について試行錯 誤をしようとすること に消極的である。	乳幼児期および児童期 の教育の特性や、教育 と子ども家庭福祉の関 連性など、教育・保育 の本質や目的に関する 知識や技能を身につけ るために、単らの学修 状況を把握し、学修の 進め方について試行錯 誤するなどの、自ら学 ぼうとする力を身につ けていない。
協同的に学び合う力	乳幼児期および児童期 の教育の特性や、教育 と子どと、教育・関連性など、教育・関連性など、教育・関すが 連性など、教育・関すの本識や技能を身につけるために、割やしての自分の役割をしてのできる。 は、互いに力を合わせていくことができる力を身につけている。	乳幼児期および児童期 の教育の特性や、教育 と子ども家庭福祉の房 連性など、教育に関い の本質や目的で見につけるために、集団内での 自分の役割や責任をかけ、互いに力を合わせ て学び合いを続けている。。	乳幼児期および児童期 の教育の特性や、教育 と子ども家庭宿祉の保育 を子ども家庭育の本質時に の本質や技能を身につけるために、集団内での 自分の役割や責任をかけ、 ないにのいるだけよう としている。	乳幼児期および児童期 の教育の特性や、教育 と子ども家庭福祉の関 連性など、教育・日 の本質や目的に関する 知識や技能を身につけ るために、集団内での 自分の役割や責任をか け、互いに力を合わせ て学び合っている。	乳幼児期および児童期 の教育の特性や、教育 と子ども家庭福祉の保育 連性など、教育に関い の本質や目的を身につけるために、集団内での 自分の役割や責任をかけ、互いに力を合わせ て学び合うことに消極 的である。	乳幼児期および児童期 の教育の特性や、教育 と子ども家庭福祉の関 連性など、教育・保育 の本質や目的に関する 知識や技能を身につけ るために、集団内での 自分の役割や責任を理 解し、他者に働きか け、互いに力を合わせ ていくなどの学び合う 力を身につけていな い。
知識·技能	乳幼児期および児童期 の教育の特性や、教育 と子ども家庭福祉の関 連性など、教育・保育 の本質や目的に関する 知識や技能を備え、科 目間の関連性を理解し ている。	教育・保育の本質や目 的に関する高度な知識 や技能を習得し、科目 間の関連性を理解して いる。	教育・保育の本質や目 的に関する高度な知識 や技能を習得してい る。		教育・保育の本質や目 的に関する一定の知識 や技能を習得してい る。	教育・保育の本質や目 的に関する一定の知識 や技能を習得していな い。
	教育・保育の専門職として求められる教育・保育の本質や目的に関する知識や技能を基に、自らの考えを深め、課題を解決し、その結果を他者に正確に伝える力を身につけている。	自ら現実の教育・保育 の本質や目的に関する 問題を発見・提起し、 それに関する情報を収 集・分析し、解決策を 立案し、他者に適切な 方法で伝えることがで きる。	自ら現実の教育・保育 の本質や目的に関する 問題を発見・提起し、 それに関する情報を収 集・分析し、解決策を 立案した上で、他者に 伝える力を身につけて いる。	の本質や目的に関する 問題を発見・提起し、	与えられる知識や技能 を自分なりに検討し、 教育・保育の本質や目 的に関する現代的課題 に対する解決策を立案 する力を身につけてい る。	与えられる知識や技能 を自分なりに検討し、 教育・保育の本質や目 的に関する現代的課題 に対する解決策を立案 する力を身につけてい ない。

		教育	・保育の対象理解に関す	る科目ルーブリック		
DPに基 づく学修 指標	学修目標の説明	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
主体的に 学ぼうと する力	乳幼児及び児童の発達 過程や学習過程、また 個別の支援を必要とす る子どもなど、教育・ 保育の対象理解に関し て、自らの学修状況方 について試ら学ぼうとす など、自ら呼ばうとす る力を身につけてい る。	教育・保育の対象理解 に関して、自らの学修 状況を把握し、学修の 進め方について試行錯 誤を続けている。	教育・保育の対象理解 に関して、自らの学修 状況を把握し、学修の 進め方について試行錯 誤を続けようとしてい る。	教育・保育の対象理解 に関して、自らの学修 状況を把握し、学修の 進め方について試行錯 誤をしようとしてい る。	教育・保育の対象理解 に関して、自らの学修 状況を把握し、学修の 進め方について試行錯 誤をしようとすること に消極的である。	教育・保育の対象理解 に関して、自らの学修 状況を把握し、学修の 進め方について試行錯 誤するなどの、自ら学 ぼうとする力を身につ けていない。
協同的に 学び合う 力	乳幼児及び児童の発達 過程や学習過程、また 個別の支援を必要とす る子どもなど、教育 して、集団内での自分の 役割や責任を理解して、 他者に働きかけ、互い に力を合わせていくこ とができる力を身につ けている。	教育・保育の対象理解 に関して、集団内での 自分の役割や責任を理 解し、他者に働きか け、互いに力を合わせ て学び合いを続けてい る。	教育・保育の対象理解 に関して、集団内での 自分の役割や責任を理 解し、他者に働きか け、互いに力を合わせ て学び合いを続けよう としている。	教育・保育の対象理解 に関して、集団内での 自分の役割や責任を理 解し、他者に働きか け、互いに力を合わせ て学び合っている。	教育・保育の対象理解 に関して、集団内での 自分の役割や責任を理 解し、他者に働きか け、互いに力を合わせ て学び合うことに消極 的である。	教育・保育の対象理解 に関する、集団内での 自分の役割や責任を理 解し、他者に働きか け、互いに力を合わせ ていくなどの学び合う 力を身につけていな い。
知識·技能	乳効児及び児童の発達 過程や学習過程、また 個別の支援を必要とす る子どもなど、教育・ 保育の対象理解に関す る知識や技能を備え、 科目間の関連性を理解 している。	教育・保育の対象理解 に関する高度な知識や 技能を習得し、科目間 の関連性を理解してい る。	教育・保育の対象理解 に関する高度な知識や 技能を習得している。	与えられた事象に対す る教育・保育の対象理 解に関する知識や技能 を習得している。	教育・保育の対象理解 に関する一定の知識や 技能を習得している。	教育・保育の対象理解 に関する一定の知識や 技能を習得していな い。
思考力・ 判断力・ 表現力	教育・保育の対象理解 に関する知識や技能を 基に、自らの考えを深 め、課題を解決し、そ の結果を他者に正確に 伝える力を身につけて いる。	自ら現実の教育・保育の対象をでいる。 の対象と問題を発見・提起し、それに関する情報を収集・分析し、解 決適切な方法。 とし、伝えことができる。	自ら現実の教育・保育の対象となる子どもに関する問題を発見・提起し、それに関する情報を収集・分析し、解決策を立案える力を会にいる。	自ら現実の教育・保育の対象となる子どもに関する問題を発見・提起し、それに関する情報を収集・分析し、解決策を立まできる力を身につけている。	与えられる知識や技能 を自分なりに検討し、 教育・保育の対象とな る子どもに関する現代 的課題に対する解決策 を立案する力を身につ けている。	与えられる知識や技能 を自分なりに検討し、 教育・保育の対象とな る子どもに関する現代 的課題に対する解決策 を立案する力を身につ けていない。

		教育・	保育の内容・方法に関す	る科目ルーブリック		
DPに基 づく学修 指標	学修目標の説明	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
主体的に 学ぼうと する力	教育・保育の専門職と して求められる実践内 容や方法についての知 識や技能を身につける ため、自らの学修状況 を把握し、学修の進め 方について試行錯誤す るなど、自ら学ぼうと するカを身につけてい る。	教育・保育の専門職と して求められる実践内 容や方法についての知 識や技能を身につける ため、自らの学修状況 を把握し、学修の進め 方について試行錯誤を 続けている。	教育・保育の専門職と して求められる実践内 容や方法についての知 識や技能を身につける ため、自らの学習状況 を把握し、学修の進め 方について試行錯誤を 続けようとしている。	教育・保育の専門職と して求められる実践内 容や方法についての知 識や技能を身につける ため、自らの学修状況 を把握し、学修の進め 方について試行錯誤を しようとしている。	教育・保育の専門職と して求められる実践内 容や方法についての知 識や技能を身につける ため、自らの学修状況 を把握し、学修の進め 方について試行錯誤を しようとすることに消 極的である。	教育・保育の専門職として求められる実践内容や方法についての知識や技能を身につけるため、自らの学修状況を把握し、学修の進め方について試行錯誤するなどの、自ら学ぼうとする力を身につけていない。
協同的に 学び合う 力	教育・保育の専門職として求められる実践内容や方法についての知識や技能を身につけるため、集団内での自分の役割や責任を理解し、他者に働きかけ、互いに力を合わせていくことができる力を身につけている。	教育・保育の専門職と して求められる実践内 容や方法についての知 識や技能を身につける ため、集団内での自分 の役割や責任を理解 し、他者に働きかけ、 互いに力を合わせて学 び合いを続けている。	教育・保育の専門職として求められる実践内容や方法についての知識や技能を身につけるため、集団内での自分の役割や責任を理解し、他者に働きかけ、互いに力を合わせて学び合いを続けようとしている。	教育・保育の専門職と して求められる実践内 容や方法についての知 識や技能を身につける ため、集団内での自分 の役割や責任を理解 し、他者に働きかけ、 互いに力を合わせて学 び合っている。	教育・保育の専門職と して求められる実践内 容や方法についての知 識や技能を身につける ため、集団内での自分 の役割や責任を理解 し、他者に働きかけ、 互いに力を合わせて学 び合うことに消極的で ある。	教育・保育の専門職として求められる実践内容や方法についての知識や技能を身につけるため、集団内での自分の役割や責任を理解し、他者に働きかけ、互いに力を合わせていくなどの学び合う力を身につけていない。
知識・技 能	教育・保育の専門職と して求められる実践内 容や方法についての知 識や技能を備え、科目 間の関連性を理解して いる。	教育・保育の実践内容 や方法に関する高度な 知識や技能を習得し、 科目間の関連性を理解 している。	教育・保育の実践内容 や方法に関する高度な 知識や技能を習得して いる。	与えられた事象に対す る教育・保育の実践内 容や方法に関する知識 や技能を習得してい る。	や方法に関し、一定の	教育・保育の実践内容 や方法に関し、一定の 知識や技能を習得して いない。
思考力・ 判断力・ 表現力	教育・保育の専門職として求められる実践内容や方法に関する知識や技能を基に、自らの考えを深め、課題を解決し、その結果を他者に正確に伝える力を身につけている。	自ら現実の教育・保育 の内容や方法に関する 問題を発見・提起し、 それに関する情報を収 集・分析し、解決策を 立案し、他者に適切な 方法で伝えることがで きる。	自ら現実の教育・保育 の内容や方法に関する 問題を発見・提起し、 それに関する情報を収 集・分析し、解決策を 立案した上で、他者に 伝える力を身につけて いる。	自ら現実の教育・保育 の内容や方法に関する 問題を発見・提起し、 それに関する情報を収 集・分析し、解決策を 立案できる力を身につ けている。	を自分なりに検討し、 教育・保育の内容や方 法に関する現代的課題	与えられる知識や技能 を自分なりに検討し、 教育・保育の内容や方 法に関する現代的課題 に対する解決策を立案 する力を身につけてい ない。

		4	特別支援教育に関する科	目ルーブリック		
DPに基 づく学修 指標	学修目標の説明	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
主体的に学ぼうとする力	特別の支援を必要とする乳幼児および児童を保育・教育するために必要な専門的知識や技能を身につけるため担し、学修の進め方にので試行錯誤するなど、自ら学ぼうとする力を身につけている。	特別の支援を必要とする乳幼児および児童を保育・教育するために必要な専門的知識や技能を身につけるため、自らの学修状況を把握し、学修の進め方について試行錯誤を続けている。	特別の支援を必要とす る乳幼児および児童を 保育・教育するために 必要な専門的知識や技 能を身につけるため、 自らの学修状況を把握 し、学修の進め方について試行錯誤を続けよ うとしている。	特別の支援を必要とす 乳幼児および児童を 保育・教育するために 必要な専門的知識や技 能を身につけるため、 自らの学修状況を把握 し、学修の進め方について試行錯誤をしよう としている。	特別の支援を必要とす る乳幼児および児童を 保育・教育するために 必要な専門的知識や技 能を身にの惨状況を把握 し、学修の進め方について試行錯誤をしよう とすることに消極的で ある。	特別の支援を必要とする乳幼児および児童を保育・教育やの主のといい。 必要な専門的知識や技能を身につけるため、自らの学修状況を把握し、学修の進め方について試行錯誤するなどの、自ら学ぼうとする力を身につけていない。
協同的に 学び合う 力	特別の支援を必要とする乳幼児および児童を保育・教育するために必要な専門的知識や技能を身につけるため、集団内での自分の役割や責任を理解し、他者に働きかけ、互いに力を合わせていくことができる力を身につけている。	特別の支援を必要とする乳幼児および児童を 保育・教育するために 必要な専門的知識や技 能を身につけるため、 集団内での自分の役割 や責任を理解し、他者 に働きかけ、互いに力 を合わせて学び合いを 続けている。	特別の支援を必要とする乳幼児および児童を保育・教育するために必要な専門的知識や技能を身につけるため、集団内での自分の役割や責任を理解し、他者に働きかけ、互いにを続けようとしている。	特別の支援を必要とする乳幼児および児童を保育・教育するために必要な専門的知識や技能を身につけるため、集団内での自分の役割や責任を理解し、他者に働きかけ、互いに力を合わせて学び合っている。	特別の支援を必要とする乳幼児および児童を保育・教育するために必要な専門的知識や技能を身につけるため、集団内での自分の役割や責任を理解し、他者に働きかけ、互いに力を合わせて学び合うことに消極的である。	特別の支援を必要とする乳効児および児童を保育・教育するために必要な専門的知識や技能を身につけるため、集団内での自分の役割や責任を理解し、他者に働きかけ、互いに力を合わせていくなどの学び合う力を身につけていない。
能	特別の支援を必要とす る乳幼児および児童を 保育・教育するために 必要な専門的知識や技 能を備え、科目間の関 連性を理解している。	特別支援教育に関する 高度な知識や技能を習 得し、科目間の関連性 を理解している。	特別支援教育に関する 高度な知識や技能を習 得している。	与えられた事象に対す る特別支援教育に関す る知識や技能を習得し ている。	特別支援教育に関する 一定の知識や技能を習 得している。	特別支援教育に関する 一定の知識や技能を習 得していない。
思考力・	教育・保育の専門職と して求められる特別の 支援を必要とする乳幼 児・児童に関する知識 や技能を基に、自らの 考えを深め、課題を解 法し、その結果を他者 に正確に伝える力を身 につけている。	自ら特別の支援を必要とする乳幼児・児童に 関する問題を発見・提 起し、それに関する情 報を収集・分析し、解 決策を立案し、他者に 適切な方法で伝えるこ とができる。	自ら特別の支援を必要とする乳幼児・児童に 関する問題を発見・提 起し、それに関する情 報を収集・分析し、解 決策を立案した上で、 他者に伝える力を身に つけている。	自ら特別の支援を必要 とする乳幼児・児童に 関する問題を発見・提 起し、それに関する情 報を収集・分析し、解 決策を立案できる力を 身につけている。	与えられる知識や技能 を自分なりに検討し、 特別の支援を必要とす る乳幼児・児童に関す る現代的課題に対する 解決策を立案する力を 身につけている。	与えられる知識や技能 を自分なりに検討し、 特別の支援を必要とす る乳幼児・児童に関す る現代的課題に関す る現代的課題に対する 解決策を立案する力を 身につけていない。

			体験学習科目ルー	ブリック		
DPに基 づく学修 指標	学修目標の説明	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
主体的に 学ぼうと する力	教育・保育に関わる実 践について、実習等を 通して体験的に学修し けるため、自らの学修の 状況を把握し、学修の 進め方について試行。 誤するなど、良ら学に うとする態度を有して いる。力を身につけて いる。	教育・保育に関わる実践について、実習等を通して体験的に学修した知識や技能を身につけるため、自らの学修 状況を把握し、学修の進め方について試行錯誤を続けている。	教育・保育に関わる実 践について、実習等を 通して体験的に学修し た知識や技能を身につ けるため、自らの学修 状況を把握し、学修の 進め方について試行錯 誤を続けようとしてい る。	教育・保育に関わる実 践について、実習等を 通して体験的に学修し た知識や技能を身につ けるため、自らの学修 状況を把握し、学修の 進め方について試行錯 誤をしようとしてい る。	教育・保育に関わる実 態について、実習等を 通して体験的に学修し た知識や技能を身につ けるため、自らの学修 状況を把握し、学修の 進め方について試行錯 誤をしようとすること に消極的である。	教育・保育に関わる実践について、実習等を通して体験的に学修した知識や技能を身につけるため、自らの学修が状況を把握し、学修の進め方について試行学にするなどの、自ら学ぼうとする力を身につけていない。
協同的に 学び合う 力	教育・保育に関わる実践について、実習等を通して体験的に学修した知識や技能を身につけるため、製や責任を理解し、他者に働きかけ、互いに力を合わせていくことができる力を身につけている。	教育・保育に関わる実践について、実習等を通して体験的に学修した知識や技能を身につけるため、製団内での自分の役割や責任を理解し、他者に働きかけ、互いに力を合わせて学び合いを続けている。	教育・保育に関わる実践について、実習等を通して体験的に学修した知識や技能を身につけるため、集団内での自分の役割や責任を理解し、他者に働きかけ、互いに力を合わせて学び合いを続けようとしている。	教育・保育に関わる実 践について、実習等を 通して体験的に学修し た知識や技能を身につ けるため、集団内での 自分の役割や責任を理 解し、他者に働きか け、互いに力を合わせ て学び合っている。	教育・保育に関わる実践について、実習等を通して体験的に学修した知識や技能を身につけるため、集団内での自分の役割や責任を理解し、他者に働きかけ、互いに力を合わせて学び合うことに消極的である。	教育・保育に関わる実 践について、実習等を 通して体験的に学修し た知識や技能を身につ けるため、集団内での 自分の役割や責任を理 解し、他者に働きか け、互いに力を合わせ ていくなどの学び合う 力を身につけていな い。
知識・技能	教育・保育に関わる実践について、実習等を 通して体験的に学修し た知識や技能を備え、 科目間の関連性を理解 している。	教育・保育に関わる実 践について、実習等を 通して体験的に知識や 技能を習得し、科目間 の関連性を理解してい る。	教育・保育に関わる実 践について、実習等を 通して知識や技能を習 得している。	与えられた事象に対す る教育・保育に関わる 実践について、実習等 を通して、知識や技能 を習得している。	教育・保育に関わる実践について、実習等を 通して体験的に学修 し、一定の知識や技能 の習得している。	教育・保育に関わる実践について、実習等を 選して体験的に学修 し、一定の知識や技能 の習得していない。
思考力· 判断力· 表現力	教育・保育の実習等体験学習を通して、自らの考えを深め、課題を 解決し、その結果を他 者に正確に伝える力を 身につけている。	教育・保育の実習等体験学習を通して、同題を発見・提起を入り、それに関する情報を収立、をもいが析し、解集を立方法で伝えることができる。	教育・保育の実習等体験学習を通して、同題を発見・提起し、それに関する情報を収する情報を収立ままりが析し、解決策策を立案した上で、他者に伝える力を身につけている。	教育・保育の実習等体験学習を通して、問題を発見・提起し、それに関する情報を収集・ 分析し、解決策を立案できる力を身につけている。	教育・保育の実習等体 験学習を通して、教 育・保育の現代的課題 は対する解決策を立案 する力を身につけてい る。	教育・保育の実習等体 験学習を通して、教 育・保育の現代的課題 に対する解決策を立案 する力を身につけてい ない。

			総合的な学修・研究科目	ルーブリック		
DPに基 づく学修 指標	学修目標の説明	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
主体的に学ぼうとする力	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマに即 して総合的に学修・研 究する知識や技能を身 につけるため、自らの 学修状況を把握し、学 修の進め方について自 学 学ぼうとする力を身に つけている。	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマに即 して総合的に学修・研 究する知識や技能を身 につけるため、自らの 学修状況を把握し、学 修の進め方について試 行錯誤を続けている。	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマを して総合的に学修・研 究する知識や技能を身 につけるため、自らの 学修状況を把握し、学 修の進め方について試 行錯誤を続けようとし ている。	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマを して総合的に学修・研 究する知識や技能を身 につけるため、自らの 学修状況を把握し、学 修の進め方について試 行錯誤をしようとして いる。	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマに して総合的に学修・研 究する知識や技能を身 につけるため、自らの 学修状況を把握し、学 修の進め方について試 行錯誤をしようとする ことに消極的である。	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマに即 して総合的に学修・研 究する知識や技能を身 につけるため、自らの 学修状況を把握し、学 修の進め方について試 行錯誤するなどの、自 ら学ぼうとする力を身 につけていない。
協同的に学び合う力	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマに即 して総合的に学修・研 究する知識や技能を身 につけるため、集団内 での自分の役割や責任 を理解し、他者に働き かけ、互いに力を合わ せていくことができる 力を身につけている。	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマに即 して総合的に学修・研 究する知識や技能を身 につけるため、集団内 での自分の役割や責任 を理解し、他者に働き かけ、互いに力を合わ せて学び合いを続けて いる。	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマに即 して総合的に学修・研 究する知識や技能を身 につけるため、集団内 での自分の役割や責任 を理解し、他者に働き かけ、互いに力を合わ せて学び合いを続けよ うとしている。	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマに即 して総合的に学修・研 究する知識や技能を身 につけるため、集団内 での自分の役割や責任 を理解し、他者に働き かけ、互いに力を合わ せて学び合っている。	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマに即 して総合的に学修・研 究する知識や技能を身 につけるため、集団内 での自分の役割や責任 を理解し、他者に働き かけ、互いに力を合わ せて学び合うことに消 極的である。	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマに即 して総合的に学修・研 究する知識や技能を身 につけるため、集団内 での自分の役割や責任 を理解し、他者に働き かけ、互いに力を合わ せていくなどの学び合 う力を身につけていな い。
知識·技能	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマに即 して総合的に学修・研 究する知識や技能を備 え、科目間の関連性を 理解している。	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマに即 して総合的に学修・研 究し、知識や技能を習 得し、科目間の関連性 を理解している。	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマに即 して総合的に学修・研 究し、知識や技能を習 得している。	与えられた事象に対す る教育・保育に関する 諸課題を個別テーマに 即して総合的に学修・ 研究し、知識や技能を 習得している。	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマに即 して総合的に学修・研 究し、一定の知識や技 能を習得している。	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマに即 して総合的に学修・研 究し、一定の知識や技 能を習得していない。
思考力· 判断力· 表現力	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマに即 して、自らの考えを深 め、課題を解決し、そ の結果を他者に正確に 伝える力を身につけて いる。	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマに即 して問題を発見・提起 し、それに関する情報 を収集・分析し、解決 策を立案し、他者に適 切な方法で伝えること ができる。	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマに即 して、問題を発見・提 起し、それに関する情 報を収集・分析し、解 決策を立案した上で、 他者に伝える力を身に つけている。	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマに即 して、問題を発見・提 起し、それに関する情 報を収集・分析し、解 決策を立案できる力を 身につけている。	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマに即 して、教育・保育の現 代的課題に対する解決 策を立案する力を身に つけている。	教育・保育に関する諸 課題を個別テーマに即 して、教育・保育の現 代的課題に対する解決 策を立案する力を身に つけていない。

#### ○国際教養こども学科

#### 区分共通

こども教育科目のルー	ブリック					
学修指標(DP)	学修目標の説明	AA	A	В	С	F
1. 国際社会で活躍するために 必要な幅広い視野と知識と教 養	国内及び諸外国の保育・幼児 教育に関する知識、幅広い視 野と教養を持ち、国際社会に おいて保育者として活躍する ことが出来る能力を持つ	国内及び諸外国の保育・幼児 教育に関する知識、幅広い視 野と教養を大変豊富に持ち、 国際社会において保育者とし て多彩な活躍することが出来 る豊かな能力を持つ	国内及び諸外国の保育・幼児 教育に関する知識、幅広い視 野と教養を豊富に持ち、国際 社会において保育者として活 躍することが出来る豊かな能 力を持つ	国内及び諸外国の保育・幼児 教育に関する知識、幅広い視 野と教養を持ち、国際社会に おいて保育者として活躍する ことが出来る能力を持つ	教育に関する知識、幅広い視 野と教養を一定程度持ち、国 際社会において保育者として	国内及び諸外国の保育・幼児 教育に関する知識、幅広い視 野と教養が不足し、国際社会 において保育者として活躍す ることが出来る能力を有して いない
2. 各国の保育の比較を通して 身につく、自らのより望まし い保育のあり方について考察 する力	保育・幼児教育の対象・歴 史・現状・制度・内容・方法 を理解し、諸外国のそれらと の比較を通して自分の考えを 持ち、これからの保育・幼児 教育の理想のあり方を思い描 くことができる	保育・幼児教育の対象・歴 史・現状・制度・内容・方法 を大変深く理解し、諸外国の それらとの比較を通して根拠 に基づいた確固たる自分の考 えを持ち、これかの保育・ 幼児教育の理想のあり方を大 変豊かに思い描くことができ る	保育・幼児教育の対象・歴 史・現状・制度・内容・方法 を深く理解し、諸外国のそれ らとの比較を通して根拠に基 づいた自分の考えを持ち、こ れからの保育・幼児教育の理 想のあり方を豊かに思い描く ことができる	保育・幼児教育の対象・歴 史・現状・制度・内容・方法 を理解し、諸外国のそれらと の比較を通して自分の考えを 持ち、これからの保育・幼児 教育の理想のあり方を思い描 くことができる	を一定程度理解し、諸外国の それらとの比較を通してある 程度自分の考えを持ち、これ	保育・幼児教育の対象・歴 史・現状・制度・内容・方法 の理解が不足し、諸外国のそ れらとの比較を通して自分の 考えを持つに至らず、これか らの保育・幼児教育の理想の あり方を思い描くことができ るない
3.国内外での実習と卒業研究 に取り組むことで身につく、 課題を見出し解決する力と論 理的思考力	り組むことで、グローバル及	国内外の実習やその準備に取り組むことで、グローバル及びローカルな視点における課題を大変的確に見出し、豊富な客観的根拠を持って論理的に思考し、その課題を場面に応じて適切に解決することができる	国内外の実習やその準備に取り組むことで、グローバル及びローカルな視点における課題を的確に見出し、客観的根拠を持って論理的に思考し、その課題を適切に解決することができる	国内外の実習やその準備に取り組むことで、グローバル及びローカルな視点における課題を見出し、根拠を持って論理的に思考し、その課題を解決することができる	り組むことで、グローバル及 びローカルな視点における課 題を一定程度見出し、論理的	
4. 多文化共生社会に生きる子 どもと保護者の支援を行うの に必要な異文化受容能力	育・幼児教育・保護者支援を するにあたり、自己の文化と 様々な文化の共通性や差に複	多文化共生社会における保育・幼児教育・保護者支援をするにあたり、自己文化と様々な文化の共通性や差の複合的な理解が大変豊富にあり、それを受容することができる能力に大変長けている	多文化共生社会における保育・幼児教育・保護者支援を 育・幼児教育・保護者支援を にあたり、自己の文化と 様々な文化の共通性や差の複合的な理解が豊富にあり、それを受容することができる能力に長けている	多文化共生社会における保育・幼児教育・保護者支援を育・幼児教育・保護者支援を はたるたり、自己の文化と様々な文化の共通性や差に複合的な理解があり、それを受容することができる	するにあたり、自己の文化と 様々な文化の共通性や差に理	多文化共生社会における保育・幼児教育・保護者支援を するにあたり、自己の文化と 様々な文化の共通性や差の理解と、それを受容する能力が 不足している
5. グローバル時代に対応できる日本語及び英語を中心とする外国語による高いコミュニケーション能力	グローバル時代の高度な言語 コミュニケーションに対応で きる実践的な語学力を身につ ける。	言語でのコミュニケーション において、母国語と外国語の 差異を踏まえた豊富で多彩な 知識を有し、4技能を統合し 様々な状況に応じた的確かつ 多彩な高次元での意思疎通が 無理なく円滑にできる	言語でのコミュニケーション において、母国語と外国語の 差異を踏まえた知識を有し、4 技能を統合し様々な状況に応 じた的確かつ多彩な意思疎通 が円滑にできる	言語でのコミュニケーション において、母国語と外国語の 知識を有し、4技能を統合し 様々な状況に応じた意思疎通 ができる	において、母国語と外国語の 知識を一定程度有し、4技能を	言語でのコミュニケーション において、母国語と外国語の 知識が不足し、4技能を統合し た様々な状況に応じた意思疎 通ができない

国際教養科目のルーブ	リック					
学修指標(DP)	学修目標の説明	AA	А	В	С	F
1. 国際社会で活躍するために 必要な幅広い視野と知識と教 養	国際教養において諸外国に関 する知識、幅広い視野と教養 を持ち、国際社会において自 立した社会人として活躍する ことが出来る能力を持つ	国際教養において諸外国に関する知識、幅広い視野と教養 を大変豊富に持ち、国際社会 において自立した社会人とし て多彩な活躍することが出来 る豊かな能力を持つ	国際教養において諸外国に関する知識、幅広い視野と教養 を豊富に持ち、国際社会にお いて自立した社会人として活 躍することが出来る豊かな能 力を持つ	国際教養において諸外国に関する知識、幅広い視野と教養を持ち、国際社会において自立した社会人として活躍することが出来る能力を持つ	国際教養において諸外国に関する知識、幅広い視野と教養 を一定程度持ち、国際社会に おいて自立した社会人として 活躍することが最低限可能な 能力を持つ	国際教養において諸外国に関する知識、幅広い視野と教養が不足し、国際社会において自立した社会人として活躍することができる能力を有していない
2. 各国の保育の比較を通して 身につく、自らのより望まし い保育のあり方について考察 する力	国際教養における保育・幼児 教育の対象・歴史・現状・制 度・内容・方法を理解し、諸 外国のそれらとの比較を通し て自分の考えを持ち、これか らの保育・幼児教育の理想を 思い描くことができる	国際教養における保育・幼児 教育の対象・歴史・現状・制 度・内容・方法を大変深く理 解し、諸外国のそれらとの比 較を通して根拠に基づいた確 固たる自分の考えを持ち、こ れからの保育・幼児教育の理 想を大変豊かに思い描くこと ができる	国際教養における保育・幼児 教育の対象・歴史・現状・制 度・内容・方法を深く理解 し、諸外国のそれらとの比較 を通して根拠に基づいた自分 の考えを持ち、これからの保 育・幼児教育の理想を豊かに 思い描くことができる	国際教養における保育・幼児 教育の対象・歴史・現状・制 度・内容・方法を理解し、諸 外国のそれらとの比較を通し て自分の考えを持ち、これか らの保育・幼児教育の理想を 思い描くことができる	国際教養における保育・幼児 教育の対象・歴史・現状・制 度・内容・方法を一定程度理 解し、諸外国のそれらとの比 較を通力も、これからの保育・ 幼児教育の理想を思い描くこ とがやっとできる	国際教養における保育・幼児 教育の対象・歴史・現状・制 度・内容・方法の理解が不足 し、諸外国のそれらとの比較 を通して自分の考えを持つに 至らず、これからの保育・幼 児教育の理想のあり方を思い 描くことができるない
3.国内外での実習と卒業研究 に取り組むことで身につく、 課題を見出し解決する力と論 理的思考力	国際教養を鑑み国内外の実習 やその準備に取り組むこと で、グローバル及びローカル な視点における課題を見出 し、根拠を持って論理的に思 考し、その課題を解決するこ とができる	国際教養を鑑み国内外の実習 やその準備に取り組むこと で、グローバル及びローカル な視点における課題を大変的 確に見出し、豊富な客観的根 拠を持って論理的に思考し、 その課題を場面に応じて適切 に解決することができる	国際教養を鑑み国内外の実習やその準備に取り組むことで、グローバル及びローカルな視点における課題を的確に見出し、客観的根拠を持って 論理的に思考し、その課題を 適切に解決することができる	国際教養を鑑み国内外の実習 やその準備に取り組むこと で、グローバル及びローカル な視点における課題を見出 し、根拠を持って論理的に思 考し、その課題を解決するこ とができる	国際教養を鑑み国内外の実習やその準備に取り組むことで、グローバル及びローカルな視点における課題を一定程度見出し、論理的に思考し、その課題をやっと解決することができる	国際教養を鑑み国内外の実習 やその準備に取り組むが、グ ローバル及びローカルな視点 における課題を見出すに至ら ず、論理的な思考に欠け、課 題の解決が出来ない
4.多文化共生社会に生きる子 どもと保護者の支援を行うの に必要な異文化受容能力	国際教養を身につけ多文化共 生社会における保育・幼児教育・保護者支援をするにあたり、自己の文化と様々な文化 の共通性や差に複合的な理解 があり、それを受容すること ができる	国際教養を身につけ多文化共生社会における保育・幼児教育・保護者支援をするにあたり、自己の文化と様々な文化の共通性や差に複合的で大変豊富な理解があり、それを深い共感を伴い受容することができる	国際教養を身につけ多文化共 生社会における保育・幼児教育・保護者支援をするにあたり、自己の文化と様々な文化 の共通性や差に複合的で豊富 な理解があり、それを共感を 伴い受容することができる	国際教養を身につけ多文化共 生社会における保育・幼児教育・保護者支援をするにあたり、自己の文化と様々な文化 の共通性や差に複合的な理解 があり、それを受容すること ができる	国際教養を身につけ多文化共 生社会における保育・幼児教育・保護者支援をするにあたり、自己の文化と様々な文化 の共通性や差に複合的な理解 が一定程度あり、それを受容することが最低限できる	国際教養を身につけ多文化共生社会における保育・幼児教育・保護者支援をするにあたり、自己の文化と様々な文化の共通性や差に複合的な理解が不足し、それを受容することができない、または受容するに至らない
5. グローバル時代に対応できる日本語及び英語を中心とする外国語による高いコミュニケーション能力	国際教養を鑑みグローバル時 代の高度な言語コミュニケー ションに対応できる実践的な 語学力を身につける。	国際教養を鑑み言語でのコミュニケーションにおいて、 母国語と外国語の差異を踏ま えた豊富で多彩な知識を有 し、4技能を統合し様々な状況 に応じた的確かつ多彩な高次 元での意思疎通が無理なく円 滑にできる	国際教養を鑑み言語でのコミュニケーションにおいて、 母国語と外国語の差異を踏ま えた知識を有し、4技能を統合 し様々な状況に応じた的確か つ多彩な意思疎通が円滑にできる	国際教養を鑑み言語でのコミュニケーションにおいて、 母国語と外国語の知識を有 し、4技能を統合し様々な状況 に応じた意思疎通ができる	国際教養を鑑み言語でのコミュニケーションにおいて、 母国語と外国語の知識を一定 程度有し、4技能を統合し様々 な状況に応じた最低限の意思 疎通ができる	国際教養を鑑み言語でのコミュニケーションにおいて、 母国語と外国語の知識が不足 し、4技能を統合した様々な状 況に応じた意思疎通ができない

実習科目のルーブリッ	ク					
学修指標(DP)	学修目標の説明	AA	А	В	С	F
1. 国際社会で活躍するために 必要な幅広い視野と知識と教養	実習等を通して国内及び諸外 国の保育・幼児教育に関する 知識、幅広い視野と教養を持 ち、国際社会において保育者 として活躍することが出来る 能力を持つ	実習等を通して国内及び諸外国の保育・幼児教育に関する 知識、幅広い視野と教養を大 変豊富に持ち、国際社会にお いて保育者として多彩な活躍 するとが出来る豊かな能力 を持つ 実習等を通して保育・幼児教 育の対象・歴史・現状・制 度・内容・方法を大変深 解し、諸外国のそれらいた確 国外であり、ので、 が が が が のあり方を大変豊かに思い	実習等を通して国内及び諸外国の保育・幼児教育に関する 知識、幅広い視野と教養を豊富に持ち、国際社会において 保育者として活躍することが 出来る豊かな能力を持つ 実習等を通して保育・幼児教育の対象・歴史・現状・制度・内容・方法を深く理解 し、諸外国のそれらとの比較 を通して根拠に基づいた自分 の考えを持ち、これからの保 育・幼児教育の理想のあり方 を豊かに思い描くことができ	実習等を通して国内及び諸外 国の保育・幼児教育に関する 知識、幅広い視野と教養を持 ち、国際社会において保育者 として活躍することが出来る 能力を持つ 実習等を通して保育・幼児教 育の対象・歴史・現状・制 度・内容・方法を理解し、諸 外国のそれらとの抄、直し てらの保育・幼児教育の理想の あり方を思い描くことができ る	実習等を適して国内及び諸外国の保育・幼児教育に関する 知識、幅広い視野と教養を一定程度持ち、国際社会において保育者として活躍することが最低限可能な能力を持つ 実習等を適して保育・幼児教育の対象・歴史・現状・制度・内容・方法を一定程度の保育・幼児教育してある程度の保育・幼児教育ので和との分の育・幼児教育の理想のあり方を思い描くことがやっとできる	実習等を通して国内及び諸外 国の保育・幼児教育に関する 知識、幅広い視野と教養が不 足し、国際社会において保育 者として活躍することが出来 る能力を有していない 実習等を通して保育・幼児教 育の対象・歴史・現状・制 度・内容・方法の理解が不足 し、諸外国のそれらとの比較 を通して自分のネえを持つに 至らず、これからの保存・幼 児教育の理想のあり方を思い 描くことができるない
3. 国内外での実習と卒業研究 に取り組むことで身につく、 課題を見出し解決する力と論 理的思考力	国内外の実習やその準備に取り組むことで、グローバル及びローカルな視点における課題を見し、根拠を持って論理のに思考し、その課題を解決することができる	描くことができる 国内外の実習やその準備に取 り組むことで、グローバル及 びローカルな視点における課 題を大変的確に見出し、豊富 な客観的報拠を持って論理的 に思考し、その課題を場面に 応じて適切に解決することが できる	る 国内外の実習やその準備に取 り組むことで、グローバル及 びローカルな視点における課 題を的確に見出し、客観的根 拠を持って論理的に思考し、 その課題を適切に解決するこ とができる	国内外の実習やその準備に取り組むことで、グローバル及びローカルな視点における課題を見出し、根拠を持って論理的に思考し、その課題を解決することができる	国内外の実習やその準備に取り組むことで、グローバル及びローカルな視点における課題を一定程度見出し、論理的に思考し、その課題をやっと解決することができる	国内外の実習やその準備に取り り組むが、グローバル及び ローカルな視点における課題 を見出すに至らず、論理的な 思考に欠け、課題の解決が出 来ない
4. 多文化共生社会に生きる子 どもと保護者の支援を行うの に必要な異文化受容能力	実習等を通して多文化共生社会における保育・幼児教育・保護者支援をするにあたり、 日己の文化と様々な文化の共 適性や差に複合的な理解があり、それを受容することがで きる	実習等を通して多文化共生社会における保育・幼児教育・保護者支援をするにあたり、 日己の文化と様々な文化の共 適性や差の複合的な理解が大 変豊富にあり、それを受容す ることができる能力に大変長 けている	実習等を通して多文化共生社会における保育・幼児教育・保護者支援をするにあたり、 日己の文化と様々な文化の共通性や差の複合的な理解が豊富にあり、それを受容することができる能力に長けている	実習等を通して多文化共生社会における保育・幼児教育・保護者支援をするにあたり、 日己の文化と様々な文化の共 適性や差に複合的な理解があり、それを受容することがで きる	通性や差に理解があり、それ	実習等を通して多文化共生社会における保育・幼児教育・ 保護者支援をするため、 日己の文化と様々な文化の共 適性や差の理解と、それを受 容する能力が不足している
5. グローバル時代に対応できる日本語及び英語を中心とする外国語による高いコミュニケーション能力	実習等においてグローバル時 代の高度な言語コミュニケー ションに対応できる実践的な 語学力を身につける。	実習等において言語でのコ ミュニケーションにおいて、 母国語の差異を踏ま えた豊富で多彩な知識を有 し、4技能を統合し様々な状況 に応じた的確かつ多彩な高次 元での意思疎通が無理なく円 滑にできる	実習等において言語でのコミュニケーションにおいて、 母国語の外国語の差異を踏ま えた知識を有し、4技能を統合 し様々な状況に応じた的確か つ多彩な意思疎通が円滑にで きる	実習等において言語でのコミュニケーションにおいて、 母国語と外国語の知識を有 し、4技能を統合し様々な状況 に応じた意思疎通ができる	実習等において言語でのコ ミュニケーションにおいて、 母国語と外国語の知識を一定 程度有し、4技能を統合し様々 な状況に応じた最低限の意思 疎通ができる	実習等において言語でのコ ミュニケーションにおいて、 母国語と外国語の知識が不足 し、4技能を統合した様々な状況に応じた意思疎通ができない。

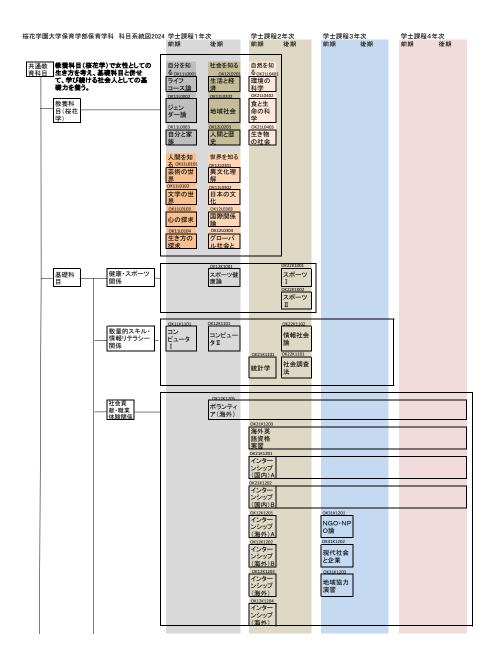
演習科目のルーブリッ	ク					
学修指標(DP)	学修目標の説明	AA	А	В	С	F
1. 国際社会で活躍するために 必要な幅広い視野と知識と教 養	演習等を通して国内及び諸外 国の保育・幼児教育に関する 知識、幅広い視野と教養を持 ち、国際社会において保育者 として活躍することが出来る 能力を持つ	渡習等を通して国内及び諸外 国の保育・幼児教育に関する 知識、幅広い視野と教養を大 変豊富に持ち、国際社会にお いて保育者として多彩な活躍 することが出来る豊かな能力	渡習等を通して国内及び諸外 国の保育・幼児教育に関する 知識、幅広い視野と教養を豊 富に持ち、国際社会において 保育者として活躍することが 出来る豊かな能力を持つ	渡習等を通して国内及び諸外 国の保育・幼児教育に関する 知識、幅広い視野と教養を持 ち、国際社会において保育者 として活躍することが出来る 能力を持つ	演習等を通して国内及び諸外 国の保育・幼児教育に関する 知識、幅広い視野と教養を一 定程度持ち、国際社会におい て保育者として活躍すること が最低限可能な能力を持つ	演習等を通して国内及び諸外 国の保育・幼児教育に関する 知識、幅広い視野と教養が不 足し、国際社会において保育 者として活躍することが出来 る能力を有していない
	肥力を持っ	9 ることが田米の豊かな能力 を持つ	田米の豆がな形力を持つ	形力を持っ	が最低限可能な能力を持つ	る形力を有していない
2. 各国の保育の比較を通して 身につく、自らのより望まし い保育のあり方について考察 する力	演習等を通して保育・幼児教育の対象・歴史・現状・制度・内容・方法を理解し、諸外国のそれらとの比較を通して自分の考えを持ち、これからの保育・幼児教育の理想のあり方を思い描くことができる	演習等を通して保育・幼児教育の対象・歴史・現状・制 度・内容・方法を大変深く理解し、諸外国のそれらとの比較を通して根拠に基づいた確固たる自分の考えを持ち、これからの保育・幼児教育の理想のあり方を大変豊かに思い描くことができる	演習等を適して保育・幼児教育の対象・歴史・現状・制度・内容・方法を深く理解し、諸外国のそれらとの比較を適して根拠に基づいた自分の考えを持ち、これからの保育・幼児教育の理想のあり方を豊かに思い描くことができる。	演習等を通して保育・幼児教育の対象・歴史・現状・制度・内容・方法を理解し、諸外国のそれらとの比較を通して自分の考えを持ち、これからの保育・幼児教育の理想のあり方を思い描くことができる	演習等を適して保育・幼児教育の対象・歴史・現状・制度・内容・方法を一定程度理解 に、諸外国のそれらとの比較を適してある程度自分の考えを持ち、これからの保育・幼児教育の理想のあり方を思い描くことがやっとできる	漢書等を通して保育・幼児教育の対象・歴史・現状・制度・内容・方法の理解が不足し、諸外国のそれらとの比較を通して自分の考えを持つに至らず、これからの保育・幼児教育の理想のあり方を思い描くことができるない
3. 国内外での実習と卒業研究 に取り組むことで身につく、 課題を見出し解決する力と論 理的思考力	演習等を鑑み国内外の実習や その準備に取り組むことで、 グローバル及びローカルな視 点における課題を見出し、根 拠を持って論理的に思考し、 その課題を解決することがで きる	演習等を鑑み国内外の実習や その準備に取り組むことで、 グローバル及びローカルな視点における課題を大変的確に 見出し、豊富な客観的根拠を 持って論理的に思考し、その 課題を場面に応じて適切に解 決することができる	演習等を鑑み国内外の実習や その準備に取り組むことで、 グローバル及びローカルな視 点における課題を的確に見出 し、客観的根拠を持って論理 的に思考し、その課題を適切 に解決することができる	演習等を鑑み国内外の実習や その準備に取り組むことで、 グローバル及びローカルな視 点における課題を見出し、根 幾を持って論理的に思考し、 その課題を解決することがで きる	演習等を鑑み国内外の実習やその準備に取り組むことで、 グローバル及びローカルな視点における課題を一定程度見出し、論理的に思考し、その 課題をやっと解決することが できる	演習等を鑑み国内外の実習や その準備に取り組むが、グ ローバル及びローカルな視点 における課題を見出すに至ら ず、論理的な思考に欠け、課 題の解決が出来ない
4.多文化共生社会に生きる子 どもと保護者の支援を行うの に必要な異文化受容能力	演習等を通して多文化共生社会における保育・幼児教育・保護者支援をするにあたり、自己の文化と様々な文化の共通性や差に複合的な理解があり、それを受容することができる	漢習等を通して多文化共生社会における保育・幼児教育・保護者支援をするにあたり、自己の文化と様々な文化の共産的な理解が大変豊富にあり、それを受容することができる能力に大変長けている	漢習等を通して多文化共生社会における保育・幼児教育・保護者支援をするにあたり、自己の文化と様々な文化の共通性や差の複合的な理解が豊富にあり、それを受容することができる能力に長けている	演習等を通して多文化共生社会における保育・幼児教育・保護者支援をするにあたり、自己の文化と様々な文化の共通性や差に複合的な理解があり、それを受容することができる	漢習等を通して多文化共生社会における保育・幼児教育・保護者支援をするにあたり、自己の文化と様々な文化の共通性や差に理解があり、それを受容することが一定程度できる	演習等を通して多文化共生社会における保育・幼児教育・ 保護者支援をするにあたり、 自己の文化と様々な文化の共 通性や差の理解と、それを受 容する能力が不足している
5. グローバル時代に対応できる日本語及び英語を中心とする外国語による高いコミュニケーション能力	演習等においてグローバル時 代の高度な言語コミュニケー ションに対応できる実践的な 語学力を身につける。	演習等において言語でのコミュニケーションにおいて、 母国語と外国語の差異を踏ま えた豊富で多彩な知識を有 し、4技能を統合し様々な状況 に応じた的確かつ多彩な高次 元での意思疎通が無理なく円 滑にできる	演習等において言語でのコミュニケーションにおいて、 日国語と外国語の差異を踏ま えた知識を有し、4技能を統合 し様々な状況に応じた的確か つ多彩な意思疎通が円滑にで きる	演習等において言語でのコミュニケーションにおいて、 母国語と外国語の知識を有し、4技能を統合し様々な状況 に応じた意思疎通ができる	演習等において言語でのコミュニケーションにおいて、 母国語と外国語の知識を一定 程度有し、4技能を統合し様々 な状況に応じた最低限の意思 疎過ができる	演習等において言語でのコミュニケーションにおいて、 母国語と外国語の知識が不足し、4技能を統合した様々な状況に応じた意思疎通ができない

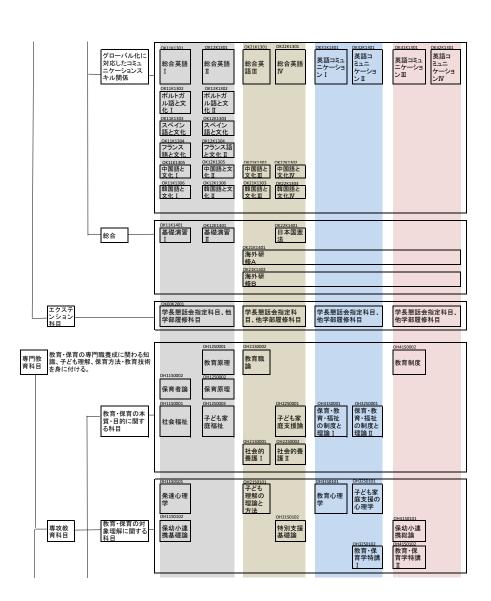
#### カリキュラムマップ 〇保育学科

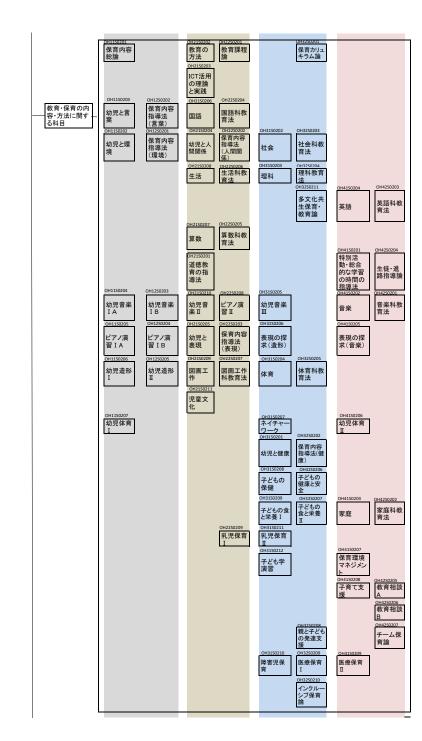
科目群	科目	科目ナンバー	主体的に学ぼうとする力	協同的に学び合う力	◎深い関 知識・技能	連がある、○関連がある 思考力・判断力・表現力
教	教育原理 保育原理	0H12S0001 0H12S0002			0	0
的育に・	子ども家庭福祉	0H12S0003			0	0
関保	保育・教育・福祉の制度と理論   保育・教育・福祉の制度と理論	0B31S0001 0B32S0001	0	0		Ų
す育るの	社会福祉 子ども家庭支援論	0H11S0001 0H22S0001			0	0
科本目質	社会的養護 I 社会的養護 II	0H21S0001 0H22S0002	0		٥	0
8年 ・	保育者論 教育教論	0H11S0002 0H21S0002			0	0
8	数育制度 発達心理学	0841S0002 0841S0001 0811S0101	-		0	0
象 数 理 育	光理心様子 子ども家庭支援の心理学 子ども理解の理論と方法	0H1S0101 0H32S0101 0H21S0101			0	0
科解・目に保	すども境界の埋滅と方法 教育心理学 特別支援基礎論	0H31S0101			0	0
群関育	保幼小連携基礎論	0H21S0102 0H11S0102	_		0	0
す の る 対	保幼小連携総論 教育・保育学特講   教育・保育学特講	0841S0101 0832S0102	0		0	0
- ~	教育・保育学特講 II 教育課程論	0H41S0102 0H22S0201	0		٥	0
1	保育カリキュラム論 保育内容総論	0H32S0201 0H11S0201			0 0	0
1	保育内容指導法 (健康) 保育内容指導法 (人間関係)	0832S0202 0822S0202	0			0
	保育内容指導法(環境) 保育内容指導法(言葉)	0H12S0201 0H12S0202	0			0
	保育内容指導法 (表現) 国語科教育法	0H22S0202 0H22S0203 0H22S0204	0		0	0
1	出端件或用法 社会科教育法 算数科教育法	0H22S0204 0H32S0203 0H22S0205			0	0
	算數科教育法 理科教育法 生活科教育法	0H32S0204			0	9
	音楽科教育法	0H22S0206 0H42S0201			0	0
	図画工作科教育法 家庭科教育法	0H22S0207 0H42S0202			0	0
	体育科教育法 英語科教育法	0H32S0205 0H42S0203			0	0
	道徳教育の指導法 特別活動・総合的な学習の時間の指導法	0H21S0201 0H41S0201			0	9
	生徒・進路指導論 教育の方法	0842S0204 0821S0202			0	0
	ICT 活用の理論と実践 幼児と健康	0H21S0202 0H21S0203 0H31S0201	1		0	0
80;	切児と健康 幼児と人間関係 幼児と環境	0H21S0204			0	0
教育	幼児と音楽	0H11S0202 0H11S0203 0H21S0205			0	0
· 保	幼児と表現国語	0H21S0205 0H21S0206			0	0
市	算数	0H31S0202 0H21S0207			0	0
の内	理科 生活	0H31S0203 0H21S0208			0	0
*	音楽 図画工作	0841S0202 0821S0209	<u> </u>		0 0	0
方	家庭 体育	0821S0209 0841S0203 0831S0204			0	0
法に	英語 幼児音楽 I A	0H41S0204	0		0	0
网	幼児音楽IB	0H11S0204 0H12S0203	0			0
する	幼児音楽川	0H21S0210 0H31S0205	0			0
科目	ピアノ演習 I A ピアノ演習 I B	0H11S0205 0H12S0204			0	0
群	ピアノ演習 II 表現の探求 (造形)	0H22S0208 0H31S0206	0	0	0	0
	表現の探求 (音楽) 幼児遊形 I	0841S0205 0841S0206	0	0		0
	幼児造形 II 幼児体育 I	0H11S0206 0H12S0205 0H11S0207	0			0
	幼児体育   幼児体育   ネイチャーワーク	0H41S0206	9	0		0
	児童文化	0831S0207 0821S0211	0	₩	0	_
	子どもの保健 子どもの健康と安全	0831S0208 0832S0206	0		0	0
	子どもの食と栄養! 子どもの食と栄養!!	0831S0209 0832S0207	0		0	0
	障害児保育 乳児保育 I	0H31S0210 0H22S0209	0		0	0
	乳児保育 II 保育環境マネジメント	0H31S0211 0H41S0207	0	0		0
	子ども学演習 教育相談A	0831S0212 0842S0205	0	0	0	0
	教育相談B 子育で支援	0842S020S 0842S020G 0841S0208	0		0	0
	ボートに来放 親と子どもの発達支援 チーム保育論	0841S0208 0832S0208 0842S0207	0	0		-
	チーム保育論 医療保育 I 医療保育 II	0H32S0209	0	~	٥	0
	医療保育 II インクルーシブ保育論 多文化共生保育・教育論	0841S0209 0832S0210 0832S0211	0	0	Q	
19	特別支援教育論	0H32S0211 0H22S0301			0	0
別	知的障害児の心理・生理・病理 肢体不自由児の心理・生理・病理	0B31S0301 0B31S0302			0	0
支援	病弱児の心理・生理・病理 知的障害教育論 I	0H31S0303 0H32S0301			0	0
教育	知的障害教育論    肢体不自由教育論	0H41S0301 0H32S0302			0	0
8# (C	肢体不自由教育論 II 病弱教育論	0H42S0301 0H32S0303			0	0
関す	視覚障害児の心理・生理・病理 聴覚障害児の心理・生理・病理	083250303 083150304 084250302			0	0
6	環見障害が切りない。 発達障害の理解 視覚障害教育論	084250302 084150302 083150305			0	0
科目	视覚障害教育論 聴覚障害教育論 重複障害等教育論	0H42S0303			0	0
$\vdash$	教育実習	0841S0303 0812S1001	0		V	0
1	教育実習=教育実習=	0832S1001 0841S1001	0			0
1	教育実習IV 教育実習指導 I	0H42S1001 0H11S1001	0			0
体	教育実習指導 II 教育実習指導 III	0B32S1002 0B41S1002	0			0
験	教育実習指導IV 教職実践演習(幼・小)	0841S1003 0842S1002	0			0
学習	保育実習 I (保育所) 保育実習 I (施設)	0831S1001 0822S1001	0			0
科	保育実習Ⅱ	0H41S1004	0			0
群	保育実習Ⅲ 保育実習指導 I (保育所) 保育実習指導 I (体設)	0841S1005 0831S1002 0822S1002	0			0
1	保育実習指導 I (施設) 保育実習指導 II	0H22S1002 0H41S1006	0			0
1	保育実習指導 III 保育実践演習	0841S1007 0842S1003	0	0		0
1	学校インターンシップ指導 学校インターンシップ	0H21S1001 0H22S1003	0			0
<b>-</b>	海外幼児教育インターンシップ 総合演習IA	0H12S1002 0H21S2001	0	0		0
修彩	総合演習IB 総合演習IIA	0H22S2001 0H31S2001	0	0		
目研的究な	総合演習 II B 卒業研究演習 I	0831S2001 0832S2001 0841S2001	0	0		
異な	卒業研究演習 II 卒業研究	0H41S2001 0H42S2001 0H42S2002	0	0		
		0m4252002	. ~			i

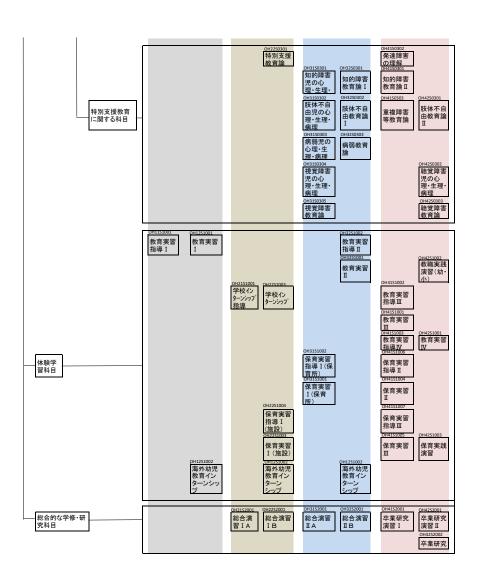
# 〇国際教養こども学科

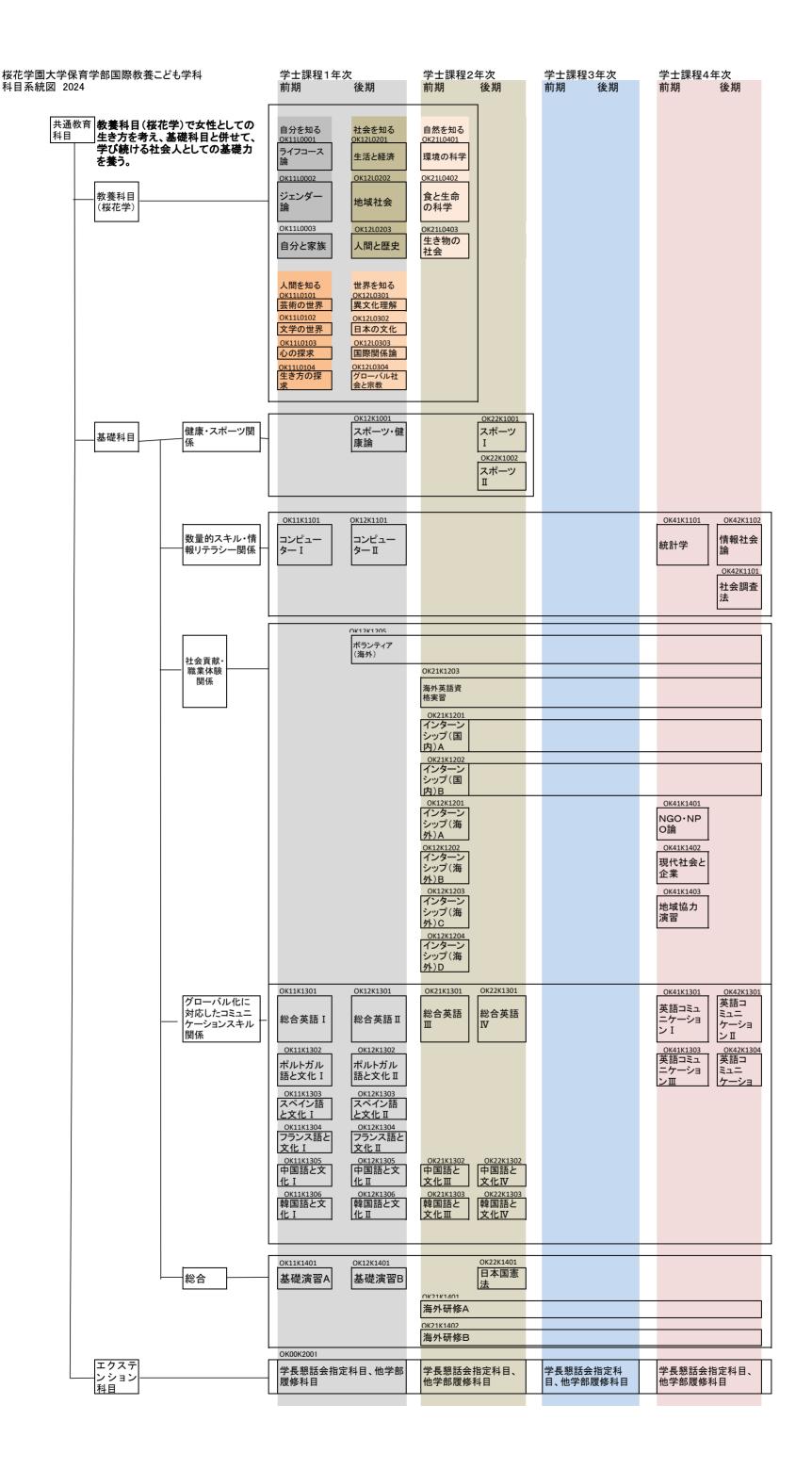
}	授業科目	ナンバリングコード	1年		2年		3年		4年		1. 国際社会 で活躍する ために必要 な幅広い視 野と知識と教 養	2. 各国の保育の比較を通して身につく、自らのより望ましい保育のあり方について考察するカ	3. 国内外で の実研と中 の実研といい り組むこと、 りにつく、 関を見し、 と りについる は り、 は り、 は り、 と り、 と り、 と り、 と り、 と り、	4. 多文化共 生社会に生 きる子どもと 保護を行うのに 必要な力、及 び異文化受 容能力	5. がけった が時できびい 語を中国を を中国る に ション能 に ション能
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
	保育原理	0K11S0001	0								0	0			
	教育原理	0K12S0002		0							0	0			
	子ども家庭福祉	0K12S0003		0	ļ						0	0			ļ
	社会福祉	0K11S0004	0	ļ	ļ	ļ		ļ			0	0	ļ		ļ
	子ども家庭支援論	0K22S0005				0			ļ		0	0			1
	社会的養護I	0K21S0006			0	ļ					0	0			ļ
	社会的養護Ⅱ	0K22S0007				0						0		0	ļ
	保育者論	0K12S0008		0		ļ		ļ			0	0			<u> </u>
	教育制度	0K41S0009	ļ		ļ			-	0		0	0			
	発達心理学	0K11S0010	0			<u> </u>					0	0	ļ		
	子ども家庭支援の心理学	0K22S0011				0		ļ			0		<del> </del>		ļ
	子ども理解の理論と方法	0K21S0012		<del> </del>	0	<del> </del>									<del> </del>
	教育心理学	0K42S0013		<del> </del>		ļ				0	0				
	特別支援基礎論	0K21S0014			0	l		<del> </del>			0	0			
	保育カリキュラム論 保育内容総論	0K42S0015	0	-		-				0	0	0	<del> </del>		
	保育內容指導法(健康)	0K11S0016 0K22S0101		-		0				-	0	0	-	0	+
	保育內容指導法 (人間関係)	0K22S0101		<del> </del>		ŏ		<del> </del>				0		0	<del> </del>
				0		<u>~</u>						0		0	-
2	保育内容指導法 (環境) 保育内容指導法 (言葉)	0K12S0103 0K12S0104	+	0	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>			l	0	<del> </del>	0	<del> </del>
と	保育內容指導法 (言葉) 保育內容指導法 (表現)	0K12S0104 0K22S0105	<del> </del>	<u> </u>		0	<del> </del>	<del> </del>			<b> </b>	0	<del> </del>	0	+
8 8	保育内容指導法 (表現) 教育の方法		<del> </del>	<del> </del>		<u> </u>	<b></b>	<del> </del>			<u></u>	0	<del> </del>	<u> </u>	+
教	教育の方法 幼児と健康	0K21S0017 0K21S0201	<del> </del>	<del> </del>	0	<b> </b>	<del> </del>	<del> </del>	ļ		0	0	<del> </del>		<del> </del>
	幼児と人間関係		1	-	0	-	-	-		-	0	0	-		<del> </del>
育和		0K21S0202 0K11S0003			0	-		-		-			-		-
科	幼児と環境		0	1	-			-		-	0	0	l	-	+
目	幼児と言葉	0K11S0004	0		-		<b></b>				0	0			+
	幼児と表現	0K21S0005		ļ	0	ļ					0				<del> </del>
	幼児音楽A	0K11S0006	0	<u> </u>		ļ		ļ				0	ļ	0	ļ
	幼児音楽B	0K12S0007		0	<u> </u>							0	ļ	0	
	幼児音楽C	0K21S0011			0							0		0	<del> </del>
	幼児音楽D	0K22S0012	-	-		0		-				0		0	├
	幼児造形A	0K11S0008	0	<u> </u>		ļ		ļ				0	ļ	0	<del> </del>
	幼児造形B	0K12S0009		0		-		-				0		0	<b>├</b>
	幼児体育A	0K11S0010	0			ļ		<del> </del>				0		0	<del> </del>
	幼児体育B	0K12S0011		0		ļ		ļ					<del> </del>	0	ļ
	児童文化	0K411S012		<del> </del>	<u> </u>				0						<b></b>
	子どもの保健	0K21S0018			0						0				
	子どもの健康と安全	0K22S0019				0		<del> </del>				0		0	
	子どもの食と栄養	0K21S0020		-	0	-				-	0	0	-		
	障害児保育	0K22S0021				0		-			0			0	┼
	乳児保育 I	0K22S0022				0		<del> </del>			0	0	<del> </del>		<del> </del>
	乳児保育Ⅱ 教育相談	0K41S0023	- <del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>			0	0	0	0	ļ	0	<del> </del>
	子育で支援	0K42S0024	<del> </del>	-		-			0			0		0	<del> </del>
	海外の保育	0K41S0025 0K21S0301	+		0			ļ			0	0	<del> </del>	0	<del> </del>
-	多文化共生研究	0K11S1001	0	-		<del>                                     </del>		-			0	-		0	+-
	タスに共主明元 地域研究 I オーストラリア	0K22S1002	<u> </u>	<del> </del>		0		<del> </del>			0		<del> </del>	-	<del> </del>
	地域研究Ⅱ 日本	0K11S1003	0			<del>                                     </del>		-			0			0	+
	地域研究Ⅲ ヨーロッパ	0K21S1004		-	0			-			0		-	0	-
	地域研究IV アフリカ	0K21S1005		-	0	-		-			0		<del> </del>	0	+
	地域研究V アジア	0K22S1006		1		0		<del> </del>			0		<del> </del>	0	+
玉	地域研究VI アメリカ	0K21S1007		<b></b>	0	<u>`</u>			<b></b>		0			0	<b>†</b>
際	ことばのメカニズム	0K41S1101	+	<del> </del>	<del> </del>	<u> </u>		<del> </del>	0		0		ł	<u>Ŭ</u>	(
教	Teaching English for Children	0K11S1201	·	<del> </del>	0	<del> </del>			<u> </u>				<del> </del>	0	(
養	チームビルディング実践	0K21S1102	0				<b></b>						<b></b>	0	
科	Study Abroad Preparation	0K22S1301		1		0		1			0		0		
目	Basic Communication in English I	0K11S1103	0	1		1		1			0		1		(
-	Basic Communication in English II	0K12S1104		0							0				(
	Intermediate Communication in English I	0K21S1105	·		0						0				(
	Intermediate Communication in English II	0K22S1106		1		0		l			0		1		(
	海外語学研修	0K33S1302		1		1	0	0			0		0		(
	海外保育留学	0K33S1303					0	0			0	0		0	1
	国際教養総論	0K41S1304				l			0		0		0	0	†
	教育実習入門	0K12S2001		0								0	0	0	
	教育実習I	0K22S2003				0						0	0	0	1
	教育実習Ⅱ	0K42S2005		1				<b> </b>		0		0	0	0	1
	教育実習指導 I	0K21S2002	+	<b>†</b>	0	1	<b>†</b>	1	<b> </b>	<u> </u>	<b> </b>	0	0	0	†
	教育実習指導Ⅱ	0K41S2004	1	1	<del> </del>	1	<b> </b>	T	0			0	0	0	1
	教職実践演習(幼)	0K42S2006	1	<b></b>	t	t	1	l	<u> </u>	0	l	0	0	0	1
	保育実践演習	0K41S2109	<b>†</b>	1	<b>†</b>	T	<b> </b>	T	0		<u> </u>	0	0	0	1
実	保育実習 I (保育所)	0K32S2102	1	T	<b>†</b>	1	<del> </del>	0	<u> </u>	·	l	0	0	0	1
習	保育実習 I (施設)	0K32S2104	1	1	1	1	<u> </u>	Ö	1		1	0	0	0	1
科	保育実習Ⅱ	0K41S2106	1		1		<u> </u>	T	0			0	0	0	1
目	保育実習Ⅲ	0K41S2108	1		<b>T</b>	1	<b>†</b>		Ö			0	0	0	
	保育実習指導 I (保育所)	0K32S2101	1	1	<b>T</b>	1	<b> </b>	0	<u> </u>			0	0	0	1
	保育実習指導 I (施設)	0K32S2103	1	İ	1	Ì	1	0			l	0	0	0	1
	保育実習指導Ⅱ	0K41S2105	1	İ	1	Ì	1	T	0		l	0	0	0	1
	保育実習指導Ⅲ	0K41S2107	<b>†</b>	1	<b>†</b>	<b>†</b>	<b> </b>	<b> </b>	0		<u> </u>	0	0	0	1
	海外保育フィールド・スタディ	0K11S2201	O→	0	<b>T</b>	1	<u> </u>	<b>T</b>	<u> </u>		0	0	0	0	(
	海外幼児教育インターンシップ	0K12S2202	T -	ő	<b>†</b>	1	<b>†</b>	<del>                                     </del>	<b></b>		0	0	0	0	
	総合演習A	0K21S3001	1		0	<del>                                     </del>			<del>                                     </del>	$\vdash$	0	0	0	0	
演	総合演習B	0K22S3002	1			0			<del>                                     </del>		0	0	0	0	
图	卒業研究演習 I	0K41S3101	1		t	<u> </u>	<b>†</b>		0		0	0	0	0	0
科	卒業研究演習Ⅱ	0K42S3102	+	<b>-</b>	<del> </del>	t	<del> </del>	<del> </del>	<del> </del>	0	0	0	0	0	
目			.4	ş	4	<b>}</b>	4	<b></b>	·	ļ	ļ	0	ļ		, .

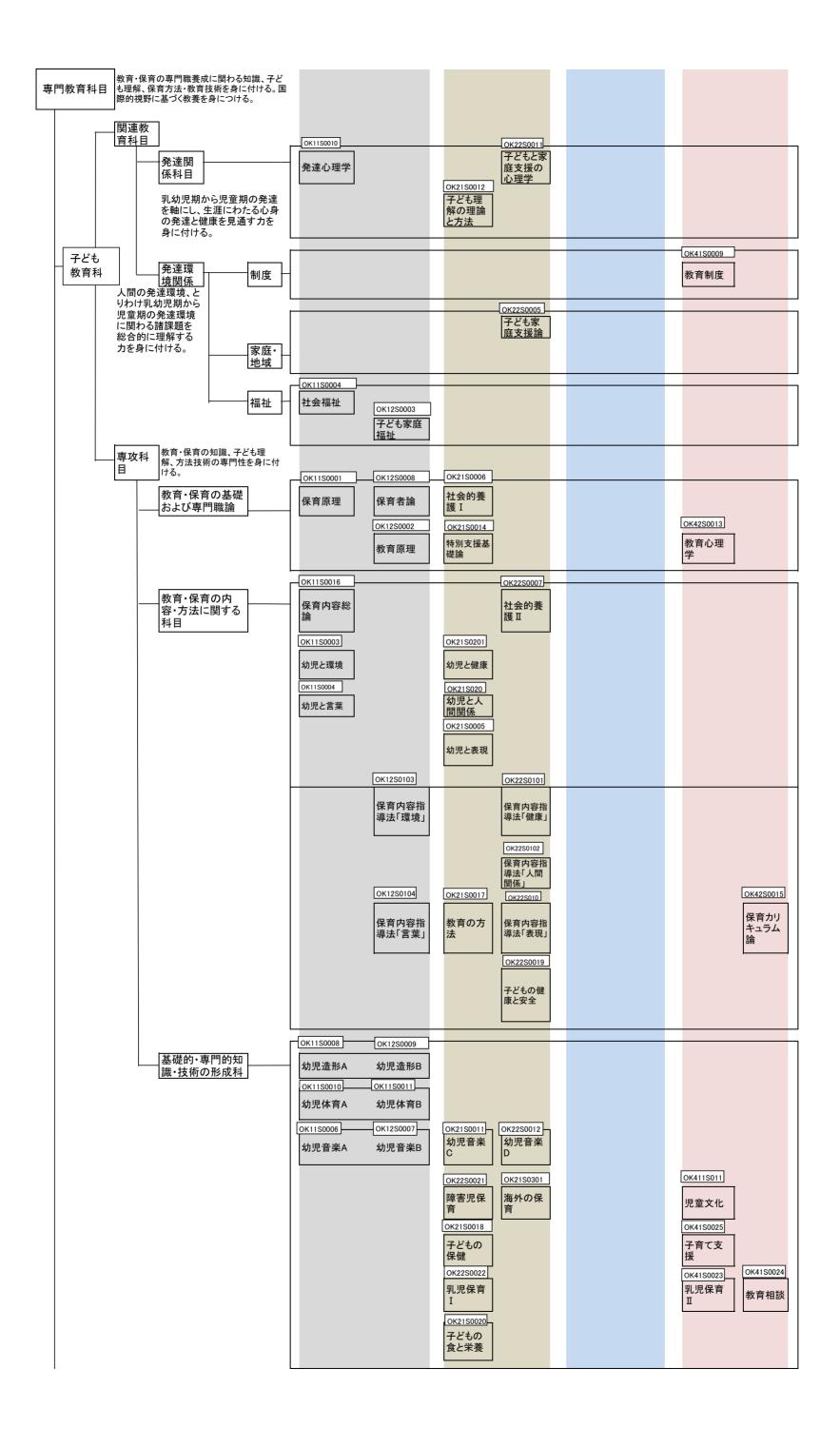


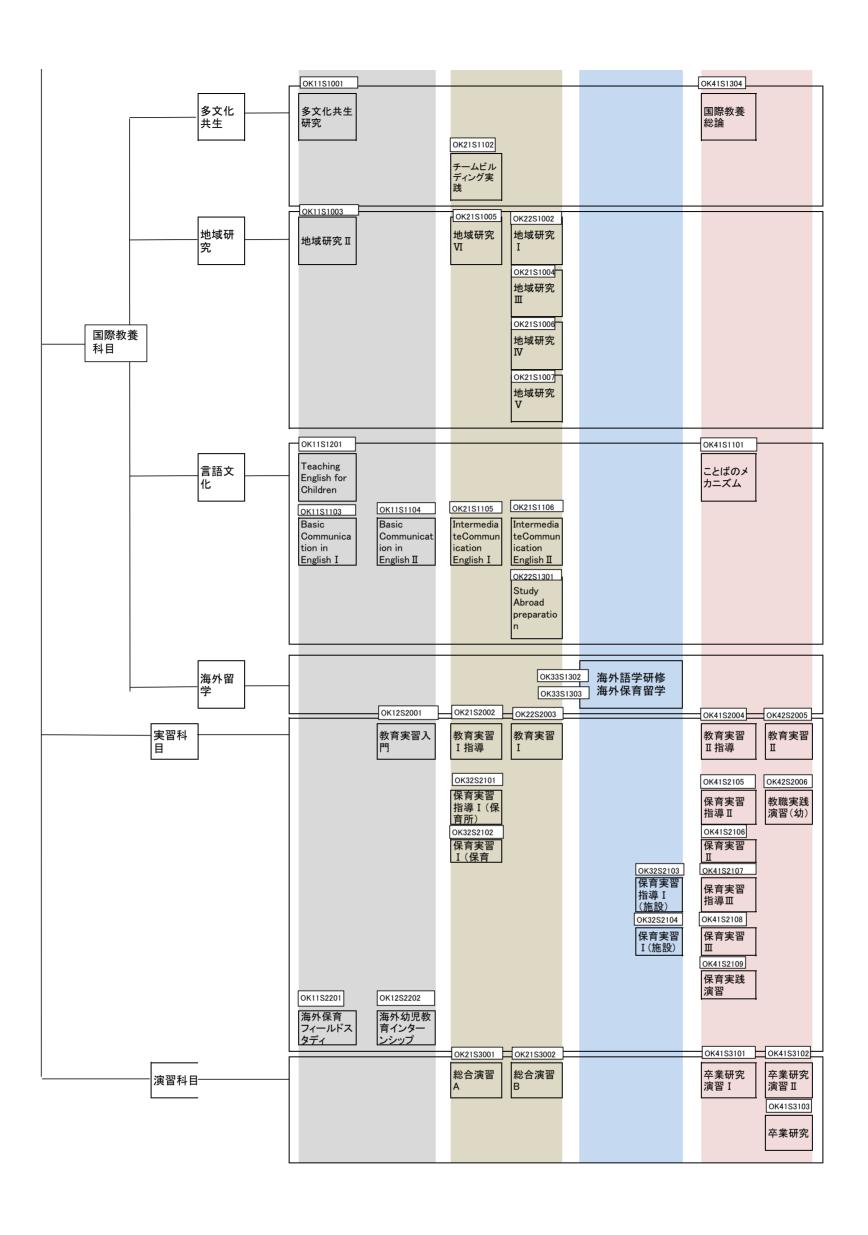












# 免許状・資格等の取得(保育学科)

# I. 幼稚園教諭1種免許状の取得

本学で教育職員免許の幼稚園教諭1種免許状の取得をする場合、学士の学位を取得し、以下の指定する保育学部保育学科の基礎教育科目並びに専門教育科目を履修しなければなりません。

# 1. 基礎資格

学士の学位を有すること。

2. 基礎教育科目での履修(教育職員免許法施行規則に定める科目)

免許法施行規則に定める科目及び単位数		本学の授業科目と単位	数	必要な 単位数	
科目	単位	科目	単位	単位	
日本国憲法	2	日本国憲法	2	2	
体育		スポーツ健康論	2	1	
	2	スポーツ I	. 1		
		スポーツⅡ	1	1	
外国語コミュニケーション	2	総合英語 I	1	2	
外国品コミューケーション	Δ	総合英語Ⅱ	1	2	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又	2	コンピュータ [	1	- 2	
は情報機器の操作	Δ	コンピュータⅡ	1	۷	

# 3. 専門教育科目での履修

a. 領域及び保育内容の指導法に関する科目

a. 預	<u> </u>	<u></u>	本学の授業科目と単位	数	必要な 単位数
区分	科目	単位	科目	単位	単位
領	健康		幼児と健康	1	
門域に	人間関係		幼児と人間関係	1	
的異	環境		幼児と環境	1	
1的事項に関する	言葉		幼児と言葉	1	5
専	表現	1	幼児と表現	1	
	·目に含まれる内容を合わせた内容に係る の他上記科目に準ずる内容の科目				
	保育内容総論	16	保育内容総論	2	2
機育な器内			保育内容指導法(健康)	2	2
を含む。と器及び教材	保育内容指導法(人間関係)		保育内容指導法(人間関係)	2	2
^い 。教指	保育内容指導法(環境)		保育内容指導法(環境)	2	2
の法	保育内容指導法(言葉)		保育内容指導法(言葉)	2	2
	保育内容指導法(表現)		保育内容指導法(表現)	2	2

# b. 教育の基礎的理解に関する科目

	免許法施行規則に定める科目及び単位数	女	本学の授業科目と単位	<b>正数</b>	必要な 単位数
区分	科目	単位	科目	単位	単位
教育	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思 想		教育原理	2	2
の基	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		保育者論	2	2
<ul><li>礎</li><li>的</li><li>目 理</li></ul>	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	10	教育制度	2	2
解に	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習 の過程	10	教育心理学	2	2
関する	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生 徒に対する理解		特別支援基礎論	1	1
る 科	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		保育カリキュラム論	2	2
相導 洗法総	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の 活用を含む。)		教育の方法	2	2
等に関する合的な学習	幼児理解の理論及び方法	4	子ども理解の理論と方法	2	2
科導の 目、時	教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。) の理論及び方法		教育相談A	1	1
教育	教育実習		教育実習指導 I 教育実習指導 II	1 1	
る実科は		7	教育実習 I 教育実習 II	1 3	6
目に	学校体験活動				
関	教職実践演習		教職実践演習(幼・小)	2	2

# C. 大学が独自に設定する科目

佐、八子が残らに散足する作品		本学の授業科目と単位	数	必要な
施行規則に定める科目区分等		科目	単位	単位
		発達心理学	2	
		保幼小連携基礎論	1	
		保幼小連携総論	1	
		幼児音楽 I A	1	
		幼児音楽 I B	1	
大学が独自に設定する科目	14	幼児音楽Ⅱ	1	<b>※</b> 1
		幼児音楽Ⅲ	1	
		幼児体育 I	1	
		幼児造形 I	1	
		幼児造形Ⅱ	1	]
		児童文化	1	

※1「大学が独自に設定する科目」と最低修得単位を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する 科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育 相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて14単位以上を修得

# Ⅱ. 小学校教諭1種免許状の取得

本学で小学校教諭1種免許状の取得をする場合、学士の学位を取得し、以下の指定する保育学部保育学科の基礎教育科目並びに専門教育科目を履修するとともに、「介護等の体験」を行わなければなりません。

#### 1. 基礎資格

学士の学位を有すること。

2. 基礎教育科目での履修(教育職員免許法施行規則に定める科目)

免許法施行規則に定める科目及び単位数		本学の授業科目と単位	<b>工</b> 数	必要な 単位数	
科目	単位	科目	単位	単位	
日本国憲法	2	日本国憲法	2	2	
体育		スポーツ健康論	2	1	
	2	スポーツ I	1	1	
		スポーツⅡ	1		
外国語コミュニケーション	2	総合英語 I	1	2	
	2	総合英語Ⅱ	1	2	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又	2	コンピュータ [	1	2	
は情報機器の操作	2	コンピュータⅡ	1		

^{*}幼稚園教諭1種免許状と共通ですので、重複して履修する必要はありません。

# 3. 専門教育科目での履修

a. 教科及び教科の指導法に関する科目

a . 3x	<ul><li>科及び教科の指導法に関する科目</li><li>免許法施行規則に定める科目及び単位数</li></ul>	:	本学の授業科目と	 単位数	必要な 単位数
区分	科目	単位	科目	単位	単位
	国語(書写含む。)		国語	1	
教	社会		社会	1	]
科に	算数		算数	1	
関	理科		理科	1	
する	生活		生活	1	
る専	音楽		音楽	1	10
門的	図画工作		図画工作	1	
事	家庭		家庭	1	
項	体育		体育	1	
	外国語		英語	1	
教科及 数の事	び教科の指導法に関する科目における複 項を合わせた内容に係る科目				
各 教	国語科教育法	30	国語科教育法	2	2
科の	社会科教育法		社会科教育法	2	2
指	算数科教育法		算数科教育法	2	2
導法	理科教育法		理科教育法	2	2
含へむ情	生活科教育法		生活科教育法	2	2
した。当時では、	音楽科教育法		音楽科教育法	2	2
信技	図画工作科教育法		図画工作科教育法	2	2
術	家庭科教育法		家庭科教育法	2	2 2
の活	体育科教育法		体育科教育法	2	
用 を	英語科教育法		英語科教育法	2	2

## b. 教育の基礎的理解に関する科目

	免許法施行規則に定める科目及び単位数		本学の授業科目と単位	近数	必要な 単位数
区分	科目	単位	科目	単位	単位
教育	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		教育原理	2	2
の 基	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教育職論	2	2
礎的理解に関	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応 を含む。)	10	教育制度	2	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の 過程		教育心理学	2	2
する	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒 に対する理解		特別支援基礎論	1	1
科目	教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論	2	2
1思、	道徳の理論及び指導法		道徳教育の指導法	2	2
徒指導、 総合的	総合的な学習の時間の指導法		特別活動・総合的な学習の	2	2
導いな	特別活動の指導法		時間の指導法	_	_
教学育羽	教育の方法及び技術		教育の方法	2	2
教育相談等に問な学習の時間等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	10	ICT活用の理論と実践	1	1
寺間に第	生徒指導の理論及び方法				
関する科目等の指導法及	進路指導及びキャリア教育の理論及び方 法		生徒・進路指導論	2	2
科法	教育相談(カウンセリングに関する基礎		教育相談A	1	1
び 生	的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談B	1	1
関教す育	教育実習		教育実習指導Ⅲ 教育実習Ⅲ	1 3	
る実科践	学校体験活動	7	学校インターンシップ指導 学校インターンシップ	1	6
	教職実践演習		教職実践演習(幼・小)	2	2

^{*}幼稚園教諭1種免許状との共通科目は、重複して履修する必要はありません。

#### C. 大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分等		本学の授業科目と単位	数	必要な
施17 規則に足める科目区分等		科目	単位	単位
		発達心理学	2	
大学が独自に設定する科目	2	保幼小連携基礎論	1	<b>※</b> 1
		保幼小連携総論	1	

※1「大学が独自に設定する科目」と最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて2単位以上を修得

# Ⅲ. 特別支援学校教諭1種免許状(知的障害者・肢体不自由者・病弱者)の取得

本学で特別支援学校教諭1種免許状(知的障害者・肢体不自由者・病弱者)の取得をする場合、小学校教諭1種免許状を取得見込みであり、以下の指定する保育学部保育学科の専門教育科目を履修しなければなりません。

1. 特別支援教育に関する科目

1. 特別支援教育に関する科目 免許法施行規則に定める科目及び単位数		本学の授業科目と単位	数	必要な 単位数	
区分	科目	単位	科目	単位	単位
特	別支援教育の基礎理論に関する科目	2	特別支援教育論	2	2
	2 白に陸中のよう仏旧 旧幸立は生生の		知的障害児の心理・生理・ 病理	2	
特 別	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の 心理、生理及び病理に関する科目		肢体不自由児の心理・生 理・病理	2	
支			病弱児の心理・生理・病理	2	
支援教			知的障害教育論 I	2	
育			知的障害教育論Ⅱ	2	
領域	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の 教育課程及び指導法に関する科目	16	肢体不自由教育論 I	2	16
に			肢体不自由教育論Ⅱ	2	1
関す			病弱教育論	2	
る科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の 心理、生理及び病理に関する科目・心身 に障害のある幼児、児童又は生徒の教育 課程及び指導法に関する科目				
る免 特許	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の		視覚障害児の心理・生理・ 病理	1	
別状 域支に に援定	心理、生理及び病理に関する科目		聴覚障害児の心理・生理・ 病理	1	1
関教がする	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の	5	視覚障害教育論	1	6
9 月 る 領 れ 域 る	教育課程及び指導法に関する科目	υ	聴覚障害教育論	1	U
目以こ	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の 心理、生理及び病理に関する科目・心身		発達障害の理解	1	
のと に障害のある	に障害のある幼児、児童又は生徒の教育 課程及び指導法に関する科目		重複障害等教育論	1	
	障害のある幼児、児童又は生徒について	3	教育実習指導IV	1	3
の教育	実習	J	教育実習IV	2	J

# Ⅳ. 保育士資格の取得

本学で保育士資格を取得する場合、児童福祉法施行規則(保育士養成所指定基準)に定める次の要件を充たすよう基礎教育科目並びに専門教育科目を履修しなければなりません。

# 1. 基礎教育科目での履修

指定保育士養成施設指定基準における要件		本学の授業科目と単位数		必要な 単位数	
系列	教 科 目	単位	教 科 目	単位	単位
			ライフコース論	2	
			ジェンダー論	2	2以上
			自分と家族	2	
	外国語、体育以外の科目	6以上	コンピュータ I	1	4
教			コンピュータⅡ	1	
教 養 科			基礎演習 I	1	
科			基礎演習Ⅱ	1	
目	外国語	2以上	総合英語 I	1	2以上
			総合英語Ⅱ	1	25人工
	体育 (講義)	1	スポーツ健康論	2	2
	体育(実技) 1	1	スポーツ I	1	1以上
		1	スポーツⅡ	1	1以上

# 2. 専門教育科目での履修

# a. 告示別表第1による科目

a. 告示別表第1による科目 指定保育士養成施設指定基準における要件		本学の授業科目と単位数		必要な 単位数	
系列	教 科 目	単位	教 科 目	単位	単位
的保	保育原理	2	保育原理	2	2
に育	教育原理	2	教育原理	2	2
関の	子ども家庭福祉	2	子ども家庭福祉	2	2
す本	社会福祉	2	社会福祉	2	2
る質	子ども家庭支援論	1	子ども家庭支援論	2	2
科・ 目目	社会的養護 I	2	社会的養護 I	2	2
ΠП	保育者論	2	保育者論	2	2
関象	保育の心理学	2	発達心理学	2	2
すの保	子ども家庭支援の心理学	2	子ども家庭支援の心理学	2	2
関する科目象の理解に保育の対	子どもの理解と援助	1	子ども理解の理論と方法	2	2
科解対	子どもの保健	2	子どもの保健	2	2
目に ^X	子どもの食と栄養	2	子どもの食と栄養I	2	2
	保育の計画と評価	2	保育カリキュラム論	2	2
	保育内容総論	1	保育内容総論	2	2
	保育内容演習		保育内容指導法(健康)	1	1
保 育			保育内容指導法(人間関係)	1	1
育		5	保育内容指導法(環境)	1	1
の 内			保育内容指導法(言葉)	1	1
容			保育内容指導法(表現)	1	1
•			幼児と健康	1	1
方			幼児と人間関係	1	1
法	保育内容の理解と方法	4	幼児と環境	1	1
に 関			幼児と言葉	1	1
			幼児と表現	1	1
する	乳児保育I	2	乳児保育 I	2	2
科	乳児保育Ⅱ	1	乳児保育Ⅱ	1	1
目	子ども健康と安全	1	子ども健康と安全	1	1
	障害児保育	2	障害児保育	2	2
	社会的養護Ⅱ	1	社会的養護Ⅱ	1	1
	子育て支援	1	子育て支援	1	1

保育実習 I 保育実習指導 I	4	保育実習I(保育所)	2	2	
	体月天日 1	4	保育実習I(施設)	2	2
	伊玄宝羽长道 I	2	保育実習指導I(保育所)	1	1
			保育実習指導I(施設)	1	1
総合演習	保育実践演習	2	保育実践演習	2	2

# b. 告示別表第2による科目

指定保育士養成施設指定基準における要件		本学の授業科目と単位数		必要な 単位数			
系 列	単位	教 科 目	単位	単位			
保育の本質・目的に関する科目		教育制度	2				
		教育心理学	2				
保育の対象の理解に関する科目		特別支援基礎論	1				
		保幼小連携基礎論	1				
		保幼小連携総論	1				
		保育内容指導法(健康)	1				
		保育内容指導法(人間関係)	1				
		保育内容指導法(環境)	1				
	15以上	保育内容指導法 (言葉)	1				
		保育内容指導法(表現)	1				
		幼児音楽 I A	1				
   保育の内容・方法に関する科目		幼児音楽 I B	1	9以上			
					幼児音楽Ⅱ	1	
					幼児音楽Ⅲ	1	
		幼児造形 I	1				
		幼児造形Ⅱ	1				
		幼児体育 I	1				
		児童文化	1				
		子どもの食と栄養Ⅱ	1	1			
ル 考生羽 II フ は ル 考生羽 III	2	保育実習Ⅱ	2				
保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	۷	保育実習Ⅲ	۷				
保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	1	保育実習指導Ⅱ	1	1			
休月天白汨与北人は休月天百汨与出		保育実習指導Ⅲ					

#### 注意事項

幼稚園教諭1種免許状、小学校教諭1種免許状、特別支援学校教諭1種免許状、保育士資格を取得するためには、各免許状、資格が定める所定の科目(上記Ⅰ.Ⅲ.Ⅳを確認のこと)を履修し、単位の認定を受けなければなりません。

本学では、実習に関する科目の履修資格、単位の認定等について、「桜花学園大学保育学部 教職課程及び指定保育士養成施設の指定および運営の基準に定める教育課程の履修に関する細則(以下「細則」という)を定めています(『履修の手引き』の末尾に掲載)。

実習は、学外で行う体験学習科目です。学生のみなさんは、『履修の手引き』の「保育学部シラバス」及び上記「細則」をよく読んで、実習に関する科目を履修してください。

# Ⅵ. 幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭専修免許状の取得

保育学部を卒業後、本学大学院人間文化研究科人間科学専攻に進学し修士の学位を取得し、取得を希望する免許課程の科目を履修し、所定の単位を修得した場合、幼稚園教諭専修免許状および小学校教諭専修免許状を取得することが出来ます。

- 1. 基礎資格 修士の学位を取得すること。
- 2. 基礎要件 幼稚園教諭1種免許または小学校教諭1種免許を取得していること。
- 3. 取得を希望する免許課程における履修すべき科目と修得を必要とする最低単位数 教科又は教職に関する科目 24単位以上。

# 免許状・資格等の取得(国際教養こども学科)

# I. 幼稚園教諭1種免許状の取得

本学で教育職員免許の幼稚園教諭1種免許状の取得をする場合、学士の学位を取得し、以下の指定する保育学部保育学科の基礎教育科目並びに専門教育科目を履修しなければなりません。

# 1. 基礎資格

学士の学位を有すること。

2. 基礎教育科目での履修(教育職員免許法施行規則に定める科目)

免許法施行規則に定める科目及び単位数		本学の授業科目と単位数		必要な 単位数
科目	単位	科目	単位	単位
日本国憲法	2	日本国憲法	2	2
体育		スポーツ健康論	2	1
	2	スポーツ I	1	1
		スポーツⅡ	1	
か 団 ゴーマー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2	総合英語 I	1	2
外国語コミュニケーション		総合英語Ⅱ	1	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又	2	コンピュータ I	1	2
は情報機器の操作		コンピュータⅡ	1	

# 3. 専門教育科目での履修

a. 領域及び保育内容の指導法に関する科目

a. 領域及の保育内容の指導法に関する科目 免許法施行規則に定める科目及び単位数		本学の授業科目と単位数		必要な 単位数	
区分	科目	単位	科目	単位	単位
領	健康		幼児と健康	1	
門域に	人間関係		幼児と人間関係	1	
的異	環境		幼児と環境	1	
1的事項に関する	言葉		幼児と言葉	1	5
専	表現		幼児と表現	1	
	·目に含まれる内容を合わせた内容に係る の他上記科目に準ずる内容の科目				
	保育内容総論	16	保育内容総論	2	2
機育な器内			保育内容指導法(健康)	2	2
を含む。と器及び教材	保育内容指導法(人間関係)		保育内容指導法(人間関係)	2	2
^い 。教指	保育内容指導法(環境)		保育内容指導法(環境)	2	2
の法	保育内容指導法(言葉)		保育内容指導法(言葉)	2	2
	保育内容指導法(表現)		保育内容指導法(表現)	2	2

# b. 教育の基礎的理解に関する科目

免許法施行規則に定める科目及び単位数		本学の授業科目と単位数		必要な 単位数	
区分	科目	単位	科目	単位	単位
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思 想		教育原理	2	2
の 基	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		保育者論	2	2
礎 的 理	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	10	教育制度	2	2
解 に 関	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習 の過程	10	教育心理学	2	2
する	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生 徒に対する理解		特別支援基礎論	1	1
科 目	教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)		保育カリキュラム論	2	2
相導、 談法総	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の 活用を含む。)		教育の方法	2	2
等に関するおは学習	幼児理解の理論及び方法	4	子ども理解の理論と方法	2	2
科導の 目 時	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談	1	1
教育実践	教育実習	7	教育実習指導 I 教育実習指導 II 教育実習 I 教育実習 II	1 1 2 2	6
目に	学校体験活動				
関	教職実践演習		教職実践演習(幼)	2	2

# C. 大学が独自に設定する科目

施行規則に定める科目区分等		本学の授業科目と単位		必要な
旭1 規則に足める将自位力等		科目	単位	単位
		発達心理学	2	
		教育実習入門	1	
		児童文化	2	
		多文化共生研究	2	
大学が独自に設定する科目	14	幼児音楽A	1	<b>※</b> 1
八子が独日に畝たりる秤目		幼児音楽B	1	<b>%</b> 1
		幼児造形A	1	
		幼児造形B	1	
		幼児体育A	1	
		幼児体育B	1	

※1「大学が独自に設定する科目」と最低修得単位を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する 科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育 相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて14単位以上を修得

# Ⅱ. 保育士資格の取得

本学で保育士資格を取得する場合、児童福祉法施行規則(指定保育士養成施設指定基準)に定める次の要件を充たすよう基礎教育科目並びに専門教育科目を履修しなければなりません。

## 1. 基礎教育科目での履修

指定保育士養成施設指定基準における要件		本学の授業科目と単位数		必要な 単位数	
系列	教 科 目	単位	教 科 目	単位	単位
			ライフコース論	2	
			ジェンダー論	2	2以上
			自分と家族	2	i
	外国語、体育以外の科目	6以上	コンピュータI	1	4
教			コンピュータⅡ	1	
教 養 科			基礎演習 I	1	
			基礎演習Ⅱ	1	
目	外国語	2以上	総合英語 I	1	2以上
	/下四印		総合英語Ⅱ	1	
	体育(講義)	1	スポーツ健康論	2	2
	体育(実技)	1	スポーツ I	1	1以上
	件月 (大汉)	1	スポーツⅡ	1	16/1

# 2. 専門教育科目での履修

## a. 告示別表第1による科目

指定保	<b>没育士養成施設指定基準における</b>	る要件	本学の授業科目と単位	数	必要な 単位数
系列	教 科 目	単位	教 科 目	単位	単位
的保	保育原理	2	保育原理	2	2
に育	教育原理	2	教育原理	2	2
関の	子ども家庭福祉	2	子ども家庭福祉	2	2
す本	社会福祉	2	社会福祉	2	2
る質	子ども家庭支援論	2	子ども家庭支援論	2	2
科・ 目目	社会的養護 I	2	社会的養護 I	2	2
Ħ Ħ	保育者論	2	保育者論	2	2
盟象	保育の心理学	2	発達心理学	2	2
すの保	子ども家庭支援の心理学	2	子ども家庭支援の心理学	2	2
関する保育の	子どもの理解と援助	1	子ども理解の理論と方法	2	2
科解员	子どもの保健	2	子どもの保健	2	2
目に対	子どもの食と栄養	2	子どもの食と栄養	2	2
	保育の計画と評価	2	保育カリキュラム論	2	2
	保育内容総論	1	保育内容総論	2	2
	保育内容演習	5	保育内容指導法(健康)	1	1
保			保育内容指導法(人間関係)	1	1
育			保育内容指導法(環境)	1	1
の 内			保育内容指導法(言葉)	1	1
容			保育内容指導法(表現)	1	1
•			幼児と健康	1	1
方			幼児と人間関係	1	1
法	保育内容の理解と方法	4	幼児と環境	1	1
に 関			幼児と言葉	1	1
す			幼児と表現	1	1
る	乳児保育 I	2	乳児保育 I	2	2
科	乳児保育Ⅱ	1	乳児保育Ⅱ	1	1
目	子ども健康と安全	1	子どもの健康と安全	1	1
	障害児保育	2	障害児保育	2	2
	社会的養護Ⅱ	1	社会的養護Ⅱ	1	1
	子育て支援	1	子育て支援	1	1
	保育実習 I	4	保育実習I(保育所)	2	2
保育実習	小月大自 I	4	保育実習I(施設)	2	2
休月天日	保育実習指導 I	2	保育実習指導I(保育所)	1	1
	体月天白汨特 1	۷	保育実習指導I(施設)	1	1
総合演習	保育実践演習	2	保育実践演習	2	2

#### b. 告示別表第2による科目

指定保育士養成施設指定基準における要件		本学の授業科目と単位数		必要な 単位数
系 列	単位	教 科 目	単位	単位
保育の本質・目的に関する科目		教育制度	2	
		教育心理学	2	
		海外の保育	2	
保育の対象の理解に関する科目		特別支援基礎論	1	
		保育内容指導法 (健康)	1	
		保育内容指導法(人間関係)	1	
	15以上	保育内容指導法 (環境)	1	
		保育内容指導法 (言葉)	1	
		保育内容指導法(表現)	1	
		幼児音楽A	1	9以上
保育の内容・方法に関する科目		幼児音楽B	1	9以上
休月の内谷・万伝に関する村日	幼児造形A	幼児造形A	1	
		幼児造形B	1	
		幼児体育A	1	
		幼児体育B	1	
		児童文化	2	1
保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	2	保育実習Ⅱ	2	
	۷	保育実習Ⅲ		
保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	1	保育実習指導Ⅱ	1	
休月夫首拍导Ⅱ又は休月夫首拍导Ⅲ	1	保育実習指導Ⅲ	1	

#### 注意事項

幼稚園教諭1種免許状、保育士資格を取得するためには、各免許状、資格が定める所定の科目(上記 I Tを確認のこと)を履修し、単位の認定を受けなければなりません。

I. Ⅱを確認のこと)を履修し、単位の認定を受けなければなりません。 本学では、実習に関する科目の履修資格、単位の認定等について、「桜花学園大学保育学部 教職課程及び指定保育士養成施設の指定および運営の基準に定める教育課程の履修に関する細則(以下「細則」という)を定めています(『履修の手引き』の末尾に掲載)。

実習は、学外で行う体験学習科目です。学生のみなさんは、『履修の手引き』の「保育学部シラバス」及び上記「細則」をよく読んで、実習に関する科目を履修してください。

## Ⅲ. 幼稚園教諭専修免許状

保育学部を卒業後、本学大学院人間文化研究科人間科学専攻に進学し修士の学位を取得し、取得を希望する免許課程の科目を履修し、所定の単位を修得した場合、幼稚園教諭専修免許状を取得することが出来ます。

- 1. 基礎資格 修士の学位を取得すること。
- 2. 基礎要件 幼稚園教諭 I 種免許または小学校教諭 I 種免許を取得していること。
- 3. 取得を希望する免許課程における履修すべき科目と修得を必要とする最低単位数 教科又は教職に関する科目 24単位以上。

# 国際学部

## 国際学部国際学科の教育

1. 国際学部国際学科の教育理念

国際学部は、幅広い職業人養成、総合的教養教育、社会貢献(地域貢献、産学官連携国際交流等)の機能を重点的に担い、高等教育機関としてその社会的使命を果たしていくことを教育研究上の目的としています。

#### 【国際学部国際学科の教育理念】

グローバルで多様性に富んだ社会に対応できる幅広い教養と高い専門性を養うことで、多文化に適応できる コミュニケーション力が求められる地域社会及び国際社会に貢献する。

#### 【養成する人材像】

「地域・国際社会に関する幅広い知識と語学力を生かしたコミュニケーション能力」及び「多岐にわたるグローバルな問題を解決するための論理的・創造的な思考力と主体的・実践的な対応能力」を持った人材

- ① 文化的、政治的国際交流の場で必要となる社会文化的な状況把握や分析が的確にできる。
- ② 国際化するビジネス分野で必要とされるビジネス活動、マーケティング、観光産業、韓国文化等の実践的 基礎知識を持ち、ビジネス分野での課題の設定や問題解決能力、提案能力、交渉能力を身に付けている。
- ③ グローバル社会における課題を認識し、文化・言語・人間・教育に関する諸問題を理解する能力を身に付けている。

#### 【教育課程の特色】

地域及び国際社会との接点を意識した実践的な学びを取り入れ、国際的・主体的学修の促進を図り、卒業後の キャリアを主体的に構築できるようにする。

- (1) 幅広い教養と豊かな人間性を涵養する。「教養科目(桜花学)」、「基礎科目」、「エクステンション科目」からなる「共通教育科目」を設置し、幅広い教養と各領域の基礎知識の修得を目指している。
- (2) 「国際学基礎科目」としてグローバル社会を学ぶ上で基礎となる英語科目を多数配置し、英語力の強化を目指している。また、社会人としての教養を涵養する科目を配置することにより、これからの時代を生きるための基礎・汎用能力の強化を目指している。
- (3) 2年次以降に選択する4つの専攻(国際・情報、日本語教育、韓国、観光)における専門的な知識・技能を身につけて、早期段階より、将来のキャリアプランに結び付けるための実践的な教育を目指している。
- (4) メジャー(主専攻)、マイナー(副専攻)制度を採用し、4 専攻の中から自由に広く、関心のあるテーマに合わせて主体的な学び方が可能となる展開をしている。
- (5) 1 年次必修科目の海外語学実習 I (英語圏、韓国語、中国語圏)をはじめ、韓国、英国への交換留学、海外協定校(19 校)への協定留学、ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム等多様な留学プログラムを展開している。
- (6) 桜花学園大学と海外の協定大学において、2 つの学位が取得できるダブル・ディグリープログラムを採用することで、将来において海外で活動することも視野に入れた学修プログラムを展開している。

#### ○国際学部国際学科のディプロマポリシー

国際学部国際学科は、教育理念・目標に基づく教育課程を履修し、卒業に必要な単位を修得し、以下の力を身に付けた学生に「学士(国際学)」の学位を授与します。

- 1. 幅広い知識と教養を身につけ、グローバルな視点から地域・国際社会を理解する能力を身につけている。
- 2. グローバル社会における高度で実践的なコミュニケーション能力を身につけている。
- 3. 現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力 を身につけている。
- 4. 国際社会の多岐にわたる問題について批判的思考ができ、論理的で創造的な発信ができ、主体的に行動できる能力を身につけている。

#### 国際学部国際学科が目指す教師像

【中学校教諭·高等学校教諭(英語)】

- 1. 学習指導要領等を踏まえた幅広い基本的知識・理解に加え、グローバルな視点から言語及び異文化を理解している教師。
- 2. 教育専門職としての実践的な英語コミュニケーション能力を備えた教師。
- 3. 個々の幼児・児童・生徒に適した実践を自ら論理的・批判的に省察しつつ指導技術の向上に努め、グローバル化した社会に向けて論理的・創造的な発信を行うことができる教師。
- 4. 現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、他者と連携・協働しながら、教育専門職としての倫理観と、国内および国際社会に貢献にする意識を持って実践することができる豊かな人間性を兼ね備えた教師。

# ○国際学部国際学科のカリキュラムポリシー

国際学部国際学科は、地域及び国際社会との接点を意識した実践的な学びを取り入れ、国際的・主体的学修の促進を図り、卒業後のキャリアを主体的に構築できるようにするために、以下のような方針に基づいてカリキュラム(教育課程)を編成しています。

- 1. 保育学部との【共通教育科目】として、本学の建学の精神を具現化した「教養科目(桜花学)」と、「汎用的能力」「社会人基礎力」の育成を目指す科目「基礎科目」、及び特定の領域に関する学びの幅を広げる科目「エクステンション科目」を設置している。
- 2. 専門的な知識や方法論を体系的に学ぶために、以下の【専門教育科目】を設置している。
  - 1) 国際学基礎科目
  - 2) 国際・情報専攻科目
  - 3) 日本語教育専攻科目
  - 4) 韓国専攻科目
  - 5) 観光専攻科目
  - 6) 専門ゼミナール及び卒業研究
- 3. 批判的・創造的思考力や課題探求力や国際コミュニケーション能力を育成するために、研究や討論を実践的に積み上げる参加型の授業を実施する。

国際理解・地域理解(メジャー専攻:観光専攻、マイナー専攻:国際・情報専攻)履修系統図

[	国際理解	・地域理解	(メジャー専	攻:観光専	攻、マイナー	-専攻:国際	・情報専攻)	履修系統図	
料目区分1	料口区分2	1年前期  OK11L001 フライフコース論 OK11L0002 ジェンダー論 OK11L003 自分と家族 OK11L0101 芸術の世界 OK11L0103	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
**************************************	人間を知る 社会を知る	かの様素 OK111.0104 生ま方の様素 OK111.0102 文字の世界	OK12L0201 生活と経済 OK12L0202 地域社会 OK12L0203 人間と歴史 OK12L0301 里々の面容 OK12L0302						
	解然を知る()		日本の今年 のK12L0303 原物学体験 のK12L0304 グローバル社会	OK21L0401 環境の科学 OK21L0402 食と生命の科学 OK21L0403 生ま物の社会	OK22K1001 ネポーツ				
	数量・情報・情報・	OK11K1101 コンピューター1	OK12X1001 コンピューター目 OK12X1205 ボランティア (原内) OK12X1205 ボランティア (原内) OK12X1205 ボランティア (原内) OK12X1207	OK21K1101 設計学 OK21K1201 インターンシップ	OKZZK1002 スポーツョ OKZZK1101 独会調査法 OKZZK1102 値報社会論	OK31K1201 NGO - NPO論 OK31K2022 現代社会と企業			
n 也依有44日 基礎科日	数高体験	OK11K1302 ボルトガル語と文化 ! OK11K1303 スペイン語と文化 !	(新報 ) 本 の利2年12日 インターンシップ (第 約) B の利2年12日 インターンシップ (第 約) C の利2年12日 インターンシップ (第 例) D の利2年13日 が12年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の利2年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年13日 の12年	GRIAL 8 GRIXE202 インターンシップ (配件) B GRIXE203 海外英雄貨格実習		現代社会企業 OK31K1203 地域協力廣習			
	コミュニ ケーション	OK11K1304 フランス語と文化   OK11K1305 中国語と文化   OK11K1306 練習語と文化   OK11K1401 基礎演習   OK11K1401	OK12K1305 フランス語と文を II OK12K1305 世別語と文を II OK12K1306 建図語と文を II OK12K1401 基礎演習 II	OK22K1401 日本国憲法 OG21S3025	OK22K1302 中国語之文化N OK22K1303 製面語之文化N 402 海外研修A・B				
	国際学基礎	Grammar for Communication I Communication I Communication I Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control Control C	Grammar for Communication II OG1253010 English Phonestics II OG1253014 English Phonestics II OG1253024 English Phonestics II OG1253003 - 40 - 41 - 20 - 20 - 41 - 20 - 20 - 41 - 20 - 20 - 20 - 41 - 20 - 20 - 20 - 41 - 20 - 20 - 20 - 20 - 20 - 20 - 20 - 2	日本語表現 III  OG2153027  基礎ゼミナール I  OG2153811 English Presentation I  OG2153813 Communicative English I	日本語表現N OG2253028 基礎ゼミナール·II OG2253022 English Presentation3 OG2253024 Communicative English II	OG31S3037 キャリアデザイン	OG3253038 キャリアデザイン目		
\$7886II		for Communication 1 のGIIS30015・17・19 英語資格議庁A・IB・ IC のGIIS3021 観光英勝A OGIIS3029 フスティナブルな社会 OGIIS30300 日本のポビュラーカル チャー	for Communication II のG1253916 - 18 - 20 英語資格議在II A - II B - II C 0G1253922 観光英語日 0G1253931 アニメーション論	OG21S3032 時事ニュース (国 内) I OG21S3034 アメリカ文学入門	OG2253033 時事ニュース (外 間) 目 OG2253035 イギリスタ中入門 OG2253036 単しい古年実形 のG5253036 2・43・ 44周外語学実習目 (実頭面 韓国・中 関語圏)				
	観光専攻	OG1157006 競光之地理	OG1257001 親光学復論	OG2157003 観光ホスピタリティ OG5157005 観光インターンシッ プ OG2157013 係と文化 OG2157017 地域フィールドワー ク	OG22S7002 観光と文化 OG3SS7005 観光インターンシップ OG21S7007 エアーライン講座 OG22S7008 旅行度薬論 OG22S7016 観光と社会	OG3157009 宿泊度軍論 OG3157010 交通度軍論 OG3157014 観光まちづくり論	OG3257004 製売金額論 OG3257011 製光マーケティング OG3257012 製光とシーシャルメ ディア OG3257015 地域プランディング 論		
	国際・情報専攻			OG2154001 情報リテフシー I OG2154007 中国語検定対策 OG2154012 学校文化と英語学習 OG2154013 Aovanced Wiking I OG2154015 Business English	GG2254002 貴額リテラシー目 OG2254008 中国語リスニング& スピーネング GG2254011 ビジネス環境とマー ケティング OG2254014 Advanced Wiffing II	OG3154003 ITスキルの面 I OG3154005 ボータサイエンス基 遊 OG3154009中国語 リーディング&ライ ディング OG3154016 Communicative Engishii OG3154018 英雄観天・遊駅	OG3254004 ITスキル広部III OG3254006 コンテンツ制作 OG3254010 目中交流を OG3254010 Communicative English(V) OG3254019 Speech&Presentation		
	ゼミ・卒論			OG2154026Study Abroard Preparation A	OG21S4027Study Abroard Preparation B	OG3154020 British Studies OG3154021 American Studies OG3154022 Theory of English Structure OG3157018 専門ゼミナール I	OG3254024 British Literature OG3254023 American Literature OG3254025 International Relations OG3257019 専門ゼミナール II	OG4157020 専門ゼミナール旧	OG4257021 専門ゼミナールIV OG4257022
	自由科目		OG1259901 数能入門 OG1259902 教育原理 OG1259903 学習心理学	OG21S8004 通應數斯今推導法 OG21S8012 英語科教育法 I	OG2258005 生徒・返旅传導論 OG2258013 返源科教育法目	OG31S8006 特別支援基礎論 OG31S8007 教育方法 - 技術論 (ICT运用命む) OG31S8008 教育知誌 OG31S8014 英速将教育法目	OG3258009 教育首於 - 制度練 OG3258010 特別活動 - 総合約在 学習の前間の機構止 OG3258015 英雄科教育法W	OG4158016 放施实达高图   OG4158018 教育实面依據 OG4158019 教育实面   OG4158020 教育实面	李惠研定 OG4258011 教育原理論 OG4258017 教施支技美習Ⅱ

	国際理解	・地域理解	(メジャー車	厚攻:韓国専	攻 マイナー	- : 韓国専攻	、国際・情報	マスタス ファイス ファイス ファイス ファイス ファイス ファイス ファイス アイス アイス アイス アイス アイス アイス アイス アイス アイス ア	系統図
料目区分1	科目区分2	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
		OK11L001 ライフコース論							
	自分を知る	OK11L0002 ジェンダー論							
		OK11L003 自分と家族							
		OK11L0101 芸術の世界							
		OK11L0103 心の探求							
	人間を知る	OK11L0104 生ま方の探求 OK11L0102							
		文学の世界							
			OK12L0201 生 活と経済 OK12L0202						
407-98-244	社会を知る		地域社会 OK12L0203						
桜花学			人間と歴史						
	\ <u> </u>		OK12L0301 星文化理能 OK12L0302						
	世界を知る		日本の文化 OK12L0303						
			国際関係論 OK12L0304 グローバル社会と						
				OK21L0401 環境の料学					
	自然を知る			OK21L0402 食と生命の科学					
				OK21L0403 生食物の計会					
			OK12K1001		OK22K1001 スポーツ I OK22K1002				
	保御とスポーツ		スポーツ健康論		スポーツ II OK22K1101				
	数量·情報	OK11K1101	OK12K1101	OK21K1101	計会調査法 OK22K1102				
	$\vdash$	コンピューターI	コンピューター目	統計学	情報社会論				
			OK12K12O5 ポランティア (国 OK12K12O5			OK31K1201			
	社会貢献・		ポランティア (海 OK12K1201 インターンシップ	OK21K1201 インターンシップ		NGO - NPOW OK31K1202			
	撤案体験		(96%) A OK12K1202	(EDR) A OK21K1202		現代社会と企業 OK31K1203			
二进数首科目			インターンシップ (海外) B OK12K1203	インターンシップ (間内) B OK21K1203		地域協力演習			
基礎科目			インターンシップ (海外) C OK12K1204	海外英語資格実習					
			インターンシップ (海外) D						
		OK11K1302 ポルトガル語と文化	OK12K1302 ポルトガル語と文化						
	3844	OK11K1303 スペイン語と文化 I OK11K1304	OK12K1303 スペイン語と文化II OK12K1304						
	ケーション	フランス語と文化 I OK11K1305	フランス語と文化II OK12K1305	OK21K1302	OK22K1302				
	\	中国語と文化 I OK11K1306 韓国語と文化 I	中国語と文化 II OK12K1305 韓国語と文化 II	中国語と文化III OK21K1303 韓国語と文化III	中国語と文化W OK22K1303 韓国語と文化W				
					02 海外研修A·B				
	総合	OK11K1401 基礎演習 I	OK12K1401 基礎演習 II	0K22K1401 日本国憲法					
		OG11S3001 Grammar for	OG12S3002 Grammar for	OG21S3025 日本語表現III	OG22S3026 日本語表現N				
		Communication I English Phonetics	Corresponding II  English Phonetics	ロ 小朋友 外 III OG21S3027 基礎 ゼミナール I	ロ小師女児パ OG22S3028 基礎ゼミナールII				
		OG11S3023 日本語表現 I	OG12S3024 日本語表現 II	SERCE CY PFI	gaccy mi				
	国際学基礎		OG12S3039・40・41 海外語学実習 I (英						
		OG11S3003 Speaking I	OG12S3004 Speaking II	OG2153011 English Presentation I	OG2253012 English Presentation II	OG31S3037 キャリアデザイン I	OG32S3038 キャリアデザインⅡ		
		OG11S3007 Reading I	OG12S3008 Reading II	OG2153013 Communicative English	CG2253014 Communicative English				
		Writing for OG11S3015 - 17 - 19	Writing for OG12S3016 - 18 - 20	OG21S3032	OG22S3033				
		英語資格講座IA - IB · IC	英語資格講座 II A · II B · II C	的事ニュース (国 内) I	対事ニュース (外 国) II				
		OG11S3021 観光英語A	OG12S3022 親光英語B	OG21S3034 アメリカ文学入門	OG22S3035 イギリス文学入門				
		UGI1S3029 サスティナブルな社	OG12S3O31 アニメーション論		OG22S3036 楽しい古典芸能				
		OG11S3030 日本のポピュラーカ			OG53S3042・43・ 44海外延学実習 II (英語图・韓国・中				
		ルチャー		OG21S6002	(SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE) (SEE)				
BURREIL			OG12S6001 韓国語表現文法	韓国語リスニング& スピーキング	韓国語リーディング &ライティング	OG32S6012 韓国の歴史	OG3156006 韓国語映像翻訳		
		OG21S6009 韓国サプカルチャー	OG12S6008 韓国事情	OG21S6004 韓国語コミュニケー ション	OG22S6005 韓国語プレゼンテー ション		OG32S6007ビジネス 韓国語		
	韓国専攻	OG11S6019 検定韓国語初級A	OG12S6022 検定韓国語初級B	OG22S6010 韓国現代文学	OG31S6011 日韓対照言語学		OG41S6013 韓国伝統文化と思想		
		OG11S6020 検定韓国語中級A	OG12S6023 検定韓国語中級B	OG21S6014 日韓文化比較	OG22S6015 韓国自由研究				
		OG11S6021 検定韓国語上級A	OG12S6024 検定韓国語上級B	OG53S6016 韓国インターンシッ ブ	OG53S6016 韓国インターンシッ ブ				
				OG21S6017 韓国留学準備講座A	OG22S6018 韓国受学準備講座B				
				OG21S4001	OG22S4002	OG31S4003	OG32S4004		
	国際・情			情報リアラシーI	情報リテラシーII OG22S4011	ITスキル応用 I OG31S4005	ITスキル応用II OG32S4006		
	報専攻				ビジネス環境とマー ケティング	データサイエンス基 設 OG31S4016	OG32S4006 コンテンツ制作 OG32S4017		
				OG21S4013 Advanced Writing I	OG22S4014 Advanced Writing II	OG31S4016 Communicative English III	Communicative EnglishIV		
				OG21S4015 Business English			OG32S4019 Speech&Presentati		
				OG21S4026Study Abroard	OG21S4027Study Abroard	OG31S4020 British Studies	on OG32S4024 British Literature		
				Preparation A	Preparation B	OG31S4021 American Studies	OG32S4023 American Literature		
						Anne Matt Designes	OG32S4025 International		
	ゼミ・卒					OG31S7018	Relations OG32S7019	OG41S7020	OG42S7021
	論					OG31S7018 専門ゼミナール I	OG32S7019 専門ゼミナールII	OG41S7020 専門ゼミナールII	OG42S7021 専門ゼミナールIV OG42S7022
			OG12S8001	OG21S8004	OG22S8005	OG31S8006	OG3258009		卒業研究 OG42S8011
	自由科目		OG12S8001 教職入門 OG12S8002	OG21S8004 道徳教育の指導法 OG21S8012	OG22S8005 生徒 - 連路指導論 OG22S8013	特別支援基礎論 OG31S8007	教育行政·制度論 OG3258010	OG41S8016	OG42S8011 教育課程論 OG42S8017
			OG12S8002 教育原理 OG12S8003	OGZ1S8012 英語科教育法 I	OG22S8013 英語科教育法Ⅱ	教育方法・技術論 (ICT活用含む)	特別活動・総合的な 学習の時間の指導法	<b>枚職実践演習</b> I	OG4258017 教施实践演習 II
			OG12S8003 学習心理学			OG31S8008 教育相談 OG31S8014	OG32S8015	OG41S8018 教育実習指導 OG41S8019	
						英語科教育法Ⅲ	英語科教育法IV	教育実習 I OG41S8020	
								<b>伙育実習</b> II	

自由科目

ビジネスコミュニケーション (メジャー専攻:国際・情報専攻、マイナー:韓国専攻) 履修系統図

	ビジネス	スコミュニ	ニケーショ	ン (メジャ	一専攻:国際	・情報専攻、	マイナー:	韓国専攻)原	夏修系統図
料口区分1	科目区分2	1年前期 0K11L001	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
	自分会知る人	ライフコース論 OK11L0002 ジェンダー論 OK11L003							
		自分と家族 OK11L0101							
	l	芸術の世界 OK11L0103 心の探求 OK11L0104							
	人間を知る	生き方の探求 OK11L0102 文学の世界							
			OK12L0201 生活と経済 OK12L0202						
桜花学	社会参加る		地域社会 OK12L0203 人間と歴史						
	世界を知る		OK12L0301 留文化理解 OK12L0302						
			日本の文化 OK12L0303 田際間保険 OK12L0304						
			グローバル社会	OK21L0401 環境の科学 OK21L0402					
	自然を知る			OK21L0402 食と生命の科学 OK21L0403 生ま物の社会					
	製薬とスポーツ		OK12K1001		OK22K1001 2.zt='2 I OK22K1002				
		OK11K1101	スポーツ健康論 OK12K1101	OK21K1101	スポーツ目 OK22K1101 社会調査法 OK22K1102				
	改量・情報(	コンピューター	コンピューターII OK12K1205	統計学	情報社会論				
	社会貢献・		ポランティア(国内) OK12K1206 ポランティア(海外) OK12K1201	OK21K1201		OK31K1201 NGO - NPOSE OK31K1202			
外通数有标目	数案体験		インターンシップ (放射) A OK12K1202 インターンシップ (海	インターンシップ (mode) A OK21K1202 インターンシップ		現代社会と企業 OK31K1203 地域協力演習			
基礎科目			が)B OK12K1203 インターンシップ(海 外)C OK12K1204	(国内) B OK21K1203 海外英語資格実習		- CHAINTAG			
		DK11K1302	インターンシップ (海 外) D OK12K1302						
	35.2	ポルトガル語と文化   OK11K1303 スペイン語と文化   OK11K1304	ポルトガル語と文化 II OK12K1303 スペイン語と文化 II OK12K1304						
	ケーション	フランス語と文化   OK11K1305 中国語と文化   OK11K1306	フランス語と文化 II OK12K1305 中国語と文化 II OK12K1305	OK21K1302 中国語と文化 II OK21K1303	OK22K1302 中国語と文化W OK22K1303				
		韓国語と文化1	韓国語と文化目	韓国語と文化目	####≥文化Ⅳ #02 海外研修A・B				
		OK11K1401 基礎演習 I OS11S3001	OK12K1401 基礎演習 II OG12S3002	OK22K1401 日本国憲法					
		Grammar for Communication I 0G11S3009 English Phonetics I	Grammar for Communication II OG1253010 English Phonetics II	OG21S3025 日本語表現III OG21S3027 基礎ゼミナールI	OG2253026 日本語表現IV OG2253028 基礎ゼミナールII				
	国際学基	OG11S3023 日本語表現 I	OG12S3024 日本語表現 II UG12S3039・40・41 高外語学実習 I (英語						
	礎	OG11S3003 Speaking I OG11S3007	田・静田・土田林田) OG1253004 Speaking II OG1253008	OG2153881 English Presentation I	OG2253012 English Presentation II OG2253014	OG31S3037 キャリアデザイン I	OG3253038 キャリアデザインⅡ		
		Reading I OG11S3005 Writing for Communication I	Reading II OG12S3005 Writing for Communication II	Communicative English I	Communicative English II				
		OG11S3015・17・19 英語資格講座IA・IB・ IC OG11S3021	OG12S3016 - 18 - 20 英語資格講座 II A - II B · II C OG12S3022	OG21S3032 時事ニュース (国 内) I OG21S3034	OG2253033 時事ニュース (外 間) II OG2253035				
		観光英雄A OG11S3029 サスティナブルな社会	観光英語B OG1253031 アニメーション論	アメリカ文学入門	イギリス文学入門 OG22S3036 楽しい古典芸能				
		OG11S3030 日本のポピュラーカル チャー			QG53S3042 · 43 · 44海外類学実習 II (英語面·韓国·中 国語面)				
				OG21S4001	OG22S4002	OG31S4003 (Tスネル応用)	OG3254004		
	国際・情			情報リテラシー I OG21S4007 中国語検定対策 OG21S4012	情報リテラシー II OG22S4008 中間類リスニングを	OG31S4005 データサイエンス基	ITスキル応用II OG3254006 コンテンツ制作 OG3254010		
	報事攻			学校文化と英語学習 OG2154013 Advanced Wiffing 1 OG2154015	ビジネス環境とマー OG22S4014 Advanced Writing II	リーディング&ライ OG3154016 Communicative OG3154018	日中交流史 OG3254017 Communicative OG3254019		
				Business English OG21S4026Study Abroard Preparation	OG21S4027Study Abroard Preparation	英語朝訳・通訳 OG31S4020 British Studies OG31S4021	Speech&Presentatio OG3254024 British Literature OG3254023		
						American Studies OG31S4022 Theory of English Structure	American Literature OG32S4025 International Relations		
<b>第四数开标</b> 用			OG1256001 韓国語表現文法	OG21S6002 韓国語リスニング&	OG22S6003 韓国語リーディング	OG3256012 韓国の歴史	OG3156006 韓国頭映像群派		
		OG21S6009 韓国サブカルチャー	OG1256008 韓国事情	スピーキング OG21S6004 韓国語コミュニケー ション	&ライティング OG22S6005 韓国語プレゼンテー ション		OG32S6007ビジネス 韓国語		
	韓国専攻	OG1156019 検定韓国語初級A OG1156020 検定韓国語中級A	OG1256022 検定韓国語初級B OG1256023 検定韓国語中級B	0G22S6010 韓国現代文学 0G21S6014 日韓文化此較	OG3156011 日韓対阿宮語学 OG2256015 韓国自由研究		OG41S6013 韓国伝統文化と思想		
		OG11S6021 検定韓国語上級A	OG1256024 検定韓国語上級B	OG53S6016 韓国インターンシッ ブ	OG53S6016 韓国インターンシッ ブ				
				OG21S6017 韓国領学準備講座A	OG22S6018 韓国留学準備講座B				
	ゼミ・卒					OG31S7018 専門ゼミナール I	OG32S7019 専門ゼミナール II	OG41S7020 専門ゼミナールIII	OG42S7021 専門ゼミナールIV
									OG4257022 平塞研究
	自由科目		OG1258001 教職入門 OG1258002	OG21S8004 道徳教育の指導法 OG21S8012	OG22S8005 生徒·遊路指導論 OG22S8013	OG31S8006 特別支援基礎論 OG31S8007 教育方法・技術論	OG3258009 教育行政・制度論 OG3258010 特別活動・総合的な	OG41S8016	OG4258011 教育課程論 OG4258017
			教育原理 OG1258003 学習心理学	英語科教育法	英語科教育法目	(ICT活用含む) OG31S8008 教育相談	学習の時間の推導法	教職実践資習 I OG41S8018 教育実習指導	秋雄夫玖寅智Ⅱ
						OG3158014 英語科教育法目	OG3258015 英語科教育法IV	OG41S8019 教育実習 I OG41S8020 教育実習 II	

教育分野 (メジャー専攻:日本語専攻、マイナー専攻:国際・情報専攻) 履修系統図

	う野 (メジャ							. / // !!!!
料目区分1 料目区分2	1年前期  OK11L001  ライフコース論  OK11L0002  ジェンダー論  OK11L003 自分と家族	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
人間全知る	OK11L0101 芸術の世界 OK11L0103 心の提求 OK11L0104 生き方の提求 OK11L0102 文学の世界							
*************************************	XTV-F	OK12L0201 生活と経済 OK12L0202 地域社会 OK12L0203 人間と歴史						
業界を知る		OK12L0301 要文化理整 OK12L0302 日本の文化 OK12L0303 国際部係論 OK12L0304 グローバル社会	OK21L0401					
異然を知る			環境の科学 OK21L0402 食と生命の科学 OK21L0403 生ま物の社会					
後導とスポーツ	]	OK12K1001 スポーツ健康論		OK22K1001 スポーツ I OK22K1002 スポーツ I OK22K1101				
数量・循程	OK11K1101 コンピューター I	OK12K1101 コンピューター目 OK12K1205 ボランティア (販内)	0K21K1101 統計学	性等調查法 OK22K1102 情報社会論				
社会貢献・批会貢献・共会貢献・共会政策・		OK12K1205 ボランティア (海外) OK12K1201 インターンシップ (海州) A OK12K1202 インターンシップ (海	OK21K1201 インターンシップ (mash) s OK21K1202 インターンシップ		OK31K1201 NGO・NPO論 OK31K1202 現代社会と企業 OK31K1203			
基礎科目		例)B OK12K12O3 インターンシップ(海 例)C OK12K12O4 インターンシップ(海	(国内) B OK21K1203 海外英語資格実習		地域協力演習			
⊐£⊥=	OK11K1302 ボルトガル語と文化 I OK11K1303 スペイン語と文化 I OK11K1304	例) D DK12K1302 ポルトガル語と文化 II DK12K1303 スペイン語と文化 II DK12K1304						
<u>₹</u> −9·a2	フランス語と文化 I OK11K1305 中国語と文化 I OK11K1306 諸国語と文化 I	フランス語と文化目 OK12K1305 中国語と文化目 OK12K1305 韓国語と文化目	OK21K1302 中国語と文化目 OK21K1303 勝国語と文化目	OK22K1302 中国語と文化W OK22K1303 韓国語と文化W				
86 仓	OK11K1401 基礎演習 I OG11S3001 Grammar for	DK12K1401 基礎漢習 II OG1253002 Grammar for	OK22K1401 日本国憲法 OG21S3025	0G22S3026				
国際学基	Communication I OG1153009 English Phonetics I OG1153023 日本語表現 I	Communication II OG1253010 English Phonetics II OG1253024 日本語表現II OG1253039 - 40 - 41	日本語表現II OG2153027 基礎ゼミナール I	日本語表現V OG22S3028 基礎ゼミナールⅡ				
でする	OG11S3003 Speaking I OG11S3007 Reading I	海外語学実習 I (英語 画・韓田・山田 福剛) OG1253004 Speaking II OG1253008 Reading II	OG2153001 English Presentation I OG2153003 Communicative English I	OG2253002 English Presentation II OG2253004 Communicative English II	OG3153037 キャリアデザイン I	063253038 キャリアデザインⅡ		
	OG11S3005 Writing for Communication I OG11S3015 · 17 · 19 英語資格講座IA · IB · IC OG11S3021	OG12S3005 Writing for Communication II OG12S3016 - 18 - 20 英語資格講座 II A - II B · II C OG12S3022	OG2153032 時事ニュース (国 内) I OG2153034	OG2253033 時事ニュース (外 間) II OG2253035				
	観光英語A OG1153029 サスティナブルな社会 OG1153030 日本のポピュラーカル テャー	観光英語B OG1253031 アニメーション論	アメリカ文学入門	イギリス文学入門 OG2253036 楽しい古典芸能 OG5353042・43・ 44海外頭学実習 II (英語面・韓国・中				
<b>本门的用标题</b> 科主动的有事的		OG1255029 日本語標論	GG2155030 日本語教育標論   GG2155032 日英語比較	回語圈)  OG2255031  日本語教育經論目  OG2255033  日英語比較目	OG3155034 計会と言語 OG3155035 日本語教育法 I	OG3255036 日本語教育法 II	OG4155039 日本語教育演習   OG4355042 国内日本語教育イン	0G42S5040 日本語教育     日本語教育     
			OG53S5041 学校教育インターン シップ OG53S5045 日本調教育ポラン ディアA OG53S5045 日本語教育ポラン		OG3155037 實際学	OG3255038応荷吉藤 学	のG4355043 海外日本語教育イン ターンシップA OG4355044 海外日本語教育イン ターンシップB	ター・ジェルザ の日4355043 海外日本語教育イン ターンシップA 0日4355044 海外日本語教育イン ターンシップB
			ティアB OG21S4001 情報リテラシー I OG21S4007	OG22S4002 情報リテラシー目 OG22S4008 中国語リスニング&	OG3154003 ITスキル応用 I OG3154005 データサイエンス基	OS3254004 ITスキル応用II OG3254006		
国際・情報事攻	]		中国語検定対策 OG21S4012 学校文化と英語学習 OG21S4013 Advanced Writing I	スピーキング OG22S4011 ビジネス環境とマー ケティング OG22S4014 Advanced Writing II	後 OG31S4009中国語 リーディング&ライ ティング OG31S4016 Communicative	コンテング制作 OG32S4010 日中交流史 OG32S4017 Communicative		
			OG21S4015 Business English OG21S4026Study Abroard Preparation	OG21S4027Study Abroard Preparation	English III OG3154018 英雄翻訳・通訳 OG3154020 British Studies	English IV OG3254019 Speech & Presentation OG3254024 British Literature		
				В	OG3154021 American Studies OG3154022 Theory of English	OG32S4023 American Literature OG32S4025 International		
ぜミ・卒論					Structure OG31S7018 専門ゼミナール I	Relations OG32S7019 専門ゼミナールII	OG4157020 専門ゼミナール川	OG4257021 専門ゼミナールIV OG4257022 卒業研究
自由科目		0 G1258001 数据入門 0 G1258002 教育原理	OG2158004 道徳教育の指導法 OG2158012 英語科教育法 I	OG2258005 生徒 - 道路推導論 OG2258013 英語科教育法 II	OG3158006 特別支援基礎論 OG3158007 教育方法 - 技術論 (ICT活用含む)	OG3258009 教育行政・制定論 OG3258010 特別活動・総合的な 学習の時間の推導法	OG4158016 敷職実践賞習 I	0G4258011 教育課程論 0G4258017 教職実践裏習目
		OG12S8003 学習心理学			OG31S8008 教育相談 OG31S8014 英語科教育法目	→直の時间の無導法 OG3258015 英語料教育法Ⅳ	OG41S8018 教育実習指導 OG41S8019 教育実習 I OG41S8020 教育実習 I	
							ARXUN	

科目区分1	教育分野(メジャ NHB区分2 1年前期 OKIIL001 2-1/2-1-ス論 OKIIL0002 ジェンダー論	一専攻:日z 1年後期	本語専攻、マ 2年前期	イナー専攻 2年後期	3年前期	履修系統図 3年後期	4年前期	4年後期
	OKI11.003   自分と事故   OKI11.0101   主称の世界   OKI11.0104   本ま方の探求   OKI11.0104   本ま方の保文   OKI11.0102   文字の世界	OK12L0201 生						
桜花学	社会を知る	添と経済 OK12L0202 地 域社会 OK12L0203 人 間と歴史 OK12L0301 要文化接続 OK12L0302 日本の文化						
	自然を知る	OK12L0303 国際関係監論 OK12L0304 グローバル21会と	OK21L0401 環境の対章 OK21L0402 食と生命の科学 OK21L0403 を生命の科学					
	成型: A を - フ	OK12K1001 スポーツ健康論 OK12K1101 コンピューター目	OK2IK1101 統計学	OK22K1001 スポーツ I OK22K1002 スポーツ II OK22K1101 社会調査法 OK22K1102 値報社会論				
实通教育科目 基礎科目	社会資献· 概要存録	のドIZK1205 ポランティア (国 のドIZK1206 ポランティア (国 のドIZK1201 インターンシップ (WAS) A のドIZK1202 インターンシップ (WAS) B のドIZK1203 インターンシップ (WAS) C のドIZK1204 インターンシップ (WAS) C のドIZK1204 インターンシップ (WAS) D のドIZK1204 インターンシップ (WAS) D	OK21K1201 インターンシップ (内域) (内域) (内域) (内域) (内域) (内域) (内域) (内域)		OK31K1201 NGO - NPOIB OK31K1202 现代社会と企業 OK31K1203 地域協力演習			
	OKIKI302 ポルトルル語と文化 (ボルトルル語と文化 (ボルトルル語と文化 ) スペイン語と文化   OKIKI306 サーション   OKIKI306 地図語と文化   OKIKI306 地図語と文化   OKIKI306	OK12K1302 ポルトガル語と文化 OK12K1303 スペイン語と文化目 OK12K1304 フランス語と文化目 OK12K1305 中国語と文化目 OK12K1305 ・ 中国語と文化目 OK12K1306	OK21K1302 中国語と文化目 OK21K1303 韓国語と文化目 OK21K1401 - OK21K1	OK22K1302 中国語と文化W OK22K1303 韓国語と文化W 402 海外研修A・B				
	総合  OKIIX1801 基礎漢習    OKIIX3001 Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for  Grammar for	OK12K1401 基礎演習 II UG12K3002 Grammar for OCT2K30161 III English Phonetics OG12K3024 日本語表現 II UG12K3039 - 40 - 41	OK22X1401 日本国憲法 OG21S3025 日本語表現Ⅲ OG21S3027 基礎ゼミナール I	OG22S3026 日本語表現V OG22S3028 被硬ゼミナール目				
	型 OG1153003 Speaking I OG1153007 Reading I OG1153007 Reading I OG155005 17 19 PAIR READ TO TO TO TO TO TO TO TO TO TO TO TO TO	海外語字東景 I (美 課題 - 總四 - 中国語 OG1253004 Speaking II OG1253008 Reading II OG1253006 Frommunication - OG1253006 - 18 - 20 英語資格講座 II A - II B - II C OG1253022 初光東語图	OG2153011 English Presentation I U02758013 Ceremunicative English ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	002233012 English Presentation II 10222-3014 Communicative English a 10622253033 時事ニュース (外 図) II 0022253055 イギリス文学入門 OG22253036	キャリアデザイン	OG32S3008 キャリアデザインⅡ		
<b>在广东市</b> 科·经	(0115300 日本のポピュラーカ ・ドラー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	アニメーション論 OG1255029 日本基構論	0G2155030 日本語使相隔油 1のG2155032 日本語比較1 0G535045 日本語教育インターン シープ・フィアA 0G335046 日本語教育インタース・アイアA 0G335046	家して高東市的 の63535842 - 43 - 44 所名第7本間 日 (高期間・韓国・中 田延衛) 「002255631 日本語歌報酬」 「002256031 日本語歌報酬」 日本語歌報酬	OG3155034 対金と高級 OG3155035 日半級教育法 I OG3155037 賞部子	OG1255036 日丰福教育注目 OG1255038 北南官届中	OG4155039 日本語報簿書所 OG4355043 日の日本報報イン OG435043 サル日本報報イン ターンシップA DG435044 港が日本報報イン ターンシップB	のG4255040 日本語等書寄り 日本語等書寄り 内日本語教者イン 50455052 第内日本語教者イン 2ーンシップA 0645004 海外日本語教者イン 2ーンシップA
	の2715609 報用サブルカチッ 特別等文 が実施の計画 ま実施の計画 が支援機関・場合 の315600 東支援機関・場合 の315600 東支援機関・場合	OG1256001 網面高東東文法 OG1256008 網兩市 OG1256022 東達開面初級 OG1256022 快速網開新一級 OG1256024 快定轉開斯上級的	クイア日  OG2156002 韓田區リスニングを スピーキング のG156004 韓田區 コミュニケーション のG256004 韓田區 コミュニケーション 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	OG2256003 韓国国リーザィング OG2256005 韓国国プレゼンテー ション OG3156011 日間分割百百子 OG2556016 韓国の由来を OG2556016 朝国の中で大きた。 OG2556018 朝国中学奏機構造目	OG3256012 諸国の歴史	OG3156006 倒国国際金額駅 OG3256007ビジネス 倒国国 OG4156013 個国民総式を上間間		
	ゼミ・卒				OG31S7018 専門ゼミナール I	OG32S7019 専門ゼミナールII	OG41S7020 専門ゼミナールIII	OG42S7021 専門ゼミナールIV OG42S7022 卒業研究
	自由科目	OG1258001 穀職入門 OG1258002 教育原理 OG1258003 学習心理学	OG21S8004 道德教育の指導法 OG21S8012 英語科教育法 I	OG2258005 生徒·連路指導論 OG2258013 英語科教育注目	OG31S8006 特別支援基礎論 OG31S8007 教育方法:技術論 (OG31S9008 教育相談 OG31S8014 英斯科教育法則	OG32S8009 教育行政・制定論 OG32S9010 特別活動・総合的な 学習の時間の指導法 OG32S8015 英語科教育法(V	OG41S8016 板施末线流管 I OG41S8018 被育末管前導 OG41S8019 校育末管 I OG41S8020 校育末管 II	OG42S8011 依有国程論 OG42S8017 校额实践演習 II

## 履修モデル1 国際理解・地域理解(メジャー専攻:観光専攻、マイナー専攻:国際・情報専攻)

修学分野と想定される准路

新規					2	年			34	年			4	年			単
### A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT A CAT	後期	1	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	1 1	位計
### 2000 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	活と経済		2	環境の科学	2	スポーツ I											25
### 3 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピュータ   1 コンピ	文化理解		2	韓国語と文化Ⅲ	1	情報社会論	2									1	
A	国語と文化Ⅱ		1			韓国語と文化IV	1									1	
接続談音   1   接続談音   1   に	ンピュータⅡ		1													1	
Manual Angle	礎演習Ⅱ		1													1	
Manual																1	
변경 변경 변경 변경 변경 변경 변경 변경 변경 변경 변경 변경 변경 변										社会調査法	2					T	2
Comparison   1   1   1   1   1   1   1   1   1					Ī											1	
Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page																1	
Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page   Page									T							1	
本語表現   1 日本語表現   1 日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日	mmar for Communication II	n II	1	日本語表現Ⅲ	1	日本語表現IV	1									T	1
Bar	glish Phonetics II	II .	2	基礎ゼミナールI	1	基礎ゼミナールⅡ	1		1						l	1	
日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本語   日本	本語表現Ⅱ		1		Ħ		T		1						T	1	
Speaking   1   Speaking   1   Speaking   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1   English Presentation   1		語	4						t							1	
議議 選先英語A 1 製光英語B 1 [Commicative English I	eaking II		1	English Presentation I	1	English Presentation	1	キャリアデザインI	2	キャリアデザインⅡ	2					T	
### ### #############################		-	-		1	Communicative English	1		t							1	
日本の末ビュラー 2   東レト古典芸能 2   東レト古典芸能 2   東レト古典芸能 2   東レト古典芸能 2   東ルティナルル社会 2   「「「「「「「「」」」」」			1	1 時事ニュース (国内) I	2	時事ニュース(外国)Ⅱ	2									1	
The state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of t	munication H				F	<b>+</b>	+-	<b>+</b>	+						H	1	
Advanced Writing I 2   Communicative English   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration   Registration					<u> </u>	XUV DAAR	-		+							1	
Business English 2		+						Advanced Writing I	2	Advanced Writing II	2	Communicative English	1	Communicative English	1		
### 2									+		-	Ⅲ 情報リテラシー I	2	IV 情報リテラシーⅡ	2	┨ .	
世								Business Engiish	-	ティング	-		┢		-	1	
1		+			H				╁			1	_			1	
世表面教育等収表       選択       選択       選択       選択       選別       選別 <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>H</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>+</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>Ε.</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td>					H				+				Ε.			1	
選		+			H		-		╁			, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	2		-	╁	
#		+			-		H		+						H	1	
#		+			H				╁							1	
選択     根状と地理     2 観光学概論     2 察と文化     2 観光と文化     2 交通産業論     2 観光政策論     2 観光とサイン・アイメディ 2 観光をサーン・アイメディ 2 観光マールドワーク 2 複光マールドワーク 2 複光でランディング 2 地域フィールドワーク 2 地域フランディング 2 地域フランディング論     2 観光マール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 2 業研究									╁							1	
選     専 択       観光と地理     2 観光学概論     2 祭と文化     2 観光と文化     2 交通産業論     2 観光政策論     2 観光とサーンキルメディ 2 観光とサーンキルメディ 2 標式マールドワーク     2 観光とサーンキルメディ 2 地域フィールドワーク     2 観光とサーンキルメディ 2 地域フォールドワーク     2 観光マークティング 2 地域フランディング論     2 世域フランディング論     2 世域フランディング論     2 世域フランディング論     2 東門ゼミナール II 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 申別 II 1 専門ゼミナール III 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別 II 1 申別					H				+-							╁	
専攻     銀       観光と地理     2 観光学概論     2 軽大文化     2 交通産業論     2 観光政策論       選光 まなだりりでは、アイトリークを業研究     2 観光まあづくり論     2 観光まあづくり論     2 観光とシーシャルメディ ファインボールドワーク     2 観光マールドワーク     2 観光マールドワーク     2 観光マークティング     2 観光マークティング     2 世域ファールドワーク     2 地域ファールドワーク     2 地域ファールドワーク     2 地域ファール III 専門ゼミナールIII 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール III 1 専門ゼミナール		+			-				+							1	
<ul> <li>観光と地理 2 観光学概論 2 祭と文化 2 観光と文化 2 交通産業論 2 観光政策論 2 観光政策論 2 観光エスピタリ ティ 駅が行産業論 2 観光まちづくり論 2 配光とツーシャルメディ 2 電力産業論 2 観光マールドワーク 2 地域フィールドワーク 2 で 右泊産業論 2 観光マークティング 2 地域フランディング論 2 専門ゼミナールII 1 専門ゼミナールII 1 専門ゼミナールII 1 専門ゼミナールII 1 専門ゼミナール II 1 専門ゼミナール II 1 専門ゼミナール II 1 専門ゼミナール II 中門ゼミナール II 1 専門ゼミナール II 中門ゼミナール II 中間ゼミナール II 中間ゼミナール II 中間ゼミナール II 中間ゼミナール II 中間ゼミナール II 中間 中間ゼミナール II 中間ゼミナール II 中間ゼミナール II 中間ゼミナール II 中間ゼミナール II 中間ゼミナール II 中間ゼミナール II 中間ゼミナール II 中間ゼミナール II 中間ゼミナール II 中間ゼミナール II 中間ゼミナール II 中間ゼミナール II 中間ゼミナール II 中間 II 中間ゼミナール II 中間ゼミナール II 中間 II 中間ゼミナール II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間 II 中間</li></ul>					-				-							1	
観光     選光ホスピタリ 2 旅行産業論     2 観光まちづくり論 2 観光をワーシャルメディ 2 現光をワーシャルメディ 2 現光で力ティング 2 現光で力ティング 2 理解でファディング 2 理解でファディング 2 理解でファディング 2 理解でファディング 2 理解でファディング 2 理解でファディング 2 理解でファディング 2 理解でファディング 2 理解でファディング 2 理解でファディング 2 理解でファディング 2 理解でファディング 2 理解でファディング 2 理解でファディング 2 理解でファディング 2 理解でファディング 3 理解でファディング 4 要解で 2 単元の 3 理解でファディング 3 理解でファール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 1 専門ゼミナール 2 本業研究					-											1	
<ul> <li>観光選</li> <li>「農光ホスピタリ」 2 旅行産業論</li> <li>2 観光まちづくり論</li> <li>2 観光マーケティング</li> <li>2 観光マーケティング</li> <li>2 観光マーケティング</li> <li>2 観光マーケティング</li> <li>2 地域フォールドワーク</li> <li>2 地域フォールドワーク</li> <li>2 地域フランディング論</li> <li>2 世景で、中央では、中央では、中央では、中央では、中央では、中央では、中央では、中央で</li></ul>	不宗祖於	-	9	然しかル	9	MI V. 1 II.	9	水涌产类於	9	细业业等於	9				-	-	
プイ     ライ     2 M(1) (重素)	儿子吼冊		2				+-		+-		_					┨ .	
攻     エアライン講座     2     地域プランディング論     2       ゼミ・選番     専門ゼミナールII     1 専門ゼミナールII     1 専門ゼミナールII     1 専門ゼミナールII       本     水		-	-	ティ	-	加1] 生来調	2		-	ア	-				-	1	
ゼ *** *** *** *** *** *** *** *** *** *					-		-	伯伯生来调			_				-	1	
達         中本           水         中本				エナノイン神座	_			専用ゼンナー0.1	1		1	東田共24、4.11	1	専用おうよ 4.87	1	╁	
· 世 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					-		-	専門セミノール 1	1	専門ゼミナールⅡ	1	専門セミノール皿	1	1	1	1	
									-					<b>平果研究</b>	4	-	
							-		-						-	-	
					⊬	-	Ͱ		+		_	-		<del>                                     </del>	Ͱ	+	
		-			-		1		1						1	4	

# 履修モデル2 国際理解・地域理解(メジャー専攻:韓国専攻、マイナー専攻:韓国専攻、国際・情報専攻)

修学分野と想定される進路 **・毎・日曜的か年動を行う多国籍企業。貿易、製造、物流、公務員(国家・地方)

公分	F		1 #	年	Ж		2:	.!	Ж		34	1	ш			年	Ж	七古
_	4	前期	位	後期	位	前期	単位		位	前期	単位	後期	単位		単位		単位	
	- 1	ジェンダー論	2	地域社会	2	食と生命の科学	2		1	現代社会と企業	2			生き方の探求	2	日本の文化	2	2
	H	文学の世界	2		1	韓国語と文化Ⅲ	1		2						1		1	1
	14	韓国語と文化I	1		1			韓国語と文化IV	1		L				1		1	4
	16:	コンピュータ I	1		1													
	2	基礎演習 I	1	基礎演習Ⅱ	1										<u> </u>		<u> </u>	
	L															社会調査法	2	2
	選																	
	択																	
	G:	Grammar for Communication I	1	Grammar for Communication II	1	日本語表現Ⅲ	1	日本語表現IV	1						Ī		Ī	1
	ıĽ, E	English Phonetics I	2	English Phonetics II	2	基礎ゼミナール I	1	基礎ゼミナールⅡ	1						T		T	1
	修	日本語表現 I	1	日本語表現Ⅱ	1				T						t		t	1
国	H		l	海外語学実習I(韓国	4										t		t	l
際学	S	Speaking I	1	部) Speaking II	1	English Presentation I	1	English Presentation	1	キャリアデザインI	2	キャリアデザインⅡ	2		t	アニメーション論	2	2
基	- 1	サスティナブルな社会	2	Writing for	1	Communicative English	1	II Communicative English	1	時事ニュース(国内) I	2		2		-	, , , , a a a min	-	1 -
礎	選业	Writing for	1	Communication II	1	I	1	П	1	英語資格講座IA	1	英語資格講座 II A	1		+		+	1
	択C	Communication I	1		+		-		H	央前頁恰講座 I A	1		2		-		-	1
	H		-		╁				-			楽しい古典芸能	2		╁		╁	-
rout	4		_		+				₩	Communicative English	<u> </u>	Communicative English			-		-	<u> </u>
国際	L		L							III	1	IV	1	情報リテラシーI	2	情報リテラシーⅡ	2	۱ ا
情	選																	1
報専	択																	
攻																		
日本																		(
語	選																	
日本語教育專攻	択																	
學攻																		1
	₽	韓国事情	2	韓国語表現文法	2	韓国語リスニング&ス ビーキング	2	韓国語リーディング&ラ イティング	2	韓国留学準備講座A	2	海外語学実習Ⅱ(韓国	4	韓国語映像翻訳	2	韓国伝統文化と思想	2	4
	ŧ	検定韓国語初級A	1	検定韓国語初級B	1	韓国語コミュニケーショ	2	韓国語プレゼンテーショ	2	韓国インターンシップ	2	ビジネス韓国語	2	韓国の歴史	2		t	1
韓国	泽			韓国サブカルチャー	2	韓国現代文学	2	日韓対照言語学	2	検定韓国語上級A	1	検定韓国語上級B	1		t		t	1
専	択				t	日韓文化比較	2	1	2						t		t	1
攻	H		H		╁	検定韓国語中級A	1	検定韓国語中級B	1						t		t	1
	H				+	DATE ITEMS I WAS	-	灰龙种画面「版	Ė						-		-	1
	+		-		+				H						-		-	t
	H		-		╁		-		┢		H				+		+	┨ `
観	選_		-		╁		_		H						+		+	-
光	_		-		-										┡		┡	1
光専			_		4										-		-	<u> </u>
観光専攻	4				1					専門ゼミナールI	1	専門ゼミナールⅡ	1	専門ゼミナールⅢ	1	専門ゼミナールIV	1	
光専攻									L						L	卒業研究	4	1
光専攻 ゼミ	選				$\bot$												1	1
光専攻 ゼミ・卒	選択																	_
光専攻 ゼミ・卒	選択																	
光専攻 ゼミ・卒論	選択																	-
光専攻	選択																	-

## 履修モデル3 ビジネスコミュニケーション (メジャー専攻:韓国専攻、マイナー専攻:観光専攻)

修学分野と想定される進路 業種:観光産業、ホテル、旅行業、運輸、通信 職種:営業、市場調査・開発、管理部門

		: 召来、□場調宜・		年			2	年			34	F			4	年		里	頭
区分	7	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位		単位	位計	要件
		自分と家族	2	人間と歴史	_	生き物の社会	2		1	地域協力演習	2		134	現代社会と企業	-	日本の文化	2		_
		心の探求	2	韓国語と文化Ⅱ	1	スペイン語と文化I	1	社会調査法	2						Ī				
	单	、韓国語と文化 I	1	コンピュータⅡ	1			スペイン語と文化Ⅱ	1										
共活	偱	ンピュータ I	1	基礎演習Ⅱ	1										Ī				
通教		基礎演習I	1												l		l	-	4
育			İ								1								1
科目	F		T												T	情報社会論	2	2	_
Н	讀	£	T		1										t		T		
	Ð	7	t		l						1				l		T		
					l										t		T	-	
T	t	Grammar for Communication I	1	Grammar for Communication II	1	日本語表現Ⅲ	1	日本語表現IV	1						H		H	16	t
	l.	English Phonetics I	2	English Phonetics II	2	基礎ゼミナール I	1	基礎ゼミナールⅡ	1		-		_		H		┢	1 "	
	化	日本語表現I	1	日本語表現Ⅱ	1	assec C / /· I	1	assect, / /- ii	1		1		_		┢		H		j
国際	1	口本而衣先1	1	海外語学実習 I (韓国	4										H		-	1	1
際 学	-	c 1: 1	1	語)	1	P. I. I. D Y	1	English Presentation	1	キャリアデザイン I	2	キャリアデザインⅡ	2		+-	アニメーション論	2	24	+
基	-	Speaking I	+	Speaking II		English Presentation I Communicative English	1	II Communicative English	1		+		_		╁	ノーメーション論		- 24	
礎	追	観光英語A	1	観光英語B	1	I	1	п	1	時事ニュース(国内) I 日本のポピュラーカル	2	時事ニュース (外国) Ⅱ	2		-		-	-	
	抄	Reading I	1	Reading II	1					チャー	2				-		-		
		サスティナブルな社会	2								<u> </u>				1		┞-	-	
-	$\downarrow$		<u> </u>												<u> </u>		<u> </u>		4
際					ļ										<u> </u>			0	
情	建	<u> </u>																	
情報專	17	<i>c</i>	L		L										L		L		
攻																			
事 本	.																	0	
明 語 粉	19	8																	
事明教育科	. 折	₹																	
3		韓国事情	2		2	韓国語リスニング&ス ビーキング	2	韓国語リーディング&ラ イティング	2	韓国の歴史	2	ビジネス韓国語	2	検定韓国語上級A	1	検定韓国語上級B	1	30	7
韓				韓国サブカル チャー	2	韓国語コミュニケーショ ン	2	韓国語プレゼンテーショ ン	2	検定韓国語中級A	1	韓国伝統文化と思想	2						
国	: 1	£				日韓文化比較	2	検定韓国語初級B	1			検定韓国語中級B	1						
専	护	7				検定韓国語初級A	1												
攻	1		T			韓国インターンシップ	2								İ		Ī		
			l		l	WELLY VV									t		t		
	T	観光と地理	2			地域フィールドワーク	2	観光学概論	2	祭と文化	2			宿泊産業論	2	観光マーケアイン	2	20	
観光	. Æ	<u> </u>	l		t	XE48(2.4 76 1:2 2	٢			観光ホスピタリティ	2	観光と文化	2		l	地域プランディング論	2		1
光専	Į.	5	t		H						t	別とこ人に			t	観光とソーシャルメディ	2		7
攻	:		l								1				H	7	Ė		1
ゼ	$^{+}$	1	t		H					専門ゼミナールI	1	専門ゼミナールⅡ	1	専門ゼミナールⅢ	1	専門ゼミナールIV	1	8	$\dagger$
3	· va	a	H		H					3175 7 7 1	1	母門とミナール11	-	3,11C < / / / PM	Ť	卒業研究	4	1 "	
	廷山	7	┢		H		$\vdash$		$\vdash$		┢		-	1	H	1 75 91 76	+	1	
卒論	ì	-	1		+						$\vdash$				1		-	1	
	+	+	┢		Ͱ		$\vdash$		$\vdash$		┢		_	-	╁		$\vdash$	_	+
自中		_	┢		Ͱ		-		-		┢		_	-	╁		╁	0	
由科	追材	£	1		┡		_		_		<u> </u>		_	<del> </del>	╀		┞	-	
目	J.	`	1		┡						-				╀		┡	-	
	$\perp$	1	1		1						<u> </u>			ļ	1		1	<u> </u>	4
信台			20		20		18		15		16		12	1	6		18	125	i

#### 履修モデル4 ビジネスコミュニケーション (メジャー専攻:国際・情報、マイナー専攻:韓国専攻)

修学分野と想定される進路 業種:観光産業、ホテル、旅行業、運輸、通信 職種・営業 古提調本・開発 管理知門

職	植	:営業、市場調査・	- 開	発、管理部門 年		Г	24	F		Г	34	F		1	/	年	_	平	Τ.
区5	÷	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単	前期	単位	後期	単	位計	要件
	Т	ライフコース論	195	生活と経済			155	スポーツⅡ	位 1	H-1399	位	グローバル社会と宗教	位2		位 1		位 1		_
		-	+-		-	<b>採現の件子</b>	2		_			グローハル社会と宗教	2	-	-		1	25	
		生き方の探求	-	国際関係論	2			情報社会論	2					NPO・NGO論	2		Щ		
共	业	韓国語と文化 I	-	韓国語と文化 II	1												Ш		
通	113	コンピュータ I	1		1								L		L		Ш	ĺ	
教		基礎演習 I	1	基礎演習Ⅱ	1													ı	2 1
育																		İ	ſ
科目	Г															統計学	2	2	1
н	迢	è																	
	扒	1	H		H										T		H	İ	
																	H		
	╁	Grammar for Communication I	1	Grammar for Communication II	1	日本語表現Ⅲ	1	日本語表現IV	1				-		┢		H	16	+
			-		-		1		_				-		┝		Н	10	
	业	English Phonetics I	2	English Phonetics II	2	基礎ゼミナール I	1	基礎ゼミナールⅡ	1						L		Ш		1
1	113	日本語表現I	1	日本語表現Ⅱ	1												Ш	ı	1
際	ŧ L			海外語学実習 I (韓国 語)	4													L.	
学	:	Speaking I	1	Speaking II	1	English Presentation I	1	English Presentation II	1	キャリアデザイン I	2	キャリアデザインⅡ	2	時事ニュース (国内) I	2	時事ニュース (外国) Ⅱ	2	24	
基礎		Reading I	1	Reading II	1	Communicative English I	1	Communicative English	1					アメリカ文学入門	2			İ	
102	運択	Writing for	1	Writing for Communication II	1										l		П	İ	1
	15	Communication I 日本のポピュラーカル	2	Communication H											H		H		1
		チャー	F												<u> </u>		H	İ	
$\vdash$	╁	サスティナブルな社会	2		-	lefe +n st		lete en al a	_	rma backers	_	rm - h a de III w	Η.		┢		H	-00	+
国際			-		-	情報リテラシーI	2	情報リテラシーⅡ	_	ITスキル応用 I	_	ITスキル応用Ⅱ Communicative English	1		┡		Н	30	
	199	è				中国語検定対策	2	中国語リスニング&スピーキング	2	Communicative EnglishIII	1	IV	1		_		Ш		
情報	拆					Advanced Writing I	2	レースック ビジネス環境とマーケ ティング	2	中国語リーディング&ラ イティング	2	日中交流史	2				Ш		
専攻						Business English	2	Advanced Writing II	2	British Studies	2	International Relations	2					İ	177
										American Studies	2								
F 1	T																П	0	1
1 本							Т		_				Н		t		H	İ	1
早月女 資斗	択						-						-		1		H	İ	
于月女 資斗日日本語教育専攻			-		-		-		-		-		-		H		H	İ	]
l V	+		-		-		-	韓国サブカル	-	韓国毎リスニング&ス		韓国毎リーディング&ラ	-		H	1	Н	-	
		韓国事情	2	韓国語表現文法	2			チャー	2	韓国語リスニング&ス ピーキング		韓国語リーディング&ラ イティング	2	韓国語映像翻訳	2	韓国伝統文化と思想	2	20	
韓	ì									日韓文化比較	2			韓国の歴史	2		Ш		
国専	運	è								韓国語コミュニケーショ ン	2								
専攻	. 折	3																İ	3
-	1																П		1
																		İ	ı
-	t		H		H										H		H	0	٦,
観			-		-		_						-		H		H	ľ	1
光専			H		H		-		-				-		┢		H		
攻		`					_		_				-		┞		Н	İ	
<u> </u>	4		_		_		_								L		Ш	L	4
せ			L		L		L		L	専門ゼミナールI	1	専門ゼミナールⅡ	1	専門ゼミナールⅢ	1	専門ゼミナールIV	1	8	1
"/ .		<u> </u>	L		L		L		L				L		L	卒業研究	4	1	Ι,
卒		3															7	i	1
論			Ĺ		Ĺ										Ī		П	i	ı
自	t		H		H		Н		Н		Н		Н	1	T	1	H	0	†
由由	襘		H		H		H		-				H	1	H	1	$\forall$	ľ	ı
科	選択		┝		┝		-		-				⊢	1	H	1	H	i	1
目	Ĺ		1		1								<u> </u>	<del> </del>	1	<del> </del>	Н	i	ı
			L		L		<u> </u>		<u> </u>		Щ		L		L		Ш	⊢	4
情介			20		20		14		17		17		13	1	12		12	125	,

## 履修モデル5 教育分野(メジャー専攻:日本語教育専攻、マイナー専攻:国際・情報専攻)

修学分野と想定される進路 業種:教育、通訳・翻訳、学校職員 職種:公的な学校制度における教職や私的な教育機関における教育職あるいは大学院への進学

区分		. 公的な子仪制及に	1:	年		育機関における教	2:	年	* (0)	) 压子		年				年	_	甲	1
凸刀		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位		1
		ジェンダー論	2	グローバル社会と宗教	2	食と生命の科学	2	スポーツ I	1	地域協力演習	2	スポーツ健康論	2			地域社会	2	23	
		芸術の世界	2	スペイン語と文化 Ⅱ	1			情報社会論	2										
	必	スペイン語と文化	1	コンピュータⅡ	1														
共 通	修	コンピュータI	1	基礎演習Ⅱ	1													1	
教		基礎演習 I	1														T	1	
育			İ		İ				ı								t	1	
科			T		T			日本国憲法	2							日本の文化	2	4	7
目	) GE		H		H			日本国際区	$\top$						H		+	1	
	火火		-		-				+								+	1	
			H		H				+						H		╁	ł	
		C C. C V	1		1	口卡新字母Ⅲ	1	口卡班字理取	-								┿	10	-
		Grammar for Communication I	1	Grammar for Communication II	1	日本語表現Ⅲ	1	日本語表現IV	- 1						-		╄	16	
	必	English Phonetics I	2	English Phonetics II	2	基礎ゼミナールI	1	基礎ゼミナールⅡ	1								+	l	
围	115	日本語表現 I	1	日本語表現Ⅱ	1												Ļ		
際				海外語学実習 I (中国語圏)	4												<u></u>		
学		Speaking I	1	Speaking II	1	English Presentation I	1	English Presentation II	1	英語資格講座IB	1	英語資格講座ⅡB	1					24	
基礎	\aa	Writing for CommunicationI	1	Writing for Communication II	1	Communicative English I	1	Communicative English	1										
	選択	Reading I	1	Reading II	1	アメリカ文学入門	2	イギリス文学入門	2									1	
	<i>D</i> <	日本のポピュラーカル チャー	2	英語資格講座ⅡA	1		2		1 2										
		英語資格講座IA	1		l	77 (817)		7 VIB/									T	1	
		人加莫伯醉注 1.1	H		H	情報リテラシー I	2	情報リテラシーⅡ	2	Communicative English	1	British	2				†	22	_
国際			-		-	Advanced Writing I	2	Advanced Writing II	2	III Theory of English	2	Literature Communicative English	1				+	1 -	
	選		H		H	学校文化と英語学	2	Advanced wifting in	-	Structure	2	IV	2		H		╁	ł	
情報專	択		-		-	32	4		-	British Studies	-	American Literature	2				╀	1	
專攻			-		-				+	American Studies	2				-		╄		
į.	_		_		_				_						_		₩		4
本		多文化社会論	2	日本語概論	2	日本語教育概論 I	2	日本語教育概論Ⅱ	2	日本語教育法 I	2	日本語教育法Ⅱ	2		-	日本語教育演習Ⅱ	2	30	
日本語教育專攻	選					日本語教育ボランティア B	4			日英語比較 I	2	日英語比較Ⅱ	2	国内日本語教育インター ンシップ	2	応用言語学	2		
育	択													言語学	2				
攻																		1	
																		0	
															l		T	1	
韓国	柒		T		T												T	i	
専	択		H		H				+						H		+	1	
攻			-		-				-								╁	1	
									+						H		╁	ł	
<u> </u>			-		-				+								+	<u> </u>	_
観									_								╄	0	
光	選																퇶	,	
専攻	扻																		
_																			
ゼ										専門ゼミナール I	1	専門ゼミナールⅡ	1	専門ゼミナールⅢ	1	専門ゼミナールIV	1	8	
<i>'''</i> .	選															卒業研究	4	1	
卒	択		Ī		Ī												T	1	
論			t		t				+		H				H		t	1	
<u> </u>	H		┢	教育原理	2	道徳教育の指導法	2	生徒・進路指導論	2	特別支援基礎論	1	教育行政・制度論	2	教職実践演習 I	1	教育課程論	2	36	-
			┢		-		⊢		-		2	教 月 1   収 ・ 削 及 調   特別活動・総合的な学習	⊢		F		1	36	
51 ‡	選切		1	教職入門	2	英語科教育法 I	2	英語科教育法 Ⅱ	2	教育方法・技術論(ICT活 用含む)	+	の時間の指導法	2		1	教職実践演習Ⅱ	+1	-	
斗 =	170		<u> </u>	学習心理学	2				-	教育相談	2	英語科教育法 IV	2	教育実習 I	4		4	1	
										英語科教育法Ⅲ	2						L		_
計			19	1	25	Ī	26	Ī	23		22	Ī	19		13	s	16	16	3

## 履修モデル6 教育分野(メジャー専攻:日本語教育専攻、マイナー専攻:韓国専攻)

修学分野と想定される進路 業種:教育、通訳・翻訳、学校職員 職種:公的な学校制度における教職や私的な教育機関における教育職あるいは大学院への進学

区分		: 公的な学校制度に	14	年			24	丰	W		34	i	144			年	T H4	単位計	要件
	<u> </u>	前期	位	後期	単位	前期	単位	後期	位	前期	単位	後期	単位	前期	単位		単位		+
		自分と家族	2	グローバル社会と宗教 フランス語と文化	2	生き物の社会	2	スポーツⅡ	1	NPO・NGO論	2	スポーツ健康論	2		1	人間と歴史	2	23	
		文学の世界 フランス語と文化	2	П	1			社会調査法	2						-		-		
共	必	L	1	コンピュータⅡ	1										-		-		
通	115	コンピュータI	1	基礎演習Ⅱ	1												1		0.0
教育		基礎演習 I	1		L										L				1
科	L																	<u> </u>	単位
目					L										L	日本の文化	2	4	
	選															日本国憲法	2		
	扒		ļ														ļ		
																			1
		Grammar for Communication I	1	Grammar for Communication II	1	日本語表現Ⅲ	1	日本語表現IV	1									16	
	必	English Phonetics I	2	English Phonetics II	2	基礎ゼミナール I	1	基礎ゼミナールⅡ	1										16 ìì
-	修	日本語表現 I	1	日本語表現Ⅱ	1														单位
国際				海外語学実習 I (中国語 圏)	4														
学		Speaking I	1	Speaking II	1	English Presentation I	1	English Presentation II	1	英語資格講座IA	1	英語資格講座ⅡA	1					24	
基礎	100	Writing for CommunicationI	1	Writing for Communication II	1	時事ニュース(国内) I	2	時事ニュース(外国)Ⅱ	2										2
	選択	Reading I	1	Reading II	1	Communicative English I	1	Communicative English	1										单位
		日本のポピュラーカルチー	2			アメリカ文学入門	2	イギリス文学入門	2										13
		サスティナブルな社会	2																
E						学校文化と英語学習	2			Communicative English	1	British Literature	2					12	T
際・										British Studies	2	Communicative English	1						
情報	選切				Ī					American Studies	2	American Literature	2				Ī		7
專															l		İ		5 + 1
攻					T										T		t		
月日	T	多文化社会論	2	日本語概論	2	日本語教育概論 I	2	日本語教育概論Ⅱ	2	日本語教育法 I	2	日本語教育法Ⅱ	2	日本語教育演習I	2	日本語教育演習Ⅱ	2	30	Į.
明 本語	266	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	ļ -			日英語比較 I	2	日英語比較Ⅱ	2	言語学	2	応用言語学	2		l		l		3
<b>教育科</b>	択					日本語教育ボランティア	4		Ē	社会と言語	2	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	Ē		H		H		(
日本語教育専攻						В				LACHE					H		t		<b></b> 位
] 攻	t	韓国事情	2	韓国サブカルチャー	2	検定韓国語初級A	1	韓国語表現文法	2	於中語田和由鄉	1	検定韓国語中級B	1	韓国の歴史	2	韓国伝統文化と思想	2	20	
		***  →	2	#B/> // / (	-	日韓文化比較	2	検定韓国語初級B	1	検定韓国語中級A	1	大元平四 田 「	-	検定韓国語上級A	1	検定韓国語上級B	1	20	~
韓国	\aa		<u> </u>			日報人間和報	2	日韓対照言語学	0					灰龙种画加工版的	1	1天元平四加工版	1		1
専	进択							日神八宗日和子	4								-		7
攻			-												-		-		
			<u> </u>												-		<u> </u>		P
-	╁		-		H										-		-	_	早 写 2
観			-		┢										-		-	0	肖
光専					-										-				位
攻		`	-												-		-		
-	1				<u> </u>														4
ゼミ			_		<u> </u>		_			専門ゼミナールI	1	専門ゼミナールⅡ	1	専門ゼミナールⅢ	1	専門ゼミナールIV	1	8	
	Tan Tan														L	卒業研究	4		单
卒論	170				L										L				佢
開	1		L														L	<u> </u>	4
自			L	教育原理	2	道徳教育の指導法	-	生徒・進路指導論	2	特別支援基礎論	1	教育行政・制度論	2	教職実践演習 I	1	教育課程論	2	36	ı
由	選		L	教職入門	2	英語科教育法 I	2	英語科教育法 Ⅱ	2	教育方法・技術論(ICT活 用含む)	2	特別活動・総合的な学習 の時間の指導法	2	教育実習指導	1	教職実践演習Ⅱ	1	İ	-
科	択			学習心理学	2					教育相談	2	英語科教育法 IV	2	教育実習 I	4				
目	$\perp$						L			英語科教育法Ⅲ	2							L	
什			22		26		27		24		23		20		12		19	173	, T

#### 免許状・資格等の取得(国際学部国際学科) (2024年度入学生)

中学校教諭1種免許状(英語)及び高等学校教諭1種免許状(英語)の取得

本学で教育職員免許の中学校教諭1種免許状及び高等学校教諭1種免許状の取得をする場合、学士の学位を取得し、以下の指定する共通教育科目、国際学部国際学科の専門科目及び自由科目を履修しなければなりません。

#### 1. 基礎資格

学士の学位を有すること。

2. 教育職員免許法施行規則に定める科目

£l.	F	区	$\triangle$	授業科目名	単	位	備考
17	P		23	汉未行日石	必	選	"VH ∕¬¬
日本国憲法				日本国憲法	2		
				スポーツ健康論		2	2単位以上選択必修
体育				スポーツ I		1	
				スポーツⅡ		1	
外国語コミュニケ	7-3/71			English Presentation I	1		
/下国 m = (ユー)	/ / 1/			English Presentation II	1		
粉理 デーク	タ活用及び人工知能に	関する利日マは信却料	終男の撮作	コンピュータ I	1		
数柱、ノーン	7. 旧州及6. 八工和能に	氏 9 3 1 1 A 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	ではなくり大丁ト	コンピュータⅡ	1		

2 数利及び数利の投資法に関する利用

科	及び教科の指導法に関する科目 目 区	分	授 業	科	目	名	単必修	位 選択	備考
		英語学	English English Theory o 応用言詞	Phonet f Englis	tics II		2 2	2 2	
		英語文学	イギリン アメリン America British	ス文学入 フ文学入 n Lite1	門 rature		2	2 2	
教科	教科に関する専門的事項	英語コミュ	Speakin Speakin	g I g II		h I	1 1		
及び教 が が り が は に る		ニケーション	Communi Communi Communi	ative H	English	III	1		中免は「教科及び教科の指導法に関する科目」の選択科目のうち、4単 位以上を修得
科目		異文化理解	多文化社	上会論		1 11	2	2	
		共入门之所	British					2	
			英語科	效育法 I			2		
	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。	)	英語科	枚育法Ⅱ	[		2		
			英語科教	汝育法Ⅲ	I		2		
			英語科	效育法IV	7		2		

#### 4. 教育の基礎的理解に関する科目等

	7 基礎的理解に関する付日寺				
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2		
教育	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門	2		
的理解	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政・制度論	2		
に関す	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	学習心理学	2		
る科目	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援基礎論	1		
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2		
道徳、総合的	道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法	2		「道徳教育の指導法」は中免取得の 場合のみ必修
な学習 の時間 等の指	総合的な学習(探究) の時間の指導法	特別活動・総合的な学習 の時間の指導法	2		
導法及	特別活動の指導法	の時间の指导法			
び生徒指導、	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術論(ICT活用含む)	2		
教育相 談等に 関する	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒・進路指導論	2		
科目	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)	教育相談	2		
dat -las-l		教育実習指導	1		
教育集	習	教育実習I		4	中免は教育実習Ⅰ、高免は教育実習
		教育実習Ⅱ 教職実践演習Ⅰ (中・高)	1	2	ⅠまたはⅡを履修
教職美	践演習	教職実践演習Ⅱ (中・高)	1		
		学校教育インターンシップ	1	2	「大学が独自に設定する科目」の選
		学校文化と英語学習		2	択科目又は最低修得単位を超えて履 修した「教科及び教科の指導法に関
大学が	独自に設定する科目				する科目」又は「教育の基礎的理解 に関する科目等」について、中学校 教諭1種免許は4単位以上、高等学校 教諭1種免許は12単位以上を併せて
					修得

- 5. 必要な総単位:中免・高免ともに必修単位を含め59単位以上。
- 6. 中学校教諭1種免許状の授与を受けようとする者は、小中免許特例法の定めるところにより「介護等の体験」を行わなければならない。

# 日本語教員養成課程修了証明書の取得

本学で日本語教員養成課程修了証明書を取得する場合、以下の指定する共通教育科目、国際学部国際学科の専門科目を履修しなければなりま せん。

	極業利 日夕		単位	/ <b>#</b> <del>*</del>
	授業科目名	必修	選択	備考
科教共	異文化理解		2	
目育通	日本の文化		2	
	多文化社会論	2		
	日本語概論	2		
	日本語教育概論 I	2		
	日本語教育概論Ⅱ	2		
	日英語比較 I		2	
	日英語比較Ⅱ		2	
専	社会と言語	2		
門	日本語教育法 I	2		
教	日本語教育法Ⅱ	2		
育	言語学		2	
科	応用言語学		2	
目	日本語教育演習 I	2		
	日本語教育演習Ⅱ	2		国内日本語教育インターシンツノ」、「海外日本  語教育インターンシップA」、「海外日本語教育イ
	学校教育インターンシップ		2	ンターンシップB」のうち、いずれか1科目を選択必
	国内日本語教育インターンシップ		2	修
	海外日本語教育インターンシップA		2	
	海外日本語教育インターンシップB		4	「日本語教育ボランティアA」、「日本語教育ボラ
	日本語教育ボランティアA		2	ンティアB」のうち、いずれか1科目を選択必修
	日本語教育ボランティアB		4	* / 1 / D3 * / J( + ) 400 141   C (S)((2) )

# 国際学部国際学科 教育課程表 (共通教育科目)

										配当	学年			
Image: section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the section of the	区分	授業科目名	科目ナンバー	必修	英免	日免	14	年	24	年	34	年	4:	年
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
		ライフコース論	OK11L0001				2	04774		04,74		0 47774		
		ジェンダー論	0K11L0002	2			2							
		自分と家庭	OK11L0003				2							
		芸術の世界	OK11L0101				2							
		文学の世界	OK11L0102	2			2							
		心の探求	OK11L0103	4			2							
	教	生き方の探求	OK11L0104				2							
	養	生活と経済	OK12L0201					2						
	科	地域社会	OK12L0202	2				2						
	I	人間と歴史	OK12L0203			^		2						
		異文化理解	0K12L0301			$\triangle$		2 2						<u> </u>
		日本の文化 国際関係論	0K12L0302	2		Δ		2						
		国际関係調   グローバル社会と宗教	OK12L0303 OK12L0304					2						-
		環境の科学	0K12L0304 0K21L0401						2					-
		食と生命の科学	0K21L0401 0K21L0402	2					2				<del> </del>	
		生き物の社会	0K21L0402						2					<u> </u>
		スポーツ健康論	OK12K1001		Δ			2						
		スポーツI	OK22K1001	1	$\triangle$					1				
		スポーツⅡ	OK22K1002		$\triangle$					1				
		統計学	OK21K1101							2				
		社会調査法	OK22K1101							2				
		情報社会論	OK22K1102	1						2				
		コンピュータI	OK11K1101		0		1							
		コンピュータⅡ	OK12K1101		0			1						
++-		NGO · NPO論	OK31K1201								2			
共 通		現代社会と企業	OK31K1202								2			
教		地域協力演習	OK31K1203								2	_		<u> </u>
育		インターンシップ (国内) A	0K21K1201						1	1	1	1	1	1
科		インターンシップ(国内)B	0K21K1202	1			1	-1	2	2	2	2	2	2
Ï		インターンシップ(海外) A* インターンシップ(海外) B*	OK12K1201 OK12K1202	1			1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$	1 2	1 2	1 2	2	2
		インターンシップ(海外)C*	0K12K1202 0K12K1203					3	3	3	3	3	3	3
		インターンシップ(海外)D*	0K12K1203 0K12K1204					4	4	4	4	4	4	4
		ボランティア(国内)	OK12K1204					1	1	1	1	1	1	1
	基	ボランティア(海外)	OK12K1206					2	2	2	2	2	2	2
	礎	海外英語資格実習	OK21K1203						2	2	2	2	2	2
	科	ポルトガル語と文化 I	OK11K1302				1						ΙĪ	T
	目	ポルトガル語と文化Ⅱ	OK12K1302					1						
		スペイン語と文化 I	OK11K1303				1							
		スペイン語と文化Ⅱ	OK12K1303					1						
		フランス語と文化 I	OK11K1304				1							
		フランス語と文化Ⅱ	OK12K1304					1						<u> </u>
		中国語と文化I	OK11K1305	2			1							<u> </u>
		中国語と文化Ⅱ	0K12K1305					1	-					—
		中国語と文化Ⅲ	0K21K1302						1	-			-	<del> </del>
		中国語と文化Ⅳ	0K22K1302				1			1		-	-	├
		韓国語と文化 I 韓国語と文化 II	OK11K1306 OK12K1306				1	1						<u> </u>
		韓国語と文化Ⅲ 韓国語と文化Ⅲ	0K12K1306 0K21K1303					1	1			<b> </b>	-	$\vdash$
		韓国語と文化III   韓国語と文化IV	0K22K1303		$\vdash$				1	1			<del>                                     </del>	$\vdash$
		日本国憲法	0K22K1303 0K22K1401		0					2				
		海外研修A	0K22K1401 0K21K1401		$\vdash$				2	2	2	2	2	2
		海外研修B	0K21K1402						4	4	4	$\frac{2}{4}$	4	4
		基礎演習I	OK11K1401	1			1			-				
		基礎演習Ⅱ	OK12K1401	1				1						
		エクステンション科目	OK00K2001											

エクステンション科目については別に定める。

^{*}インターンシップ(海外)として取得できる単位は卒業までに4単位を上限とする。

## 国際学科国際学科 教育課程表(基礎科目)

	<u> </u>	語必修(6)+日本語表現 I ~IV(4)、基	礎ゼミナール I・I(2)、そ   	での他(24)+注 必修		学実習 I :許	(4)単	位=40			<u>%修とする</u> 3当・単位			
Cate	gories	The Original Course Titles	科目ナンバー	Degree	英免	日免	1st Yr Spring	1st Yr Fall	2nd Yr Spring	2nd Yr Fall	3rd Yr Spring	3rd Yr Fall	4th Yr Spring	4th Yr Fall
	0	Grammar for Communication I	0G11S3001	0			1							
		Grammar for Communication II	0G12S3002	0				1						
		Speaking I	0G11S3003		0		1							
		Speaking II	0G12S3004		0			1						
		Writing for Communication I	0G11S3005				1							
	_	Writing for Communication II	0G12S3006					1						
	E n	Reading I	0G11S3007				1							
	g	Reading II	0G12S3008					1						
	i	English Phonetics I	0G11S3009	0	0		2							
	s h	English Phonetics II	0G12S3010	0	0			2						
	S	English Presentation I	0G21S3011		0				1					
	k i	English Presentation II	0G22S3012		0					1				
		Communicative English I	0G21S3013		0				1					
	l S	Communicative English II	0G22S3014		0					1				
		英語資格講座 IA	0G11S3015				1							
		英語資格講座 IIA	0G12S3016					1						
		英語資格講座 IB	0G11S3017				1							
		英語資格講座 IIB	0G12S3018					1						
玉		英語資格講座 IC	0G11S3019				1							
n#v		英語資格講座 IIC	0G12S3020					1						
際		観光英語A	0G11S3021				1							
学		観光英語B	0G12S3022					1						
		日本語表現Ⅰ	0G11S3023	0			1							
基		日本語表現Ⅱ	0G12S3024	0				1						
		日本語表現Ⅲ	0G21S3025	0					1					
礎		日本語表現Ⅳ	0G22S3026	0						1				
		基礎ゼミナールⅠ	0G21S3027	0					1					
	В	基礎ゼミナールⅡ	0G22S3028	0						1				
	a s	サスティナブルな社会	0G11S3029	1			2				1			
	i c	日本のポピュラーカルチャー	0G11S3030	-			2							
	S	アニメーション論	0G12S3031	1				2			-			
	0	時事ニュース(国内) [	0G21S3032	-					2	_	-			
	c i	時事ニュース(外国)Ⅱ	0G22S3033	1					_	2				
	a 	アメリカ文学入門	0G21S3034	1	0				2	0	1			
	S	イギリス文学入門	0G22S3035		0					2				
	k	楽しい古典芸能	0G22S3036	1						2	_			
		キャリアデザイン【	0G31S3037	-							2	0		
	l s	キャリアデザインⅡ	0G32S3038	1				Λ			1	2		
		海外語学実習【(英語圏)	0G12S3039	$\perp$				4			1			
		海外語学実習【(韓国語)	0G12S3040	0							1			
		海外語学実習(中国語圏)	0G12S3041	-				4		4				
		海外語学実習 II (英語圏)	0G53S3042	4						4				
		海外語学実習Ⅱ(韓国語) 	0G53S3043	4						4	1			
		海外語学実習 Ⅱ(中国語圏)	0G53S3044							4				1

# 国際学部国際学科 教育課程表(専門科目)

メジャー専攻30単位+マイナー専攻20単位+専門ゼミ4単位+卒業研究4単位=58 単位取得を卒業要件とする

Category	777	-専攻30単位+マイナー専攻20単 The Original Course Titles	科目ナンバー						<del>で平。</del> 2·後				4.後	メジャー 要件
	Ι	情報リテラシー I (合同)	0G21S4001					2						
	C T	 情報リテラシー II	0G22S4002						2					
	&	  Tスキル応用 I	0G31S4003							1				
	М	 ITスキル応用 Ⅱ	0G32S4004								1			
	e d	 データーサイエンス基礎	0G31S4005							2				
G I	i a	コンテンツ制作(集中)	0G32S4006								2			
0		中国語検定対策	0G21S4007					2						İ
a		中国語リスニング&スピーキング	0G22S4008						2					
ı		中国語リーディング&ライティング	0G31S4009							2				
S t		日中交流史	0G32S4010								2			
u	G	ビジネス環境とマーケティング	0G22S4011						2					
d i	<u> </u>	学校文化と英語学習	0G21S4012	Δ				2						
e s	b a	Advanced Writing I	0G21S4013					2						
	Ĩ	Advanced Writing II	0G22S4014						2					30
&	U n	Business English	0G21S4015					2						
C	d e	Communicative English III	0G31S4016	0						1				
Ť	r s	Communicative English IV	0G32S4017	0							1			
М	t a	英語翻訳·通訳	0G31S4018							2				
a i	n d	Speech & Presentation	0G32S4019								1			
0	i n	British Studies	0G31S4020	Δ						2				
ľ	g	American Studies	0G31S4021	Δ						2				
		Theory of English Structure	0G31S4022	Δ						2				
		American Literature	0G32S4023	Δ							2			
		British Literature	0G32S4024	Δ							2			
		International Relations	0G32S4025								2			
		Study Abroard Preparation A	0G21S4026					1						
		Study Abroard Preparation B	0G21S4027						1					
		多文化社会論	0G11S5028	0	0	2								
	J a	日本語概論	0G12S5029		0		2							
J	р	日本語教育概論 I	0G21S5030		0			2						
a p	a n	日本語教育概論Ⅱ	0G22S5031		0				2					
a	e Gs	日英語比較 I (合同)	0G21S5032		Δ			2						
n e	ее	日英語比較Ⅱ(合同)	0G22S5033		Δ				2					
s e	n e E	社会と言語	0G31S5034		0					2				
_	r d a u	日本語教育法 [	0G31S5035		0					2				
E d	l c a	日本語教育法Ⅱ	0G32S5036		0						2			
u c	ţ	言語学	0G31S5037		Δ					2				3
a	i O	応用言語学	0G32S5038	Δ	Δ						2			
i i	n	日本語教育演習Ⅰ	0G41S5039		0							2		
o n		日本語教育演習Ⅱ	0G42S5040		0								2	
	E	学校教育インターンシップ	0G53S5041	Δ	Δ			2						Î
M a	d J C u a	国内日本語教育インターンシップ	0G43S5042		Δ							2	2	
j o	a c p r a a	海外日本語教育インターンシップA	0G43S5043		Δ							2	2	
r	e t n e i e	海外日本語教育インターンシップB	0G43S5044		Δ							4	4	
	r o s n e	日本語教育ボランティアA	0G53S5045		Δ			2						
	:	日本語教育ボランティアB	0G53S5046		Δ			4						1

-		r	韓国語表現文法	0G12S6001				2		ĺ					
専		e	<u></u> 韓国語リスニング&スピーキング	0G21S6002					2						
-1		n	韓国語リーディング&ライティング	0G22S6003						2					
門		L	韓国語コミュニケーション	0G21S6004					2						
		a n	韓国語プレゼンテーション	0G22S6005						2					
		g u	韓国語映像翻訳	0G31S6006								2			
		a	ビジネス韓国語	0G32S6007								2			
		K o	韓国事情(合同)オンライン	0G12S6008				2							ľ
	K	r	韓国サブカルチャー(合同)	0G21S6009			2								
	0	e a	韓国現代文学(合同)	0G22S6010					2						
	r e	n	日韓対照言語学	0G31S6011						2					
	a n	C u	韓国の歴史	0G32S6012							2				30
	М	Ĭ t	韓国伝統文化と思想	0G41S6013								2			30
	a	u	日韓文化比較	0G21S6014					2						
	0	r e	韓国自由研究	0G22S6015						2					
	r	К	韓国インターンシップ	0G53S6016					2	2					
		0	韓国留学準備講座A	0G21S6017					2						
		r e	韓国留学準備講座B	0G22S6018						2					
		a n	検定韓国語初級A	0G11S6019			1								
		:	検定韓国語中級A	0G11S6020			1								
		C a	検定韓国語上級A	0G11S6021			1								
		r e	検定韓国語初級B	0G12S6022				1							
		e	検定韓国語中級B	0G12S6023				1							
		'	検定韓国語上級B	0G12S6024				1							
		g T	観光学概論	0G12S7001				2							
		e u	観光と文化	0G22S7002						2					
		e i	観光ホスピタリティ	0G21S7003					2						
		a m	観光政策論	0G32S7004								2			
	Т	1 ::	観光インターンシップ	0G53S7005					2	2					
	0		観光と地理	0G11S7006			2								
	u r	B T u o	エアライン講座	0G21S7007						2					
	i s	s u	旅行産業論	0G22S7008						2					
	m	ır ni	宿泊産業論	0G31S7009							2				30
	М	e s s m	交通産業論	0G31S7010							2				
	a j	s :	観光マーケティング	0G32S7011								2			
	o r		観光とソーシャルメディア	0G32S7012								2			
		P C I o	祭と文化	0G21S7013					2						
		a m	観光まちづくり論	0G31S7014							2				
		n y m n y u	地域ブランディング論	0G32S7015								2			
		i n n i	観光と社会	0G22S7016						2					
L		g t	地域フィールドワーク	0G21S7017					2						
	G S		専門ゼミナール [	0G31S7018	0						1				
	GS Rre eam sd:		専門ゼミナール Ⅱ	0G32S7019	0							1			
	e u n a a a		専門ゼミナールⅢ	0G41S7020	0								1		8
	c i r h o e		専門ゼミナールⅣ	0G42S7021	0									1	
	n ^Q		卒業研究	0G42S7022	0									4	

国際学部国際学科 教育課程表(教職科目)

		<del> </del>	除字部国除字科 教育課	エタズノイ	<b>火机以1十</b>	<del>口</del> /								
Cate	gory	The Original Course Titles	科目ナンバー	必修	英免	日免	1·前	1.後	2·前	2.後	3·前	3.後	4·前	4·後
		教職入門	0G12S8001		0			2						
_		教育原理	0G12S8002		0			2						
E n	Е	学習心理学	0G12S8003		0			2						
g	Gd	道徳教育の指導法	0G21S8004		0				2					
l i	e u n c	生徒·進路指導論	0G22S8005		0					2				
S	e a	特別支援基礎論(集中)	0G31S8006		0						1			
h	r t a i	教育方法·技術論(ICT活用含む)	0G31S8007		0						2			
т		教育相談	0G31S8008		0						2			
ė	n	教育行政·制度論	0G32S8009		0							2		
a		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	0G32S8010		0							2		
h		教育課程論	0G42S8011		0									2
е		英語科教育法Ⅰ	0G21S8012		0				2					
r	Е	英語科教育法Ⅱ	0G22S8013		0					2				
Ļ	d E	英語科教育法Ⅲ	0G31S8014		0						2			
l C	u n c g	英語科教育法IV	0G32S8015		0							2		
ė	a Ī	教職実践演習Ⅰ	0G41S8016		0								1	
n	t ı i s	教職実践演習Ⅱ	0G42S8017		0									1
e		教育実習指導	0G41S8018		0								1	
	n	教育実習I	0G41S8019		0								4	
		教育実習Ⅱ	0G41S8020										2	

国際学部 国際学科 共通教育カリキュラムマップ ◎=深い関連がある、○=関連がある

国际	字部	国際字科 共通教育ガリキュラ					
					DPに基つ。 	く学修指標 	
区	分	授業科目名	科目ナンバー	DP1. 高い教養に資する 知識・理解	DP2. 課題発見・分析・解決・ 発信等の汎用的技能	DP3. 価値観・態度・志向 性	DP4. 統合的な学習経験と 創造的思考力
		ライフコース論	0K11L0001	©		0	
	-	ジェンダー論	0K11L0002	©		0	
		 自分と家族	0K11L0003	<u> </u>		0	
	-	芸術の世界	0K11L0101	<u> </u>		0	
		文学の世界	0K11L0101			0	
	-	・	0K11L0102			0	
	-		-			0	
	<del>≱/</del> r	生き方の探求	0K11L0104	<u> </u>		0	
	教養	生活と経済	0K12L0201				
	養科	地域社会	0K12L0202	<u> </u>		0	
	目	人間と歴史	0K12L0203	<u> </u>		0	
	-	異文化理解	0K12L0301	<u> </u>		0	
		日本の文化	OK12L0302	©		0	
		国際関係論	OK12L0303	©		0	
	Ļ	グローバル社会と宗教	OK12L0304	<u> </u>		0	
		環境の科学	0K21L0401	<u></u>		0	
		食と生命の科学	0K21L0402	<u> </u>		0	
		生き物の社会	0K21L0403	0		0	
		スポーツ健康論	OK12K1001	0		0	
		スポーツ I	0K22K1001	0		0	
		スポーツⅡ	OK22K1002	$\circ$			
		統計学	OK21K1101	0	0		
		社会調査法	OK22K1101		0	0	
		情報社会論	OK22K1102		0	0	
		コンピュータ I	OK11K1101	0	0		
		コンピュータⅡ	OK12K1101	0	0		
		NGO・NPO論	OK31K1201	0	0		
共		現代社会と企業	OK31K1202	0		0	
通		地域協力演習	OK31K1203		©	0	
教育		インターンシップ(国内)A	OK21K1201		0	©	
科		インターンシップ(国内)B	OK21K1202		0	©	
目		インターンシップ(海外)A	OK12K12O1		0	©	
		インターンシップ(海外)B	OK12K12O2		0	©	
	-	インターンシップ(海外)C	OK12K12O3			©	0
	ŀ	インターンシップ (海外) D	0K12K1204			0	0
	-	ボランティア(国内)	OK12K1205		0	©	
	基	ボランティア(海外)	0K12K1206		0	©	
	礎	海外英語資格実習	0K21K1203		0	©	
	科 目	ポルトガル語と文化 I	0K21K1203	$\circ$	©		
		ポルトガル語と文化Ⅱ	0K11K1302	0	0		
	<b> </b>	スペイン語と文化I	0K12K1302	0	0		
	<b> </b>	スペイン語と文化Ⅱ	0K11K1303	0	©		
		フランス語と文化 I	0K12K1303	0	<u> </u>		
		フランス語と文化Ⅱ	0K11K1304 0K12K1304	0	©		
	-	ー ウランス語と文化 I 中国語と文化 I	0K12K1304 0K11K1305	0	© ©		
		- 中国語と文化 I 中国語と文化 II	0K11K1305 0K12K1305	0	© ©		
			0K12K1305 0K21K1302	0	©		
		中国語と文化Ⅲ	<b>+</b>	0	© ©		
		中国語と文化IV 韓国語と文化 I	0K22K1302	0	© ©		
			0K11K1306		© ©		
		韓国語と文化Ⅱ	0K12K1306	0			
		韓国語と文化Ⅲ	0K21K1303	0	0		
		韓国語と文化Ⅳ	0K22K1303	0	0		
		日本国憲法	0K22K1401	<u></u>	0		
		海外研修A	0K21K1401		0	0	
		海外研修B	0K21K1402			©	0
		基礎演習 I	OK11K1401		0		0
		基礎演習Ⅱ	OK12K1401		0		0
		エクステンション科目	OKOOK2001				

国際学部 国際学科 カリキュラムマップ ○=深い関連がある ○=関連がある

国際学	部	国際学科 カリキュラムマップ ◎=	=深い関連があ	る、○=関連 <u>が</u>	ある		
区公	— 分	授業科目名	科目ナンバー	DP1. グローバルな視点 から地域・国際社 会を理解する能力		される情報リテラ	わたる問題につい て批判的思考がで
		Common for Commonication I	001102001				
		Grammar for Communication I	0G11S3001	0	© ©		
		Grammar for Communication II	0G12S3002	0	_		
		Speaking I	0G11S3003		© ©		0
		Speaking II	0G12S3004		0		0
		Writing for Communication I	0G11S3005		_		0
		Writing for Communication II	0G12S3006		0		0
		Reading I	0G11S3007		0		0
		Reading II	0G12S3008		0		0
		English Phonetics I	0G11S3009		0		0
		English Phonetics II	0G12S3010		0		0
		English Presentation I	0G21S3011		0		0
		English Presentation II	0G22S3012		0		0
		Communicative English I	0G21S3013		0		0
		Communicative English II	0G22S3014		0		0
		英語資格講座 IA	0G11S3015	0	0		
		英語資格講座 IIA	0G12S3016	0	0		
		英語資格講座 IB	0G11S3017	0	0		
		英語資格講座 IIB	0G12S3018	0	0		
		英語資格講座 IC	0G11S3019		0		0
専		英語資格講座 IIC	0G12S3020		0		0
門	国際	観光英語A	0G11S3021		0	0	
教	学	観光英語B	0G12S3022		0	0	
育科	基	日本語表現 I	0G11S3023	<u> </u>		0	
目	礎	日本語表現Ⅱ	0G12S3024	<u></u>		0	
н		日本語表現Ⅲ	0G21S3025	0		0	
		日本語表現IV	0G22S3026	0		0	_
		基礎ゼミナール I	0G21S3027		0		0
		基礎ゼミナールⅡ	0G22S3028		0	_	0
		サスティナブルな社会	0G11S3029	0		0	0
		日本のポップカルチャー	0G11S3030	0			0
		アニメーション論	0G12S3031	0		0	
		時事ニュース(国内) I	0G21S3032	0		0	
		時事ニュース(外国)Ⅱ	0G22S3033	0		0	
		アメリカ文学入門	0G21S3034	0			0
		イギリス文学入門	0G22S3035	O			<u> </u>
		楽しい古典芸能	0G22S3036	0			0
		キャリアデザイン I	0G31S3037			0	0
		キャリアデザインⅡ	0G32S3038			0	0
		海外語学実習 I (英語圏)	0G12S3039	0	0		
		海外語学実習 I (韓国語)	0G12S3040	0	0		
		海外語学実習 I (中国語圏)	0G12S3041	0	0		
		海外語学実習Ⅱ (英語圏)	0G53S3042		0	0	0
		海外語学実習Ⅱ(韓国語)	0G53S3043		0	0	0
		海外語学実習 Ⅱ (中国語圏)	0G53S3044		0	0	0

		は 田 リニニン・・・	000104001		T T		
		情報リテラシーI	0G21S4001	0		0	
		情報リテラシーⅡ	0G22S4002	0		0	
		ITスキル応用 I	0G31S4003	0		0	
		ITスキル応用Ⅱ	0G32S4004	0		©	
		データーサイエンス基礎	0G31S4005			0	0
		コンテンツ制作(集中)	0G32S4006			0	0
		中国語検定対策	0G21S4007		0	0	
		中国語リスニング&スピーキング	0G22S4008		0	0	
		中国語リーディング&ライティング	0G31S4009		0		0
		日中交流史	0G32S4010	0		0	_
		ビジネス環境とマーケティング	0G22S4011	0		Ô	0
	国	学校文化と英語学習	0G21S4012		0	Ü	<u></u>
	際	Advanced Writing I	0G21S4013		0	0	0
	情	Advanced Writing II	0G22S4014		0	0	0
	報	Business English	0G21S4015		0	0	
	専	Communicative English III	0G21S4015 0G31S4016	0	•		0
	攻	Communicative English IV	0G31S4010 0G32S4017			0	0
		英語翻訳·通訳	0G31S4017 0G31S4018	0	0	0	<u> </u>
			+	0	0		
		Speech & Presentation	0G32S4019		0		0
		British Studies	0G31S4020	0			0
		American Studies	0G31S4021	0			<u></u>
		Theory of English Structure	0G31S4022	<u> </u>			0
		American Literature	0G32S4023	<u> </u>			0
		British Literature	0G32S4024	<u> </u>			0
		International Relations	0G32S4025	0	0		0
		Study Abroard Preparation A	0G21S4026		0	0	0
		Study Abroard Preparation B	0G21S4027		0	0	0
		多文化社会論	0G11S5028	0	0		
		日本語概論	0G12S5029	0			0
		日本語教育概論 I	0G21S5030	0			0
		日本語教育概論Ⅱ	0G22S5031	0			0
		日英語比較 I	0G21S5032		0		0
専		日英語比較Ⅱ	0G22S5033	0	0		0
門	п	社会と言語	0G31S5034	0			0
教	日 本	日本語教育法 I	0G31S5035	0			0
育	語	日本語教育法Ⅱ	0G32S5036	0			0
科	教	言語学	0G31S5037	©			0
目	育	応用言語学	0G32S5038		0		©
	専	日本語教育演習 I	0G41S5039	0	_		©
	攻	日本語教育演習Ⅱ	0G42S5040	0			0
		学校教育インターンシップ	0G53S5041		0	0	<u></u>
		国内日本語教育インターンシップ	0G43S5042			0	<u></u>
		海外日本語教育インターンシップA	0G43S5043			0	©
		海外日本語教育インターンシップB	0G43S5044			0	0
		日本語教育ボランティアA	0G53S5045	0		0	0
		日本語教育ボランティアB	0G53S5046			0	<u> </u>
		韓国語表現文法	0G53S5046 0G12S6001	0	©	$\cup$	$\odot$
		韓国語リスニング&スピーキング	0G12S6001 0G21S6002	0			
		韓国語リーディング&ライティング		0	© ©		
			0G22S6003	<u> </u>		0	
		韓国語コミュニケーション	0G21S6004		0	0	
		韓国語プレゼンテーション  韓国語加格納記	0G22S6005		© ©	_	
		韓国語映像翻訳	0G31S6006	0		0	
		ビジネス韓国語	0G32S6007		©	0	
		韓国事情	0G12S6008	<u> </u>		0	
		韓国サブカルチャー	0G21S6009	<u> </u>		0	
		韓国現代文学(合同)	0G22S6010	<u> </u>			0
	韓	日韓対照言語学	0G31S6011	0	0		0
	国	韓国の歴史	0G32S6012	<u> </u>			0
	専攻	韓国伝統文化と思想	0G41S6013	<u> </u>			0
	7	日韓文化比較	0G21S6014	<u> </u>			0
		韓国自由研究	0G22S6015	<u> </u>			0
		韓国インターンシップ	0G53S6016	0		0	0
		韓国留学準備講座A	0G21S6017		0	0	0
		韓国留学準備講座B	0G22S6018		0	0	0
		検定韓国語初級A	0G11S6019	0			0
		検定韓国語中級A	0G11S6020	0			0
		検定韓国語上級A	0G11S6021		0	0	0
		検定韓国語初級B	0G12S6022	0			0
		検定韓国語中級B	0G12S6023	0			0
		検定韓国語上級B	0G12S6024		0	0	0
		•	-				

				-			
		観光学概論	0G12S7001	0		0	0
		観光と文化	0G22S7002	0			0
		観光ホスピタリティ	0G21S7003	0		0	0
		観光政策論	0G32S7004			0	0
		観光インターンシップ	0G53S7005	0		0	0
		観光と地理	0G11S7006	0		0	
	4453	エアライン講座	0G21S7007			0	0
	観	旅行産業論	0G22S7008	0			0
専	光専	宿泊産業論	0G31S7009	0			0
門	攻	交通産業論	0G31S7010	0			0
教		観光マーケティング	0G32S7011			0	0
育		観光とソーシャルメディア	0G32S7012			0	0
科		祭と文化	0G21S7013	0			0
目		観光まちづくり論	0G31S7014	0		0	0
		地域ブランディング論	0G32S7015	0		0	0
		観光と社会	0G22S7016	0			0
		地域フィールドワーク	0G21S7017	0		0	0
	ゼ	専門ゼミナール I	0G31S7018	0			0
	3	専門ゼミナールⅡ	0G32S7019	0			0
	究 卒	専門ゼミナールⅢ	0G41S7020	0			0
	業	専門ゼミナールIV	0G42S7021	0			0
		卒業研究	0G42S7022	0	0	0	0
		教職入門	0G12S8001	0			0
		教育原理	0G12S8002	0			0
		学習心理学	0G12S8003	0			0
		道徳教育の指導法	0G21S8004	0			0
		生徒・進路指導論	0G22S8005	0			0
		特別支援基礎論	0G31S8006	0			0
		教育方法・技術論(ICT活用含む)	0G31S8007	0			0
1	≐	教育相談	0G31S8008	0			0
Ι ΄	•	教育行政・制度論	0G32S8009	0			0
E	Ħ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	0G32S8010			0	0
	ы	教育課程論	0G42S8011	0			0
1	<b></b>	英語科教育法 I	0G21S8012		0		0
	3	英語科教育法Ⅱ	0G22S8013		0		0
1		英語科教育法Ⅲ	0G31S8014		0		0
1		英語科教育法IV	0G32S8015		0		0
1		教職実践演習 I	0G41S8016	0			0
		教職実践演習Ⅱ	0G42S8017	0			0
		教育実習指導	0G41S8018	0			0
1		教育実習Ⅰ	0G41S8019	_	0		0
		教育実習Ⅱ	0G41S8020		0		©
		П			l .		1

# ディプロマポリシー(DP)に基づく学修指標とルーブリック、カリキュラムマップ ディプロマポリシー(DP)に基づく学修指標とルーブリック

国際学部国際学科専門教育国際学基礎科目ルーブリック

国際学部国際	国際学部国際学科専門教育国際学基礎科目ルーブリック					
DPに基づく 学修指標	学修目標の説明	(労)	A (優)	B (良)	C (可)	F (不可)
DP1. 幅点を対している。 を	点から言語と文 化の多様性を・ 解し、地域・ 際社会の実践 的・文化的問題	日本と国際社会 に関する豊富教 力を身につい、情 のローバルな情の で動や変化にの で がで で が で が で が で が で が い に い い に の い い い い た ら い い い た ら い い た り に り い ら た り た り た り た り た り た り た り た り た り た	日本と国際社会に関 する多くの知識と高 い教養力を身につ け、グローバルな情 勢変動や変化につい て充分な理解力を 持っている。	日本と国際社会に関する一定な知識と教養力を身につけ、グローバルな情勢変制や変化について一定な理解力を持っている。	日本と国際社会に 関する基礎的な別 識と教グローンな情勢変動や変加 についな情勢で一定な理 解力を持ってい る。	日本と国際社会に 関する基礎的な知識と教養力を身に つけず、グローバルな情勢変動や変化についてで 化についていない。
DP2. グローバル社高 度で実践的ケーション能力 りになりなった。	際通用性のある 言語コミンカ すにつか部を 学の外が数 験のなる を がいるを を がいるを を がいる。 を のが、 のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を のが、 を を を を を のが、 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	英語或とと 東で と履修を国語の を関係を をを をを をを をを のの のの のの のの のの の	英語或いは専攻と履 修した韓国語・得 し、かつ高いはでは 力を身についる。 まだののは る。まだの る。 語学検定の、 合格 においている。 の を 様 に の の の の の の の の の の の の の の の の の の	英語或は専攻と履いは専攻・中国 を を は 専攻・ 中国 を 修した は を 修得 し、 かか 身に 定な で で で で かっと で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	履修した韓国語・ 中国語の4技能を 修得し、かつける 能力を身につける。 また、該 対る。 語学検定の 級試験において、	英語或いは専攻と 履修した韓国語・中 国語の4技能を修得 できず、かつ運用能 力を身につけていな い。また、該当する 語学検定の初級試 験において、合格点 を獲得していない。
DP3. 現代社会に名に 報り を は と さ う り に る り に 会 に る り に 会 る き り に 会 る き り に 会 る む け に っ に ら る し っ し に る し い る 。 と 。 と 。 と 。 と 。 と 。 と 。 と 。 と 。 と 。	を含めた総合的 な教養を身につ け、自立した職 業人となるため	ICTを含め、幅広い情報リテラシーを十分につけ、自立した職業人となるための豊かな教養を備えている。	ICTを含め、幅広い情報リテラシーを身につけ、自立した職業人となるために必要な教養を備えている。	ICTを含め、必要な情報リテラシーを身につけ、自立した職業人となるための教養を備えている。	ICTを含め、基礎的な情報リテラシーを身にできませたでは、自立した職業人となるを構えている。	ICTを含め、必要な情報リテラシーを身につけず、自立した職業人となるための基礎的な教養を備えていない。
DP4. 社のでは、	にわたる実践 的・文化化社会 いてでが創ま といてでが創ま を がかが がが がで がで がで がで が で が で が で が で が が が が が が が が が が が が が が が が が が が が	絶えず変動すり を関しく客にるフ研究を が関しく客にるフ研究を がの・ポオートで がのでするでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは	絶えずで関 情勢に、理るは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	絶えずで関する 情勢ある 大で関した。 で関した。 で関いた。 を述していた。 を述し、のでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでは、 でのでいる。 でのでいる。 でのでいる。 でのでいる。 でのでいる。 でのでいる。 でのでいる。 でいるでは、 でいるでいる。 でいるでは、 でいるでいる。 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでいるでいるでいるでいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 で	部分に独創性のある、かつある程度 客観的・説明する学 修ポートフォリ オ・課題研究や調	絶えず変動する国際情勢に、独創性のある、かつ客観的・合理のというでである。かつ客観的・高理のというでは、かつないでは、からでは、からでは、からでは、からでは、からでは、からでは、からでは、から

国際・情報専攻ル	<u>— 7 9 9 7</u>					
DPに基づく 学修指標	学修目標の説明	AA (秀)	A (優)	B (良)	C (可)	F (不可)
DP1. 幅広い知識と教 幅広い知識と教 後を身につかな視 点から地域・解 会を理解さる能 けている。	異文化へのない。 要文化へのない。 要文化のないで、 のないで、 要文化のないで、 のないで、 のないで、 ので、 を表し、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので、 ので	会・文化や対定というでは、一次におり、はおいでは、国では、国のでは、国のでは、国のでは、国のでは、国のでは、国のでは、国ので	について深い知 識を有し、国際 社会における情 勢や異文化に対 する高い理解力	各国の歴史・社 会・文学 会・一定、日本 会に一定、日本 会に知り 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会に、日本 会 と の も の も の も の も の も の も の も の も の も の	各国の歴史・文 会に関する 会に関する 会に関する を を を を を と と と と と と と と と と と と と と	各国の歴史・社 会・文学に 関する基礎を 関する、 国際社会に なける対する はに対する はに対する はに対する はに が なり、 る情勢や 関ない と り に つ け て い の は い の は の は に り の は に り の は に り に り に り に り に り に り に り に り い 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。
DP2. グローバル社会 に対けのは に対した で は は り り り り り り り り り り り り り り り り り	カや中国語力を身 につけている。 TOEICや中国語検 定試験等外部試験 の点数、等級の取	国語) 4 技能を 修得し、かつ高 い運用能力を身 につけている。	国語) 4 技能を 修得し、かつ十 分な運用能力を 身につけてい る。取得する TOEICの L・R合 計点数が600点以 上、S・Wの合計 点数が240点以上	上、S・Wの合計 点数が210点以上 に相当する能力 (または中国語	英国修度身る。 (も 4 、用 で を 4 、用 で 4 、用 で 5 で 5 で 5 で 5 で 5 で 5 で 5 で 5 で 5 で	英語 (またな (また ) 4 大き (また ) 4 大き (また ) 4 大き (また ) 4 大き (また ) 4 大き (また ) 4 大き (また ) 5 (また ) 5 (また ) 5 (また ) 6 (また ) 6 (また ) 6 (また ) 6 (また ) 6 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (また ) 7 (ま
DP3. 現代社会に必要 見代れる情報リ とララシ、国際社会 にの では、 ので では、 ので ので で ので ので ので ので ので ので ので ので のが のが のが のが のが のが のが のが のが のが のが のが のが	ラシーを身につけ ている。適切な情 報を収集したうえ	な な な な は 大 の で 術 の で が の で が の で が の で が の で が の で が の で が の で が の に 、 と の に の に り に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に に の に に の に に に に に に に に に に に に に	を選択・収集す る十分な能力と 優れたコンテン ツ制作力および 発信力を身につ	最新のICTに関する一般を表示に関するとは、 を身にの知るを対し、 を選択を選択を選択を を表が、 を表が、 を表が、 をはいる。 をはいる。 をはいる。	る基礎的な身に とけ、選集本ンは を基本のは を基本の を基本の を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	最新のICTに関する 知識と技術が身に 切いておらず選択・ 切な情報を選択・ 収集コンテンツ制作 力および発信力も 身に かい。
にわたる問題に ついて批判的思 考ができ、論 的で創造的な発 信 ができ、主体 的に行動できる	化・経済等の情勢	やICTを含めた幅 広い情報リテラ シーをサインに対して シーでは が が が が も と の 高い は と の は と の は と の は と の は と の は と し て と し た し た し た し た し た し た し た し た し た り と り と り と り と り と り と り と り と り と り	やICTを含めた幅 広い情報リテラ シーを身にした け、自立した 業人として必要 な論理的思考 および教養・品	シーを身につ け、自立した職	世界情勢のというでは、 世界情勢のめたり のめたり のめたり ののが でも は い い い い と い い と い い い と い い る い の 的 り い の 的 り い い れ ら い る い ら れ ら ら ら ら ら ら ら る ら る ら る ら る ら る ら る	世界情勢の把握や ICTを含めたシート 情報にあるでは、 情報には、 自立のは、 とり、 とり、 とり、 とり、 とり、 とり、 とり、 とり、 とり、 とり

国際学部 韓国専攻ルーブリック

	専攻ルーノリック	-				
DPに基づく学 修指標	学修目標の説明	AA (秀)	A (優)	B (良)	C (可)	F (不可)
DP1. 幅広い知識と教養を身につけ、グローバルな視点から地域・国際社会を理解する能力を身につけている。	韓国文化への深い理解、豊かいの深を表している教を、といる教を、といる。とは、といるでは、といるでは、といるでは、といるでは、といるでは、といるでは、といるでは、といるでは、といるでは、といるでは、といるでは、といるでは、といるでは、といるでは、といるでは、といるでは、といるでは、といるでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	会や文学に精通 し、日本 と はじめや はじめや 異 は が 数 や 高 と 数 や る 文 度 り る 、 文 の り る り る り る り た り た り た り た り た り た の り た の り た の り た の り た の り た り た	韓国の歴史・社 会や文学の韓の を有しじめる を有しじり の世界情勢を る世界情勢する身 い理解力を身 つけている。	韓国の歴史・社会や知識をといるというでは、必要をはいるとは、必要をはいるとのでは、必要をはいるとのでは、必要をはいるのでは、必要をはいる。	し、日韓関係をは じめとする世界情 勢や異文化につい て基礎的な理解力	会・文化や文学 に関する基礎知 識がなく、国際 社会における情 勢や異文化に対
DP2. グローバル社会 だおける高度で 実践的なコミン能 力を身につけて いる。	実践的で真に国際通 用性のある韓国語力 を身につけている。 韓国語検定等の点 数、等級の取得状況 や短期留学の成果な ど。	を修得し、アストラックを修得し、東京を得し、東京を見た。東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のではないでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のではないでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のでは、東京のではないがではないがではないがではないがではないがではないがではないがではないが	韓国語の4技能を修得し、協力を高い運用けて、記事はでのよいでは、記事は、日本の上で、日本の上で、日本の上で、日本の上で、日本の上で、日本の上で、日本の上で、日本の上で、日本の上で、日本の上で、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりに、日本のよりには、日本のよりには、日本のよりに、日本のよりには、日本のよりには、日本のよりには、日本のよりには、日本のよりには、日本の	修得し、かつから な運用能力を身に を運用にいる。 を はないで、 を で で で で で で で で で で で で で で で で で で	<b>ప</b> .	を修つままで、をかりいすができません。これでは、後には、大学には、はないできまでは、できまでは、できまでは、できまれていい。というできない。
DP3. 現代社会に必要 とされる情報リ テラシーを身に つけ、国際社会 に貢献できる能 力 を身につけ ている。	韓国の歴史・社会・ 文化・母院 係の情勢変化に対な を はた を 身に を 身に と りに り い る り に り た り に る り に る り に る り に る り に る り に る り に る り に る り に る り に る り に る り に る り に ろ り に ろ と り と り と の る 。 と り と り と り と り と り と り と り と り と り と	情勢の把握やICT を含めた幅広い 情報リテラシー を十分に身につ け、自立した職	日韓関係、世界 情勢の把握やICT を含めた幅シテラは、 情報リテラけ、 を身に職業人と なるためのキル なるためのキル が構えている。	日韓関係、世界情勢の把握やICTを含めた幅大学を見ていた。 かた幅がでは、 かたのでは、 からないでは、 はないでは、 からないでは、 がいる。	日韓関係、世界情勢の把幅でICTを含めたララウは、となりでは、な教では、 基礎にある。 といる。 日韓関係、世界情勢の把幅には、 はいる。 といる。 といる。 といる。	界情勢の把握や ICTを含めた必 要な情報リテラ シーを身につけ ていない。自立
にわたる問題に ついて批判的思 考ができ、論理 的で創造的な発	国際社会を対している。 著力をあり、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、 を表して、	修ポートフォリオ・課題や調査 研究を行い、かつ客観的・合述 のに十分論述・ 説明することが	独創性の高い学 修ポート をポー課題や オ・課題い・合 でを観い・ のを観が・ ができ ができ ができ る。	独創性のある学修 ポートや調査で発展した。 課題いいできるでは、 できて、 を観性を は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 できるできる。 は、 は、 は、 は、 できるできる。 は、 できるできる。 は、 は、 は、 できるできる。 は、 できるできる。 は、 できるできる。 は、 できるできる。 と、 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。	独創性が見られる 学修ポ題い 完を程度の 定程度を 定理性 ができる。 ができる。	れる学修ポー トフォリオ・

## 国際学部 日本語教育専攻ルーブリック

国际于印 日/	本語教育専攻ルー	<u> </u>				
DPに基づく学 修指標	学修目標の説明	AA (秀)	A (優)	B (良)	C (可)	F (不可)
養を身につけ、 グローバルな視 点から地域・国 際社会を理解す	日本文出の大学をは、大学の大学を化とない。 とない、大学の大学をである。 は、大学の大学をできる。 は、大学の大学をできる。 は、大学の大学をできる。 は、大学の大学をできる。 は、大学の大学をできる。 は、大学の大学の大学をできる。 は、大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大	社会・文化に精通 し、国際情勢や異 文化に対する高度 で深い理解力を身	日本語をはじめ とする日本・ 生本主社会・ の知際情がある。 国際情がする。 はている。	日本語をはのません。 とするとはのを有したの基本語をはの文を有し、文を有し、文を表し、文を表し、文を表し、文を表し、文を表し、文を表し、文を表し、文を表	日本語をはじめとする日本語をはじめといまる日本の歴史するの歴史するのとは関有しては関東するのでは、国際情基では、 国際情を関係では、 国際は、 国際は、 国際は、 国際は、 国際は、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいては、 のいても、 のいても、 のいても、 のいても、 のいても、 のいても、 のいても、 のいても、 のいても、 のいても、 のいとも、 のいとも、 のいとも、 のっとも、 のっとも、 のっとも、 のっとも、 のっとも、 のっとも、 のっとも、 のっとも、 のっとも、 のっとも、 のっとも、 のっとも、 のっとも、 のっとも、 のっとも、 のっとも、 のっとも、 のっとも、 のっとも。 のっとも。 のっとも。 のっとも。 のっとも。 のっとも。 のっとも。 のっとも。 のっと。 のっと。 のっと。 のっと。 のっと。 のっと。 のっと。 のっと	日本語をはじめと・ する日文化にが歴関な を一文化にが一般では を を を を を を を を を を を を を を を を を を を
における高度で 実践的なコミュ ニケーション能	通用性のある言語 力及び異文化コ ミュニケーション 力を身につけてい る。国際交流関連	熟した受容・理解 能力、言語運用能 力、社会文化能	法を修得し、か つ高い受容・理 解能力、言語文 用能力、社会関 化能力、対人関 係能力、異文化	日本語教育の大法を修な受し、容言とは、一年語教育の、容言とは、一理解能力、、対理解能力、、対理系統の対象を記述、対域の対象を記述を表する。	修得し、かつ受容・ 理解能力、言語運用 能力、社会文化能 力、対人関係能力、 異文化調整能力を一	日本語教育の方法 を得して、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
とされる情報リ テラシーを身に つけ、国際社会 に貢献できる能	史・社会・文化・ 経済等に関する情報リテラシーを めた複合的な知識 と教養を身につ け、自立した職業	を含めた幅広い情報リテラシーを十分に身につけ、 立した職業人となるための豊かな教養とスキルを備え	界情勢の把握や ICTを含めた幅広 い情報リテラ シーを身につ け、自立した職 業人となるため	自他文化及び世界情勢の把握や ICTを含めた短い情報リテラシーを身につり、自立した職業人となるための教養とスキルを備えている。	めた幅広い情報リテ	情勢の把握やICTを 含めた必要な情報 リテラシーを身に つけていない。自 立した職業人とな
にわたる問題に ついて批判的思 考ができ、論理 的で創造的な発 信ができ、主 体的に行動でき	国際社会により、 国際社会を表するに、	ができ、かつ客観 的・合理的の授業 の展開ができる十 分な能力を備えて	本語教育の授業 計画ができ、か つ客観的・合理 的な授業の展開	独創性のある日本語教でのある授かののでは、 計画がでのでいる。 いまでのでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、	一定の独創性のある 日本語教育の授業計 画ができ、かつ一定 の客観的・合理的な 授業を展開できる能 力をある程度備えて いる。	語教育の授業計画 ができていない。 かつ客観的・合理 的な授業を展開で

観光専攻ルーブ	<u> </u>					
DPに基づく 学修指標	学修目標の説明	AA (秀)	A (優)	B (良)	C (可)	F (不可)
DP1. 幅広い知識とい知識とい知識とのは、 知識にい知識とのは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	観光学の主な3要素(産業・地域振り、 ・地域振り、 ・地域振り、 ・が、がでででででいる。 ・が、がでででででいる。 ・ででででいる。 ・でででできる。 ・ででででいる。 ・でででできる。 ・でででできる。 ・ででででできる。 ・でででできる。 ・でででできる。 ・でででできる。 ・でででできる。 ・でででできる。 ・でででできる。 ・でででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・でできる。 ・でできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・でできる。 ・でできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・でできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・でできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・ででできる。 ・でででできる。 ・でででできる。 ・でででできる。 ・でででできる。 ・でででできる。 ・でででででできる。 ・でででででできる。 ・でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	グローバル社会 の多様性に関わ る理解を深める ために、常に学 び経験する機会 を求め、実践し ている。	グローバル社会の多様性に関わる理解を深めい、意味ではいいではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいいでは、 ではいでは、 ではいでは、 ではいでは、 ではいでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	グローバル社会 の多様性に関わ る理解を深める ために、学び 験する姿勢を持 ち始めている。	グロの多様性性 関深による はいまない はいまない はいまない がいまする がいまする がいまする がいまする がいまする がいまする がいまする がいまする がいまする がいまする がいまする がいまする がいまする がいまする がいまする がいまする がいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする はいまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまする といまる といまる といまも といまる といまる といまる といまる といまる といまる といまる といまる	グローバル社会の 多様性に関わる理 解を深めようとは せず、関心も示さ ない。
DP2. グローバル社会にバル社会にで実出に出いままにつけて実践につけています。	実践的で真に国際通用性のある言語力を身につけている。特に観光産業を意識したビジネスキルとしている。 計習得を実践している。外部の語学試験の点数、級の取得状況を指標する。各種留学や語学研修の成果など。	いずれかののま語の4、かけれかの4、かけれかの4、かりではで明月をでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	いずれかのの4 対かの4 大かった では、かかったのでは、かからでは、かからでは、かったのでは、では、いいでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは	の4技能を修得 し、かつしを身に 運用能力を身に つけている。ま た、取得する語	い語修運にる得定て獲るずの得用つ。す試、得か技、力でた語に格での能けまる験合しの能かをい、学お点いの能かをい、学お点いのないをのり、 取検いを	いずれかの 4 大いで 4 大いで 4 大いで 4 大いで 4 大いで 4 大いで 4 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで 5 大いで
DP3. 現代社会に必情報リテンクでは、現代とさからいでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	自らの目標を持意で、その行動では、その行動では、その行動では、というのでは、自然を主要を主要を主要を主要を主要を主要を主要を主要を主要を主要を主要を主要を主要を	自ちた的の音をというにないい で表現意自動こい幅ラに立なない を現意自動こい幅ラに立なない を現意自動こい幅ラに立なない を現意自動こかにより があしたリー、人豊で を現るを はいかで を はいかで を はいかで を は は は は は は な と は と は と は と は と は と は と	自ちた的の音をも報身している。というでは、テーロのでは、テーロのでは、テーロのでは、テーロのでは、テーロのでは、テーロのでは、テーロのでは、テーロのでは、テーロのでは、テーロのでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大	ち、その実現の ために考え意欲 的に行動し自ら	自持現え動言任をとなシけ職たなての、た欲自行あ覚に報を自人の養る目そめ的ら動るす、リ身立と基を標のににのにこる必テにしな礎備標のにを実著行発責とと要ラつたる的え	自ちめ行やるい報にず人礎である。に動行こなりで、と的いうというは自なながの任覚要しはためを明めなの任覚要しばためをでいた。する立る教にした養のはなを至職の備がない。
DP4. 国岐題判き創が的るでは、 会たい考理な、動をいたい考理な、動を行力では、 多問批ででに能けています。	速いる(をル行アと批びのつす題業種ンにに に、大きな構判判観考をのしての方の方面を で人、じ収解をつ国通現地ドーりア積を で人、じ収解をつ国通現地ドーりア積を で人、じ収解をつ国通現地ドーりア積を で大、じ収解をつ国通現地ドーりア積を で大、じ収解をつ国通現地ドーりア積を でを、をな構判判観考への力が がであるう社す法社一制みイ的決 がであるが、、、、タ参を がであるが、、、、、タ参を がであるが、、、、、、の力が、、、、、の力が、、、、、、の力が、、、、、、の力が、、、、、の力が、、、、、の力が、、、、、の力が、、、、、の力が、、、、、、、、	フィールドワーク独関研でを制性の作うでを制性の成分を制作の成分を制度のである。 できる いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱ	の高い課題作成 や調査研究を行 い、かつ客観	クを軸に、独創 性のある課題作 成や調査研究を 行い、かつある 程度客観的・ 理的に説明し、	ワークを軸 に、時には必 要事項を網羅	課題作成や調査研 完が・論明できない。

# ゼミ・卒業研究ルーブリック

		1		_	_	1
DPに基づく 学修指標	学修目標の説明	AA (秀)	A (優)	B (良)	C (可)	F (不可)
グローバルな視	ながら、異文化 や言語を深く理 解する力を身に つけている。自	化、他者の文化、 グローバル社会に 関わる理解を深め るために、常に学 び経験する機会を	化、他者の文化、グローバル社会に関わる理解を深めるために、意欲的に学び経験しようとする姿勢	グローバル社会に 関わる理解を深め るために、学び経	文化、他者の文 化、グローバル 社会に関わる理 解を深めるため	自分をとりまく文化、他者の文化、 グローバル社会に 関わる理解を深め ようとはせず、関 心も示さない。
DP2. グローバル社会 における高度で 実践的なコミュ ニケーション能 力を身につけて いる。	際通用性のある コミュンカを身で ションカで身で で留学経験が 果、語学外部	国語などの4技能をよく修得し、該当する語学試験の 最上級試験に合格し、かつ高い運用	英語・韓国語・中国 語などの4技能を 得し、該当する語 表 と 、該当十分な に 、 かつ十分な 連 用能力を 身 に い る。	国語などの4技能 を修得試験の中談の中 る語学は る語学は が と の と し 、 し 、 し 、 り の り の り り の り り し り し り し り し り し り り し り り り り	中国語などの 4 技能を修得し、 該当する語学試 験の初級試験に	英語・韓国語・中 国語などの4技能 及び運用能力を身 につけず、該当す る語学試験の初級 試験に合格できな い。
テラシーを身に つけ、国際社会 に貢献できる能	を含めた総合的 な教養を身につ け、自立した職	情報リテラシーを	ICTを含め、幅広い 情報リテラシーを身 につけ、自立した戦 業人となるための必 要な教養を備えてい る。	な情報リテラシー を身につけ、自立 した職業人となる	な情報リテラ シーを身につ け、自立した職 業人となるため	ICTを含め、必要な情報リテラシーを身につけていない、自立した職業人となるための基礎的な教養を備えていない。
国際社会の多岐にわたる問題にわたる問題について批判的思考がで創造的な理的で創造的な主体的に行動でき、である能力を身につ	び国際社会で通 用する物事の考 え方や表現方法 を身につけてい る。課題発表や レポート・卒業	つ客観的・論理的 にその過程や内容	多くの場合独創性の 高い学・課題に 一下成から を観りまる。 を観りいまで を観ります。 を観ります。 を観ります。 を観ります。 を記しまする。	高い学修ポート フォリオ・課題作 成や調査研究を行 うこと的・論理的 にその過程や内容	修ポートフォリー オ・課題作行フォルリー 調査を制度をしている。 場合ももののでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	独創性のある学修 ポートフォリオ・ 課題作成でず、客観 究が行えず、そぞ 的・論理や容を説したり議論するこ とはできない。

# 学則、諸規程

### 桜花学園大学 学 則

#### 第 1 章 総 則

(目 的)

- 第1条 桜花学園大学(以下「本学」という。)は、教育基本法、学校教育法及び建学の精神に基づき、信念ある人を育成することを教育理念として、広く知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性をかねそなえた優れた人材を育成するとともに、保育学部にあっては教育学・保育学にかかわる学芸、国際学部にあっては国際社会における人文・社会科学の諸分野にかかわる学芸を教授研究し、深く真理を探求して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを目的とする。
  - 2 本学の設置する各学科における人材の養成に関する目的、その他の教育研究の目的は次の各号に定めるとおりとする。
    - (1) 保育学部保育学科は、豊かな教養と社会人としての基礎的能力、専門職としての豊かな専門的知識・技能、自己開発能力を有し、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる高度の専門性を具えた有為な教育保育専門職の養成を目的とする。
    - (2) 保育学部国際教養こども学科は、社会のグローバル化に対応した豊かな教養と 基礎的能力を有し、グローバルな視点に立って幼児期の教育保育を担い、人類 の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる高度の専門性を具えた有為な教育 保育専門職の養成を目的とする。
    - (3) 国際学部国際学科は、地域・国際社会に関する幅広い知識と語学力を生かした コミュニケーション能力および多岐にわたるグローバルな問題を解決するた めの論理的・創造的な思考力と主体的・実践的な対応能力を有し、社会の各分 野で貢献しうる有為な人材の養成を目的とする。
  - 3 卒業認定・学位授与に関する方針、教育課程の編成方針、入学者受け入れ方針 については別に定める。

#### 第 2 章 自己評価等

(自己評価等)

- 第2条 本学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、 教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するも のとする。
  - 2 本学は、教育研究等の総合的な状況について、政令で定める期間ごとに、文部科学 大臣の認定を受けた認証評価機関による評価を受けるものとする。
  - 3 大学評価に関する事項は、別に定める。

(教育内容等の改善)

- 第3条 本学は、授業内容及び方法の改善を図るための組織を設け、研修及び研究を実施する。
  - 2 前項の組織については、別に定める。

第 3 章 学部・学科、収容定員及び修業年限

(学部・学科及び収容定員)

第4条 本学において設置する学部・学科及び収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	編入学定員	収容定員
但去兴想	保育学科	130人	2人	524人
保育学部	国際教養こども学科	45人	3人	186人
国際学部	国際学科	50人	5人	210人

#### (修業年限及び在学年限)

第5条 本学学部の修業年限は、4年とする。

ただし、8年をこえて在籍することはできない。

第 4 章 学年、学期及び休業日

(学年)

第6条 学年は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学年を次の2学期に分ける。

前 期 4月1日から9月30日まで 後 期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第8条 休業日は、次のとおりとする。

ただし、必要に応じ学長は休業日を臨時に変更することができる。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する日
- (3) 春季、夏季、冬季休業日
- (4) 桜花学園の創立記念日

6月10日

- 2 前項第3号に休業日は別に定める。
- 3 第1項及び第2項に定めるもののほか、学長は臨時の休業日を定めることができる。

第 5 章 入学、編入学、再入学、休学、復学、転学部・転学科、 留学、退学、除籍及び復籍

(入学の時期)

第9条 入学の時期は、原則として、学年の始めとする。

(入学志願者の資格)

第10条 本学に入学志願できる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。

- (1) 高等学校を卒業した者又は卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

- (4) 文部科学大臣が高等学校の課題と同等の課程を有するものとして認定した在 外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) その他相当の年齢に達し、大学において高等学校を卒業した者と同等以上の 学力があると認めた者

#### (入学の志願手続)

- 第11条 入学志願者は、本学所定の入学志願書に入学検定料及び次の各号に掲げる書類を 添えて、指定の期日までに提出しなければならない。
  - (1) 第10条に該当することを証明する書類又は修了見込みを証明する書類
  - (2) 出身高等学校長もしくはこれに類する者の作成した調査書

#### (入学者の選考)

- 第12条 入学志願者に対しては、選考の上、合格者を決定する。
  - 2 入学選考の期日及び方法については、別に定める。

#### (入学手続及び入学許可)

- 第13条 合格した者は、所定の期日までに保証人連署の誓約書その他本学所定の書類に入 学金を添えて提出しなければならない。
  - 2 学長は、前項の手続を完了した者に対して入学を許可する。
  - 3 学長は、正当な理由がなく前項に規定する手続をしない者に対しては、入学の許可 を取消すことができる。

#### (保証人)

- 第14条 保証人は、入学に係る一切の責任を負うことのできる者でなければならない。
  - 2 本人もしくは保証人の身分の変動又は住所の変更等があった場合は、ただちに届け出なければならない。

#### (編入学)

- 第15条 次の各号の一に該当する者で本学に編入学を志願する者があるときは、選考の上、 学長は3年次に入学を許可することができる。
  - (1) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
  - (2) 大学を卒業した者又は他の大学に2年以上在籍し、62単位以上を修得した者
  - (3) 学校教育法第132条に規定する文部科学大臣の定める基準を満たす専修学 校専門課程を修了した者
  - (4) 外国の大学において2年以上在籍し、62単位以上を修得した者又は大学を 卒業した者
  - 2 前項の規定により、入学を許可された者の既に修得した授業科目及び単位数の取扱い等については、別に定める。

#### (再入学)

- 第16条 本学を一度退学した者が再入学を願い出た時は、審査の上、学長は相当年次に入学 を許可することができる。
  - 2 前項の規定により、再入学を許可された者の在籍中の修得単位は、これを認める。

(休 学)

- 第17条 疾病又はやむを得ない理由により、引続き3ヶ月以上学修することのできない者は、休学願を提出し、その許可を得て、休学することができる。 休学期間は、通算して4年を超えることはできない。また、3年次編入者の休学期間は、通算して2年を超えることはできない。
  - 2 病気を理由とする休学願は医師の診断書を、その他の理由による休学願には保証 人連署による理由書を添付しなければならない。
  - 3 休学の期間は、1年以内とする。ただし、特別の事情がある場合は、さらに1年以内の期間に限り休学を許可することができる。
  - 4 休学の期間は、第5条のただし書きの在籍年数には、算入しない。
  - 5 休学期間中は、授業料等の徴収はしない。

(復 学)

- 第18条 休学期間満了の者又は休学期間中においてもその理由が消滅した者は、復学願を 提出し、学長にその許可を得て、復学することができる。
  - 2 病気が治癒したことを理由とする復学願には、医師の診断書を添付しなければな らない。

(転学部・転学科)

- 第19条 転学部・転学科を希望する者は、審査の上、教授会の議を経て学長が許可することがある
  - 2 転学部・転学科に関しての必要な事項は、別に定める。

(留 学)

- 第20条 本学に1年以上在学した者が、外国の大学またはこれに相当する高等教育機関への留学を願い出た場合、教育上有益と認められるときは、次の条件で許可することがある。
  - (1) 留学期間は、原則として半年又は1年とし、2年を限度とする。
  - (2) 第5条の修業年限に算入することのできる期間は、1年以内とする。
  - (3) 外国の大学とのダブル・ディグリー協定に基づくダブル・ディグリー留学期間は、この限りではない。
  - 2 留学に関する規程は、別に定める。

(退 学)

- 第21条 疾病又はやむを得ない理由により退学しようとする者は、退学願を提出し、学長の 許可を得なければならない。
  - 2 病気を理由とする退学願には医師の診断書を、その他の理由による退学願には保証人連署による理由書を添付しなければならない。

(除 籍)

- 第22条 次の各号の一に該当する者は、これを除籍することができる。
  - (1) 第5条に定める在籍年限をこえた者
  - (2) 第17条第3項に定める休学期間をこえて、なお修学できない者
  - (3) 長期間にわたり行方不明の者
  - (4) 正当な理由がなく授業料を滞納し、督促しても、なお納付しない者

- (5) 在学中に死亡した者
- (6) 休学期間の合計が4年を超えた者
- (7) 3年次編入者で休学期間の合計が2年を超えた者

(復 籍)

- 第23条 「除籍」となっている者のうち、次の場合にあっては、直近の教授会の議を経て、 「復籍」することができる。
  - (1) 長期間にわたる行方不明により除籍された者が、復籍を願い出た場合
  - (2) 授業料等未納により除籍された者が、未納授業料等を納入し、復籍を願い出た場合

#### 第 6 章 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

- 第24条 保育学部及び国際学部における授業科目は、共に共通教育科目及び専門教育科目 とする。
  - ただし、資格を得ようとする学生のために当該課程及び自由科目を設けることができる。
  - 2 授業科目の種類及び単位数等は、別表第1のとおりとする。

(履修登録)

- 第25条 学生は、毎学期の当初に履修すべき授業科目を登録しなければならない。
  - 2 学生は、前項により登録した授業科目以外の授業科目を履修し、又は単位を修得することはできない。

(授業期間)

第26条 1年間の授業期間は、35週にわたることを原則とする。

(授業の方法)

- 第27条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用 により行うものとする。
  - 2 前項の授業は、多様なメディア(ICT)を高度に利用して、当該授業を行う教室 等以外の場所で履修させることができる。
  - 3 第1項の授業を、外国において履修させることができる。第2項の規定により、多様なメディア(ICT)を高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても同様とする。
  - 4 文部科学大臣が定めるところにより、第1項の授業の一部を校舎及び付属施設以外の場所で行うことができる。

(単位の計算方法)

- 第28条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容を もって構成することを標準とし、次の基準により計算するものとする。
  - (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの授業時間をもって1単位とする。
  - (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの授業時間をもって1単位とする。
  - (3) 1の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は、実技のうち2以上の方

法の併用により行う場合については、前掲各号の組み合わせに応じ、別に定める時間をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文等の授業科目の単位については、学修の成果を 考慮して、本学において定める単位とする。

#### 第 7 章 資格取得の課程

#### (教職課程)

- 第29条 教育職員免許状の所要資格を得ようとする学生のために、教職課程を置く。
  - 2 前項の資格を得ようとする学生は、教育職員免許法並びに同法施行規則の定める ところに従い、教科及び教職に関する科目を履修し、必要単位を修得しなければな らない。
  - 3 前項の授業科目及び単位数は、別表第2のとおりとする。
  - 4 本学において取得できる教育職員免許状の種類は、次のとおりとする。

学部名	学科名	免許状の種類	免許教科等
保育学部	保育学科	幼稚園教諭1種免許状 小学校教諭1種免許状 特別支援学校教諭1種 免許状	知的障害者、 肢体不自由者、 病弱者
	国際教養こども学科	幼稚園教諭1種免許状	
国際学部	国際学科	中学校教諭1種免許状 高等学校教諭1種免許 状	英語

#### (保育士課程)

- 第30条 保育士資格を得ようとする学生のために、保育学部保育学科および国際教養こども学科に児童福祉法及び同法施行規則並びに指定保育士養成施設の指定及び運営の基準に定める教育課程を置く。
  - 2 前項の資格を得ようとする学生は、児童福祉法及び同法施行規則並びに指定保育 士養成施設の指定及び運営の基準の定めるところに従い、その授業科目を履修し、 必要単位を修得しなければならない。
  - 3 前項の授業科目及び単位数は、別表第3のとおりとする。

#### (日本語教員養成課程)

- 第31条 日本語教員養成課程修了証を得ようとする学生のために、国際学部国際学科に文化庁が定める教育課程を置く。
  - 2 前項の課程を履修しようとする学生は、その授業科目を履修し、必要単位を履修し なければならない。
  - 3 前項の日本語教員養成課程に関する規程は、別に定める。

(単位の授与)

第32条 一授業科目の課程を修了した者に対しては、試験その他適切な方法により学修の成果を評価して、所定の単位を与える。

ただし、第28条第2項については試験によらず学修の成果を評価し、単位を与えることができる。

(成績の評価)

- 第33条 成績の評価は、秀・優・良・可・不可の5段階とし、秀・優・良・可を合格とし、 不可を不合格とする。ただし、合否判定のみが行われる科目では、合格の場合の評価を「認」とする。
  - 2 成績の評価は、次のとおりとする。

評	点	評価
100 -	90 点	秀
89 -	80 点	優
79 —	70 点	良
69 —	60 点	可
59 —	0 点	不可

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

- 第34条 他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、教育 上有益と認めるときは、本学における授業科目の履修とみなし、所定の単位を与え ることができる。
  - 2 前項の規定により、本学において修得したものとみなすことのできる単位数は、 60単位を超えないものとする。 ただし、保育士養成にかかわる授業科目についての単位認定は、第35条に定める 入学前の単位認定を含めて30単位を超えない範囲とする。
  - 3 前2項の規定は、外国の大学又は短期大学に留学する場合においても準用することができる。

(大学以外の教育施設等における学修)

- 第35条 短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、教育上有益と認めるときは、本学における授業科目の履修とみなし、所定の単位を与えることができる。
  - 2 前項の規定により与えることのできる単位数は、前条第1項により修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。 ただし、保育士養成にかかわる授業科目についての単位認定は、第34条に定める入学前の単位認定を含めて30単位を超えない範囲とする。

(入学前の既修得単位等の認定)

- 第36条 入学前に大学又は短期大学(外国の大学又は短期大学を含む)において履修した授業科目の単位を、教育上有益と認めるときは、本学における授業科目の履修とみなし、所定の単位を与えることができる。
  - 2 前項の規定により与えることのできる単位数は、60単位を超えないものとする。

ただし、保育士養成にかかわる授業科目についての単位認定は、30単位を超えない範囲とする。

(卒 業)

- 第37条 学長は、本学に所定の期間在学し、卒業に必要な124単位以上を修得し、学部の定める卒業要件資格を得た者に、学部教授会の意見を聴き、卒業を認定する。
  - 2 前項の規定により卒業の要件として修得すべき124単位のうち、第27条第2項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。
  - 3 学長は、前項の規定により卒業を認定された者に、卒業証書・学位記を授与する。

(学位の授与)

第38条 前条の卒業者には、次の区分に従い学位を授与する。

归去兴却	保育学科	学士 (保育学)
保育学部	国際教養こども学科	学士(保育学)
国際学部	国際学科	学士 (国際学)

#### 第9章賞罰

(表 彰)

第39条 学長は、他の模範となる学生を表彰することがある。

(懲 戒)

- 第40条 学長は、教育上必要と認める学生に懲戒を行うことができる。
  - 2 懲戒の種類は訓告、停学及び退学とする。
  - 3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。
    - (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
    - (2) 正当な理由がなく出席常でない者
    - (3) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第10章 入学検定料、入学金、授業料及び教育充実費等

(納付金)

- 第41条 入学検定料、入学金、授業料及び教育充実費等の額は、別表第4のとおりとする。
  - 2 授業料等納付金は、前期(納付期間4月)及び後期(納付期間10月)に分けて納付しなければならない。
  - 3 授業料等の納付手続等については、別に定める。
  - 4 既納の授業料等納付金は、原則として返還しない。

#### 第11章 教職員組織

(教職員組織)

第42条 本学に学長、副学長、教授、准教授、助教、助手及び事務職員、技術職員並びにそ の他必要な職員を置く。 2 教職員に関する規程は、別に定める。

#### 第12章 大学評議会及び学部教授会

#### (大学評議会)

- 第43条 学長は大学の教育研究に関して決定を行うに当たり、学部間等の意見を聴き調整 するために大学評議会を置く。
  - 2 大学評議会は、学長、副学長、研究科長、学部長、学科長、学生部長、教務部 長、図書館長、事務局長、入試委員長、センター長、所長、FD委員長、部署の課 長以上の事務職員をもって組織する。
  - 3 大学評議会は、学長が招集し、議長となる。

#### (大学評議会の審議事項)

- 第44条 大学評議会は、次の各号に掲げる事項について、学長の求めに応じ意見を述べる ことができる。
  - (1) 学長が諮問する事項
  - (2) 大学院研究科委員会及び大学教授会運営に関する事項
  - (3) 教育課程の編成方針に関する事項
  - (4) 学生の定員に関する事項
  - (5) 学生の学生生活ならびに賞罰に関する事項
  - (6) 教員の人事に関する事項
  - (7) 教育研究に関する重要な事項
  - (8) 学則及び重要な学内規程の制定改廃に関する事項
  - (9) 予算概要の方針に関する事項
  - (10) 自己点検・評価の方針に関する事項
  - (11) 大学院・学部・学科及び学内諸機関の連絡調整に関する事項
  - (12) 大学院・学部・学科の設置及び廃止に関する事項
  - (13) その他、大学院及び大学の運営に関し学長が必要と認めた事項
  - 2 本条に定めるもののほか、大学評議会に関し必要な事項は別に定める。

#### (学部教授会)

- 第45条 本学は、保育学部、国際学部に、それぞれ学部教授会を置く。
  - 2 学部教授会は、当該学部の専任の教授、准教授及び助教をもって組織する。
  - 3 学部教授会は学部長が招集し、議長となる。

#### (学部教授会の審議事項)

- 第46条 学部教授会は、次の各号に掲げる事項について審議し、学長が決定するにあたり、 意見を述べるものとする。
  - (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
  - (2) 学位の授与
  - (3) 前2号に定めるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、学長が、教授会の意見を聴くことが必要と認めるもの
  - 2 教授会は前項に定めるもののほか、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する次の事項を審議し、学長及び学部長の求めに応じ意見を述べることができる。
    - (1) 教育課程及び授業に関する事項

- (2) 学生の成績評価に関する事項
- (3) 学生の退学、転学、留学、休学等に関する事項
- (4) 学生の賞罰に関する事項
- (5) 学生の学生生活に関する事項
- (6) 教員の選考及び資格審査に関する事項
- (7) 学部運営に関連する諸規程の制定及び改廃に関する事項
- (8) 自己点検・評価の方針に関する事項
- (9) その他学部の運営に関し、教授会が必要と認める事項

#### 第13章 研究生、科目等履修生、外国人留学生及び特別聴講学生

(研究生)

- 第47条 本学で特定課題について指導を受けようとする者があるときは、本学の教育に支 障がない限りにおいて当該学部の教授会の意見を聴き、学長は研究生として入学 を許可することがある。
  - 2 研究生に関して必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生)

- 第48条 本学の特定授業科目の履修を志願する者があるときは、本学の教育に支障がない 限りにおいて教授会の意見を聴き、学長は科目等履修生として入学を許可するこ とがある。
  - 2 科目等履修生に関して必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

- 第49条 外国人で大学等において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。
  - 2 外国人留学生に関して必要な事項は、別に定める。

(特別聴講学生)

- 第50条 本学と交換留学協定を締結している大学の学生で所属先の大学が許可をした場合 は、当該学部の教授会の意見を聴き、学長は特別聴講学生として入学を許可すること がある。
  - 2 特別聴講学生に関して必要な事項は別に定める。

#### 第14章 公開講座

(公開講座)

第51条 社会人の教養を高め文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

第15章 付属施設等

(付属施設等)

- 第52条 本学に教育研究の施設等を置くことができる。
  - 2 教育研究の施設等に関することは、別に定める。

#### 第16章 雜 則

(委任)

第53条 この学則を施行するために必要な事項は、別に定める。

#### 附 則

- 1. この学則(教育課程及び納付金の変更)は、令和3年4月1日から施行する。
- 1. この学則(教育の方法の項目追加、教育課程、及び大学評議会の変更)は、令和4年4月1日から施行する。
- 1. この学則(授業期間及び単位の授与の変更)は、令和5年4月1日から施行する。
- 1. この学則(目的の変更並びに入学志願者の資格の変更、届出による学部学科の設置に 係る項目の変更、教育課程の変更、入学手続及び入学許可の変更、編入学の変更、及 び目的の変更)は、令和6年4月1日から施行する。

## 保育学部 保育学科

区分	授業科目名	N 1/4		Ι ή μ	備	考	
	ライフョース診	火16		日田		1	
					必修		
1 1							
1 1					2単位以上選択		
1 1					2単位以上選択 必修 2単位以上選択 必修 2単位以上選択 必修 2単位以上選択 必修 2単位以上選択 必修 1単位以上選択 必修		
l F	2						
教					a)///// [ 277 [ 177		
養							
科 -					业修		
目目							
					2単位以上選択		
					必修		
			2		1		
			2		0.景体17.17.13.11		
			2				
	生き物の社会		2		少修		
					1.用件10.1 / 2010		
	スポーツ I		1				
	スポーツⅡ		1		<b>北</b> 110		
			2				
	社会調査法						
	情報社会論		2				
	コンピュータ I 1		必修				
	コンピュータⅡ	1			1		
	NGO・NPO論		2		必修	-	
	現代社会と企業		2				
	地域協力演習		2			選択 必修単位を含み 30単位以上を修 得のこと。	
	インターンシップ(国内)A		1				
			2				
			1				
	インターンシップ(海外)B※		2				
			3				
			4			100000	
					]		
1 4			2				
1 1		1					
		1					
基	総合英語 <b>Ⅲ</b>						
礎							
科							
I					1		
					1		
			_				
					-		
					1		
					4		
			_		1		
	フランス語と文化 I		1		-		
	フランス語と文化Ⅱ		1		1 = = = 0 \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		
	中国語と文化Ⅰ		1		1言語2単位以上		
	中国語と文化Ⅱ		1		選択必修		
	中国語と文化Ⅲ		1				
1	中国語と文化Ⅳ		1				
1	韓国語と文化Ⅰ		1		-		
	韓国語と文化Ⅱ		1		] !		
	韓国語と文化Ⅲ		1		-		
_	韓国語と文化IV		1				
<u> </u>			2				
	日本国憲法						
	海外研修A		2				
	海外研修A 海外研修B						
	海外研修A	1 1	2				

エクステンション科目については別に定める。 ※ インターンシップ (海外) として取得できる単位は卒業までに4単位を上限とする。

X	分			単 位		備考
	<i>)</i>	教育原理	<u>必修</u> 2	選択	自由	VHI ~5
		保育原理	2			
		子ども家庭福祉 保育・教育・福祉の制度と理論 I	2	1		
		保育・教育・福祉の制度と理論Ⅱ		1		
		社会福祉	2 2			
		子ども家庭支援論 社会的養護 I	2			
		社会的養護Ⅱ		1		
		保育者論 教育職論	2 2			
		教育制度	2			
		発達心理学 子ども家庭支援の心理学	2	2		
		子ども理解の理論と方法	2	2		
		教育心理学 特別支援基礎論	2			
		保幼小連携基礎論	1			
		保幼小連携総論	1	1		
		保育・教育特講 I 保育・教育特講 II		1 1		
		教育課程論	2			
		保育カリキュラム論 保育内容総論	2 2			
		保育内容指導法(健康)	2			
		保育内容指導法(人間関係) 保育内容指導法(環境)	2 2			
		保育内容指導法(言葉)	2			
		保育内容指導法(表現) 国語科教育法	2	2		
		社会科教育法		2		
		算数科教育法 理科教育法		2 2		
		生活科教育法		2		
		音楽科教育法		2		
		図画工作科教育法 家庭科教育法		2 2		
		体育科教育法		2		
		英語科教育法 道徳教育の指導法		2 2		
		特別活動・総合的な学習の時間の指導法		2		
		生徒・進路指導論 教育の方法	2	2		
		ICT活用の理論と実践	2	1		
		幼児と健康		1		
	専	幼児と人間関係 幼児と環境		1		
		幼児と言葉		1		
	攻	幼児と表現 国語		1		
		社会		1		
	教	算数 理科		1		
		生活	1			
	育	音楽 図画工作		1		
		家庭		1		
専	科	体育 英語		1		
		幼児音楽 I A		1		
	目	幼児音楽 I B		1 1		
門		幼児音楽Ⅱ 幼児音楽Ⅲ		1		
		ピアノ演習IA		1		
教		ピアノ演習 I B ピアノ演習 II		1		
12		表現の探求(造形)		1		
		表現の探求(音楽) 幼児造形 I		1		
育		幼児造形Ⅱ		1		
		幼児体育 I 幼児体育 II		1		
科		ネイチャーワーク		1		
17		児童文化 子どもの保健	2	1		
		子どもの健康と安全	2	1		必修単位を含み94単位以上を 修得のこと。
目		子どもの食と栄養I	2	0		<b>◎44</b> 00 € 5°
		子どもの食と栄養Ⅱ 障害児保育		2 2		
		乳児保育 I	2			
		乳児保育Ⅱ 保育環境マネジメント		1		
		子ども学演習		1		
		教育相談A 教育相談B	1	1		
		子育て支援	1			
		親と子どもの発達支援 チーム保育論		1		
		医療保育 I		1		
		医療保育Ⅱ インクルーシブ保育論		1		
		タ文化共生保育・教育論		1 1		
		特別支援教育論	2			
		知的障害児の心理・生理・病理 肢体不自由児の心理・生理・病理		2 2		
		病弱児の心理・生理・病理		2		
		知的障害教育論 I 知的障害教育論 II		2 2		
		肢体不自由教育論 I		2		
		肢体不自由教育論 II 病弱教育論		2 2		
1 1	) (	パンタタイス 日 中間	1			I

	視覚障害児の心理・生理・病理		1		
	聴覚障害児の心理・生理・病理		1		
	発達障害の理解		1		
	視覚障害教育論		1		
	聴覚障害教育論		1		
	重複障害等教育論		1		
	教育実習 I		1		
	教育実習Ⅱ		3		
	教育実習Ⅲ		3		
	教育実習IV		2		
	教育実習指導 I		1		
	教育実習指導Ⅱ		1		
	教育実習指導Ⅲ		1		
,,	教育実習指導IV		1		
体一	教職実践演習(幼・小)		2		
験一	保育実習 I (保育所)		2		
学 習 -	保育実習I(施設)		2		
科	保育実習Ⅱ		2		
目	保育実習Ⅲ		2		
	保育実習指導 I (保育所)		1		
	保育実習指導 I (施設)		1		
	保育実習指導Ⅱ		1		
	保育実習指導Ⅲ		1		
	保育実践演習		2		
	学校インターンシップ指導		1		
	学校インターンシップ		1		
	海外幼児教育インターンシップ		2		
総	総合演習IA	1			
合	総合演習IB	1			
世的	総合演習 II A	1			
一一日	総合演習 II B	1			
1	卒業研究演習 I	1			
目修	卒業研究演習Ⅱ	1			
·	卒業研究	2			

区分	授業科目名		単位		備	考
四月		必修	選択	自由	ν <del>μ</del>	~~
	ライフコース論		2		2単位以上選択	
	ジェンダー論		2		必修	
	自分と家族		2		纪博	
	芸術の世界		2		2単位以上選択	
	文学の世界		2			
	心の探求		2		必修	
±4.1+	生き方の探求		2			
教養	生活と経済		2		0.景体1/1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1	1
科	地域社会		2		一2単位以上選択 一必修	
目目	人間と歴史		2			
H	異文化理解		2			1
	日本の文化		2		2単位以上選択	
	国際関係論		2		必修	
	グローバル社会と宗教		2			
	環境の科学		2			1
	食と生命の科学		2		-2単位以上選択 -必修	
	生き物の社会		2			
_	スポーツ健康論		2			1
	スポーツI				1単位以上選択	
	スポーク I スポーツ II		1	1	- 必修	
						学単位を除き (な)とし選択
	統計学		2		以体出仕するよ	
	社会調査法		2		必修単位を除き   2単位以上選択   必修	
	情報社会論		2			
	コンピュータI	1				必修単位を含 30単位以上を 得のこと。
	コンピュータⅡ	1				
	NGO·NPO論		2			
	現代社会と企業		2			
	地域協力演習		2			
	インターンシップ(国内)A		1			
	インターンシップ(国内)B		2		2単位以上選択	
	インターンシップ(海外)A※		1		- 必修	
	インターンシップ(海外)B※		2			
	インターンシップ(海外)C※		3			
	インターンシップ(海外)D※		4			
	ボランティア(海外)		2			
	海外英語資格実習		2			
	総合英語 I	1				1
	総合英語Ⅱ	1				
基	総合英語Ⅲ	1				
礎	総合英語IV	1				1
科	英語コミュニケーション I		1			
目	英語コミュニケーションⅡ		1			
	英語コミュニケーションⅢ		1			
	英語コミュニケーションIV		1			
	ポルトガル語と文化 I		1			1
	ポルトガル語と文化Ⅱ		1		1	
	スペイン語と文化Ⅰ		1		1	
	スペイン語と文化Ⅱ		1		1	
	フランス語と文化 I		1		1	
	フランス語と文化Ⅱ		1		1	
	中国語と文化Ⅰ		1		1言語2単位以上	
	中国語と文化Ⅱ		1		選択必修	
	中国語と文化Ⅲ		1		- 選 / 水 心 / 多	
	中国語と文化IV		1			
	韓国語と文化Ⅰ		1			
	韓国語と文化Ⅱ		1			
	韓国語と文化Ⅲ		1		-	
	韓国語と文化Ⅳ		1			ł
	日本国憲法		2		4	
	海外研修A		2		4	
	海外研修B		4		1	
	基礎演習 I	1				
L	基礎演習Ⅱ	1				
	エクステンション科目		6			

$\triangle$	[	Þ		単 位		備考				
分	授	業	科	目	名	必修	選択	自由	備	4
	保育原理					2				
	教育原理					2				
	子ども家庭	福祉				2				
	社会福祉					2				
	子ども家庭	支援論				2				
	社会的養護	Ι					2			
	社会的養護	Π					1			
	保育者論					2				
	教育制度					2				
	発達心理学					2				
		支援の心理学				2				
	子ども理解	の理論と方法	Ė			2				
	教育心理学					2				
	特別支援基						1			
	保育カリキ					2				
1 L	保育内容総					2				
1 L		導法 (健康)				2				
	保育内容指		関係)			2				
1 L	保育内容指					2				
		導法 (言葉)				2				
ど		導法(表現)				2				
t	教育の方法					2				
教	幼児と健康						1			
育	幼児と人間						1			
科	幼児と環境						1			
月月	幼児と言葉						1			
	幼児と表現						1			
	幼児音楽A						1			
	幼児音楽B						1			
	幼児音楽C						1			
	幼児音楽D						1			

		(I let vil. et .			1	1	i
	I ⊦	幼児造形A		1		1	
		幼児造形B		1			
		幼児体育A		1			
		幼児体育B		1		]	
		児童文化		2			
		子どもの保健		2		1	
		子どもの健康と安全		1		1	
		子どもの食と栄養		2		1	
		障害児保育		2			
専		乳児保育 I		2		1	
門	l	乳児保育Ⅱ		1		-	必修単位を含み
教	l h	教育相談		1		1	94単位以上を
育	l -	子育で支援	1	1		1	修得のこと。
科	l	- 丁育(又佐 海外の保育	1	2		-	1917000000
目	$\vdash$		0	۷		4	
	l	多文化共生研究	2			_	
	l l	地域研究I	2				
	l	地域研究Ⅱ		2			
	l L	地域研究Ⅲ		2		ここから2単位	
		地域研究IV		2		選択必修	
		地域研究V		2		送扒犯修	
	玉	地域研究VI		2		1	
	際	ことばのメカニズム	2				
	教	Teaching English for Children		2			
	養	チームビルディング実践		2		1	
	科	Study Abroad Preparation	1			-	
	l 🗑 F	Basic Communication in English I	1			1	
	I	Basic Communication in English II				-	
	l F		1			-	
	I ⊦	Intermediate Communication in English I	1			-	
	l	Intermediate Communication in English II	1				
	l l	海外語学研修	5			1	
	I	海外保育留学	10				
		国際教養総論	2				
		教育実習入門	1				
		教育実習 I		2			
		教育実習Ⅱ		2		1	
		教育実習指導 I		1		1	
	l	教育実習指導 <b>I</b>		1			
	l	教職実践演習(幼)		2		1	
	l l	保育実践演習		2			
	実習	保育実習 I (保育所)		2		-	
	뀥 -	保育実習 I (施設)		2		-	
	科 -					4	
	目 -	保育実習Ⅱ 		2		-	
	l	保育実習Ⅲ		2			
		保育実習指導I(保育所)		1			
	l	保育実習指導I(施設)		1		]	
		保育実習指導Ⅱ		1			
		保育実習指導Ⅲ		1			
	ΙГ	海外保育フィールド・スタディ	2			1	
	l l	海外幼児教育インターンシップ		2		1	
		総合演習A	1		1	1	
	演	総合演習B	1			1	
	뀥 -	卒業研究演習 I	1			1	
	科 -	— 午美切九萬百 I 卒業研究演習 II	1			1	
	目 -			1		-	
		卒業研究	2				

区分	授業科目名		単位		備	考
ロル ロー		必修	選択	自由	"VĦ	<i>-</i>
	ライフコース論		2		2単位以上選択	
	ジェンダー論		2		必修	
	自分と家族		2		2119	
	芸術の世界		2		2単位以上選択	
	文学の世界		2			
	心の探求		2		必修	
+//-	生き方の探求		2			
教	生活と経済		2		0))( H-D1   D22   E1	1
養	地域社会		2		2単位以上選択	
科	人間と歴史		2		必修	
目	異文化理解		2			1
	日本の文化		2		2単位以上選択	
	国際関係論		2		必修	
	グローバル社会と宗教		2			
<b> </b>	環境の科学		2			ł
	食と生命の科学	+	2		2単位以上選択	
	生き物の社会				- 必修	
$\vdash$		-	2			-
-	スポーツ健康論		2		1単位以上選択	7
-	スポーツI		1		- 必修 - 1単位以上選択 - 必修	
-	スポーツⅡ		1			
1	統計学		2			
	社会調査法		2			
1 1	情報社会論		2			必修単位を含 26単位以上修 のこと。
	コンピュータ I		1		20119	
	コンピュータⅡ		1			
ΙГ	NGO • NPO論		2			
1	現代社会と企業		2		]	
1 1	地域協力演習		2			
	インターンシップ(国内)A		1		1単位以上選択 	
	インターンシップ (国内) B		2			
1 1	インターンシップ (海外) A※		1			
	インターンシップ (海外) B※		2			
1 H	インターンシップ(海外)C※		3			
	インターンシップ (海外) D※		4			
1 F	ボランティア(国内)		1			
基一						
礎 -	ボランティア(海外)		2			
科 -	海外英語資格実習		2			ł
目 -	ポルトガル語と文化I		1		-	
1 -	ポルトガル語と文化Ⅱ		1			
1 -	スペイン語と文化Ⅰ		1			
	スペイン語と文化Ⅱ		1			
-	フランス語と文化 I		1			
1 1	フランス語と文化Ⅱ		1			
1 L	中国語と文化 I		1		1言語2単位以上	
	中国語と文化Ⅱ		1		選択必修	
1 [	中国語と文化Ⅲ		1			
	中国語と文化IV		1		_	ĺ
	韓国語と文化 I		1			ĺ
	韓国語と文化Ⅱ		1		1	ĺ
	韓国語と文化Ⅲ		1		1	ĺ
-	韓国語と文化IV		1		1	ĺ
F	日本国憲法		2			1
	——日本国恩伍 海外研修A		2			
-	海外研修 B		4		1	ĺ
-	基礎演習I	4	4		-	ĺ
	本()使( <b>月</b> 百 <b>1</b>	1		1	I	I
H	基礎演習Ⅱ	1			1	

エクステンション科目 エクステンション科目については別に定める。 ※ インターンシップ (海外) として取得できる単位は卒業までに4単位を上限とする。

区分	授業科目名		単位		備	考
四刀	***************************************	必修	選択	自由	V⊞	~
	Grammar for Communication I	1				
	Grammar for Communication II	1				
	Speaking I		1			
	Speaking II		1			
	Writing for Communication I		1			
	Writing for Communication II		1			
	Reading I		1			
	Reading II		1		1	
	English Phonetics I	2			1	
	English Phonetics II	2				
	English Presentation I		1			
	English Presentation II		1		1	
	Communicative English I		1		1	
	Communicative English II		1		1	
	英語資格講座 IA		1			
	英語資格講座 IIA		1			
	英語資格講座 IB		1			
	英語資格講座 IIB		1			
	英語資格講座 IC		1		- 必修単位を含み	
1	英語資格講座 IIC		1			
玉	観光英語A		1			
際学	観光英語B		1			
基	日本語表現 I	1			40単位以上修得 のこと。	
磁	日本語表現Ⅱ	1			りこと。	
102	日本語表現Ⅲ	1			1	
	日本語表現IV	1			1	
	基礎ゼミナールI	1			1	
	基礎ゼミナールⅡ	1		1	1	
	サスティナブルな社会		2	1	1	
	日本のポピュラーカルチャー		2		1	
	アニメーション論		2	1	1	
	時事ニュース(国内) I		2	1	1	
	時事ニュース(外国)Ⅱ		2		- - -	
	アメリカ文学入門		2			
	イギリス文学入門		2			
	楽しい古典芸能		2		1	
	キャリアデザイン I		2		1	
	************************************		2		1	

, ,		\ <u> </u>	1	1 .	1	1	, ,
		海外語学実習 I (英語圏) 海外語学実習 I (韓国語)		4			
		海外語学実習 I (中国語圏)		4			
		海外語学実習Ⅱ (英語圏)		4			
		海外語学実習 II (韓国語) 海外語学実習 II (中国語图)		4			
		海外語学実習 Ⅱ (中国語圏) 情報リテラシー I		2			
		情報リテラシーⅡ		2			
		ITスキル応用 I ITスキル応用 II		1		-	
		データーサイエンス基礎		2			
		コンテンツ制作		2			
		中国語検定対策		2			
		中国語リスニング&スピーキング 中国語リーディング&ライティング		2 2		-	
		日中交流史		2			
	玉	ビジネス環境とマーケティング		2			
		学校文化と英語学習 Advanced Writing I		2 2			
		Advanced Writing II		2			
	報	Business English		2			
		Communicative English III		1		-	
	-	Communicative English IV 英語翻訳・通訳		2		-	
		Speech & Presentation		1			
		British Studies		2			
専		American Studies Theory of English Structure		2 2		-	
門門		American Literature		2		1	沙 依出 片土 今ヶ
教		British Literature		2			必修単位を含み 98単位以上修得
育科		International Relations		2		-	のこと。
目		Study Abroard Preparation A Study Abroard Preparation B		1		1	
		多文化社会論		2		1	
		日本語概論		2			
		日本語教育概論 I 日本語教育概論 II		2 2		-	
		日英語比較 I		2		1	
		日英語比較Ⅱ		2			
	日	社会と言語		2			
	本語	日本語教育法 I 日本語教育法 II		2 2			
	教	言語学		2			
	育	応用言語学		2			
	専攻	日本語教育演習 I 日本語教育演習 II		2 2		-	
		学校教育インターンシップ		2		•	
		国内日本語教育インターンシップ		2			
		海外日本語教育インターンシップA		2			
		海外日本語教育インターンシップB 日本語教育ボランティアA		2		必修単位、メ ジャー専攻30単	
		日本語教育ボランティアA 日本語教育ボランティアB		4		位、マイナー専	
		韓国語表現文法		2		攻20単位を含み	
		韓国語リスニング&スピーキング 韓国語リーディング&ライティング		2 2		58 単位以上修 得のこと。	
		韓国語コミュニケーション		2		14.5000	
		韓国語プレゼンテーション		2			
		韓国語映像翻訳		2			
		ビジネス韓国語 韓国事情		2 2		-	
		韓国サブカルチャー		2			
		韓国現代文学		2			
	韓国	日韓対照言語学韓国の歴史		2 2		-	
		韓国伝統文化と思想		2			
		日韓文化比較		2		]	
		韓国自由研究		2			
		韓国インターンシップ 韓国留学準備講座A		2 2		1	
		韓国留学準備講座B		2		]	
		検定韓国語初級A		1			
		検定韓国語中級A 检定韓国語上級A		1		-	
		検定韓国語上級A 検定韓国語初級B		1		1	
		検定韓国語中級B		1		]	
		検定韓国語上級B		1			
		観光学概論 観光と文化		2 2		-	
		観光ホスピタリティ		2		1	
		観光政策論		2		]	
		観光インターンシップ 観光と地理		2 2	<u> </u>		
		観光と地理 エアライン講座		2		1	
	観光	旅行産業論	<u>L</u> _	2		1	
	光 専	宿泊産業論		2		]	
	攻	交通産業論 細光マーケティング		2			
		観光マーケティング 観光とソーシャルメディア		2 2		1	
		祭と文化		2		]	
		観光まちづくり論		2		]	
		地域ブランディング論		2			
		観光と社会 地域フィールドワーク		2 2		1	
	ゼ	専門ゼミナール I	1			]	
	無ミ	専門ゼミナールⅡ	1				
	究 卒	専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ	1			-	
1 1	業	卒業研究	4	<del> </del>	1	1	
	未	十未勿九	- 4				

## 資格取得に関する課程(自由科目)

区分	授業科目名		単位		備考
<b>△</b> 万		必修	選択	自由	1佣
	教職入門			2	
	教育原理			2	
	学習心理学			2	
	道徳教育の指導法			2	
	生徒・進路指導論			2	
	特別支援基礎論			1	
	教育方法・技術論(ICT活用含む)			2	
	教育相談			2	
自	教育行政・制度論			2	
由	特別活動・総合的な学習の時間の指導法			2	
科	教育課程論			2	
目	英語科教育法 I			2	
	英語科教育法Ⅱ			2	
	英語科教育法Ⅲ			2	
	英語科教育法IV			2	
	教職実践演習 I (中・高)			1	
	教職実践演習Ⅱ(中・高)			1	
	教育実習指導			1	
	教育実習 I			4	
	教育実習Ⅱ			2	

# ·保育学部 保育学科

幼稚園教諭一種免許

科	<b>I</b>	区	分	授業科目名	単	位	備考	
1T	Н	<u> </u>			必修	選択	tin 🗁	
				幼児と健康	1			
	石はけた明十、	マ宙服がす	<b>学⊤</b> 否	幼児と人間関係	1		-	
	領域に関する	の母門的手	争垻	幼児と環境   幼児と言葉	1		-	
領域及び				幼児と表現	1		-	
保育内容 の指導法				保育内容総論	2		1	
に関する				保育内容指導法(健康)	2			
科目	保存内容のは	<b>岩道法</b> (標	青報機器及び	保育内容指導法(人間関係)	2			
	教材の活用を		月 平区10支有67人 〇	保育内容指導法(環境)	2		-	
				保育内容指導法(言葉)	2			
				保育内容指導法(表現)	2		•	
	教育の理念 史及び思想	並びに教育	育に関する歴	教育原理	2			
教育の基 礎的理解 に関する 科目			)役割・職務 さへの対応を	保育者論	2			
	教育に関する 経営的事項 及び学校安全	(学校と出	制度的又は 地域との連携 ぶを含む。)	教育制度	2			
	幼児、児童 及び学習のi		の必身の発達	教育心理学	2			
	特別の支援を 童及び生徒に		「る幼児、児 理解	特別支援基礎論	1			
	教育課程の (カリキュラ 含む。)		扁成の方法 ベジメントを	保育カリキュラム論	2			
道徳、総 合的な学 習の時間 等の指導	教育の方法』び教材の活見			教育の方法	2			
寺の指導 法及び生 徒指導、	幼児理解の理	理論及びた	7法	子ども理解の理論と方法	2			
教育相談 等に関す る科目	教育相談() る基礎的な 及び方法		リングに関す 」。) の理論	教育相談A	1			
				教育実習指導 I	1			
教育実践	教育実習			教育実習指導Ⅱ	1			
に関する	秋月天日			教育実習 I	1			
科目	lat with a transfer of			教育実習Ⅱ	3			
	教職実践演	[習		教職実践演習(幼・小)	2			
				発達心理学	2			
				保幼小連携基礎論		1		
				保幼小連携総論		1	「大学が独自に設定する科	
				幼児音楽 I A		1	- 目」と最低修得単位を超えて 履修した「領域及び保育内容	
				幼児音楽 I B		1	の指導法に関する科目」又は	
大学が独	自に設定する	利日		幼児音楽Ⅱ		1	「教育の基礎的理解に関する 科目」「道徳、総合的な学習	
八十四里	ロに以近りる	717 [7]					の時間等の指導法及び生徒指	
				幼児音楽Ⅲ		1	導、教育相談等に関する科	
				幼児体育 I		1	目」「教育実践に関する科	
							- 目」について、併せて14単位 以上修得のこと。	
				幼児造形 I		1		
				幼児造形 I 幼児造形 II		1		

# 小学校教諭一種免許

7 7 10 10 101	ì一種免許				***	,,	
科	目	区 分	ì	授業科目名	単 必修	位 選択	備考
				国語	1		
				社会	1		
				算数 理科	1		
	*/ */	~		生活	1		
	教科に関する	る専門的事項		音楽	1		
				図画工作	1		
				家庭	1		
教科及び 教科の指				体育 英語	1		
教件の指導法に関				国語科教育法	2		
する科目				社会科教育法	2		
				算数科教育法	2		
	各教科の指導法(情報通信技術の 活用を含む。)			理科教育法	2		
				生活科教育法 音楽科教育法	2		
				図画工作科教育法	2		
				家庭科教育法	2		
				体育科教育法	2		
				英語科教育法	2		
	教育の理念 史及び思想	並びに教育に関	する歴	教育原理	2		
	教職の意義及び教員の役割・職務 内容 (チーム学校運営への対応を 含む。)			教育職論	2		
	教育に関する社会的、制度的又は 経営的事項(学校と地域との連携 及び学校安全への対応を含む。)			教育制度	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達 及び学習の過程			教育心理学	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児 童及び生徒に対する理解			特別支援基礎論	1		
		意義及び編成の ラム・マネジメ		教育課程論	2		
	道徳の理論及	及び指導法		道徳教育の指導法	2		
	総合的な学習の時間の指導法			特別活動・総合的な学習の時間の指			
道徳、総	特別活動の打	指導法		導法	2		
合的な学 習の時間	教育の方法及	及び技術		教育の方法	2		
等の指導 法及び生 徒指導、	情報通信技術 論及び方法	<b>術を活用した教</b>	育の理	ICT活用の理論と実践	1		
教育相談等に関す	生徒指導の理	理論及び方法					
る科目	進路指導及で 及び方法	びキャリア教育	の理論	生徒・進路指導論	2		
		カウンセリング 印識を含む。)		教育相談A	1		
	及び方法	中國で 日 口。 /	マン5王 1冊	教育相談B	1		
	教育実習			教育実習指導Ⅲ	1		
教育実践 に関する				教育実習Ⅲ	3		
に関する 科目	学校体験活	動		学校インターンシップ指導	1		
	教職実践演	習		教職実践演習(幼・小)	2		
				発達心理学		2	「大学が独自に設定する
1 04	<i>t</i>			保幼小連携基礎論		1	科目」と最低修得単位を超 えて履修した「教育の基礎
大学が独り	自に設定する	科目		保幼小連携総論		1	的理解に関する科目」「教育実践に関する科目」につ
							いて、併せて2単位以上修 得のこと。

# 備考

1 幼稚園教諭1種免許状及び小学校教諭1種免許状の授与を受けようとする者は、教育職員免許法に掲げる科目のほか、同法施行規則の定めるところにより下記の科目を履修し所定の単位を修得しなければならない。

科 目 区 分	授業科目名	単	位	備考
	及火打口气	必修	選択	ν <b>т</b> 3
日本国憲法	日本国憲法	2		
	スポーツ健康論	2		
体育	スポーツ I		1	1単位以上選択必修
	スポーツⅡ		1	1年位以上選択必修
外国語コミュニケーション	総合英語 I	1		
	総合英語Ⅱ	1		
数理、データ活用及び人工知能に関する科目	コンピュータ I	1	·	
又は情報機器の操作	コンピュータⅡ	1		

2 小学校教諭 1 種免許状の授与を受けようとする者は、小中免許特例法の定めるところにより「介護等の体験」を行わなければならない。

特別支援学校教諭1種免許(知的障害者、肢体不自由者、病弱者)

科	目	区分	授業科目名	単	位	備考
			X X 11 11 11	必修	選択	VIII 3
特別支援	後教育の基礎理論	<b>論に関する科目</b>	特別支援教育論	2		
	心身に障害のある	る幼児、児童又は	知的障害児の心理・生理・病理	2		
		理及び病理に関す	肢体不自由児の心理・生理・病理	2		
特別支援 教育領域 に関する	る科目		病弱児の心理・生理・病理	2		
			知的障害教育論 I	2		
		る幼児、児童又は	知的障害教育論Ⅱ	2		
		及び指導法に関す	肢体不自由教育論 I	2		
	る科目		肢体不自由教育論Ⅱ	2		
科目			病弱教育論	2		
	は生徒の心理、なする科目・心身に障害のは生徒の教育課	ある幼児、児童又 生理及び病理に関 ある幼児、児童又 程及び指導法に関				
	する科目	マ仏田 旧辛マは				
		る幼児、児童又は 理及び病理に関す	視覚障害児の心理・生理・病理	1		
	る科目	生人 5 州 生 1 民 7	聴覚障害児の心理・生理・病理	1		
免許状に 定められる		る幼児、児童又は 及び指導法に関す	視覚障害教育論	1		
こととなる 特別支援教	る科目	及び指导伝に関す	聴覚障害教育論	1		
育領域以外	は生徒の心理、	ある幼児、児童又 生理及び病理に関	発達障害の理解	1		
		ある幼児、児童又 程及び指導法に関	重複障害等教育論	1		
心身に障害	Fのある幼児、児i	童又は生徒につい	教育実習指導IV	1		
ての教育実	(習		教育実習IV	2		

# ・保育学部 国際教養こども学科 幼稚園教諭一種免許

科	目	区	分	授業科目	名 単		備考				
. '		•			必修	選択	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •				
				幼児と健康	1		-				
	領域に関す	ス 声 田 仏 車	11百	幼児と人間関係 幼児と環境	1		_				
	関域に関り	の台口的手	10000000000000000000000000000000000000	幼児と環境   幼児と言葉	1		-				
領域及び				幼児と言葉   幼児と表現	1		1				
保育内容 の指導法				保育内容総論	2		+				
に関する				保育内容指導法(健康)	2		1				
科目	促去内容の	<b>烂道法</b> (標	青報機器及び	保育内容指導法(人間関係)	2						
	教材の活用		月 平区10支46 /文 U、	保育内容指導法(環境)	2						
	2017	C		保育内容指導法(言葉)	2		-				
				保育内容指導法(表現)	2						
	教育の理念 史及び思想		育に関する歴	教育原理	2						
			O役割・職務 営への対応を	保育者論	2						
教育の基 遊的理解 に関する ・ 科目	教育に関す 経営的事項 及び学校安	(学校とサ	制度的又は 地域との連携 なを含む。)	教育制度	2						
	幼児、児童 及び学習の		の心身の発達	教育心理学	2						
	特別の支援 童及び生徒		ドる幼児、児 理解	特別支援基礎論	1						
	教育課程の (カリキュ 含む。)		扁成の方法 ネジメントを	保育カリキュラム論	2						
道徳、総 合的な学 習の時間	教育の方法 び教材の活		(情報機器及 )	教育の方法	2						
等の指導 法及び生 徒指導、	幼児理解の	理論及び力	方法	子ども理解の理論と方法	2						
教育相談 等に関す る科目			リングに関する。)の理論	教育相談	1						
				教育実習指導 I	1		]				
教育実践	教育実習			教育実習指導Ⅱ	1		_				
に関する	<b>4</b> 人日			教育実習 I	2						
科目				教育実習Ⅱ	2		1				
	教職実践演	選		教職実践演習(幼)	2						
				発達心理学	2		「大学が独自に設定する科				
				教育実習入門	1		目」と最低修得単位を超え て履修した「領域及び保育				
				児童文化		2	内容の指導法に関する科				
				多文化共生研究		2	目」又は「教育の基礎的理				
大学が独り	自に設定する	5科目		幼児音楽A		1	解に関する科目」「道徳、				
4 /7 9441				幼児音楽B		1	総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相				
				幼児造形A		1	導伝及い生使指導、教育作   談等に関する科目」「教育				
				幼児造形B		1	実践に関する科目」につい				
				幼児体育A		1	て、併せて14単位以上を修				
				幼児体育B		1	得				

# 備考

1 幼稚園教諭1種免許状の授与を受けようとする者は、教育職員免許法に掲げる科目のほか、同法施行規則の定めるところにより 下記の科目を履修し所定の単位を修得しなければならない。

科 目 区 分	授業科目名	単	位	備考
	12 来 村 日 石	必修	選択	VIII ~
日本国憲法	日本国憲法	2		
	スポーツ健康論	2		
体育	スポーツ I		1	1単位以上選択必修
	スポーツⅡ		1	1年位以上選択必修
外国語コミュニケーション	総合英語 I	1		
外国品コミューグ・フョン	総合英語Ⅱ	1		
数理、データ活用及び人工知能に関する科目	コンピュータ I	1		
又は情報機器の操作	コンピュータⅡ	1		

中学校教諭一種免許(英語)。高等学校教諭一種免許(英語)

数科に関する専門的事項 新教科の指導) を対象のででは、 なでででででである。 なででである。 なででである。 なででは、 なでである。 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なでは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なでででは、 なでででは、 なでででは、 なでででは、 なでででは、 なでででででででは、 なでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	教育に関する歴	English Phonetics I English Phonetics II Theory of English Structure 応用言語学 イギリス文学入門 アメリカ文学入門 American Literature British Literature Speaking I Speaking II Communicative English I Communicative English III Communicative English IIII Communicative English IV 多文化社会論 American Studies British Studies British Studies 英語科教育法 I 英語科教育法 II 英語科教育法 II 英語科教育法 IV 教育原理	必修       2       2       2       2       2       1       1       1       1       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2	選択 2 2 2 2 2 2 2 2	中免は「教科及び教科の指導法に関する科目」の選択 科目のうち、4単位以上を 修得				
数科に関する専門的事項 新教科の指導) を対象のででは、 なでででででである。 なででである。 なででである。 なででは、 なでである。 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なでは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なででは、 なでででは、 なでででは、 なでででは、 なでででは、 なでででは、 なでででででででは、 なでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	英語文学 英語文学 コション 異文化理解 情報通信技術の 教育に関する歴 員の役割・職務	Theory of English Structure 応用言語学 イギリス文学入門 アメリカ文学入門 American Literature British Literature Speaking I Speaking II Communicative English I Communicative English II Communicative English III Communicative English IV 多文化社会論 American Studies British Studies British Studies 英語科教育法 I 英語科教育法 II 英語科教育法 II 英語科教育法 II 英語科教育法 IV	2 2 2 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2	2 2 2	導法に関する科目」の選択 科目のうち、4単位以上を				
数科に関する専門的事項 系教科の指導法( を開を含む。) 対育の理念並びに 対限の意義及び教 対限の意義と 対限の意義と 対限の意義と 対限の意義と 対限の意義と 対限の意を 対限で、) 対容に関する社会	英語コミュニ ケーション 異文化理解 情報通信技術の 教育に関する歴 員の役割・職務	応用言語学 イギリス文学入門 アメリカ文学入門 American Literature British Literature British Literature Speaking I Speaking II Communicative English I Communicative English II Communicative English III Communicative English IV 多文化社会論 American Studies British Studies British Studies 英語科教育法 I 英語科教育法 II 英語科教育法 II 英語科教育法 II 英語科教育法 IV	2 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2	2 2 2	導法に関する科目」の選択 科目のうち、4単位以上を				
数科に関する専門的事項 系教科の指導法( を開を含む。) 対育の理念並びに 対限の意義及び教 対限の意義と 対限の意義と 対限の意義と 対限の意義と 対限の意義と 対限の意を 対限で、) 対容に関する社会	英語コミュニ ケーション 異文化理解 情報通信技術の 教育に関する歴 員の役割・職務	イギリス文学入門 アメリカ文学入門 American Literature British Literature Speaking I Speaking II Communicative English I Communicative English III Communicative English III Communicative English IV 多文化社会論 American Studies British Studies 英語科教育法 I 英語科教育法 II 英語科教育法 II 英語科教育法 II 英語科教育法 II 英語科教育法 IV	2 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2	2 2 2	導法に関する科目」の選択 科目のうち、4単位以上を				
数科に関する専門的事項 系教科の指導法( を開を含む。) 対育の理念並びに 対限の意義及び教 対限の意義と 対限の意義と 対限の意義と 対限の意義と 対限の意義と 対限の意を 対限で、) 対容に関する社会	英語コミュニ ケーション 異文化理解 情報通信技術の 教育に関する歴 員の役割・職務	American Literature British Literature Speaking I Speaking II Communicative English I Communicative English II Communicative English III Communicative English IV 多文化社会論 American Studies British Studies British Studies 英語科教育法 I 英語科教育法 II 英語科教育法 II 英語科教育法 II 英語科教育法 IV	1 1 1 1 1 1 2 2 2 2	2	導法に関する科目」の選択 科目のうち、4単位以上を				
数科に関する専門的事項 系教科の指導法( を開を含む。) 対育の理念並びに 対限の意義及び教 対限の意義と 対限の意義と 対限の意義と 対限の意義と 対限の意義と 対限の意を 対限で、) 対容に関する社会	英語コミュニ ケーション 異文化理解 情報通信技術の 教育に関する歴 員の役割・職務	British Literature Speaking I Speaking II Communicative English I Communicative English II Communicative English III Communicative English IV 多文化社会論 American Studies British Studies 英語科教育法 I 英語科教育法 II 英語科教育法 II 英語科教育法 II	1 1 1 1 2 2 2 2	2	導法に関する科目」の選択 科目のうち、4単位以上を				
目的事項 ・教科の指導法( を有の理念並びに を放び思想 な職の意義及び教 なならく。) な育に関する社会	ケーション 異文化理解 情報通信技術の 教育に関する歴 員の役割・職務	Speaking I Speaking II Communicative English I Communicative English II Communicative English III Communicative English IV 多文化社会論 American Studies British Studies 英語科教育法 I 英語科教育法 II 英語科教育法 II 英語科教育法 II 英語科教育法 II 英語科教育法 II	1 1 1 1 2 2 2 2	2	導法に関する科目」の選択 科目のうち、4単位以上を				
系教科の指導法( 括用を含む。) 対育の理念並びに 対職の意義及び教 対容(チーム学校 なむ。) 対育に関する社会	ケーション 異文化理解 情報通信技術の 教育に関する歴 員の役割・職務	Speaking II Communicative English I Communicative English II Communicative English III Communicative English IV 多文化社会論 American Studies British Studies 英語科教育法 I 英語科教育法 II 英語科教育法 III 英語科教育法 III 英語科教育法 III	1 1 1 1 2 2 2 2		導法に関する科目」の選択 科目のうち、4単位以上を				
条教科の指導法( を	ケーション 異文化理解 情報通信技術の 教育に関する歴 員の役割・職務	Communicative English II Communicative English III Communicative English IV 多文化社会論 American Studies British Studies 英語科教育法 II 英語科教育法 II 英語科教育法 II 英語科教育法 II 英語科教育法 II 英語科教育法 II 英語科教育法 II	1 1 2 2 2 2 2		科目のうち、4単位以上を				
系教科の指導法( 活用を含む。) 対育の理念並びに 対職の意義及び教 対容(チーム学校: なむ。) 対育に関する社会	異文化理解 情報通信技術の 教育に関する歴 員の役割・職務	Communicative English III Communicative English IV 多文化社会論 American Studies British Studies 英語科教育法 I 英語科教育法 II 英語科教育法 II 英語科教育法 II 英語科教育法 II 英語科教育法 II	1 1 2 2 2 2 2						
系教科の指導法( 活用を含む。) 対育の理念並びに 対職の意義及び教 対容(チーム学校: なむ。) 対育に関する社会	情報通信技術の教育に関する歴	Communicative English IV 多文化社会論 American Studies British Studies 英語科教育法 I 英語科教育法 II 英語科教育法 III 英語科教育法 III 英語科教育法 III	1 2 2 2 2 2						
系教科の指導法( 活用を含む。) 対育の理念並びに 対職の意義及び教 対容(チーム学校: なむ。) 対育に関する社会	情報通信技術の教育に関する歴	多文化社会論 American Studies British Studies 英語科教育法 I 英語科教育法 II 英語科教育法 III 英語科教育法 III 英語科教育法 III	2 2 2 2						
系教科の指導法( 活用を含む。) 対育の理念並びに 対職の意義及び教 対容(チーム学校: なむ。) 対育に関する社会	情報通信技術の教育に関する歴	British Studies 英語科教育法 I 英語科教育法 II 英語科教育法 III 英語科教育法 III	2 2						
活用を含む。) 対育の理念並びに ででである。) 対職の意義及び教 でで、チーム学校に なな。) 対容に関する社会	教育に関する歴	英語科教育法 I 英語科教育法 II 英語科教育法 III 英語科教育法 IV	2 2	2					
活用を含む。) 対育の理念並びに ででである。) 対職の意義及び教 でで、チーム学校に なな。) 対容に関する社会	教育に関する歴	英語科教育法Ⅲ 英語科教育法Ⅲ 英語科教育法Ⅳ	2 2						
活用を含む。) 対育の理念並びに ででである。) 対職の意義及び教 でで、チーム学校に なな。) 対容に関する社会	教育に関する歴	英語科教育法Ⅲ 英語科教育法Ⅳ	2						
で表が思想 対職の意義及び教 対容(チーム学校: はむ。) 対育に関する社会:	員の役割・職務		2		1				
で表が思想 対職の意義及び教 対容(チーム学校: はむ。) 対育に関する社会:	員の役割・職務	教育原理							
7容(チーム学校: なむ。)  女育に関する社会!			2						
さむ。)  女育に関する社会	1里 呂・ヘリノ かしがっか	教職入門	2						
女育に関する社会		2A1947 VI J							
	と地域との連携	教育行政・制度論	2						
カ児、児童及び生 なび学習の過程	徒の心身の発達	学習心理学	2						
特別の支援を必要 賃及び生徒に対す	とする幼児、児 る理解	特別支援基礎論	1						
		教育課程論	2						
道徳の理論及び指	導法	道徳教育の指導法	2		「道徳教育の指導法」は中 免取得の場合のみ必修				
総合的な学習(探 算法	究)の時間の指	特別活動・総合的な学習の時間の指	2						
特別活動の指導法		導法							
女育の方法及び技	術	教育方法・技術論(ICT活用含む)	2						
情報通信技術を活 論及び方法	用した教育の理								
<b>E徒指導の理論及</b>	び方法	生徒・進路指導論	2						
基路指導及びキャ とび方法	リア教育の理論								
		教育相談	2						
		教育実習指導	1		. I . An Mal				
教育実習 教職実践演習					中免は教育実習Ⅰ、高免は 教育実習ⅠまたはⅡを履修				
			1	4	ションロエダには出て限制				
首 		教職実践演習Ⅱ (中・高)	1						
に設定する科目		学校教育インターンシップ学校文化と英語学習		2 2	「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目等」について、中学校教諭1種免許は4単位以上、高等学校教諭1種免許は12単位以上を併せて修得				
を一力を一芋金一女(宮一 鱼 一 窓拿一 芋 一 女 一 手侖 一 三 一 重 を 一 女 う を 一 一 習 一	び 児び 別及 育力む 徳 合法 別 育 報及 徒 路び 育基び た いっぱ いっぱ いっぱ いっぱ いっぱ で いっぱ いっぱ いっぱ いっぱ いっぱ いっぱ いっぱ いっぱ いっぱ いっぱ	別の支援を必要とする幼児、児 及び生徒に対する理解 育課程の意義及び編成の方法 カリキュラム・マネジメントを む。) 徳の理論及び指導法 合的な学習(探究)の時間の指 法 別活動の指導法 育の方法及び技術 報通信技術を活用した教育の理 及び方法 徒指導の理論及び方法 路指方法 路指方法 育相談(カウンセリングに関す 基礎的な知識を含む。)の理論 び方法	び学校安全への対応を含む。)  児、児童及び生徒の心身の発達 び学習の過程 別の支援を必要とする幼児、児 及び生徒に対する理解 育課程の意義及び編成の方法 カリキュラム・マネジメントを む。) 徳の理論及び指導法 合的な学習(探究)の時間の指 法 別活動の指導法 育の方法及び技術 報通信技術を活用した教育の理 及び方法 徒指導の理論及び方法 を指導の理論及び方法 を指導及びキャリア教育の理論 び方法 路指導及びキャリア教育の理論 び方法 数育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教育ま習 I 教育ま習 I 教育ま習 I 教育ま習 I 教育ま習 I 教育ま習 I 教育ま習 I 教育ま習 I 教育ま習 I 教育ま習 I 教育ま習 I 教育ま習 I 教育ま習 I 教育ま習 I 教育を表現すどと英語学習	び学校安全への対応を含む。)       2         児、児童及び生徒の心身の発達 び学習の過程       学習心理学       2         別の支援を必要とする幼児、児及び生徒に対する理解 育課程の意義及び編成の方法 カリキュラム・マネジメントを む。)       特別支援基礎論       1         徳の理論及び指導法       道徳教育の指導法       2         合的な学習(探究)の時間の指 法       準別活動・総合的な学習の時間の指 導法       2         別活動の指導法       教育方法・技術論(ICT活用含む)       2         製通信技術を活用した教育の理及び方法       生徒・進路指導論       2         経指導及びキャリア教育の理論 び方法       生徒・進路指導論       2         育相談(カウンセリングに関す基礎的な知識を含む。)の理論 び方法       教育相談 教育相談 教育実習 I 教育実習 I 教育実習 I 教職実践演習 I (中・高) 学校教育インターンシップ 学校文化と英語学習       1	び学校安全への対応を含む。)         学習心理学         2           児、児童及び生徒の心身の発達 び学習の過程         学習心理学         2           別の支援を必要とする幼児、児及び生徒に対する理解 育課程の意義及び編成の方法 カリキュラム・マネジメントを む。)         教育課程論         2           徳の理論及び指導法         道徳教育の指導法         2           合的な学習(探究)の時間の指 法 別活動の指導法         特別活動・総合的な学習の時間の指 導法         2           朝道信技術を活用した教育の理 及び方法         教育方法・技術論(ICT活用含む)         2           軽指導及びキャリア教育の理論 び方法         生徒・進路指導論         2           整指導及びキャリア教育の理論 び方法         教育実習I 教育実習I         2           教育実習I 教育実習I         2           教職実践演習I(中・高) 教職実践演習I(中・高) 学校教育インターンシップ 学校文化と英語学習         2				

# 備考

1 中学校教諭1種免許状及び高等学校教諭1種免許状の授与を受けようとする者は、教育職員免許法に掲げる科目のほか、同法施 行規則の定めるところにより下記の科目を履修し所定の単位を修得しなければならない。

科	I	区	分	授業科目名	単 必修	位 選択	備考
日本国憲法	=			日本国憲法	2		
				スポーツ健康論		2	2単位以上選択必修
体育				スポーツ I		1	
				スポーツⅡ		1	
外国語コミュミ	ーケーション			English Presentation I	1		
/作品的= (本	-) 117			English Presentation II	1		
		人工知能に関す	る科目	コンピュータ I	1		
又は情報機	器の操作			コンピュータⅡ	1		

区	15 14 11 F F	単	位	/+++ -+ <b>r</b>
分	授業科目名	必修	選択	備考
	ライフコース論		2	
	ジェンダー論		2	選択必修
	自分と家族		2	
	コンピュータI	1		
教	コンピュータⅡ	1		
養科	基礎演習 I 基礎演習 II	1		
目	総合英語 I	1		
	総合英語 II	1		
	スポーツ健康論	2		
	スポーツI		1	NB 10 3776
	スポーツⅡ		1	選択必修
	保育原理	2		
	教育原理	2		
	子ども家庭福祉	2		
	社会福祉	2		
	子ども家庭支援論	2		
	社会的養護 I	2		
	保育者論 発達心理学	2		
	発達心理学 子ども家庭支援の心理学	2 2		1
	子ども理解の理論と方法	2		
	子どもの保健	2		1
専	子どもの食と栄養I	2		1
	保育カリキュラム論	2		
	保育内容総論	2		
	保育内容指導法(健康)	1		
	保育内容指導法 (人間関係)	1		
	保育内容指導法 (環境)	1		
門	保育内容指導法(言葉)	1		
L.J	保育内容指導法(表現)	1		
	幼児と健康	1		
	幼児と人間関係 幼児と環境	1		
	幼児と言葉	1		
	幼児と表現	1		
	乳児保育 I	2		
教	乳児保育Ⅱ	1		
	子どもの健康と安全	1		
	障害児保育	2		
	社会的養護Ⅱ	1		
	子育て支援	1		
	保育実習 I (保育所)	2		
	保育実習I(施設)	2		
育	保育実習指導 I (保育所)	1		
	保育実習指導 I (施設)	1		
	保育実践演習 教育制度	2	2	
	教育心理学		2	1
	特別支援基礎論	1	1	1
	保幼小連携基礎論	1	1	1
科	保幼小連携総論		1	
''	保育内容指導法(健康)	1		
	保育内容指導法 (人間関係)	1		
	保育内容指導法 (環境)	1		
	保育内容指導法 (言葉)	1		
	保育内容指導法(表現)	1		この分野から9単位以上修得の こと
	幼児音楽IA	1	1	こと ただし、保育実習Ⅱ・保育実習
目	幼児音楽IB	1	1	指導Ⅱと保育実習Ⅲ・保育実習指
	幼児音楽Ⅱ 幼児辛楽Ⅲ		1	導Ⅲは、いずれかを選択必修とす
	幼児音楽Ⅲ 幼児造形 I	1	1	<u>.</u> る
	幼児造形Ⅱ		1	1
	幼児体育 I		1	
	児童文化	1	1	1
	子どもの食と栄養Ⅱ		2	
	保育実習Ⅱ		2	
	保育実習Ⅲ		2	
	保育実習指導Ⅱ		1	
1	保育実習指導Ⅲ	Ì	1	

区	授 業 科 目 名	単	位	備考
分	及太祖自有	必修	選択	nu
	ライフコース論		2	
	ジェンダー論		2	選択必修
	自分と家族		2	
	コンピュータ I	1		
教	コンピュータⅡ	1		
養	基礎演習 I	1		
科	基礎演習Ⅱ	1		7
目		1		-
_	総合英語I			_
	総合英語Ⅱ	1		<u>_</u>
	スポーツ健康論	2		
	スポーツ I		1	選択必修
	スポーツⅡ		1	200010
	保育原理	2		
	教育原理	2		
	子ども家庭福祉	2		
	社会福祉	2		
	子ども家庭支援論	2		7
				_
	社会的養護 I	2		
	保育者論	2		<u>_</u>
	発達心理学	2		4
	子ども家庭支援の心理学	2		
	子ども理解の理論と方法	2		
	子どもの保健	2		
専	子どもの食と栄養	2		
	保育カリキュラム論	2		
	保育内容総論	2		_
	保育内容指導法(健康)	1		-
				4
	保育内容指導法(人間関係)	1		4
	保育内容指導法(環境)	1		
門	保育内容指導法(言葉)	1		
	保育内容指導法 (表現)	1		
	幼児と健康	1		
	幼児と人間関係	1		
	幼児と環境	1		
	幼児と言葉	1		
	幼児と表現	1		-
教	乳児保育 I	2		-
	乳児保育Ⅱ	1		<u>_</u>
	子どもの健康と安全	1		
	障害児保育	2		
	社会的養護Ⅱ	1		
	子育て支援	1		
育	保育実習 I (保育所)	2		
H	保育実習 I (施設)	2	1	
	保育実習指導I(保育所)	1		†
	保育実習指導I(施設)	1		†
				-
	保育実践演習	2		<u> </u>
	教育制度		2	
ΣV	教育心理学		2	
科	海外の保育	2		
	特別支援基礎論		1	
	保育内容指導法(健康)	1		7
	保育内容指導法(人間関係)	1		
	保育内容指導法(環境)	1		†
				-
	保育内容指導法(言葉)	1		この分野から9単位以上修得の
目	保育内容指導法(表現)	1		こと
	幼児音楽A		1	ただし、保育実習Ⅱ・保育実習
	幼児音楽B		1	指導Ⅱと保育実習Ⅲ・保育実習打
	幼児造形A		1	導Ⅲは、いずれかを選択必修とす
	幼児造形B		1	<b>る</b>
	幼児体育A		1	1
	幼児体育B		1	†
		9	1	1
	児童文化	2	_	-
	保育実習Ⅱ		2	
	保育実習Ⅲ		2	4
	保育実習指導Ⅱ		1	
	保育実習指導Ⅲ		1	i .

# (別表第4)

# 国際学部 国際学科

#### 日本語教員養成課程

	<b>養</b> 以誅住			
	授業科目名	単	位	備考
	以水打 E 名	必修	選択	ν στυ τ
科教共	異文化理解		2	
目育通	日本の文化		2	
	多文化社会論	2		
	日本語概論	2		
	日本語教育概論 I	2		
	日本語教育概論Ⅱ	2		
	日英語比較 I		2	
	日英語比較Ⅱ		2	
	社会と言語	2		
専	日本語教育法 I	2		
門	日本語教育法Ⅱ	2		
判教育	言語学		2	
科目	応用言語学		2	
	日本語教育演習 I	2		
	日本語教育演習Ⅱ	2		「国内日本語教育インターンシッ プ」、「海外日本語教育インターン
	学校教育インターンシップ		2	シップA」、「海外日本語教育イン
	国内日本語教育インターンシップ		2	ターンシップB」のうち、いずれか1 科目を選択必修
	海外日本語教育インターンシップA		2	
	海外日本語教育インターンシップB		4	】 「日本語教育ボランティアA」、
	日本語教育ボランティアA		2	「日本語教育ボランティアB」のう
	日本語教育ボランティアB		4	ち、いずれか1科目を選択必修

#### 備老

1 この課程を修了する者は、必修科目及び選択必修科目を含み26単位以上を修得すること。

# (別表第5)

保育学部 保育学科・国際教養こども学科 国際学部 国際学科

(単位:円)

費				目	納付金額	備	考
入	学	検	定	料	35, 000		
入		学		金	200, 000		
授		業		料	744, 000	年	額
教	育	充	実	費	392,000	年	額
演	習	教	材	費	40,000	年	額
実		習		費	100, 000	年額、国際教 学科のみ	<b>枚養こ</b> ども

- (注) 1. 社会人入学制度によって入学した者の授業料及び教育充実費については、上表の半額とする。
  - 2. 外国人留学生入学制度によって入学した者の入学金、授業料、教育充実費、演習教材費及び 実習費については、及び演習教材費については、上表の半額とする。
  - 3. 同学園から入学した者の入学金は、上表の半額とする。
  - 4. 3年次編入学者の入学金は、上表の半額とする。 ただし、同学園及び外国の提携大学からの編入学者の入学金は、免除する。
  - 5. 再入学者の入学金は、免除する。
  - 6. 修業年限を超えた者の授業料等納付金については、別に定める。

# 桜花学園大学 履修規程

# 第 1 章 総 則

(準拠)

第1条 この規程は、学則第6章(教育課程及び履修方法等)、第7章(資格取得の課程)、 第8章(卒業等)に定める事項について、その細則を定める。

# 第 2 章 授業科目と単位

(授業科目)

第2条 授業科目は、保育学部においては共通教育科目及び専門教育科目とし、国際学部においては共通教育科目と専門教育科目とする。ただし、資格を得ようとする学生のために当該課程及び自由科目を置く。

#### (教職課程)

- 第3条 教職員免許状の所要資格を得ようとする学生のために、教職課程を置く。
  - 2 前項の資格を得ようとする学生は、教育職員免許法並びに同法施行規則の定めると ころに従い、教科及び教職に関する科目を履修し、必要単位を修得しなければならな い。

#### (保育士資格)

- 第4条 保育士資格をえようとする学生のために、保育学部に児童福祉法及び同法施行規 則並びに指定 保育士養成施設の指定及び運営の基準に定める教育課程を置く。
  - 2 前項の資格を得ようとする学生は、児童福祉法及び同法施行規則並びに指定保育 士養成施設の指定及び運営の基準の定めるところに従い、学則に定める科目を履修 しなければならない。

# (授業科目と単位数)

第5条 授業科目と単位数は、学則の定めるところによる。

#### (単位の計算方法)

- 第6条 各授業科目の単位は、次の各号の基準によるものとする。
  - (1)講義及び演習については、15時間から30時間までの授業時間をもって1単位とする。
  - (2) 実験、実習及び実技については、30 時間から45 時間までの授業時間をもって 1 単位とする。

- (3) 1の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は、実技のうち2以上の方法 の併用により行う場合については、前掲各号の組み合わせに応じ、別に定める時間をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文等の授業科目の単位については、学修の成果 を考慮して、本学において定める単位とする。

## 第 3 章 授業

#### (授業時間数)

第7条 授業開講期間は、前期及び後期に、それぞれ15週とする。

## (必修と選択)

第8条 授業は、各授業科目を必修科目と選択科目に分け、これを各年次に配当した教育 課程により行うものとする。

# 第 4 章 履修方法

## (卒業の要件及び在学年限)

第9条 学生は、4年以上在学し、次の各号に定めるところにより、合計 124 単位以上を 修得するものとする。 ただし、本学に在学し得る期間は8年間を限度とし、休学期 間は、在籍期間に算入しないもの とする。

## 保育学部:

- (1) 共通教育科目については、必修科目を含み30単位以上。
- (2) 専門教育科目については、必修科目を含み94単位以上。

#### 国際学部:

- (1) 共通教養科目については、必修科目を含み26単位以上。
- (2) 専門教育科目については、必修科目を含み98単位以上。

#### (履修)

第10条 所属学科以外の授業科目を履修する場合は、開講学科の許可のうえ履修することができる。

#### (履修登録)

- 第11条 選択科目を履修する場合は、履修登録をしなければならない。
  - 2 所属学科以外の学科の授業科目を履修する場合は、当該科目が必修科目であっても、履修登録をしなければならない。

## (履修登録期間)

第12条 履修登録期間は、各学期開始後2週間以内とする。

# 第 5 章 単位認定・成績

(単位の修得)

第13条 単位は、試験期間に行う試験に合格と判定された場合に修得できるものとする。

# (単位の認定)

第14条 単位修得の認定は、各授業担当の教員が行い、卒業単位の認定は、教授会が行 うものとする。

# (合格判定基準)

第15条 合否判定は、次の基準による。ただし、合否の判定のみが行われる科目では、 合格の場合の評価を「認」とする。

評定	評価	判定
秀	100 点~90 点	
優	89 点~80 点	合格
良	79 点~70 点	□恰
可	69 点~60 点	
不可	59 点~0 点	不合格

# (GPA)

- 第 16 条 総合的な学習到達度は、GPA (Grade Point Average 平均的成績指数)によって表す。GPA とは、各授業科目 5 段階の成績評価に対応して  $4\sim0$  のグレードポイント (以下「GP」という。) を付与して算出する 1 単位当たりのGP 平均値をいう。
  - 2 GPは、次のとおりとする

成績	G P
秀	4
優	3
良	2
可	1
不可	0

- 3 GPAの対象科目は、100点を満点として成績評価される全ての授業科目とする。
- 4 以下の科目については、GPA の対象から除く。
  - (1) 合格か不合格かだけを判定する授業科目
  - (2) 編入学又は転入学した際の単位認定科目
  - (3) 本学入学前に修得した単位認定科目
  - (4) 他大学等との単位互換等で修得した科目
  - (5) その他、各学部で定めた科目

#### (履修登録単位数の上限制度)

第17条 学生の適正な学修を支援に資するために、各学部において、必要に応じて、G PAに基づいた学期毎の履修単位数上限制度を制定することができるものとす る。

## (履修の取り消し)

- 第18条 一度履修登録した科目であっても、受講目的が達成されないなどの理由により 履修を取り消すことができる。
  - 2 履修の取り消しは、別に定める履修取り消し期間に行うことができる。 ただ し、履修取り消し期間内に手続を行なわない場合は、当初申請した履修科目が成 績評価の対象となる。
  - 3 前項の規定にかかわらず、病気・事故等やむを得ない事情による場合は、履修 取り消し期間以降においても履修を取り消すことができる。

#### (成績の通知)

第19条 認定された単位及び成績は、本人に通知するものとする。

# (成績の記録)

第20条 成績は、第15条の基準により学籍簿に記録する。

#### (追試験の成績及び評価)

第21条 追試験の成績及び評価は、第15条の基準による。

# (再試験の成績及び評価)

第22条 再試験の評価は、第15条の基準にかかわらず、合格の成績を可とする。

## (学業指導および退学勧告)

- 第23条 前期または後期の成績評価が決定した時点で、当該学期のGPAが1.0 未満の場合は、担当 教員による面接及び指導を行う。
  - 2 GPAが2期連続して 1.0 未満の場合は、保証人に通知するとともに、担当教 員が当該学生に 対する面接及び指導を行う。
  - 3 GPAが3期連続して 1.0 未満の場合は、学部長及び学科長が面接を行う。学 部長は、面接結 果を記した書面を学長に提出するものとする。
  - 4 学長は、前項の学生について、教授会の意見を聞き、必要と判断した場合は退学 勧告を行う。

# 第 6 章 試験

# (試験の実施時期)

第24条 試験は、当該科目の全ての授業が終了した後に行うものとする。 試験期間は、 大学暦に定めるものとする。

# (試験の方法)

第25条 試験の方法は、筆記、レポート、実技その他によるものとする。

# (受験資格)

- 第26条 次の各号の一に該当する場合は、受験資格を失う。
  - (1) 該当授業科目の欠課が授業時間数の 3 分の 1 を超えたとき
  - (2) 学納金が未納のとき
  - (3) 選択科目の履修登録がされていないとき

# (定期試験)

- 第27条 試験は、次の各号により行う。
  - (1) 試験時間は、原則として一授業科目 90 分または 45 分とする。
  - (2) 試験開始後 20 分を経過した入室は認めない。
  - (3) 試験開始後30分を経過するまで退室を認めない。
  - (4) 受験生は、学生証を所持しなければならない。

#### (追試験)

- 第28条 試験当日、次に掲げる事由により受験が不可能になった者は、願い出により、 追試験を受けることができる。
  - (1) 天災地変で当日出校不可能になったとき

- (2) 疾病のために受験が不可能となり、事前に届け出たとき
- (3) 就職試験のため受験が不可能となり、事前に届け出たとき
- (4) その他学長が認めたとき

#### (再試験)

第29条 試験において、不合格と判断された授業科目がある場合は、願い出により、再 試験を受けることができる。 ただし、試験において不正行為をした者又は答案を 提出せず試験を放棄した者は、再試験を受けられない。

## (追・再試験の実施)

第30条 追試験及び再試験は、大学が指定する日時及び方法により、1回に限り実施するものとする。

#### (不正行為)

第31条 試験中に不正行為を行った者は、教授会の議を経て措置するものとする。

#### (委任)

第32条 この規程の運用に関して必要な細目は、別に定める。

#### 附則

- この規程は、平成10年4月1日から施行する。
- この規程は、平成11年4月1日から施行する。
- この規程は、平成14年4月1日から施行する。
- この規程は、平成20年4月1日から施行する。
- この規程は、平成21年4月1日から施行する。
- この規程は、平成21年度入学者から適用し、現に在学する学生は、従前の規程を適用する。
- この規程は、平成24年4月1日から施行する。
- この規程は、平成28年4月1日から施行する。
- この規程は、平成29年4月1日から施行する。平成28年度4月入学者についてもこの規程 を適用する。
- この規程は、平成31年4月1日から施行し、第23条は平成31年度入学者から適用する。
- この改定規程(学部名の変更)は、令和6年4月1日から施行する。なお、学芸学部に在籍する学生については従前の規程による。

# 桜花学園大学保育学部 GPA 制度および履修登録単位数の上限制度に関する細則

(目的)

第 1 条 この細則は、桜花学園大学履修規程(第 17 条~18 条)に従い、桜花学園大学保育学部(以下「本学部」)におけるグレードポイントアベレージ(以下「GPA」という。)に基づく履修登録単位数上限制度について必要な事項を定め、学生の学習意欲を高めるとともに、厳格な成績評価と学生支援に資することを目的とする。

#### (定義)

- 第2条 「GPA」とは、各授業科目 5 段階の成績評価に対応して  $4 \sim 0$  のグレードポイント (以下「GP」という。)を付与して算出する 1 単位当たりの G P 平均値をいう。
  - 2 GPA 対象授業科目は、次の各号に掲げる授業科目とする。
    - (1)100点を満点として成績評価されるすべての授業科目
    - (2)本学部在学中に、他の学部及び大学において履修した授業科目又は外国の大学(短期大学を含む。)において学修した成果・履修した授業科目であって、本学における授業科目の履修により修得したものとみなされた授業科目であり、かつ第1号の要件を満たす授業科目
  - 3 成績評価が点数によらない以下の科目及び未入力又は保留の授業科目については、GPAの対象から除く。
    - (1) 合格か不合格かだけを判定する授業科目
    - (2)編入学又は転入学した際の単位認定科目
    - (3)本学入学前に修得した単位認定科目
    - (4)他大学等との単位互換等で修得した科目
    - (5)第5条に定める履修登録取消期間中に取り消した科目

(成績評価および GP)

第3条 保育学部の定める成績評価並びにGPは、次のとおりとする。

成績	GP
秀(AA)	4
優(A)	3
良 (B)	2
可 (C)	1
不可(F)	0
取消(W)	GP 対象外

# (GPA の種類及び計算方法)

- 第4条 GPA は、当該学期に履修した第2条第2項各号に定める GPA 対象科目について、学期 GPA 及び通算 GPA に区分し、各区分の定める方法により計算するものとし、計算値は小数点以下第2位を四捨五入して表記するものとする。
  - (1) 学期 GPA=(当該授業科目の GP×当該学期に履修登録した授業科目の単位数)の合計 / 当該学期の成績評価を受けた授業科目の単位数の合計
  - (2) 通算 GPA = (入学時からの当該授業科目の GP×履修登録した授業科目の単位数)の合計 / 入学時から成績評価を受けた授業科目の単位数の合計

(履修の取り消し)

- 第5条 一度履修登録した科目であっても、受講目的が達成されないなどの理由により履修を取り消すことができる。
  - 2 履修の取り消しは、各学期の授業開始後6週目の期間に行うことができる。ただし、履修取 り消し期間内に手続を行なわない場合は、当初申請した履修科目が成績評価の対象となる。
  - 3 前項の規定にかかわらず、病気・事故等やむを得ない事情による場合は、履修取り消し期 間以降においても履修を取り消すことができる。

# (履修登録単位数の上限)

- 第6条 本学部の学生が、各学期に履修登録できる単位数は、基礎教育科目と専門教育科目との 合計単位数で、標準履修単位数上限を30単位とし、前学期のGPAに基づいて、次のとおり とする。
  - (1) 前学期の学期 GPA が 3.0 以上の場合の上限単位数は 34
  - (2) 前学期の学期 GPA が 2.5~2.9 の場合の上限単位数は 32
  - (3) 前学期の学期 GPA が 1.5~2.4 の場合の上限単位数は 30
  - (4) 前学期の学期 GPA が 1.5 未満の場合の上限単位数は 26
  - (5) 新入学生、編入学生、再入学生の上限単位数は30
  - 2 卒業研究、学外実習科目、集中講義科目は履修登録上限制限に含まない。

#### (再履修等における授業科目の取扱い)

第7条 不合格(F)と判定され、後に再履修等によって合格となった場合は、新たな学習成績を その科目の成績とする。

#### (GPA の開示)

第8条 GPA の学生への開示は、学期 GPA 及び通算 GPA とする。

#### (GPA データの提供及び活用)

- 第9条 本学職員が、教育活動の改善等を目的として GPA データの提供を希望する場合は、本学部長に申し出るものとする。
  - 2 本学部長は、前項の申請理由が適当であると判断したときは、GPA に係る各種資料を提供するものとする。

## 附記

この細則は、平成25年度入学者から適用する。平成24年4月入学者については、平成24年4月1日からGPA制度を適用し、平成25年4月1日から履修登録単位数の上限制度を適用する。

# 桜花学園大学国際学部 GPA制度および履修登録単位数の上限制度に関する要項

(目的)

第1条 この要項は、桜花学園大学履修規程(第16条~17条)に従い、桜花学園大学国際学部(以下「本学部」)におけるグレードポイント(以下「GPA」という。)に基づく履修登録単位数上限制度について必要な事項を定め、学生の学習意欲を高めるとともに、厳格な成績評価と学生支援に資することを目的とする。

#### (定義)

- 第2条 「GPA」とは、各授業科目5段階の成績評価に対応して4~0のグレードポイント (以下「GP」という。)を付与して算出する1単位当たりのGP平均値をいう。
  - 2 GPA対象授業科目は、次の各号に掲げる授業科目とする。
    - (1) 100点を満点として成績評価されるすべての授業科目
    - (2) 本学部在学中に、他の学部及び大学において履修した授業科目又は外国の大学(短期大学を含む。)において学修した成果・履修した授業科目であって、本学における授業科目の履修により修得したものとみなされた授業科目であり、かつ第1号の要件を満たす授業科目
  - 3 成績評価が点数によらない以下の科目及び未入力又は保留の授業科目については、 GPAの対象から除く。
    - (1) 合格か不合格かだけを判定する授業科目
    - (2) 編入学又は転入学した際の単位認定科目
    - (3) 本学入学前に修得した単位認定科目
    - (4) 他大学等との単位互換等で修得した科目
    - (5) 第5条に定める履修登録取消期間中に取り消した科目
    - (6) 自由科目
    - (7) 必修の研修科目を除く学外実習・研修科目
    - (8) 未入力又は保留の授業
  - 4 教育実習、教育実習指導、教職実践演習の履修を希望する場合においての自由科目 の取り扱いについては、本学部教職免許取得に関わる教育実習等の履修に関する規則 に従う。

(成績評価およびGP)

第3条 国際学部の定める成績評価並びにGPは、次のとおりとする。

成績	GP
秀 (AA)	4
優 (A)	3
良 (B)	2
可 (C)	1
不可 (F)	0
取消 (W)	GP対象外

## (GPAの種類及び計算方法)

- 第4条 GPAは、当該学期に履修した第2条第2項各号に定めるGPA対象科目について、学期 GPA及び通算GPAに区分し、各区分の定める方法により計算するものとし、計算値は 小数点以下第2位を四捨五入して表記するものとする。
  - (1) 学期GPAは、当該学期の授業科目ごとに得たGPに当該授業科目の単位数を乗 じる計算を、当該学期に成績評価を受けた授業科目分行い、その合計を当該 学期に成績評価を受けた授業科目単位数の合計で除して算出する。
    - 学期GPA= (当該授業科目のGP×当該学期に履修登録した授業科目の単位数) の合計/当該学期の成績評価を受けた授業科目の単位数の合計
  - (2) 通算GPAは、入学時から当該学期までの授業科目ごとに得たGPに、当該授業科目の単位数を乗じる計算を、入学時から当該期までに成績評価を受けた授業科目分行い、その合計を入学時からの当該学期までに成績評価を受けた授業科目の単位数の合計で除して算出する。
    - 通算GPA= (入学時からの当該授業科目のGP×履修登録した授業科目の単位数) の合計/入学時から成績評価を受けた授業科目の単位数の合計

#### (履修の取り消し)

- 第5条 一度履修登録した科目であっても、受講目的が達成されないなどの理由により履 修を取り消すことができる。
  - 2 履修の取り消しは、別に定める履修取り消し期間に行うことができる。ただし、履 修取り消し期間内に手続を行なわない場合は、当初申請した履修科目が成績評価の 対象となる。
  - 3 前項の規定にかかわらず、病気・事故等やむを得ない事情による場合は、履修取り消し期間以降においても履修を取り消すことができる。

#### (履修登録単位数の上限)

- 第6条 本学部の学生が、各学期に履修登録できる本学部の単位数は、共通教育科目と専門教育科目の合計単位数で、標準履修単位数上限を20単位とし、前学期のGPAに基づいて、次のとおりとする。
  - (1) 前学期の学期GPAが3.5以上の場合の上限単位数は24
  - (2) 前学期の学期GPAが3.0~3.4の場合の上限単位数は22
  - (3) 前学期の学期GPAが2.5~2.9の場合の上限単位数は20
  - (4) 前学期の学期GPAが2.0~2.4の場合の上限単位数は18
  - (5) 前学期の学期GPAが2.0 未満の場合の上限単位数は16
  - (6) 新入学生、編入学生、再入学生の上限単位数は20
  - 2 自由科目(教職科目)、学外実習科目、集中講義科目は履修登録上限制限に含まない。

## (再履修等における授業科目の取扱い)

第7条 不合格 (F) と評価され、後に再履修等によって合格となった場合は、新たな学習 成績をその科目の成績とする。

## (GPAの開示)

第8条 GPAの学生及び保護者への開示は、学期GPA及び通算GPAとする。

# (GPAデータの提供及び活用)

- 第9条 本学職員が、教育活動の改善等を目的として行なう調査研究等においてGPAデータ の提供を希望する場合は、別紙申請書により、本学部長に申請するものとする。
  - 2 本学部長は、前項の申請理由が適当であると判断したときは、GPAに係る各種資料を提供するものとする。

# (経過措置)

第10条 平成24年3月31日において現に在籍する者の履修登録単位数の上限の取扱いについては、当該年次在籍者に適用されている履修登録単位数の上限制度を適用する。

#### 附記

- この要項は、平成24年4月1日から実施する。
- この要項は、平成29年4月1日から実施する。
- この改定要項(学部名の変更)は、令和6年4月1日から施行する。なお、学芸学部に在籍する学生については従前の要項による。

# 桜花学園大学保育学部 教職課程及び指定保育士養成施設の指定および運営の基準に定める教育課程の 履修に関する細則

(準拠)

第1条 この細則は、桜花学園大学履修規程第3条(教職課程)に定める教職課程、及び第4条(保育士 資格)に定める指定保育士養成施設指定基準に定める教育課程の履修に関し、必要な事項を定め る。

# (定義)

- 第2条 この細則において、実習とは、教育職員免許法施行規則に定める教育実習Ⅰ、教育実習Ⅱ、教育 実習Ⅲ、教育実習Ⅳ、教育実習Ⅴ、介護等の体験、児童福祉法施行規則及び指定保育士養成施設の 指定及び運営の基準 に定める保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲをいう。

#### (実習の実施)

第3条 実習は、各学年に配当されている実習を、保育学部の各学科の教育課程表に示されるとおりに行い、原則として、配当学年が異なる実習を同一年度に併せて履修することはできない。

#### (実習の履修資格)

- 第4条 以下の場合は、原則として、実習の履修を認めない。
  - (1) 実習指導(事前指導)につき、正当な理由がなく、無断で欠席又は遅刻をした場合。
  - (2) 実習に必要な書類を所定の期日までに提出しなかった場合。
  - (3) 実習先の児童及び利用者の安全確保等の見地から、実習に耐えうる健康状態にないと判断される場合。なお、健康状態の判断に際しては、医師の診断書を求めることがある。
  - 2 第1項(1)(2)に該当する場合において、その後の実習指導(事前指導)の出席状況、実習に必要な書類の提出状況につき改善したと判断される場合には、実習委員会で審議した上で、実習の履修を認める場合がある。

#### (実習辞退)

第5条 履修登録後に実習の辞退を希望する学生は、別紙の「実習辞退届」を提出するものとする。ただ し、実習施設に対する「誓約書」を大学事務局に提出した以後は、辞退を認めないこととする。

# (追実習)

第6条 やむを得ない事由により実習を途中で棄権した学生、及び次条の事由により実習の引き上げ等の対象となった学生が、当該年度中に改めて実習を行うこと(以下これを「追実習」という。)を希望する場合は、別紙の「追実習願」を提出するものとする。

2 追実習の実施の可否は、実習委員会で審議した上で、教務委員会で決定するものとする。

#### (実習の引き上げ)

- 第7条 実習の引き上げは次の場合に行う。
  - (1) 実習先の児童及び利用者の安全確保の見地から、実習に耐えうる健康状態にないと判断される場合。
  - (2) 実習につき、正当な理由がなく、無断で欠席又は遅刻した場合。
  - (3) 実習に臨むにあたって相応しくない服装、髪(色、型)、態度を改めない場合
  - (4) その他実習先の業務に重大な支障を及ぼしている場合

#### (再実習)

- 第8条 実習について「不可」の判定を受けた学生が、再度の実習(以下これを「再実習」という。)を希望する場合は、別紙の「再実習願」を提出するものとする。
  - 2 再実習の実施の可否は、実習委員会で審議した上で、教務委員会で決定するものとする。
  - 3 再実習の実施は、原則として、当該実習に対応する実習指導を受講することを要件とする。実習指導の単位の認定を受けている場合についても同様とする。

#### (実習の単位の認定)

- 第9条 実習の終了後において、次のいずれかに該当する学生については、原則として、当該実習の単位 修得を認めない。
  - (1) 実習日誌及びレポート等の提出物を定められた期間内に提出できなかった場合
  - (2) 実習終了後に実施する実習指導(事後指導)につき、正当な理由がなく、無断で欠席又は遅刻をした場合。
  - (3) 実習の指導担当教員が必要に応じて行う個別指導につき、正当な理由がなく、無断で欠席又は遅刻をした場合。

#### 附則

この細則は平成28年4月1日より施行する。

この細則は平成31年4月1日より施行する。

# 桜花学園大学国際学部 教職免許取得に関わる教育実習等の履修に関する規則

(目的)

第1条 この要項は、桜花学園大学国際学部(以下「本学部」)の中学校・高等学校1種免 許状(英語)取得に必要な実習科目等の履修について必要事項を定め、学生の教員免 許状取得に対する学修意欲を高めるとともに、学生支援に資することを目的とする。

#### (対象科目)

- 第2条 この規則に定める対象授業科目を、つぎの授業科目とする。
  - (1) 教育実習 I
  - (2) 教育実習 II
  - (3) 教育実習指導
  - (4) 教職実践演習 Ⅰ (中・高) 、教職実践演習 Ⅱ (中・高)

## (履修条件)

- 第3条 第2条に掲げる科目を履修しようとする者は、次の各号の条件を満たさなければ ならない。
  - 1. 学則で定める教職に関する科目(中、高一種免)を履修済み、又は履修中であること
  - 2. 教科に関する科目及び教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目を 履修済み、また は履修中であること
  - 3. 教育委員会等に教育実習を申請するまでに修得した総合教養科目及び専門科目の全履修科目 通算 GPA 及び教職に関する科目の通算 GPA のいずれもが2.8 以上であること
  - 4. 3年次2月末日迄に TOEIC のスコアーが600点以上あること、あるいは英 検準1級を取得 していること

# (経過措置)

第4条 平成24年3月31日において現に在籍する者に対しては、平成21年度の履修 条件を適用する。

#### 附則

この細則は平成24年4月1日より実施する。

この改定規則(学部名の変更)は、令和6年4月1日から施行する。なお、学芸学部に在籍する学生については従前の規則による。

## 桜花学園大学 海外留学規程

# (準 拠)

第1条 この規程は、桜花学園大学学則(以下「学則」という。)第20条第2項に基づき、桜花学園大学(以下「本学」という。)の学生の海外留学(以下「留学」という。)に関し、必要な事項を 定める。

#### (定義)

第2条 この規程における留学とは、外国の大学またはこれに相当する高等教育機関が開講する科目を、 本邦以外で履修することをいう。

# (区分)

- 第3条 この規程における海外留学生(以下「留学生」という。)とは、次の各号のいずれかに該当する者をいう。
  - (1) 交換留学生: 本学と交換留学協定を締結している海外の大学へ、本学の許可を得て留学する 者
  - (2) 協定留学生:本学と協定を締結している外国の大学等へ、本学の許可を得て留学する者
  - (3) 認定留学生: 本学が認定する前号以外の外国の大学等へ、本学の許可を得て留学する者
  - (4) ダブル・ディグリー留学生:本学とダブル・ディグリー協定を締結している外国の大学等 へ、本学の許可を得て留学する者
  - 2 前項各号の留学に関する事項は、別に定める。

# (留学期間)

- 第4条 交換留学、認定留学、協定留学の期間は、原則として6ヵ月(1学期)または1年(2学期)と する。
  - 2 ダブル・ディグリー留学の期間は、原則として2年とする。

#### (出願資格)

- 第5条 留学を希望する者は、次の各号を満たさなければならない。
  - (1) 本学に1年以上在学し、留学する前までに原則として30単位以上を修得していること。ただし、ダブル・ディグリー留学に出願する者は、留学する前までに原則として62単位以上を修得していること。
  - (2) 留学目的及び留学計画が適切であること。
  - (3) 学業成績が優秀であること。
  - (4) 留学するに十分な外国語能力を有すること。
  - (5) 心身共に健康であること。
  - (6) 留学する大学の入学許可書を有すること。
  - (7) 留学にあたり、保証人の承諾を得ていること。

### (出願手続)

- 第6条 留学を希望する者は、所定の「海外留学許可願」に次の書類を添えて、学長に願い出るものとする。
  - (1) 所属する学科が発行する推薦書及び成績証明書
  - (2) 保証人の同意書
  - (3) その他本学が指定する書類

#### (留学許可)

第7条 留学は、教授会の議を経て、学長が許可する。

# (学籍)

第8条 留学期間中の学籍は、「留学」とする。

# (修業年限及び在学年限への算入)

- 第9条 第3条(1)、(2)、(3)の留学期間は1年を限度に、修業年限に算入する。
  - 2 第3条(1)、(2)、(3)の留学期間は2年を限度に、在学年限に算入する。
  - 3 第3条(4)の留学期間は、2年を限度に、修業年限に参入する。
  - 4 第3条(4)の留学期間は、3年を限度に、在学年限に参入する。

#### (留学中に修得した単位の認定)

- 第10条 留学期間中に修得した授業科目の単位のうち本学が教育上有益と認めるときは、学則第34条第 3項に定めるところにより、本学における授業科目の履修とみなすことができる。
  - 2 単位の認定に関する事項は、別に定める。
  - 3 単位の認定は、帰国後に本人の申請に基づき、教授会の議を経て行う。

#### (留学期間の延長)

- 第11条 第4条に定める留学期間は、1年を限度としてその期間を延長することができる。なお、延長 した場合の留学期間中は、休学扱いとする。
  - 2 留学期間の延長を希望する留学生は、原則として留学期間終了の3ヵ月前までに留学期間延 長願を学長へ提出しなければならない。
  - 3 留学期間の延長は、教授会の議を経て、学長が許可する。

#### (留学の取消・中止)

- 第12条 留学生が次の各号のいずれかに該当した場合は、学長は留学許可の取消または中止を決定する。
  - (1) 留学の査証が認められない場合
  - (2) 病気その他やむを得ない事由が発生した場合

- (3) 学業成績不良で、成業の見込みがない場合
- (4) 本学及び留学先機関の規則に違反し、または学生としての本分に著しく反した場合

## (留学終了手続)

第13条 留学生は、留学期間を終了したときは、留学終了届、留学報告書、留学先の大学等が交付する 修了証明書またはそれに準ずる証明書及び本学が指定するその他の書類を学長へ提出しなけれ ばならない。

#### (本学の学費)

- 第14条 留学生として認定され、海外留学する場合の本学への学納金を次のように定める。
  - (1) 交換留学協定に基づき留学する場合、本学へ学納金等を納付するものとする。
  - (2) 協定留学生及び認定留学生の場合、授業料及び教育充実費については学則に定める額の半額とし、演習教材費については免除する。
  - (3) ダブル・ディグリー留学協定に基づき留学する場合は、協定学間との取り決めによって別に 定める。
  - 2 その他、特別な協定を締結している場合は、この限りではない。

#### (留学先の学費)

- 第15条 留学生として認定された者の留学先の学費については次のように定める。
  - (1) 交換留学生の留学先の学費は免除とする。
  - (2) 協定留学生の留学先の学費は留学生が支払うものとする。
  - (3) ダブル・ディグリー留学協定に基づき留学する場合は、協定大学との取り決めによって別に 定める。
  - 2 その他、特別な協定を締結している場合は、この限りではない。

## (その他)

第16条 その他海外留学の運用に関して必要な事項は別に定める。

#### (改 廃)

第17条 この規程の改廃は、教授会の議を経て行う。

## 附則

1. この規程は、平成22年3月1日から施行する。

# (経過措置)

2. この規程の施行の際、現に留学の許可を得て外国の大学で学修している学生についても、この規程を適用する。

1. この規程は、平成23年3月1日から施行する。

# (経過措置)

2. この規程の施行の際、現に留学の許可を得て外国の大学で学修している学生についても、この規程を適用する。

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

この改定規程(学部名の変更)は、令和6年4月1日から施行する。なお、学芸学部に在籍する学生については従前の規則による。

#### 桜花学園大学国際学部海外留学に関する規則

(進拠)

第1条 この規則は、桜花学園大学海外留学規程第10条第2項の規定に基づき、国際学部(以下「本学部」 という。)の学生の海外留学に関し必要な事項を定める。

#### (留学の所管委員会)

- 第2条 本学部学生の海外留学に関する取扱いは、本学部教務委員会(以下「教務委員会」という。)が所 管する。
  - 2 教務委員会は、次の事項を審議し、その結果を本学部教授会(以下「教授会」という。)に付議するものとする。
    - (1) 留学の適否に関すること。
    - (2)単位認定に関すること。
    - (3) その他留学に関すること。

## (出願資格)

- 第3条 留学を出願することができる者は、桜花学園大学に1年以上在学し、かつ、30単位以上の科目の単位を修得した学生とする。ただし、在学期間が1年に満たない学生であっても、後期試験終了後の留学を希望する学生は、出願を認めることがある。
  - 2 桜花学園大学海外留学規程第 5 条に定める出願資格において、交換留学の出願を認める学業成績の基準は、留学前までの全学期の平均 GPA3.0以上、または、留学先の学修言語に合わせて TOEIC スコア 600 点以上、TOPIK4 級以上、HSK4 級以上のいずれかを満たすこと。
  - 3 桜花学園大学海外留学規程第5条に定める出願資格において、協定留学あるいは認定留学の出願を認める学業成績の基準は、留学前までの全学期の平均 GPA2.8以上、または、留学先の学修言語に合わせて TOEIC スコア 450 点以上、TOPIK3 級以上、HSK3 級以上のいずれかを満たすこと。
  - 4 ダブル・ディグリー留学に関する事項は、ダブル・ディグリー留学規則による。

## (出願書類)

- 第4条 留学を希望する学生は、海外留学規程第6条に定める書類に加え、次の書類を国際学部長(以下「学部長」という。)に提出しなければならない。 ただし、ダブル・ディグリー留学に関する事項は、 ダブル・ディグリー留学規則による。
  - (1) 海外留学許可願
  - (2) 留学先大学等の受入許可書
  - (3) 留学先大学等での学修計画書
  - (4) 健康診断書
  - 2 前項に定める書類は、出国の日から2カ月前までに、学部長に提出しなければならない。
  - 3 学部長は、前項の書類が整わない場合において、特別の事情が認められると判断したときは、教授会の承認を経て、留学の仮承認を学長に求めることができる。この場合において、仮承認を受けた学生は、出国の日から2カ月以内に不足書類を提出しなければならない。
  - 4 前項の不足書類の提出を受けた学部長は、学長に留学の許可を求めるものとする。この場合において、留学許可の日付は、仮承認の日とする。

#### (留学指導)

第4条 留学を希望する学生は、留学願を提出する前に、本学部留学委員会から、留学先大学等で履修すべき授業科目その他留学に関する事項につき指導を受けなければならない。

#### (留学期間の始期及び終期)

第6条 留学期間の始期は4月1日又は10月1日、終期は9月30日又は3月31日とする。ただし、これらの日付の前後に出国又は帰国をした場合は、これをいずれかの日付に読み替えるものとする。

#### (留学期間延長の出願書類)

- 第7条 留学期間を延長する場合は、原則として留学期間終了の3カ月前までに次の書類を学部長に提出しなければならない。
  - (1) 留学期間延長願
  - (2) 留学先大学等が発行する延長後の聴講許可書又はこれに代わる書類
  - (3) 留学期間延長後の学修計画書(留学の中止)
  - 2 ダブル・ディグリー留学に関する事項は、ダブル・ディグリー留学規則による。

#### (留学の中止)

第8条 留学した学生が病気その他やむを得ない理由により学修を続けることができないときは、留学の中止を学部長に願い出なければならない。

#### (修得した授業科目等の認定)

- 第9条 留学先大学等で修得した授業科目等については、学生の願い出に基づき、授業科目の開設目的にかなう場合に限り、教授会が認定するものとする。この場合において、留学先大学等で修得した授業科目等が本学部授業科目と同等又は同等以上の内容であると判断される場合に、履修した内容により本学部授業科目に読み替えた上、第13条に規定する換算基準により単位を認定するものとする。
  - 2 留学先大学等で修得した授業科目等の認定を希望する学生は、次の書類を学部長に提出しなければならない。
    - (1) 単位認定願
    - (2) 留学先大学等で修得した授業科目等の内容及び履修時間数がわかる書類
    - (3) 留学先大学等で修得した授業科目等の成績表
    - (4) 留学先大学等で修得した授業科目等の講義ノートその他審査に有益な書類
  - 3 認定した授業科目の成績評価の表示は、「T」とする。
  - 4 授業科目及び単位は、帰国年度において 30 単位を上限にこれを認め、桜花学園大学学則第 30 条 3 項に定める他大学等において修得した単位等の認定による単位数と合わせ、60 単位を限度として卒業に必要な単位数に算入することができる。
  - 5 ダブル・ディグリー留学における授業科目等の認定は、ダブル・ディグリー留学規則による。

# (単位認定の特例措置)

- 第10条 単位認定に当たっては、次に掲げる取扱いを行うことができる。
  - (1)複数の修得した授業科目及び単位を合算して、本学部の一つの授業科目及び単位として認定すること。
  - (2)修得した一つの授業科目及び単位を、本学部の複数の授業科目及び単位に認定すること。
  - (3)修得した授業科目等が本学部の上級年次に配当されている授業科目に相当する場合に、これを認定すること。

#### (単位認定の手続)

- 第11条 修得した授業科目等の認定の手続は、次に掲げるところによる。
  - (1) 教務委員会は、留学終了者の願い出に基づく単位認定に際し必要があるときは、審査委員会を設置する。
  - (2) 前号の審査委員会は、教務委員長及び教務委員長が指名する教員により構成するものとする。
  - (3) 教務委員長は、単位認定審査を行い、認定可能な授業科目及び単位数を定めた単位認定案を作成

- し、教務委員会に報告するものとする。
- (4)教務委員会は、前号の単位認定案を審議し、教授会に付議するものとする。(単位認定審査記録の保管)
- 第 12 条 教務委員長は、留学先大学等で修得した授業科目等の名称、単位数及び成績評価等並びに読替え後の授業科目名、単位数及び審査の経緯について、文書に記録して保管しなければならない。

#### (単位の換算基準)

第13条 留学先大学等で修得した単位を本学部の単位に換算するときは、学則第25条に規定する単位の 計算方法及び実質の履修時間数に基づき、次に掲げる基準により換算するものとする。

科目の種類	単位	履修時間数
講義・演習科目	2	1350 分
演習科目	1	1350 分

#### (留学終了後の履修登録)

- 第14条 留学を終了した学生の留学終了後の履修登録手続は、次に掲げるところによる。
  - (1)4 月末日までに留学終了届を提出した学生は、所定の期日までに、前期科目を登録し、履修することができる。
  - (2)10月末日までに留学終了届を提出した学生は、所定の期日までに後期科目を登録し、履修することができる。

#### (留学終了後の専門ゼミナール及び 卒業研究 担当者)

- 第 15 条 留学終了後の専門ゼミナール 及び 卒業研究 の履修に関する取扱いは、次に掲げるところによる。
  - (1) 留学を終了した学生が、これらの履修を希望する場合は、学生の希望に基づき、学科長が担当者を決定するものとする。
  - (2) 専門ゼミナールを履修している学生が年度途中に留学を開始し、留学終了後に継続して専門ゼミナールの履修を希望する場合は、留学開始時の担当者が引き続き担当するものとする。ただし、留学終了後に当該担当者が専門ゼミナールを担当していない場合には、学生の希望に基づき、学科長が担当者を決定するものとする。

#### (改廃)

第16条 この内規の改廃は、教授会の議を経て行う。

## 附則

- 1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。
  - この規則は、平成28年4月1日から施行する。
  - この規則は、平成29年4月1日から施行する。
  - この改定規則(学部名の変更)は、令和6年4月1日から施行する。なお、学芸学部に在籍する学生については従前の規則による。

## 桜花学園大学国際学部 ダブル・ディグリー留学に関する規則

(準拠)

第1条 この規則は、桜花学園大学学則第20条1項第3号及び桜花学園大学海外留学規程第3条第1項 第4号に基づき、学生のダブル・ディグリー留学の実施に必要な事項を定める。

(ダブル・ディグリーの定義等)

- 第2条 ダブル・ディグリーとは、本学の学生が、外国の大学等(以下「ダブル・ディグリー協定校」 という。)の学位課程にも所属し、双方の大学がそれぞれ学位を授与することをいう。
  - 2 本規則におけるダブル・ディグリー留学とは、前項の学位取得に必要な教育課程または単位を 修得するため、本学に在学したまま、ダブル・ディグリー協定校で一定期間学修することを目 的とした留学のことをいう。

(共同実施体制)

- 第3条 国際学部は、ダブル・ディグリー協定校との教育連携の安定的かつ継続的な実施を確保するため、あらかじめ本学と同協定校間にてダブル・ディグリー留学実施のために必要な基本方針等に係る協定を締結するものとする。
  - 2 国際学部は、ダブル・ディグリー協定校との調整や重要事項を定期的に協議し、また組織的かつ継続的に運営するため、本学の関連部署と情報を共有し、関係者間の調整等を行うものとする。

(ダブル・ディグリー留学期間)

- 第4条 ダブル・ディグリー留学期間は、原則として2年とする。
  - 2 留学期間の始期は4月1日又は10月1日、終期は9月30日又は3月31日とする。ただし、これらの日付の前後に出国又は帰国をした場合は、これをいずれかの日付に読み替えるものとする。

(ダブル・ディグリー学生の定員)

第5条 ダブル・ディグリー学生の定員は、本学とダブル・ディグリー協定校との取り決めによって定めるものとする。

(ダブル・ディグリー留学の対象機関)

第6条 ダブル・ディグリー協定校となる機関は、国際学部教授会(以下「教授会」という。) に審議 を経て、その推薦に基づき学長が承認するものとする。

(ダブル・ディグリー留学の出願資格)

- 第7条 ダブル・ディグリー留学を希望する者は、次の各号を満たさなければならない。
  - (1) 本学部に2年以上在学し、留学する前までに原則として62単位以上を修得していること。

- (2) 希望するダブル・ディグリー協定校の指定する要件及び協定に定める要件を満たしていること。
- (3) 本学の指定する要件を満たしていること。
- (4) 留学目的及び留学計画が適切であること。
- (5) 学業成績が優秀であること。
- (6) ダブル・ディグリー協定校の入学許可書を有すること。
- (7) 心身共に健康であること。

# (ダブル・ディグリー留学の申請手続き)

- 第8条 ダブル・ディグリー留学を希望する者は、次の書類を定められた期日までに国際学部長(以下「学部長」という。)に提出しなければならない。
  - (1) 海外留学許可願
  - (2) 所属する学科が発行する推薦書及び成績証明書
  - (3) 保証人の同意書
  - (4) その他本学が指定する書類
  - 2 申請の申出があった時は、学部教授会を経て、学長に願い出るものとする。

## (ダブル・ディグリー留学の選考)

- 第9条 ダブル・ディグリー留学生の選考は、国際学部留学委員会(以下「留学委員会」という。)が 行う。
  - 2 ダブル・ディグリー留学生の選考は、成績、人物、履修計画、語学力等を総合的に判断する。選 考方法は、書類審査又は面接その他の方法とし、留学委員会が決定する。

# (ダブル・ディグリー留学の許可)

- 第10条 ダブル・ディグリー留学に選考された学生は、定められた期日までに、次の書類を留学委員 会経由で学部長に提出しなければならない。
  - (1) ダブル・ディグリー協定校が要求する語学力の証明書
  - (2) ダブル・ディグリー協定校の受入許可書
  - (3) ダブル・ディグリー協定校での学修計画書および申込書
  - (4) 健康診断書
  - (5) その他本学が指定する書類
  - (6) その他ダブル・ディグリー協定校が必要とする書類
  - 2 前項に定める書類は、出国の日から2カ月前までに、学部長に提出しなければならない。
  - 3 学部長は、留学委員会の審議結果に基づき、教授会の議を経て学長に許可を求めるものとする。

#### (修得単位の認定)

第11条 ダブル・ディグリー留学期間中に修得した授業科目の単位は、学則34条に基づき、本学において修得したものとして認定することができる。

2 単位認定に関する事項は、別に定める。

(ダブル・ディグリー留学期間の延長)

- 第12条 ダブル・ディグリー留学生が修学上の事由等で留学期間の延長を希望する場合は、原則として留学期間終了3か月前までに留学期間延長願いを学部長に提出しなければならない。
  - 2 ダブル・ディグリー留学延長の許可は、ダブル・ディグリー協定校との協議に基づき、教授会の議を経て、学長が行う。

(休学期間の取り扱い)

- 第13条 ダブル・ディグリー留学生が疾病その他やむを得ない事情で休学を希望する場合は、学則に 定めるところに従い、許可することができる。
  - 2 前項において休学が許可された学生は、ダブル・ディグリー学生としての資格を一時的に失い、復学と同時に再び資格を得るものとする。

(ダブル・ディグリー留学の中止・取消)

- 第14条 ダブル・ディグリー留学中の者が次の各号のいずれかに該当する場合は、学部長が学長の承認を得てダブル・ディグリー留学の中止または取消を認めることができる。この場合、すみやかに当該学生の帰国につき、学部長が関係部署に報告する。
  - (1) ダブル・ディグリー留学生が、やむを得ない事情でダブル・ディグリーの中止を希望する 場合
  - (2) 許可なくダブル・ディグリー留学を中止又は中断した場合
  - (3) ダブル・ディグリー留学中に学生の本分に反した場合
  - (4) 規則または法令違反等により、ダブル・ディグリー協定校から除籍処分を受けた場合
  - (5) その他、学長が帰国させることが適当と判断した場合
  - 2 ダブル・ディグリー留学中止の許可は、ダブル・ディグリー協定校との協議に基づき、教授会 の議を経て、学長が行う。中止が許可された場合は、当該学生はダブル・ディグリー学生の資 格を失うものとする。
  - 3 前項によってダブル・ディグリー学生の資格を失った場合も、ダブル・ディグリー協定校において修得済みの単位は、第11条に定める手続きに従い、認定することができる。

(本学における学位授与)

第15条 ダブル・ディグリー留学生に係る本学における卒業認定及び学位授与については、原則、学 位論文を双方の大学に提出し、本学の学則その他関係規程等の定めるところに準拠する。

(ダブル・ディグリー協定校における学位の授与)

第16条 国際学部は、ダブル・ディグリー協定校との取り決めに従い、定められた時期までに当該学生の本学での成績ならびにその他必要な書類を同協定校に送付するほか、同協定校での学位取得のために必要な手続きを求められた場合はこれに協力するものとする。

2 ダブル・ディグリー留学生は、本学卒業と同時にダブル・ディグリー留学を修了し、同協定校の 学位授与については、同協定校の学則その他関係規程に定めるところに準拠する。但し、当該学 生がダブル・ディグリー留学を中止する場合は、本学の学位のみで卒業を認めるものとする。

(ダブル・ディグリー留学に関わる学費等の取り扱い)

- 第17条 ダブル・ディグリー留学生は、ダブル・ディグリー留学中においても本学の学費を学則に定められた納入期限までに納めるものとする。
  - 2 ダブル・ディグリー留学中のダブル・ディグリー協定校における学費等は、同協定校との合意に 基づくものとする。
  - 3 前項において、ダブル・ディグリー協定校における学費等を自ら納付する学生(以下「私費ダブル・ディグリー留学生」という。)が本学に納付する学費等の取り扱いについては、桜花学園大学海外留学規程に準拠する。
  - 4 本規則第12条によってダブル・ディグリー留学の延長が許可された場合は、留学期間延長中においての本学の学費は、学則に定めるところに準拠する。なお、ダブル・ディグリー協定校における学費等は、同協提校の学則に定めるところに準拠する。

(その他)

第18条 その他ダブル・ディグリー留学の運用に関して必要な事項は別に定めることができる。

(規則の改廃)

第19条 この規則の改廃は、教授会の議を経て行う。

附則

この規則は、令和6年4月1日から施行する。

## 桜花学園大学国際学部 日本語教員養成課程に関する規程

(目的)

第1条 この規程は、桜花学園大学学則(以下「学則」という。)第31条第3項に基づき、日本語教員 養成課程の修了及び科目の単位修得方法等に関して必要な事項を定める。

## (修了のための単位修得)

- 第2条 この課程を修了しようとする者は、学則別表第4に定める必修科目及び選択必修科目を修得しなければならない。
  - 2 この課程を主専攻として修了しようとする者は、前項に揚げる科目を含み 45 単位以上修得しなければならない。
  - 3 この課程を副専攻として修了しようとする者は、第1項に揚げる科目を含み26単位以上修得しなければならない。
  - 4 この課程を修了しようとする者は、「国内日本語教育インターンシップ」、「海外日本語教育インターンシップ A」、「海外日本語教育インターンシップ B」のうち、いずれか1科目、及び「日本語教育ボランティア A」、「日本語教育ボランティア B」のうち、いずれか1科目を履修しなければならない。
- 第3条 前条第2項に掲げる科目を履修しようとする者は、次の各号の条件を満たさなければならない。
  - (1) 学則に定める国際学部日本語教育専攻の科目を履修していること。
  - (2) 3年次末までに履修した全科目の通算 GPA が 2.8 以上であること。
  - (3) 所定の日本語教育実習費を納入すること。

## (履修の許可)

- 第4条 本規程第2条4項に定める科目の履修の許可は、国際学部教授会の議を経て行う。
  - 2 健康上の理由、または懲戒その他の理由などにより教授会が不適と認めた場合は、本規程第2条 4項に定める科目の履修を許可しないことがある。

#### (課程修了証明書)

第5条 学則第31条第3項に定める所定の科目を修得した者に対しては、本人の申請に基づき、日本語 教員養成課程修了証明書を発行する。修了証明書に記載する課程の名称は、「日本語教員養成課程(主 専攻)」または「日本語教員養成課程(副専攻)」とする。

#### (規程の改廃)

第6条 この規程の改廃は、国際学部教授会の議を経て行う。

#### 付則

この規則は、令和6年4月1日から施行する。

# 桜花学園大学科目等履修生規程

(進 拠)

第1条 この規程は、本学学則の定めに基づき科目等履修生に関し必要な事項を定める。

(履修の許可)

第2条 本学が指定する授業科目のうち、履修を志願する者があるときは、当該学科の教育に支障がない限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可することができる。

(資格)

第3条 科目等履修生の入学資格については、本学学則の定めるところによる。

(入学期日)

第4条 科目等履修生の入学期日は、毎学期の始めとする。

(在学期間)

第5条 科目等履修生の在学期間は、履修科目の開講期間とする。

(手続き)

- 第6条 科目等履修生として入学しようとする者は、次の書類に検定料(本科入学検定料の半額)を添えて指定の期日までに提出しなければならない。
  - 1 入学願書
  - 2 卒業証明書(最終学歴のもの)または在学関係にある大学の成績証明書等、入学資格を証明 するもの。あるいはその写し。

(授業料)

- 第7条 科目等履修生として入学を許可された者は、授業料(1単位につき 15,000 円)を指定の期日 までに納入しなければならない。
  - 2 「教育実習「保育実習」等の履修者は、実習謝礼費を納入しなければならない。
  - 3 既納の入学検定料及び授業料等については、原則として返還しない。

(履修単位の授与)

- 第8条 科目等履修生は、履修した科目につき試験を受けることができる。
  - 2 試験に合格した科目について、単位取得証明書を授与する。

(学則の準用)

第9条 科目等履修生については、この規程に定めるもののほか本学学則を準用する。

(委 任)

第10条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附則

- この規程は、平成10年4月1日から施行する。
- この規程は、平成11年4月1日から施行する。
- この規程は、平成14年度入学生から施行する。
- この規程は、平成15年10月から施行する。

# 桜花学園大学科目等履修生規程に関する細則

(桜花学園大学卒業生等に関わる特例)

- 1. 桜花学園大学科目等履修生規程(以下 規程という)第6条、第7条の規程に関わらず、次の各号については、これを特例として認める。
  - ① 名古屋短期大学(専攻科を含む)の在学生については入学願書を除く提出書類、 入学検定料及び授業料を免除する。
  - ② 桜花学園大学・名古屋短期大学(専攻科を含む)及び豊田短期大学の卒業生については入学願書を除く提出書類及び入学検定料を免除する。
  - ③ 編入学試験に合格し入学金を納めた者については入学願書を除く提出書類、入学 検定料及び授業料を免除する。ただし、入学を辞退した場合、授業料は徴収する。
  - ④ 科目等履修生を継続する者については入学願書を除く提出書類及び入学検定料を 免除する。

## (「教育実習」等学外実習科目の履修制限)

- 2. 「教育実習」等学外実習科目の履修をしようとする者は、次の各号の条件を満たさなければいけない。
  - ① 本学の卒業生であること。
  - ② 原則、履修開始の時点で、卒業して4年以内であること。
  - ③ 保育学部の卒業生において、幼稚園教諭1 種免許状および小学校教諭1 種免許状の取得を希望する者は、「教育実習 I 」および「教育実習指導 I 」を含み各免許取得要件単位の7割以上履修していること。
  - ④ 保育学部の卒業生において、小学校教諭 1 種免許状および特別支援学校教諭 1 種免 許状の取得を希望する者は、「教育実習 I 」、「教育実習 II 」、「教育実習指導 I 」 および「教育実習指導 II」を含み各免許取得要件単位の 7 割以上履修している こと。
  - ⑤ 保育学部の卒業生において、保育士資格の取得を希望する者は、「保育実習 I (保育所)」「保育実習 I (施設)」および「保育実習指導 I」を含み資格取得要 件単位の 7 割以上履修していること。
  - ⑥ 国際学部の卒業生において、中学校教諭 1 種免許状および高等学校教諭 1 種免許 状の取得を希望する者は、各免許取得要件単位の 7 割以上履修していること。

「教育実習」等学外実習科目とは、保育学部開講科目「教育実習Ⅲ」「教育実習Ⅳ」「教育実習V」「教育実習指導Ⅲ」「教育実習指導Ⅳ」「教育実習指導V」「保育実習 Ⅱ」「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」、国際学部開設科目「教育実習 Ⅰ」「教育実習 Ⅱ」「教育実習指導」とする。

(「教育実習」等学外実習科目を履修しようとする者に関する特例)

3. 「教育実習」等学外実習科目を履修しようとする者は、規程第6条の規程に関わらず、 出願期間は原則、前年度の9月1日から9月30日までとし、提出書類に健康診断書を 加え、提出するものとする。

# (実習謝礼費)

4. 規程第7条第2項の実習謝礼費は、実費を徴収する。ただし、実習費を既に納入した者については、実習謝礼費を免除する。

### 附則

- この細則は、平成15年10月 1日から施行する。
- この細則は、平成21年 4月 1日から施行する。
- この細則は、平成28年 4月 1日から施行する。
- この細則は、令和5年 4月 1日から施行する。
- この改定細則(学部名の変更)は、令和6年4月1日から施行する。なお、学芸学部に在籍する学生については従前の細則による。

### 桜花学園大学 編入学規程

(進 拠)

第1条 この規程は、本学学則に基づき、編入学に関する事項について定めるものとする。

(定義)

- 第2条 編入学とは、次の各号の一に該当する者が本学の3年次に入学することをいう。
  - (1) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者
  - (2) 大学を卒業した者又は他の大学に2年以上在籍し、62単位以上修得した者
  - (3) 外国の大学において2年以上在籍し、62単位以上を修得した者又は大学を 卒業した者
  - (4) 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上、総授業時数が1,700時間以上又は62単位以上であるものに限る)を修了した者
  - (5) 修業年限が2年以上その他の文部科学大臣が定める基準を満たす高等学校専攻科 修了者
  - (6) その他、前記と同等以上の資格があると本学が認めた者

(出願)

第3条 本学に編入学を志願する者は、所定の願書に入学検定料を添えて指定の期日まで に提出しなければならない。

(試験)

- 第4条 編入学志願者には、編入学試験を行うものとする。
  - 2 編入学試験は、指定校推薦と一般試験の2種類とする。

(許可)

第5条 学長は、前条による試験に合格した者については、教授会の議を経て入学を許可する。

(既修得単位の取扱い)

第6条 前条により、入学を許可された者の既に修得した授業科目及び単位数の取扱いは、別に定める。

(納付金)

第7条 編入学者の納付金は、編入年度に在籍する学生の納付額とする。

ただし、入学金については、編入年度の半額とし、名古屋短期大学または外国の提携大学からの3年次編入学者は、免除する。

(委 任)

第8条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附則

- この規程は、平成10年4月1日から施行する。
- この改定規程は、平成14年度入学生から適用する。
- この改定規程は、平成17年4月1日から施行する。
- この規程(定義及び納付金)は、平成17年10月1日から施行し、

平成18年度入学者から適用する。

- この改定規程は、令和5年4月1日から施行する。
- この改定規程は、令和6年4月1日から施行する。

# 桜花学園大学 再入学規程

(準 拠)

第1条 この規程は、桜花学園大学(以下「本学」という。)学則に基づき、再入学に関する事項について定めるものとする。

(再入学資格)

- 第2条 本学に再入学できる者は、次の各号に該当する者をいう。
  - (1) 本学を中途退学した者。ただし、懲戒による退学は除く。
  - (2) 本学を中途退学して、原則再入学時点で10年を超えない者。

(再入学を出願できる学部学科)

第3条 再入学を出願できる学部学科は、原則として所属していた学部学科とする。 ただ し、中途退学時に所属していた学部等が廃止、改組等により存在しないときは、同一 とみなすことができる学部等で協議の上、決定した学部等とする。

(時期)

第4条 再入学の時期は、毎学年の始めとする。

(出願)

第5条 本学に再入学を志願する者は、所定の願書と書類を期日までに提出しなければならない。なお、入学検定料は免除する。

(審 査)

第6条 再入学を希望する者の審査は、別に定める方法により合否の判定を行うものとする。

(入学の許可)

第7条 学長は、前条による審査に合格した者については入学を許可する。

(再入学年次)

第8条 再入学を許可された者の再入学年次は、原則として退学した年次とする。

(在学期間)

第9条 再入学を許可された者の在学期間は、再入学を許可された年次以後の修業年限の 2倍に相当する年数を超えることはできないものとする。 (納付金)

第10条 再入学者の納付金は、再入学年次に在籍する学生の納付額とする。ただし、入学 金については免除する。

(委 任)

第11条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

# 附則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

この改定規程(再入学を出願できる学部学科の変更)は、令和6年4月1日から施行する。

# 保育学部編入学既修得単位認定規程

(準 拠)

第1条 この規程は、本学学則第15条に基づき、編入学によって入学した者の既修得単位の認定に 関する事項について定めるものとする。

(認定の限度)

第2条 各教育機関において修得した単位のうち、本学において修得したものとみなすことのできる単位は、60単位を超えないものとする。

(認定の要件)

第3条 既修得単位の認定は、次によるものとする。

- (1) 学科の専攻と同じ学問分野を各教育機関において履修した者は、共通教育科目においては、30単位までを認定できるものとし、専門教育科目(関連教育科目、専攻教育科目)においては、科目の読み替えにより32単位までを認定できるものとする。ただし、専門教育科目において32単位を超えて認定し得る科目がある場合は、共通教育科目の認定によらず、60単位までを科目の読み替えにより認定できるものとする。
- (2) 学科の専攻と異なる学問分野を各教育機関において履修した者は、共通教育科目においては、30単位までを包括して認定できるものとし、専門教育科目については、読み替え得る科目があれば、32単位までを認定できるものとする。
- (3) 保育士養成に関わる科目の単位認定については、保育士養成施設において修得した科目 について30単位を超えない範囲、指定保育士養成施設以外の学校等で修得した科目について は共通教育科目として30単位を超えない範囲で認定できるものとする。

(認定の手続)

第4条 既修得単位の認定は、教授会の議を経て学長が行う。

(委 任)

第5条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則 平成14年4月1日 制定

平成21年4月1日 一部改定

平成23年4月1日 一部改定

平成28年4月1日 一部改定

# 桜花学園大学 国際学部 編入学既修得単位認定規程

(準 拠)

第1条 この規程は、本学学則に基づき、編入学によって入学した者の既修得単位の認定に 関する事項について定めるものとする。

(認定の限度)

第 2 条 各教育機関において修得した単位のうち、本学において修得したものとみなすことのできる単位は、60単位を超えないものとする。

(認定の要件)

- 第3条 既修得単位の認定は、次によるものとする。
  - (1) 共通教育科目については、科目の読み替えにより 30 単位まで認定できる。
  - (2) 専門教育科目については、科目の読み替えにより30単位まで認定できる。 ただし、専門教育科目において30単位を超えて認定し得る科目がある場合 は、共通教育科目の認定によらず、60単位までを科目の読み替えにより認定 できるものとする。

(認定の手続)

第4条 既修得単位の認定は、教授会の議を経て学長が行う。

(委任)

第5条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

### 附則

- この規程は、平成21年4月1日から施行する。
- この規程は、平成23年4月1日から施行する。
- この規程は、平成28年4月1日から施行する。
- この規程は、平成29年4月1日から施行する。
- この規程は、令和3年4月1日から施行する。
- この改定規程(学部名の変更)は、令和6年4月1日から施行する。なお、学芸学部に在籍する学生については従前の規程による。

# 桜花学園大学 転学部・転学科規程

(準 拠)

第1条 この規程は、本学学則第19条の定めに基づき、転学部・転学科に関する事 について定めるものとする。

(定義)

第2条 転学部とは、本学在学中に所属学部以外の学部に在籍学部を変更することをいう。 2 転学科とは、本学在学中に所属学部の当該学科以外の学科に、在籍学科を変更す ることをいう。

(転学部・転学科の時期)

第3条 転学部・転学科の受け入れる年次は、第2学年または、第3学年の初めとする。

(出願)

第4条 転学部・転学科を希望する者は、所定の期日までに、願書等の必要な書類を学長へ 提出しなければならない。 なお、出願は1回限りとする。

(審 査)

第5条 転学部・転学科を希望する者の審査は、志望学部の定めるところにより、筆記試験、面接及び書類審査などにより合否の判定を行うものとする。

(転学部・転学科の許可)

第6条 学長は、前条による審査で合格した者について、志望学部の教授会の議を経て転 学部・転学科を許可する。

(既修得単位の取扱い)

第7条 前条により、許可された者の既修得単位の取扱いについては、別に定める。

(修業年限及び在学年限)

第8条 転学部・転学科者の本学での修業年限及び在学年限は、学則第5条の通りとする。

(委任)

第9条 この規程に定めるものの他、必要な事項については別に定める。

附 則

- この規程は、平成20年4月1日から施行する。
- この改定規程(受け入れの時期及び出願の変更)は、平成25年4月1日から施行する。
- この改定規程(出願の変更)は、令和6年4月1日から施行する。

# 桜花学園大学転学部 · 転学科規程細則

(趣旨)

第1条 この細則は、桜花学園大学転学部・転学科規程に基づく転学部・転学科(以下「転学部等」という)の取扱いに関し必要な事項を定めるものとする。

### (募集及び許可条件)

- 第2条 各学部学科は、教育上支障をきたすことのない範囲において、転学部等を志願する者を募集することができる。
  - 2 転学部等は、それにより、各学部又は各学科において教育上支障をきたすことの ない範囲でこれを許可することができる。

### (志願者資格)

第3条 転学部等を志願する者は、志願理由が明確であり、転学部等をして差支えないと 認められた者でなければならない。

### (選考方法)

第4条 転学部等願を受理した志望学部は、志願理由、学業成績、面接、小論文、筆記試 験等を組み合わせて総合的に判定し、受入れの可否を決定するものとする。

### (配属年次)

- 第5条 転学部等を許可された者のカリキュラム上の配属年次は、2年次又は3年次とする。
  - 2 配属年次については、単位取得状況を考慮のうえ決定する。

# (転学部等の時期)

第6条 転学部等の許可の時期は、4月1日とする。

### (在学年限)

第7条 転学部等を許可された者の残りの在学年限は、転学部等先における所定の在学年 限から当該者が既に在学した期間を差し引いた期間とする。

### (転学部等の制限)

第8条 転学部等を許可された者は、原則として再び転学部等を願い出ることはできない。

# 附則

- この細則は、平成25年4月1日から施行する。
- この改定細則(志願者資格の変更)は、 令和6年4月1日から施行する。

# 桜花学園大学 研究生規程

(準 拠)

第1条 この規程は、桜花学園大学学則第45条第2項の規定に基づき研究生に関する事項について 定める。

(定 義)

第2条 研究生とは、特定課題について指導教員のもとで、指導を受ける者をいう。

(資格)

- 第3条 研究生として志願できる者は、次の各号の一に該当する者とする。
  - (1) 大学を卒業した者及び出願年度の3月31日までに卒業見込みの者
  - (2) 本学において、前号と同等以上の資格または学力があると認められる者

(出願)

第4条 研究生として入学を志願する者は、所定の願書及び検定料(本科入学検定料の半額)を添えて次の期日までに学長に願い出なければならない。

在籍希望期日	提出期日
1年又は前期	3月末日
後期	9月末日

(審 査)

第5条 出願のあった者の審査は、当該指導教員の意見を聞き、当該学科において行う。

(許可)

第6条 前条による審査で合格と判断された者については、教授会の議を経て、学長が入学を許可する。

(入学期日)

第7条 研究生の入学期日は、学期のはじめとする。

(在学期間)

第8条 在学期間は、学期を単位とし1年以内とする。ただし、特別の事情がある場合には延長を認めることができる。

(授業)

第9条 研究生は、指導教員のもとで指導を受け、指導教員の判断により、教育に支障のない範囲で 授業を聴講することができる。

ただし、この場合の聴講授業科目の単位認定はできないものとする。

(授業料等)

- 第10条 研究生として入学を許可された者は、授業料(1学期30,000円、通年60,000円) を指定の期日までに納付しなければならない。
  - 2 既納の入学検定料及び授業料は、原則として返還しない。

(委 任)

第11条 研究生については、本規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則 この規程は、平成18年4月1日より施行する。 この規程は、平成21年4月1日より施行する。

# エクステンション科目認定要領

共通教育科目のエクステンション科目及びその単位認定方法は以下のとおりとする。

# 科目

- 1. 他学部履修科目
- 2. 愛知学長懇話会科目
- 3. 大学間連携等単位互換協定に基づく科目 上記科目の他、大学設置基準第 29 条第 1 項に基づく資格

### 単位認定方法

- 1. 他学部履修科目は成績評価及び単位を認定する。
- 2. 愛知学長懇話会科目、大学間連携等単位互換協定に基づく科目の成績評価は合格した場合「認定」とし、受講科目の単位を認定する。
- 3. 資格の成績評価は、資格を取得した場合「認定」とし、認定した単位を与える。

## 資格について

- 1. 入学後に取得した資格のみ認定する。
- 2. 資格の単位認定を希望する学生は、資格取得の証明書及び資格単位申請書を提出し、該 当資格が法に照らし有効であるか、学修量に見合った単位数であるか審査を受けなけれ ばならない。
- 3. 国際学部においては、英語関係の検定、中国語検定、韓国語検定は対象としない。

この要領は、平成 28 年 4 月 1 日から施行し、平成 28 年度入学生から適用する。 この改定要領(学部名の変更)は、令和6年4月1日から施行する。なお、学芸学部に在 籍する学生については従前の要領による。

# 桜花学園大学 成績取扱要領

(趣旨)

1 この要領は桜花学園大学履修規程に基づき、本学で実施する授業に係る成績の取扱に関し、必要な事項を定めるものとする。

### (成績通知)

2 授業担当教員から報告された成績は、各学期の指定された成績発表日に公開することをもって受講学生への通知とする。受講学生は成績発表日以降速やかに各自でその内容を確認しなければならない。なお、事情により成績発表日に公開できなかった成績および追試験、再試験の成績については、成績発表日以降に公開した旨を受講学生に通知し、当該授業の成績はその日を成績発表日とする。

### (成績の照会)

3 受講学生は、前項により確認した成績について、内容に質問がある場合は成績発表日を含め3日以内(日曜・授業の無い祝日は含まない)に教務課へ学生自身が直接申し出て「成績確認依頼書」を提出することとする。

## (成績の確認)

4 教務課は、前項により提出された「成績確認依頼書」を授業担当教員へ転送することとする。授業担当教員は、原則3日以内に評価の経緯を「成績確認依頼書」の回答欄に記載して教務課へ提出し、教務課は当該学生へその内容を報告するものとする。なお、授業担当教員は確認した結果、評価変更の必要がある場合は教務課へ成績の修正報告することとする。

# (その他)

5 この取扱要領の運用において、受講学生と授業担当教員間に問題が生じた場合は、教 務委員会が対応することとする。また、この取扱要領に定めるもののほか、成績報告に 係る事項は、教務委員会及び教授会の議を経て学長が決定することとする。

(2016年2月17日制定 2016年4月1日施行)

# 名古屋短期大学との単位互換に関する協定について

名古屋短期大学と本学は協定により、それぞれ相手大学の授業科目を履修し単位を修得することを認めあうこととしています。

その単位互換協定の内容は次のとおりです。

### (受入れ)

- 第1条 桜花学園大学に在学する学生が、名古屋短期大学の授業科目の履修及び単位の修得を希望する ときは、名古屋短期大学長は当該学生を受け入れることができる。
  - 2 名古屋短期大学に在学する学生が、桜花学園大学の授業科目の履修及び単位の修得を希望するときは、桜花学園大学長は当該学生を受け入れることができる。

### (協定による科目等履修生)

第2条 両大学は、前条により受け入れた学生を「協定による科目等履修生」として取り扱う。

### (履修期間)

第3条 協定による科目等履修生の期間は、1年以内とする。

### (授業科目の範囲及び単位数)

第4条 履修できる授業科目の範囲及び修得できる単位数は、その都度協議する。

### (学生数)

第5条 両大学の受け入れる学生数は、正規の学生の履修に支障をきたさない範囲とする。

### (受入れ手続)

第6条 協定による科目等履修生の受入れ手続は、双方の科目等履修生に関する規程に準じて行うものとする。

## (単位の授与等)

第7条 協定による科目等履修生の履修方法、単位授与等については、受入れ大学の学生の場合と同様とする。

### (授業料等)

第8条 両大学が受け入れる協定による科目等履修生の授業料等は徴収しないものとする。

### 附則

- 1 この協定は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 それぞれの大学において協定の内容を改めようとするときは、再度協議するものとする。

# 教育・保育実習について

# 教育・保育実習について

# 実習の心構え

# (1) 実習に向けて日常生活で心掛けること

各自日頃の生活を振り返ってみましょう。実習生も子どもにとっては「先生」です。望ましい保育・ 教育者とはどうあるべきか、日常生活や態度を振り返って考えてみましょう。

① 基本的な生活習慣

# 自分の生活状況を確認しましょう。

- □早寝・□早起き・□朝ごはん・□検温
- ② 保育・教育を学ぶ学生としての日常生活態度

# 望ましい態度を相手の立場にたって考えてみましょう。

- A. 自分が子どもの立場だったら
- B. 自分が子どもを預ける保護者の立場だったら
- □髪型・□髪色・□服装・□化粧・□爪・□アクセサリー・□言葉遣い・□立ち居振る舞い
- ③ マナー・規範意識

### ※授業中の態度

- □肘や頬杖をついていませんか?
- □靴を脱いだり、足を組んだり、あぐらをしたり、大股を開いて座ったりしていませんか?
- □ガムを噛んでいませんか?

### ※公共の場での行為・行動

- □道で広がって歩いていませんか?
- □飲みながら食べながら歩いていませんか?
- □友人と大きな声で話をしたり、笑ったりしていませんか?
- □歩きスマホをしていませんか?

### (2)実習生としての態度に関する心構え

### 相手にとって好感のもてる挨拶や表情とは?

→ どのように挨拶をしますか?

### あなたの癖/人と接するときに好ましくない癖はありますか?

→ どうやって癖を直しますか?

# 謙虚さを忘れないためにどうすればよいでしょう?

→ むっとした顔をしてふてくされた態度の人はどうですか?

### 毅然とした態度をとるとはどのようにすることでしょう?

→ ルールを守れない子どもや、実習生にキックやパンチをしてきた子どもにどのように伝えますか?

# 不安がいっぱい。

- → 失敗を恐れないためにはどうしますか?
  - 不安なことはいろいろあっても、失敗を恐れず元気いっぱい積極的な態度で実習しましょう。 そのためにも事前の学習や準備をしっかりしておきましょう。
- → 常に笑顔を意識する…緊張すると真顔になりやすいため常に笑顔を忘れないようにしましょう。
- → 「聞くは一時の恥、知らぬは一生の恥」…一度聞いて理解できなかったことをそのままにしないようにしましょう。勝手に自分で判断して行動しないで、必ず確認するように心がけましょう。

- → 自分から積極的にコミュニケーションを取りましょう。
- → 「ほう・れん・そう」を忘れずに。報告・連絡・相談→連絡・相談・報告を必ずしましょう!

# (3)今から準備しておくこと

- 高校生レベルの漢字を使えるようにしましょう。
- ・ 板書などでは正しい書き順も必要になります。書き順を見直しましょう。
- ・ 正しい文章を書く練習をしましょう。(段落の使い方や句読点等の使い方など、基本的な文章の書き方に注意し、誤字・脱字を無くす努力をしましょう)
- 文章力や語彙力を付けるために日頃から読書を沢山しましょう。
- ・ 教材をできるだけ沢山作り、手遊びや絵本の読み聞かせのレパートリーを増やし、練習をして おきましょう。
- 時間のある時は、ピアノの練習をしましょう。
- 事前の準備を怠らないようにしましょう。
- ・ 日常生活の基本的生活習慣を見直し体力作りをして健康に実習が行えるようにしましょう!
- ・ 日頃から生活態度やマナーを守ることを心がけましょう!

今から準備できることは準備しましょう!実習に向けての早めの準備は自信につながります。

# (4) SNS に関すること

インターネット上で不特定多数が閲覧できる媒体(以下、SNS等)は、毎日の生活に欠かせない存在になっています。SNS等の投稿アプリやソフトについて、個人情報が流出する、犯罪に巻き込まれる危険がある、知らないうちに周囲の人に迷惑をかけるなど、自分がしっかりしていないと人生に大きなダメージを受けるリスクを伴います。次の点に気をつけて、かしこい利用者になりましょう。

実習に関するものの写真撮影、投稿は全て禁止です。写真なしの文章のみの投稿も同じく禁止です。個人的な繋がりのある人にのみ公開されるものも同様です。実習日誌や指導案などを撮影し投稿したり、子どもの作品や様子について投稿したりすることが確認された場合、実習中止となることがあります。ほほえましいエピソードや、自分の努力したことであっても、投稿はしません。

実習に向けて署名・押印をした「誓約書」の内容を振り返ってみましょう。実習中はもちろん、実習後も守秘義務に努め、情報漏洩をしないことを皆さんは誓約していることを忘れないようにしてください。悪意のない投稿であっても、お世話になった先生方や、慕ってくれた子どもたちにも迷惑をかけることになります。また、あなたの信用も失います。

<u>(※ラーニングストーリーの記述等、授業で指示があった場合は、写真を使うことがありますが、その場合は学校から支給されたアプリ・カメラを使うことを約束してください。詳細は必ず授業内で確</u>認してください)

# 実習の個人票証明写真

実習で使用する証明写真を以下の注意事項に従って撮影してください。 実習先では、皆さんが事前訪問する前に、個人票の写真を最初に目にすることになります。

- ✓ ジャケット、ブラウス・ワイシャツ着用で撮影する。
- ✓ 前髪がまゆげにかからないように横に流す。また、目元や表情がよく見えるようにする。
- ✓ 髪を耳にかけるなど、顔の横に不自然に髪を垂らさないようにする。
- ✓ メイクは控えめで自然な感じにする。
- ✓ 髪を染めている人は自毛の色に戻す。

- ✓ 襟元を髪で隠さない。
- ✓ 襟を広げすぎない、きちんとアイロンをかける。

# 【撮影例】





# 電話のかけ方

電話をかける際は、静かな場所で、落ち着いて応対することが大切です。相手の顔が見えないため、 声や口調や言葉づかいだけで判断され、この電話での応対が第一印象を決めてしまう場合もあります。 明るく、元気でさわやかに話すように心がけるとともに、用件が正確に伝わるようにしましょう。

# ■電話のかけ方...次のことを確認しよう

事前に	• 自分の授業や予定を確認し、候補日を挙げておきましょう。				
	• 質問内容など要点を整理し、担当の方の氏名を確認しておきましょう。				
	• メモ取りに必要な筆記用具を用意しましょう。				
場所	• 落ち着いて話をするためにも、できる限り自宅など静かな場所からかけましょう。				
	• 携帯電話を使う際には電波状況を確認し、途中で途切れることのないようにしま				
	しょう。				
時間帯	• 登降園や昼食の時間帯は避けるなど、相手の時間の都合を考えましょう。				
	• 1 回目でつながらない場合は、相手の都合のよい時間を確認しましょう。				
名乗る	• 相手が電話に出たら、時間に合った挨拶をして、大学名、名前をはっきりと名乗り				
	ましょう。				
	例)「おはようございます。わたくし、〇月〇日から貴園で実習をさせていただきます、				
	○○大学の○○○と申します。」				
取り次いで	• 電話をかけると、担当の方がすぐに出るとは限りません。要件を簡潔に述べ、担当				
もらう	の先生につないでいただきましょう。				
	例)「恐れ入りますが、園長先生または実習ご担当の先生はいらっしゃいますでしょう				
	か。」				
都合の確認	• 取り次いでいただいたら、まず挨拶を。改めて大学名、氏名を名乗りましょう。				
	• いきなり用件に入らず、相手の都合を確認することも大切です。				
	例)「~の件でお電話いたしました。今お電話をしてもよろしいですか。」				
	• 担当の先生が不在、もしくは手が離せない時は、都合のよい時間を確認して、改め				
	てかけ直します。この時、復唱して間違いのないようにしましょう。				
	例)「ではまた○時頃お電話します。失礼します。」				
	※この時、相手が電話を切ったのを確認してから電話を切ります。				
メモ取り	<ul><li>記憶に頼らず、きちんとメモを取りましょう。</li></ul>				
	• 聞き漏らした点、不明な点はその場で再度聞くことが大切です。				
よく聞く	• 伝えたいことを一方的に話すのではなく、相手の話をよく聞くことも大切です。				
言葉づかい	• ゆっくりと丁寧に話すよう心がけ、使い慣れない難解な言葉づかいはやめましょ				
	う。				
	● 敬語の乱用に注意。				
電話の	● 日時、場所、名前などの大事な内容は、復唱し相手に確認しましょう。				
最後に	• 切る前に、必ずお礼の挨拶をしましょう。				
	• 電話は先方が切ったことを確認してからこちらが切ります。				
総じて	• 「明るく、元気に、さわやかに」を心がけましょう。				
	<ul><li>● 声の印象であなたの雰囲気が伝わります。</li></ul>				
	<ul><li>万が一電話が途切れてしまったら、かけた方からかけ直すのがマナーです。</li></ul>				
	※例えこちらのミスではなくても、電話が通じたら「先ほどは失礼いたしました」 と				
	お詫びの言葉を述べましょう。				

# 実習先訪問のマナー

# (1) 訪問前の注意

同じ実習先で実習を行う実習生が全員揃って事前訪問を行い、担当の先生からのオリエンテーションを受けます。自宅または学校から実習先までの行き方、所要時間などを確認しておきましょう。

- ※約束の時間より10分程度早く着けるよう確認して、遅刻は絶対にしないように。
- ※実習先へは公共交通機関を利用します。やむを得ず車やバイクを利用しないと行けない場合は事前に教務課に相談をした上で実習先の許可をうけてください。自転車を利用する場合も同様です。
- ※バスなどの道路交通渋滞は、事前に予測可能な場合がほとんどです。これを理由に遅刻することのないように、余裕を持った時間設定をしましょう。

事前に持ち物をチェックし、忘れ物の無いように十分注意してください。

※資料、提出物、筆記用具、メモ帳など

確認しておきたいこと、伺いたいことは、あらかじめまとめておいてください。

服装はスーツにしてください。実習先から私服で良いと言われた場合は、スーツに準ずる服装で訪問 しましょう。

## (2) 訪問のマナー

ここに挙げることは、面談や面接を受ける側の礼儀として最低限守るべきことです。社会人として 大切なことであり、面接の内容以上に人物評価の重要なポイントです。日頃から身につけておきましょう。

# 実習先に着く前に

訪問する場所の最寄り駅を降りた時点からオリエンテーションは始まっています。早めの到着を心がけましょう。**遅刻厳禁**。ただし、やむを得ず遅れてしまいそうな時(電車の大幅な遅延など)は、必ず実習園にその旨を早目に電話でお伝えすること。髪や服装の乱れを整え、携帯電話の電源を切りましょう。

到 着

実習園に到着したら、インターフォンなどがある場合は利用し(なければ直接受付へ)、大学名、名前を名乗る。明るくはっきりと話すのがコツ。相手に好印象を与える態度や話し方を心がけましょう。また移動中に会った方にも挨拶を。その際、参考のために保育者の服装を見ておくと良いでしょう。

### 待機(あった場合)

待機中、同席した学生と大声で話し合ったり、笑い合ったりといった態度は 禁物。また、携帯電話やメールの使用も厳禁です。だらしない態度や学生言葉 も慎み、質問事項などの確認の時間にあてましょう。

# 入 室

応接室の扉の前に立ったら、3回ほどノックし、応答の後、入室します。この時音を立てないよう丁寧に開閉します。開けながら姿勢を正して「失礼します。」と挨拶をし、閉めた後に向き直ってお辞儀をします。

【POINT】話しながらのお辞儀ではなく、「失礼します」と挨拶をしてからお辞儀をすれば、めりはりがあり好印象を与えます。



椅子の横に立ち(ドアに近い下座側)、「わたくし、oo大学のooと申します。本 日はよろしくお願いいたします。」と大きな声で挨拶をして、深めにお辞儀をし ます。

【POINT】お忙しい中面談をしていただくという感謝の気持ちを込めて、「よろしくお願いいたします」と言いましょう。

【POINT】自然な笑顔を忘れず、第一印象を大切にしましょう。

自己紹介後、指示があったら「失礼します」と言って着席します。深く腰掛け、背筋を伸ばし、手を膝の上に置き、膝と足元を付けて揃えます。背もたれに寄りかかることのないようにしましょう。また、提出物や筆記用具はすぐに取り出せるよう準備しておきます。メモを取る際は一言添えると良いでしょう。

確認事項、伺いたい内容、お願いすることなど、事前にまとめておいた内容を担当の先生にしっかりと確認しましょう。自分の実習の目標を尋ねられたら、 しっかり答えられるようにしておきましょう。

オリエンテーション終了後、椅子の横に立ち、「**ありがとうございました。 〇月〇日からよろしくお願いいたします。」**と挨拶とお辞儀をします。扉の前に 進み「**失礼します」**と再び挨拶とお辞儀をし、ていねいに扉を開閉して退室し ます。最後まで気を抜かないこと。

その他

退

室

園を出るまでにお会いする職員の方々にも「ありがとうございました。」などのお礼の挨拶をするのを忘れないでください。また最寄りの駅に到着するまでは気を引き締めてください。実習園の関係者の方がいらっしゃる可能性は大いにあります。携帯電話で友人と話す、歩きながら携帯電話を操作する、大きな声で一緒にいる実習生や友人と話をするなどは慎みましょう。決して気を緩めないでください。

### (3) 服装について

身だしなみは相手に好印象を与えることが大切です。また、相手が受け取る印象を意識した服装に 気を配れるかも見られています。清潔感や若者らしいさわやかさには誰でも好感を持つはずです。そ のことを忘れず、学生らしい態度で臨みましょう。

- ✓ 髪を染めている人は自毛の色に戻しましょう
- ✓ 前髪は目にかからないように、顔の横に髪を垂らすのもやめましょう
- ✓ 髪の長い人は下の方で結びましょう
- ✓ アクセサリー類は全て外します。服の下に隠れる場合もネックレスなどは外しましょう
- ✔ 爪は短く切り清潔に、ネイルも落とします
- ✓ A4サイズの実習日誌や書類が入る黒や紺の鞄を持参しましょう
- ✓ ストッキングは肌色、靴下は黒や紺、白など無地のものを履きましょう
- ✓ 靴はヒールの低いもの、色は黒や紺など就職活動などに用いるものに準じましょう
- ✓ 化粧は実習中と同様に最低限にしましょう。(不自然なまつ毛・カラーコンタクトはやめましょう)

# お礼状の書き方

実習の礼状とは、実習園・実習校の園長(施設長)・校長先生および職員の方々に、ご指導いただいた 感謝の気持ちを伝える手紙のことです。また手紙は、はがきと異なり、スペースが限られているわけ でもなく、内容を他人に見られるということもないため、自分の気持ちを伝える方法としては最も適 しています。したがって、目上の人への礼状は手紙がふさわしいと言えます。

### 1.礼状を書く目的をきちんと把握する

実習先の先生方は、日々の仕事でお忙しい中、さらに皆さんを受け入れて指導してくださっています。 そのことを踏まえ、感謝の気持ちを込めて、何を学び、何を得たのか、実習生自身の思いを伝えるために礼状を書きます。

### 2.誰に出すのか

手紙は、書く相手によって書き方に注意を払うことが大切です。実習礼状は、実習先の先生方に対して、また関わらせていただいた園児に対して送るものです。目上の人や親しくなった人、また、相手が園長・校長先生や指導担当の先生のように個人の場合と、教職員全体に出す場合とでは内容にも表現にもそれなりの心づかいが必要になるということを覚えておきましょう。

### 3.どのような内容にするか

「実習をさせていただいたお礼の気持ちを心をこめて書きます。」拝啓から始まり、時候の挨拶、安 否の挨拶、そして大学名と名前、実習期間に触れてお世話になったことへの感謝の言葉、特に学んだ ことやエピソード、実習を通して得たもの、近況と今後の抱負、結びの言葉、敬具という流れで書き 上げます。 内容はこの通りでなければならないということはありません。自分の気持ちを伝えるのに ふさわしいものに工夫できればさらに良いと思います。本やインターネットで例文を調べるのも良い でしょう。ただし、例文を丸写しすることは厳禁です。先生方はこれまでたくさんの実習生の礼状を ご覧になっているはずです。心がこもっているのかいないのかはすぐに分かります。必ず、自分の言 葉で、自分の気持ちを伝える内容にしましょう。また、ゆっくりと丁寧に書くということも忘れない でください。

### 4.一般的な心得

- 思ったことを自分の言葉で素直に書く。
- 相手にふさわしい表現を心がける。
- タイミング良く出す。実習終了後、1週間以内に投函することが望ましい。
- 文字は丁寧に正確に書く。
- 宛名、住所、園名等はしつかり確認する。 自他の呼び名は正確に使う。 (自分...私 相手...園長先生、校長先生、先生、先生方、職員の皆様、貴園)
- 白い便せん及び白封筒を使う。(キャラクターもの等はふさわしくない)
- 縦書きで記入する。
- 1 枚で終えた場合は、白紙を 1 枚添えて 2 枚にするのがマナーです。
- 切手は曲がらないように貼る。

# 頭語と結語

頭語	結語	用い方	
拝啓	敬具	一般的な文章	
拝啓 かしこ		一般的な文章(女性の場合)	
謹啓	謹白	より丁寧に書くとき	
拝復 敬具		返信を書くとき	
急啓 早々 耳		取り急ぎの場合	

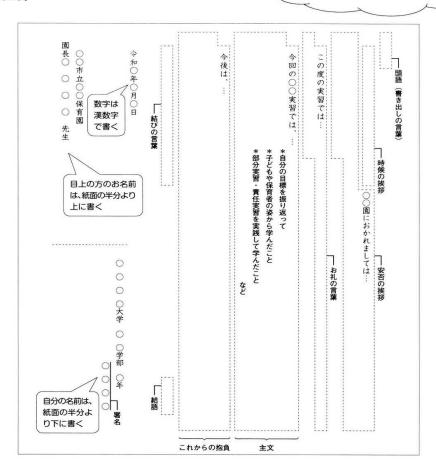
# 時候の挨拶

1月 睦月(むつき)	5月 皐月(さつき)	9月 長月(ながつき)
・ 新春(厳寒・寒冷・厳冬)の候	<ul><li>新緑(初夏)の候</li></ul>	・ 秋涼(初秋)の候
<ul><li>新春とは申しながら厳しい寒さが</li></ul>	・ 新緑がまぶしい季節	・ 爽やかな初秋の季節を迎え
続いております	<ul><li>風薫る爽やかな季節となりました</li></ul>	・ 朝夕ようやくしのぎやすくなりま
・ 寒気ことのほか厳しい毎日が続い		した
ております		
2月 如月(きさらぎ)	6月 水無月(みなづき)	10月 神無月(かんなづき)
・ 晩冬(厳寒・春寒)の候	・ 初夏(梅雨・向暑)の候	・ 仲秋(紅葉・秋冷)の候
・ 立春とは名ばかりの寒い日が続い	・ うっとうしい梅雨空が続いており	・ 木々の葉も鮮やかに色づいて参り
ております	ます	ました
・ 梅のつぼみもふくらみかけて参り	・ 木々の緑もようやく深くなり	・ 日増しに秋も深まって参りました
ました		
3月 弥生(やよい)	7月 文月(ふみづき)	11月 霜月(しもづき)
・ 春陽(早春・春暖)の候	・ 盛夏(炎暑・酷暑)の候	・ 晩秋(暮秋)の候
<ul><li>一雨ごとに寒さもゆるみ</li></ul>	<ul><li>梅雨明けの待たれる日々でござい</li></ul>	・ 朝夕めっきり冷え込む季節となり
<ul><li>日ごとに春めいて参りました</li></ul>	ます	ました
	・ 空の青さが夏らしく輝きを増して	・ 落ち葉が舞う季節となりました
	きました	
4月 卯月(うづき)	8 月 葉月(はづき)	12月 師走(しわす)
・ 春暖(仲春・陽春)の候	・ 残暑(晩夏・炎暑)の候	・ 厳寒(寒冷・初冬・師走)の候
• すっかり春めいて参りました	・ 虫の音に秋の訪れを感じる季節と	・ 木枯らしの吹く季節となりました
<ul><li>春光うららかな季節となりました</li></ul>	なりました	・ 寒さもひとしお身にしみるころと
	<ul><li>残暑耐えがたい毎日でございます</li></ul>	なりました

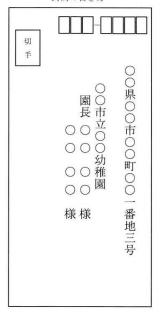
# 安否の挨拶

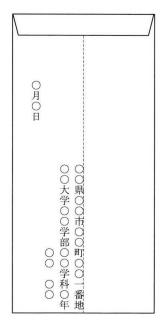
「いかがおすごしでしょうか」「ご健祥(健勝)のこととお喜び申し上げます。」 心を込めて書きましょう。

お世話になった先生へのお礼状です 心をこめて書きましょう



封筒の書き方





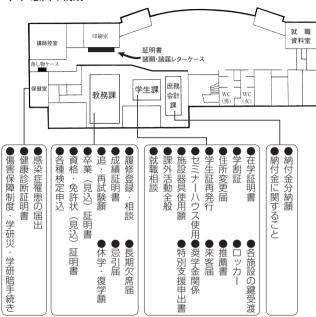
# 学生生活

# 目 次

1.	事 務 局	175
2.	豊かな学生生活を送るために	177
3.	証明書·諸願·諸届	183
4.	通学定期乗車券及び学割証発行	185
5.	奨 学 金	187
6.	保 健 室	194
7.	学生相談室	197
8.	ハラスメント	198
9.	個人情報保護	201
10.	障害学生の支援	206
11.	地震防災対策	209
12.	課外活動	210
13.	施 設	213
建物的	配置図	218

# 1. 事務局

### (1) 窓口の構成



### 受付時間について

	平 日	土 曜
受付時間	8:50~16:50	8:50~13:20
休憩時間	11:30~12:20	11:30~12:00

### (2) 担当の説明

### 教 務 課

教務課は、教学に必要なすべての業務を担当しており、授業運営や、成績証明 書などの諸証明発行等の窓口となっています。また、所轄事項の事務処理だけで なく、履修方法・成績・資格取得・学籍異動等々にわたって学修相談、助言、指 導を行っています。又、編入指導に関する窓口ともなっています。

実習については、5号館1階の教育保育職支援センターが相談、指導の窓口となっています。

### 学 生 課

学生課は、学生生活全般の窓口です。学生会を中心とする課外活動の支援・諸証明の発行業務・奨学金・学生相談室や保健室・アパート紹介も担当しています。就職については、就職ガイダンスや就職模試・就職試験対策講座などの指導相談を行っています。

### 庶務会計課

庶務会計課は、本学の財務と施設・設備の管理、営繕を担当しています。予算 編成、資金収支の記録、資産の管理等の業務を行っています。

窓口では、学費の分納手続きの受付、各種納付金について扱っています。

### 入試広報課

入試広報課は、入試業務全般と広報活動を行っています。

入試広報課は、7号館にあります。

# 2. 豊かな学生生活を送るために

### (1) これだけは知っておこう

### ①学籍番号について

学籍番号は、あなたの固有番号です。学籍番号は学生証に記載されていますが、 学内における多くの手続きは学籍番号によって行われますので、正確に記憶して ください。

学籍番号は8桁で構成されています。

 311
 24
 001

 学部学科番号
 入学年度
 個人番号

最初の3析=学部学科番号

(保育学部保育学科:311、保育学部国際教養こども学科:

312、学芸学部英語学科: 321、国際学部国際学科:

331、大学院人間文化研究科人間科学専攻:511、大学院

人間文化研究科地域文化専攻:512)

次の2桁=入学年度の下2桁

最後の3桁=個人番号

### ②学生証について

本学の学生であることを証明する身分証明書ですので、常に携帯してください。 学生証は、通学定期乗車券を購入するとき、学生旅客運賃割引証(学割証)を購入するとき、定期試験を受験するとき、各種証明書を発行するとき、図書館を利用するとき、住所変更届や改名(姓)届の提出などに必要です。

紛失した場合は、学生課で再交付の申請をしてください。また他人に貸与・譲渡 したり、不正に使用しないでください。

※再発行については、「3. 証明書・諸願・諸届」を参照してください。

### ③自動車通学について

次の(1)から(4)の条件をすべて満たす場合、または(5)に該当する場合は、自動車による通学を認めることがあります。希望する場合は、学生課に相談してください。

- (1) 自動車による通学時間が公共交通機関を利用した通学時間より短縮され、 公共交通機関より自動車通学が妥当であると判断できること
- (2) 自動車運転免許を取得後、6ヶ月以上経過したものであること

- (3) 任意保険に加入していること
- (4) 保護者の同意(承諾)が得られていること
- (5) その他、怪我や荷物運搬などで臨時的に自動車による通学が必要な場合

### ④自転車・バイク通学について

自転車及びバイクで通学を希望する学生は、学生課に所定の登録をしてください。自転車・バイクには指定シールを貼り、2号館裏と6号館横の駐輪場に置いてください。自転車の盗難が増えていますので、必ず施錠をして防犯に努めてください。

また、近年、自転車事故による高額賠償請求事例が全国各地で散見されるなど、 自転車の事故に対する社会的責任の重みが増してきています。こうした状況を背景に、自転車損害賠償保険等への加入を条例で義務化する自治体が増えています。被害者の保護、自分が加害者になったときの経済的負担の軽減のためにも、自転車損害賠償保険等に加入しましょう。

### ⑤個人用ロッカーについて

希望者には、個人用ロッカーを4年間貸与しますので、大切に使用してください。キャンパス内での盗難防止のためにもロッカーを利用してください。 故障や鍵を紛失した場合は、学生課へ申し出てください。 返却する時は、ロッカーの中を清掃して空にしてください。

### ⑥盗難防止について

キャンパス内でも盗難が発生します。ほんの一瞬目を離したすき(教室にカバンを置いたままトイレに入ったなど)に被害は起こっています。貴重品は放置することなく常に自分自身で管理してください。もし盗難の被害にあった場合、学生課へ届け出てください。

### ⑦落し物について

落し物・拾得物については届け出て下さい。持ち主の分かるものについては、すぐに連絡をします。(保管場所は学生課及び保健室前)

### ⑧キャンパス内での緊急時の連絡先について

課外活動中における事故やケガなどがあった場合の緊急連絡先は以下のとおりです。 警備員の緊急連絡先 080-3065-6318 (16:50以降)

### (2) 留意事項 ~トラブルに巻き込まれないために~

### ①サークル活動を装って勧誘している宗教団体について

学内外でサークル活動を装って勧誘してくる宗教団体があります。そんな時には、曖昧な態度をとらずにはっきりと断り、自分の連絡先は教えないこと。また、勧誘や被害にあった場合は、必ず警察と学生課に報告してください。

### ②大学の職員を装って学生の連絡先を聞いてくるケースについて

大学では、電話やメールによって商品の販売を勧誘することはありません。また 緊急時に保証人(保護者など)に電話することはありますが、保証人から学生本 人に連絡をとってもらい、本人から折り返し連絡してもらった上で学生本人に直 接用件を伝えることにしています。ご家族には、そういう電話があった場合は、 「本人から連絡させます」と返答するように伝えてください。また不審な電話が かかってきたときには、相手の名前や両屋などを関いたしていったも零話を切

「本人から連絡させます」 
こと答するように伝えてください。また不番な電話がかかってきたときには、相手の名前や所属などを聞いた上でいったん電話を切り、折り返し大学に連絡をしていただくよう伝えてください。

### ③痴漢やいたずら電話などについて

学生に対する痴漢やいたずら電話などの被害が増えています。通学やアルバイト 通勤途上など、普段から常に防犯に努めてください。もし被害にあった場合、警察に届け出るとともに学生課にも報告してください。

授業やサークル活動で帰宅時間が遅くなる時、通学路が暗くて心配な学生には防 犯ベルを学生課で貸し出していますので、利用してください。

### ④クレジット・学生ローンについて

クレジットカードは、支払いのことも考慮し計画的に使用してください。カードを作るときも、保証人とも相談のうえ慎重に決めてください。また、高利のサラ金や学生ローンなどには絶対に手を出さないで下さい。

### ⑤身に覚えのない「利用料金」請求について

郵便・携帯電話・電話・メールなどで身に覚えのない利用料金を請求された時は、相手方に対して自分の情報を教えることになりますから、決して連絡をとったりせず無視をしてください。もし請求にかかわって裁判所から通知が届いた場合は、名古屋市消費生活センター・愛知県中央県民生活プラザなどで相談してください。

### (相談窓口)

名古屋市消費生活センター 052-222-9671 愛知県県民相談・情報センター 052-962-5100

### ⑥アルバイトについて

大学へ届いたアルバイトの情報は学生課窓口にファイルしてあります。

### <ブラックバイトについて>

ブラックバイトとは、学生アルバイトであるにもかかわらず「長時間労働を強い られたり、契約内容と違った業務、過剰な責任やノルマを課せられたり、試験期 問中にも休ませてくれないなど、学生であることを尊重しないアルバイトのこ としをいいます。アルバイトでトラブルやお悩みのある方は、次の団体に相談し てください。

ブラックバイト対策弁護団あいち 052-211-2236

### ⑦悪徳商法について

学生を狙って、高額な教材や資格取得・英会話学校など、様々な手段・方法で勧 誘する悪徳商法・高額商法が増えています。軽率に契約すると高額の支払請求が きて学生生活の大きな障害となります。もし勧誘されたときは、曖昧な態度はと らずはっきり断ることです。また、住所・メールアドレス・電話番号などは絶対 に数えないことです。

### クーリングオフ制度について(Cooling-off)

「特定商取引に関する法律」等で指定された商品やサービスについて、法定書 面(契約書面)を受けとった日から一定の期間(8日間や20日間など)であれ ば、書面で申込の撤回又は契約の解除通知をすれば無条件で売買を白紙に戻す ことができる制度です。契約してしまったからといって諦めずに速やかに手続 きを行ってください。

### ⑧成年年齢の引き下げについて

民法の改正により、2022年4月から成年年齢が20歳から18歳に引き下げられ ました。成年に達すると、保護者の同意がなくても自分の意志で様々な契約がで きるようになります。これまで認められていた未成年者取消権が適用されなくな り、一旦契約すると未成年であることを理由に、契約を取り消すことができなく なるため、注意が必要です。

### ⑨不正薬物(大麻・覚せい剤など)について

不正薬物(大麻・覚せい剤・MDMA・コカインなどの麻薬、向精神薬、有機溶 剤など)は、その使用だけではなく、所持や栽培・製造行為も重大な犯罪行為で あり、法律で厳しく罰せられます。本学でもそのような行為を行った学生があれ ば、退学を含む厳重な処分を下すことになります。「見つからなければ……」と 軽く考えていませんか?もし手を出せば、学生生活はもちろん今後の人生も台無 しになってしまいます。

### ⑩キャンパス内での喫煙について

喫煙は、喫煙者自身の健康を害するだけではなく、受動喫煙などにより非喫煙者の健康も害しています。 喫煙者の多くが大学時代に喫煙習慣を身に付けていることから、 喫煙人口の減少に貢献することは、大学の社会的責務と考えます。 本キャンパスは教育機関としてキャンパス内全面禁煙となっています。 禁煙したい 人は保健室まで気軽に相談してください。

### 印飲酒について

20歳末満の飲酒は法律で禁止されています。サークル活動では他大学と合同の 打ち上げなど飲酒の機会があると思いますので、厳守してください。20歳以上 の学生についても、「イッキ飲み」による急性アルコール中毒など無理な飲酒に は十分気をつける必要があります。

### ⑫学外者からの呼び出し・問い合わせについて

個人情報保護の観点から、原則的には応じられません。ただし、緊急の場合は除 きます。

### ③公衆電話について

図書館に設置してありますので、利用してください。

### ⑭授業中や課外活動中の事故について

大学管理下における事故については、傷害保険及び賠償保険の対象になりますので、学生課又は保健室まで申し出てください。

### ⑥犯罪に巻き込まれない、友だちを巻き込まない。

大学生になると高校生の時までとは違い、時間的、金銭的な余裕が生まれ、八メを外したくなります。そんなみなさんをターゲットに様々な誘惑が近づいてきます。その結果、悲惨な事故や事件に巻き込まれる恐れがあります。特にネット詐欺や、痴漢、援助交際、DVなどの性犯罪は重大な被害をもたらします。被害にあったかもしれないと気づいたときは警察や大学(学生相談室、ハラスメント相談員、保健室、学生課等)に相談しましょう。

### ⑥知っておいてほしいSNSとの付き合い方

毎日の生活の中で、すでに欠かせない存在となっているLINE、Instagram、Facebookプログなどの「SNS」。一方で、個人情報が流出する、犯罪に巻き込まれる危険がある、知らないうちに周囲の人に迷惑をかけるなど、自分がしっかりしていないと人生に大きなダメージを受けるリスクを伴います。次の点に気をつけて、かしてい利用者になりましょう。

- 1. SNS Fの情報は、正しいものばかりではありません。
- 2. 著作権、肖像権など、基本的なルールは守らなくてはいけません。
- 3. SNS上でいったん発信した情報は、取り消すことができません。
- 4. 匿名で発言しても、個人を特定することは可能です。
- 5. 自分だけでなく、家族や友人にまで被害がおよぶことがあります。

### ↑ 特に注意してほしいNGな投稿 ∧

- 1. 就職活動
  - (1) 飲酒・喫煙に関わる過ち、過激な発言や画像
  - (2) 会社や商品などについて、実名をあげて批判すること
  - (3) ESの内容や面接の様子などの採用活動、内定後のレポートなど内定者 指導に関わる情報
- 2. 実習(下記は一例です。実習に関しては写真撮影・投稿はすべて禁止です。)
  - (1) 子どもの作品や園の様子を撮影し、許可なく掲載すること
  - (2) 実習日誌や園からの課題など、関係資料を撮影し、掲載すること
  - (3) 園や関係者に関わる批判的な発言

### (困ったときの連絡先)

- ①大学 桜花学園大学事務局 0562-97-5503
- ②公的機関
  - (1) 消費行動(ネットショッピングやワンクリック詐欺など)に関わるトラブル 国民生活センター、または最寄りの消費生活センターへ。 ※消費者ホットライン 188 (いやや)番 (最寄りの消費生活相談窓口を案内するものです)
  - (2) 犯罪に関わるトラブル

近くの警察署やサイバー犯罪相談窓口へ。

愛知県警察本部サイバー犯罪相談窓口 052-951-1611 (代)

岐阜県警察本部サイバー犯罪相談窓口 058-272-9110 (総)

三重県警察本部サイバー犯罪相談窓口 059-224-9110 (総)

# 3. 証明書・諸願・諸届

学生のみなさんが、在学中に必要とする諸証明書は下記のとおり発行しています。 なお、有料の証明書については、自販機で証紙を販売していますので、発行願に 貼り申し込んで下さい。

### 証明書一覧

種類	担当課	交 付	手数料	備考
成績証明書		即日	300円	
卒業(見込)証明書		//	200円	
指定保育士養成施設卒業見込		//	200円	
証明書	教	"	200	
幼稚園教諭1種免許状取得見込	3^	//	200円	
証明書		"	200円	
小学校教諭 1 種免許状取得見込		//	200円	
証明書		"	200円	
特別支援学校教諭1種免許状	務	//	200円	
取得見込証明書		"	200	
中学校教諭 1種免許状(英語)		//	200円	
取得見込証明書		"	200	
高等学校教諭1種免許状(英語)		//	200円	
取得見込証明書	課		200	
試験場入室許可証		//	無料	
英文証明書(卒業(見込)・成績)		数日	500円	
在学証明書		即日	200円	
健康診断証明書	学	即日	300円	
推薦書	生	3日以内	無料	
学生旅客運賃割引証(学割)	_	3日以内	//	年間交付枚数は10枚程度
学生証再発行	課	3 🖯	1,000円	印 鑑

### 願・届一覧

何以	/100	元			
種		類	担当課	提 出	備考
休	休 学 願			+-+>+-1-	疾病又はやむを得ない理由により引き続き
11/1	<del>-</del>	隙		ただちに	3ヵ月以上修学することのできない者
退	学	願		+ +*+!-	疾病又はやむを得ない理由により、退学す
座	<del>-</del>	隙	教	ただちに	る者
復	学	願	37	ただちに	休学期間満了の者、又は休学期間中におい
接	<del>-</del>	隙		ICICOL	てもその理由が消滅した者
=	1 46	5 🖈		正字の押口	中途退学した者で再入学を志願する者(同
<del>  173</del> .	入学原	音		所定の期日	学園からの受験生)
転	学	部		所定の期日	本学在学中に所属の当該学科以外の学部学
転	学	科		別をの期日	科に在籍学科を変更希望する者
_	地石丘			ただちに	疾病又は傷病その他の事故でやむを得ず連
反:	長期欠席届		務		続7日以上にわたって欠席する者
忌	31	届		ただちに	忌引きする者
		験 願		試験実施までに 連絡し、速やか	疾病又はやむを得ない事由により、受験が
追	試 験				不可能となり追試験を希望する者
				IC	小川能となり追試駅で布里9の有
=	再試験願			成績通知日	定期試験において不合格と判定された科目
<del>                                    </del>					で再試験を希望する者
科	科目等履修生入 学 願 書		-m	正字の押口	名古屋短期大学の授業科目を履修すること
入			課	所定の期日	を志願する者(在学生は無料)
他等	学部他等	学科		正字の押口	他学部他学科の授業科目を履修することを
履	修	願		所定の期日	志願する者
住	所変更	届	学	ただちに	
改和	名 (姓)	届	生	ただちに	住民票
特	別支	援	_	随時	
申	出	書	課	NGP진	

# 4. 通学定期乗車券及び学割証発行

### 通学定期乗車券

通学区間とは学生証に記載してある現住所の最寄駅から大学の最寄駅までの最短 区間です。通学目的以外(アルバイトなど)の証明書は発行しません。

- (1) 定期券は**学生証裏面**で購入できますので、最寄駅で購入して下さい。 ※学生証裏面には「通学定期乗車券発行控」欄があります。記載欄がなくなっ たら学生課で新しい発行控をお渡しします。
- (2) その他、指定用紙に学校の証明が必要な場合は、学生課まで来て下さい。

### 実習用通学定期乗車券

実習が学修単位修得に必要となる場合に発行します。 各実習の事前指導で指示します。

### 学生旅客運賃割引証(学割証)の発行について

学割証は、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的 として発行されるものです。学割乗車券を使用するときは、学生証を必ず携帯して 下さい。

発行は原則として下記の目的のために利用する必要があると認められる場合に限ります。所定の申請書を学生課へ提出して下さい。

- (1) 休暇、所用による帰省
- (2) 実験実習などの正課の教育活動
- (3) 学校が認めた特別教育活動または体育・文化に関する正課外の教育活動
- (4) 就職または進学のための受験等
- (5) 学校が修学上適当と認めた見学または行事への参加
- (6) 傷病の治療その他修学上支障となる問題の処理
- (7) 保護者の旅行への随行

学割は鉄道・航路を100キロ以上(片道)乗車する場合に乗車券が2割引となります。

- 〈注意〉・1年間10枚程発行します。
  - ・有効期間は発行日から3ヵ月間です。

学割証を不正に使用した場合は、本人が処分を受けるだけでなく、大学全体が発行を停止させられることがありますので絶対に不正使用しないで下さい。

<学生団体旅行割引証について>

鉄道、バス会社では、それぞれ学生団体旅行割引制度があります。 各会社によって対象となる人数、割引率に違いがあります。詳しくは各鉄道・ バス会社および旅行会社に問い合わせて下さい。

#### 例: J R利用の場合

#### ①条件

- 同じ発着経路で旅行
- · 1名以上の教職員が同行
- ・ 団体の最小必要人数は8名

#### ②割引率

・普通運賃の5割引 (教職員・付添人3割引)

# 5. 奨学金

# (1) 独立行政法人日本学生支援機構

2004年度より日本育英会を解散し、独立行政法人日本学生支援機構となりました。優秀な学生で経済的理由により修学が困難な学生に貸与して、教育の機会均等をはかり、社会の健全な発展に尽くすことを目的としています。

人物・学力・収入が選考の基準になっています。

# 貸与奨学金

## 大 学

①奨学金の種類と貸与期間(下記、貸与金額は平成30年度入学者から適用)

奨学金の種類	対象	種別	貸与	貸与月額(下記の金額のいずれかから選択)		
第一種奨学金 (無利息) 全学年		貸与	自宅	2万円、3万円、4万円、5万4千円	4月	
			自宅外	2万円、3万円、4万円、5万円、6万4千円	.,,	
第二種奨学金 (利息付)	全学年	貸与	2万円だ	2万円から12万円のうち1万円単位で選択		

※主たる家計支持者を失った場合、または失職・病気等により家計が急変し、緊急に奨学金を受ける必要が生じた場合は学生課まで相談にきてください。

#### ②出願資格

学業成績

	1 年	2 年 以 上	
1/h	高等学校最終2か年の学習成績評定	大学における学業成績が学部(科)の上位	
一俚	の平均値が3.5以上	1/3以内の学生。	
— 1/h	高等学校における成績がその者の	大学の成績が平均水準以上の者	
—俚	属する学年の平均水準以上の者	人子の成績が十均水平以上の有	

# ③推薦と採用決定

学内選考のうえ推薦します。日本学生支援機構は大学の推薦に基づいて採否を 決定します。

#### ④奨学生の心得

- ・学業成績-前年度学業成績を日本学生支援機構に報告します。
- ・奨学金継続願-年間1回12月頃に配布、掲示にて連絡します。

#### ⑤ 進学届

高等学校で奨学生採用候補者として決定通知を受けている人は、IDとパスワードを配布しますので説明会に参加して下さい。

#### 6 在学届

本学入学以前に日本学生支援機構の奨学生であった人は、在学中の返還が猶予されますので、学生課まで提出して下さい。

### ⑦奨学金の返還

奨学生として採用された後、6月頃に採用時説明会を行います。

### 大学院

人物・学業ともに特に優れ、経済的理由により著しく修学に困難があると認められ、奨学金には返還義務が伴うことを自覚している修士・博士前期課程の学生に対しては、日本学生支援機構により奨学金が貸与されます。

### ①奨学金の種類と貸与期間

奨学金の種類	対象	種別	貸与月額(下記の金額のいづれかから選択)	募集時期
第一種奨学的	全学年	貸与	5万円、8万8千円	4月
第二種奨学:	全学年	貸与	5万円、8万円、10万円、13万円、15万円	4月

#### ②学力基準

第一種奨学金	第二種奨学金	
大学並びに大学院における成績が特に	①大学並びに大学院における成績が特に優れ、	
優れ、将来、研究能力または高度の専	将来、研究能力または高度の専門性を要する	
門性を要する職業等に必要な高度の能	職業等に必要な高度の能力を備えて活動する	
力を備えて活動することができると認	ことができると認められる人	
められる人	②大学院における学修に意欲があり、学業を確	
	実に修了できる見込みがあると認められる人	

#### ③家計の基準

本人及び配偶者(配偶者は定職収入がある場合のみ)の前年度分(1~12月)の収入金額が、収入基準額以下であることが必要です。

収入基準額			
第一種奨学金	第二種奨学金		
299万円	536万円		

#### ④推薦と採用決定

学内選考のうえ推薦します。日本学生支援機構は大学の推薦に基づいて採否を決定します。

# ⑤進学届

大学院奨学生採用候補者決定通知書(進学届)を学生課まで提出してください。

# 高等教育の修学支援新制度

経済的な理由で学び続けることをあきらめないよう、2020年4月から給付型奨学金と授業料等の減免により、意欲のある学生のみなさんの「学び」を支える新制度です。この制度は、収入・学力・その他の選考基準があります。

※貸与奨学金と併せての利用もできますが、第一種奨学金に関して、高等教育の 修学支援新制度の対象になった場合は、貸与額の制限があります。

※詳細については、学生課で確認して下さい。

# (2) その他の奨学金

日本学生支援機構の他に、地方公共団体、民間団体等の行う各種の奨学制度があります。これらについては募集依頼があり次第掲示しますが、本学で取扱っていない奨学金も数多くありますから、機会があれば出身の地方公共団体に照会するとよいでしょう。

下記は、昨年度募集があった民間団体の奨学制度の一例です。

奨学	奨学事業団体名又は奨学金名			種	別	月 額
大	幸	財	4	給	付	40,000円以内
横	山育	英 財	4	給	付	18,000円
あ	しなか	が 育 英	会	貸	与	40,000円か50,000円

その他、市町村の奨学制度は、各ホームページでご確認下さい。

# (3) 桜花学園奨学金制度

学校法人桜花学園が設置する桜花学園大学・名古屋短期大学及び桜花学園高等学校(幼稚園は除く)に在籍する学生・生徒が保護者等の経済的事由により、修学困難となった場合に支給されます。 奨学金の額は、原則として授業料相当額です。

随時受付けていますから、学生課に問い合わせて下さい。

# 桜花学園大学 学修奨励賞に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、桜花学園大学の学修奨励賞(以下「奨励賞」という。)に関し、必要な事項を定める。

(資格)

- 第2条 奨励賞の授与対象は、次の各号に該当する者でなければならない。
  - (1) 本学在学中の者
  - (2) 公的な語学検定試験を在学中に受験し、優秀な成績をおさめた者

(選考基準) 第3条 奨励賞授与学生の選考は、別に定める基準に拠って行うものとする。

(選考委員会)

- 第4条 奨励賞授与学生を選考するために選考委員会をおく。
  - 2 選考委員会は、学生部長、教務部長及び学長が指名した教員をもって構成する。
  - 3 選考委員会は、委員会での結果を学長に報告する。

(奨励賞の決定)

第5条 奨励賞授与学生は、前条に定める選考委員会の報告を経て学長が決定する。

(奨励賞の授与)

- 第6条 奨励賞については賞状及び副賞とし、学長が授与する。
  - 2 副賞は別に定める学修奨励金とする。

(資格の取消)

- 第7条 次の各号の一に該当した場合には、奨励賞授与の資格を失うものとする。
  - (1) 本人の申出による場合
  - (2) 在学生でなくなった場合
  - (3) 虚偽の申し出があった場合
  - (4) 大学の秩序を乱す行為があった場合

(委任)

第8条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この規程は、令和4年11月1日から施行する。

# 桜花学園大学 学修奨励賞内規

(準 拠)

第1条 この内規は、桜花学園大学学修奨励賞に関する規程に定める事項において、その細則を定める。

(対象および奨励金金額)

第2条 学修奨励賞の授与対象および奨励金の金額は別表による。

(申 請)

- 第3条 学修奨励賞の授与を希望する学生は、原則、前年度2月16日から申請年 度2月15日までに確定した公的な語学検定試験の結果をもって別紙の申 請書を提出しなければならない。
  - 2 一言語につき一度取得した奨励金クラスおよび下位の奨励金クラスは申請できない。
  - 3 伸長点スコアによる申請と奨励金クラスの申請は同時にできる。伸長点スコアとは第1項に定める期間内獲得スコアの差とする。
  - 4 入学前および休学期間は第1項に定める期間に含まれない。

(支給時期)

第4条 学修奨励金は、原則3月上旬までに支給するものとする。

(支給方法)

第5条 奨励金の支給方法は、原則学納金振替口座に振込むものとする。

附 則

この内規は、令和4年11月1日から施行する。

#### 別表 (第2条)

#### 学修奨励金の支給対象および支給金額

奨励金クラス (金額)	3万円	1万円	5000円
	TOEIC L&R 880点	TOEIC L&R 750点	TOEIC L&R 650点
	以上	以上	以上
英	TOEIC S&W 300点	TOEIC S&W 270点	TOEIC S&W 240点
	以上	以上	以上
	TOEFL (iBT)	TOEFL (iBT)	TOEFL (iBT)
	100点以上	83点以上	71点以上
	TOEFL-PBT 600点	TOEFL-PBT 550点	TOEFL-PBT 500点
	IELTS 7.0以上	IELTS 6.0以上	IELTS 5.5以上
語	英検1級	英検準1級	
pa pana	CASEC 750点以上	CASEC 700点	CASEC 625点
	EPT発音テスト	EPT発音テスト	EPT発音テスト
	86点以上	80-85点	71-79点
韓国	韓国語能力試験	韓国語能力試験	韓国語能力試験
	(TOPIK)6級	(TOPIK)5級	(TOPIK)4級
語	ハングル能力検定試験	ハングル能力検定試験	ハングル能力検定試験
	1級	2級	準2級
中国	中国語レベルテスト	中国語レベルテスト	中国語レベルテスト
	(HSK)6級	(HSK)5級	(HSK)4級
語	中国語検定試験 1級	中国語検定試験 2級	中国語検定試験 3級

[※]TOEIC L&Rについては、対象期間内のスコアの伸長点が150点以上あった場合、 1万円を支給する。

[※]TOEIC S&Wについては、対象期間内のスコアの伸長点が80点以上あった場合、1万円を支給する。

[※]TOPIK、HSKについては、対象期間内のスコアの伸長点が100点以上あった場合、 1万円を支給する。

# 6. 保健室

### 健康相談・悩み相談

研究管理棟1階事務局の隣には保健室があり、保健室職員が常駐しています。体調が悪いときや怪我をしたときは、必要な手当てや処置を受けることができます。また、からだの悩みや、人に言いづらい心配事がある場合は、いつでも保健室職員が相談に応じています。個人の秘密は厳守されますので、気軽に利用してください。他にも、身長・体重・体脂肪・視力・聴力・血圧がいつでも測定できますから、健康管理に利用してください。

#### AEDについて

AED(自動体外式除細動器)は学内数箇所に設置してあります。詳しくは建物 配置図をご覧ください。

#### 学生定期健康診断

学校保健法に基づき、毎年1回定期的(4月初旬)に「学生定期健康診断」を実施しています。必ず、全員が受診してください。健診当日に受けられなかった学生は、後日、医療機関等で検査(費用は自己負担)を受けなければなりません。

健康診断の記録は大切に保存され、その結果をもとに「健康診断証明書」を発行 しています。健康診断書は、各種実習・就職試験・インターンシップ等で必要な書 類です。定期健康診断を受けていないと発行できませんので、ご注意ください。

## 学校医の紹介

本学の学校医は次のとおりです。

# 藤田外科

/2- T	
住 所	名古屋市緑区境松2-333(中京競馬場前駅北口より徒歩2分)
電話番号	052-621-4323
診療科目	外科·整形外科·内科·皮膚科·消化器科·泌尿器科
診療時間	月~土 午前 9:00~12:30
砂原时间	月~水・金 午後17:00~19:00
休診日	木曜日午後・土曜日午後・日曜日・祝日

# インフルエンザなどの感染症の届け出

インフルエンザなどの感染症にかかり、医師が他者への伝染の恐れがあると診断 した場合、学校保健法によって出席停止が定められています。出席停止の対象とな る感染症にかかった場合は、感染が分かった時点で速やかに大学(保健室または教 務課)へ電話連絡し、指示に従ってください。医師から登校の許可が下りてから、 診断書や必要書類の提出を行います。

出席停止の対象となる感染症は以下の通りです。

#### 1. 第一種の感染症

・エボラ出血熱 ・クリミア・コンゴ出血熱 ・南米出血熱 ・ペスト・マールブルグ病 ・ラッサ熱 ・急性灰白髄炎 (ポリオ)
 ・ジフテリア ・重症急性呼吸器症候群 ・鳥インフルエンザ

# 2. 第二種の感染症

・インフルエンザ ・百日咳 ・麻しん ・流行性耳下腺炎

・風しん・水痘・咽頭結膜熱・結核

・髄膜炎菌性髄膜炎 ・新型コロナウイルス感染症

#### 3. 第三種の感染症

・コレラ・細菌性赤痢・腸管出血性大腸菌感染症

・腸チフス、パラチフス ・流行性角結膜炎 ・急性出血性結膜炎

### 4. その他の感染症

上記の感染症ではないが、医師が感染拡大防止のために欠席が必要と判断した感染症

#### 保険制度について

#### 傷害保険及び賠償保険

本学の学生は、教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために「学生教育研究災害傷害保険(学研災)」、学生の過失による賠償責任保障のために「学研災付帯賠償責任保険(学研賠)」に全員が加入しています。入学時に配布される「加入者のしおり」が証書になります。大事に保管しておいてください。事故が起こった際には、保健室に申し出てください。

#### 傷害保障制度

学研災の免責期間にあたる傷害に関しては、学園独自の保証制度を設けています。 大学管理下において生じた傷害事故のうち、学研災の免責期間にあたる場合には 治療費補助を行います。

- (1) 治療費補助支払いの対象となる大学管理下の事故とは、次の場合を言います。
  - ⑦ 正課中に被った事故
  - ② 大学の認める課外活動中に生じた事故
  - ⑦ 大学が主催する諸行事中に生じた事故
  - □ 通常の経路及び方法による通学中の事故
  - ⑦ その他学長が大学管理下と認めた事故
- (2) 治療費補助支払いの対象とならない事故
  - ⑦ 大学の管理下にはない事故
  - ② 故意や犯罪行為による事故
  - ⑤ 病気や心神喪失による事故
  - ① 地震や暴風雨などの天災による事故
- (3) 支払われる治療費補助の額について

大学の認める傷害事故により、入院を必要とする場合は1日につき1,500円を、通院を必要とする場合は1日につき1,000円を支払う。

### (4) 申請期限について

治療費補助の請求は、当該事故のあった年度に限る。ただし、年度を越えて治療を継続する場合は除く。

# **7. 学生相談室** (O号館3階)

学生生活をすごすうちに、もし勉学や進路、人間関係などで悩むことがあったとしたら…。それは、あなたが大人になってゆく"生みの苦しみ"です。

学生相談室は、あなたがそういう悩みをかかえたときに、カウンセラーと1対1で話し合いができるようになっています(学生相談室では、相談したことの秘密は守られますので、気軽に相談してください)。

相談員	川上紗季	鈴木菜央	須 原 美 佐
門安味問	毎週水曜日	毎週木曜日	毎週金曜日
開室時間	12:30~17:30	12:30~17:30	13:00~17:00

**カウンセリング**は、カウンセラーとあなたがじかにふれあう場です。

あなたの現在の問題や、気持ちをありのままにみつめて、あなた自身が問題を解決してゆけるように、カウンセラーが援助します。カウセリングは一人でも、グループでもさしつかえありません。

#### 《予約方法》

予約には3つの方法があります。

①メールに学年・学科・学籍番号・氏名・相談内容・相談希望日を書いて相談時間を予約する。

## アドレス gakusei_sodan@nagoyacollege.ac.jp

- ②直接相談員に予約する。
- ③保健室を通して予約する。

もちろん、予約をしないで直接来室していただいても大丈夫です。 お気軽にご利用下さい。

あなたが自分自身を知る手がかりとして、心理テストも準備しています。 "自分の性格を考えてみたい"と思った時にも、気軽に相談室を訪れてください。

※いのちの電話相談センター(24時間・年中無休)
名古屋いのちの電話 052-931-4343

# 8. ハラスメント

#### ハラスメントとは?

ハラスメントとは、相手側の意に反する不適切な発言、行為等を行うことによって、相手側に不快感や不利益を与え、人権を侵害し、教育研究・学習環境を悪化させることをいいます。キャンパス内で起こりうるハラスメントには①セクシュアル・ハラスメント、②アカデミック・ハラスメント、③パワー・ハラスメントがあります。そのほかに基本的人権を侵害する全ての言動や行動も含まれます。

本学には、みなさんの味方となる相談窓口があります。

#### 大学におけるハラスメント

大学という環境の中でのハラスメントは、学生を指導したり成績評価を行う立場にある教職員が、「弱い立場」にある学生に対してハラスメントを行うという場合が典型的です。またハラスメントは、教職員と学生の間だけではなく、先輩後輩・友人間など同性間でも起こり得ます。

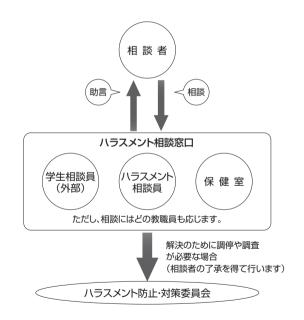
#### ハラスメントを防ぐために

遠慮なく相談窓口を利用しましょう。

あなたや友達がハラスメントにあい、どうしたらよいか悩んでいるとき、あるいは、もし断ったら成績評価や、就職・身体的安全に影響があるとおそれているときには、ただちにハラスメント相談窓口に助けを求めて下さい。相談窓口では教職員がプライバシーを守りながら、あなたが不利益をこうむることがないように、あなたの立場になって支援します。

桜花学園大学・名古屋短期大学では相談を受けると、このような流れで対応します。

相談受付は、電話・手紙・ファックス・電子メールでも受け付けています。相談を受けたすべての教職員には守秘義務があり、あなたのプライバシーは守られます。 匿名での相談も受け付けています。



# ハラスメントに対する基本的宣言

桜花学園大学及び名古屋短期大学(以下「本学」と呼ぶ)の 教職員と本学で学ぶ全ての学生は、個人の尊厳、法の下の平 等、学習研究の権利と自由、勤労の権利などを定めた日本国憲 法、教育基本法、労働基準法、男女雇用機会均等法などに謳わ れている精神にのっとり、個人の人権を侵害するハラスメン ト. とりわけヤクシュアル・ハラスメントは基本的人権を尊重 した男女共同参画型の社会づくりを目指す上で絶対にあっては ならないものと考えます。本学では、学内において学び研究し 働く全ての構成員が、個人として尊重され、公正で安全な環境 の下で勉学研究に専念し、課外活動を楽しみ、職務に従事する 機会と権利を保障することに努めます。その一環として、万一 ハラスメントによる人権侵害・性差別が発生した場合には、厳 しい姿勢で速やかに適切な対応を行うことを宣言します。また 本学では、ハラスメントによる人権侵害・性差別の防止及び根 絶のための研修会を実施したり、パンフレットなどを作成して ハラスメント防止に対する意識の向上と、ハラスメントを防止 する環境づくりに努力します。

桜花学園大学·名古屋短期大学

# 9. 個人情報保護

周知のとおり「個人情報の保護に関する法律」(平成15年法律第57号)は、平成17年4月1日全面施行になりました。

本学園では、学生・生徒並びに教職員の個人情報をデータベースや帳票により、 教育・研究活動及び進路支援などに利用しています。これらの個人情報の利用に当 たっては、当然のことながら、個人の尊厳及び基本的人権の尊重の立場から、個人 情報を確実に保護しなければなりません。

したがいまして、個人情報保護に関する法律や政令及び「学校における生徒等に関する個人情報の適正な取り扱いを確保するために事業者が講ずべき措置に関する指針」(平成16年文部科学省告示第161号)並びに「雇用管理に関する個人情報の適正な取り扱いを確保するために事業者が講ずべき措置に関する指針」(平成16年厚生労働省告示第259号)等の基準を遵守しながら学内規程を制定し、個人情報の収集・管理・利用・開示・提供に関して適切な措置をとり、適正な利用と保護に今後とも努めてまいります。

# 学校法人桜花学園 個人情報の保護に関する規程

(月 的)

第1条 この規程は、学校法人桜花学園(以下「学園」という。)が「個人情報の 保護に関する法律」(平成15年5月30日法律第57号)の平成17年4月 1日施行に伴い、個人情報の適正な収集、利用、管理及び保全を図り、 もって個人情報の保護に資することを目的とする。

(定義)

- 第2条 この規程において「個人情報」とは、学園に在籍(以下、科目等履修生含む)・在職(以下、非常勤教職員含む)している者、在籍・在職しようとする者、在職・在籍していた者、在籍・在職しようとした者(未成年の場合。法定代理人、保護者を含む。以上の者を総称し、以下「個人等」という。)の生存する個人に関する情報であって、特定の個人として識別される、または識別され得る情報をいう。
  - 2 この規程において「個人情報データベース」とは、パソコン等のデータベース化された情報の他、個人情報の集合物であって帳簿等によってファイリング化され、検索が容易にされたものをいう。
  - 3 この規程において「個人データ」とは、個人情報のうち、前項の個人情報 データペースの中に組織的に組み込まれたものを言う。

(責 務)

- 第3条 個人情報の安全管理のため、個人情報統括管理責任者(以下「統括責任 者」という。)を学園が設置する学校長とし、そのもとに「個人データ管 理者|を置く。
  - 2 統括責任者は、組織的管理措置、人的管理措置、技術的・物理的管理措置 を講するよう努めなければならない。
  - 3 統括責任者は、個人データの取り扱いの管理を行うため「個人データ管理者」を事務部長・課長等から選任するものとする。
  - 4 個人データを取り扱う者は、業務上知り得た個人データの内容を第三者に 漏洩、又は目的外に使用してはならない。その職を退いた後も同様とす る。

(収集の制限)

第4条 個人情報の収集は、あらかじめ当該個人等の本人に利用目的を公表・通知 し文書等にて同意を得た範囲内に限定するものとする。 2 個人情報の収集は、思想、信条、信教及び本籍地の調査を目的としてはならない。

#### (利用及び提供の制限)

- 第5条 個人データの利用は、学園の教育業務において不可欠な範囲内に限定する ものとする。
  - 2 個人データは、本人の同意がある場合や次の場合を除き、これを第三者に 提供してはならない。
    - ①法令に基づく場合
    - ②個人の生命、身体又は財産の保護のために必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難なとき。
    - ③行政機関又はその委託を受けた者が法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合であって、本人の同意を得ることにより当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき。

#### (適正管理)

- 第6条 個人データ管理者は、個人情報の安全性及び信頼性を確保するため、所管 の個人情報(以下「所管情報」という。)の漏洩、滅失、棄損及び改ざん の防止に関し、必要な措置を講じなければならない。
  - 2 個人データ管理者は、所管情報を、その目的に応じ、最新の状態に保つよう努めなければならない。

#### (業務の委託)

第7条 個人データの取り扱いを含む業務を学外に委託する場合は、個人情報の保護に必要な事項について、約定しなければならない。

#### (学外要員の受け入れ)

第8条 前条の規定は、個人データの取り扱いを含む業務のために、学外から要員を受け入れる場合についても準用する。

#### (開示の請求)

- 第9条 個人等は、本人に関する個人情報について、開示の請求をすることができ る。
  - 2 前項の請求は、当該請求に必要な事項を明記した文書を、当該個人データ 管理者宛に提出して行うものとする。
  - 3 第1項の請求を受けた個人データ管理者は、当該個人情報を開示するものとする。

ただし、次の場合については、この限りではない。

- ①本人又は第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を害するおそれがある場合
- ②学園の教育・研究等の適正な実施に著しく支障を及ぼすおそれがある場合
- ③他の法令に違反することとなる場合

#### (訂正の請求)

- 第10条 個人等に関する個人情報に誤りがある場合に、その訂正を請求することが できる。
  - 2 前条第2項の規定は、訂正の請求について、これを準用する。
  - 3 第1項の請求を受けた個人データ管理者は、当該請求に関わる事実を調査・確認し、速やかにこれに応じるものとする。

#### (不服の申し立て)

- 第11条 個人等は、個人情報の取り扱いに関し、不服申し立てをすることができる。
  - 2 統括責任者は、不服申し立ての受け入れ機関として、情報監査委員会(桜 花学園大学にあっては「大学評議会」、名古屋短期大学にあっては「大学 運営委員会」、桜花学園高等学校については「運営委員会」、附属幼稚園 (にあっては「職員会議」が兼ねる)を置く。
  - 3 前項の申し立ては、当該個人データ管理者を窓口とし、情報監査委員会宛てに提出するものとする。
  - 4 情報監査委員会は、不服申し立ての内容を調査し、確認するため調査小委 員会を設置することができる。
  - 5 情報監査委員会は、第4項の調査、確認の結果を当該本人等に直接通知するとともに、可及的速やかに学部長または学科長等に通告する。

#### (事務主管)

- 第12条 個人情報取り扱いに関する事務主管は、庶務会計課又は事務室とする。 (委任)
- 第13条 この規程に定めるものの外、必要な事項については別に定める。 (規程の改廃)
- 第14条 この規程の改廃は、理事会の議を経て理事長が行う。
- 附則 この規程は、平成17年4月1日に施行する。

# 大学の保有している個人情報の取扱いについて

#### ○本学が保有している個人データの利用目的について

本学は、「学校法人桜花学園 個人情報の保護に関する規程」第5条第1項にも とづき、教育業務を遂行するために保有している個人データを、下記の目的のため に利用します。下記の目的以外にデータを利用する必要が生じた場合は事前に同意 を得ることとします。なお、個人情報を直接本人から書面等により取得するとき は、具体的に利用目的を明示します。

また、下記のサービスおよび業務を円滑に進めるため、本学設置法人である学校 法人桜花学園との間で、個人データを共同利用させていただくことがあります。

#### ○利用目的

- 1. 本学にかかわる業務上の各種通知、連絡、掲示を行うため
- 2. 授業、試験等を円滑に運営するため
- 3. 学生の学籍管理、履修・成績管理等を行うため
- 4. 学生の実習実施に必要な業務を行うため
- 5. 学生の修学指導用に保証人へ成績通知を行うため
- 6. 学生の奨学金交付、各種助成、課外活動、住居・アルバイト紹介、保健衛生管理等、学生生活支援及び福利厚生業務を行うため
- 7. 学生の就職支援業務を行うため
- 8. 入学者選考及び入学試験業務を行うため
- 9. 各種証明書等を発行するため
- 10. 学費等の納入、返金等に関する業務を行うため
- 11. 卒業生に対して、大学の行事開催通知や調査等を行うため
- 12. 自己点検・評価、第三者評価、各種補助金申請及び各種統計調査にかかわる 業務を遂行するため
- 13. 図書館等、学校の教育・研究施設の利用、図書・教室・その他施設の貸出、 情報ネットワークの利用等にかかわる業務を遂行するため
- 14. 同窓会の活動を支援するため
- 15. 上記のほか、本学の管理・運営にかかわる業務において必要な事項を処理するため

#### ○個人情報の保護に関する取扱い窓口

本学の個人情報の保護に関する取扱いについて、質問や相談、情報開示請求、申 し出等がある場合は、各業務を行う事務局部署で受け付けます。

# 10. 障害学生の支援

本学では、障害のある学生一人ひとりの実情や要望に基づき、修学環境を整える ことを目指して教職員が連携し、全学的なサポートができるよう努めます。

支援を希望する学生は、特別支援申出書を学生課に提出して下さい。

担当部署・窓口は次のとおりです。

担当部署	学生委員会		
担当窓口	学生課(研究管理棟 1 階)		
	月~金 9:30~16:30		
	TEL 0562-97-5503/1306		
	e-mail gakuseika@nagoyacollege.ac.jp		

## 桜花学園大学 障害学生支援に関する指針(ガイドライン)

平成28年3月9日 制定

#### 1. 基本理念

桜花学園大学は、障害の有無によって分け隔てることなく相互に人格と個性を尊重し合い、学生、教員、職員の多様性を重んじる大学を目指す。また、本学構成員一人ひとりが障害について共に学び、お互いに支え合うことにより、障害があってもその能力を最大限に発揮できる環境を整えることを目指す。

### 2. 基本方針

桜花学園大学は、本指針(ガイドライン)の基本理念に従い、支援実施の指針と なる以下の基本方針を定める。

- (1) 障害のある学生からの意思表明(意志を表明する支援を含む)に基づき、共通理解と合意形成を図りつつ必要な支援を行う。
- (2) 教職員が緊密に連携・協力をして、全学的な支援を行う。
- (3) 障害のある学生の受け入れ姿勢・方針を明確にし、これにかかわる情報の公開に努める。
- (4) 教職員は障害のある学生に対して修学上の差別や不利益が生じないように努め、すべての学生が質の高い教育を受けることができるよう、修学支援を行う。
- (5) すべての学生に同一の基準で成績評価を行う。ダブル・スタンダードは設けない。

#### 3. 対象学生・支援範囲

「障害学生」とは、「障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活 に相当な制限を受ける状態にある学生」とする。また大学が入学を認めたすべての 学生が対象である。

支援の範囲は、「入学試験、入学から卒業までの修学に関する事項、進学・就職・学生生活等に関する事項」を対象とする。大学(学部、学務部等)と本人(及び保護者)が十分な合意形成・共通理解を得た上で、柔軟に対応するものとする。

#### 4. 組織体制

アクセシビリティー推進委員会が中心となって、障害のある学生の支援のコーディネートを行う。障害学生の所属学部、授業担当教員、学生相談室、関係部署及び学生支援ボランティアが緊密に連携し、本指針(ガイドライン)に基づき、障害学生への支援を行う。なお、アクセシビリティー推進委員会規程は別に定める。

#### 5. 支援内容(具体例)

以下に障害の種別ごとの支援の例を記載する。障害のある学生一人ひとりの支援 の要望に基づき、個別に対応する。

#### 【障害学生修学支援内容】

- (1) 身体障害学生への対応例
  - 1、 PC通訳、ノートテイク等学生ボランティアの活用
  - 2、受講時の配慮(教室の着席位置、教室の変更、ガイドヘルプ)
  - 3、 I C T 、各種機器等の活用
- (2) 発達障害学生への対応例
  - 1、事前相談を行い、どういったことに配慮が必要か確認する。
  - 2、 伝達事項は、プリントやメモに書いて渡す等配慮する。
  - 3、精神的に不安定になったときの支援窓口(学生相談室等)を定め、連携する。
- (3) 病弱・虚弱学生への対応例
  - 1、本人、保護者と事前相談を行い、授業時や生活上の問題等を確認する。
  - 2、体育や実習等への参加に関してどこまで支援が必要かについて本人に確認しておく。
  - 3、 通院が必要な場合、授業欠席時の学習の補充について配慮する。

## 付 則

- 1 学長は、本指針(ガイドライン)に定める目的を達成し、効果的な支援を遂行するため必要な規程の整備、予算措置を講するよう努めるものとする。
- 2 この指針 (ガイドライン) は、平成28年4月1日から施行する。
- 3 この指針(ガイドライン)を一部改正し、令和5年4月1日から施行する。

# 11. 地震防災対策

## 1. 地震が起きたら

# 大学にいる場合

- 1) 机の下など落下物を防ぐ所に身を置いて安全を確保してください。
- 2) 地震時、校舎は耐震をしてありますので安全です。慌てて外へ飛び出さないようにしてください。
- 3) 揺れがおさまったら、慌てず校舎外の1次又は2次避難場所へ移動してください。教職員がいる場合はその指示に従ってください。

· 1 次避難場所:6号館前、7号館前芝生広場

・2次避難場所:グラウンド

### 大学外にいる場合

- 安全な場所で身を守ることを最優先としてください。(ガラスの近くや看板の下など落下物がありそうなところは避ける)
- 2) 通学中の場合、帰宅するか大学へ行くかは状況に応じて<u>自分で判断</u>してください。
- 落ち着いたら家族と大学へ安否情報を連絡してください。 (大学0562-97-1306・5503)
- ・普段から、通学中「ここで地震が起きたら」を想定して避難方法を考えてみてく ださい。

# 2. 特別警報が発令されたら

暴風・大雨・大雪などの特別警報が発令された場合、大学は休講となりますが、登校中などに発令された場合は、安全を最優先して行動してください。休講の基準は「非常時の臨時授業運営措置」(本学ホームページ)によりますので確認してください。

どこにいても まず 自分を守る ことを最優先に行動してください。

# 12. 課外活動

# 1. 学生会について

本学の学生会は、学生の自律的な活動を通して民主的な精神を高揚し、相互扶助 の精神を培い、積極的に大学行事に参加して自主的学問研究の発展に貢献すること を目的としています。

学生会はすべての学生により構成されている学生の自主的な組織で、学生生活の 向上と発展に努めています。

# 学生会運営方法

学生会はゼミ・サークルを基礎にして運営しています。最高決議機関として定例 学生大会を年2回、前後期1回ずつ行い、活動方針や予算などを決定します。また 必要に応じて臨時大会を開くことがあります。

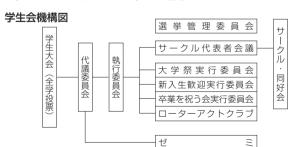
学生大会につぐ決議機関として、ゼミより選出された代議委員による代議委員会 があります。学生会役員は全学生の直接投票で11名を選出し、学生大会および代 議委員会の決議に基づき、その目的の遂行のために活動します。

#### 代議委員とは

4月最初のゼミで2名ずつ選出されます。代議委員は学生会執行委員会とゼミ のパイプ役としての役割を果たし、学生会執行委員会からの諸連絡などは代議委 員を通じて各ゼミへ伝えられます。

## 学生会の経費

学生の入会金と会費、そして大学からの補助金によって運営されています。



執行委員会室及び各実行委員会室は、学生会館2Fにあります。

# 2. 委員会・サークル一覧表

委員会名	活動日	活 動 内 容
学生会執行委員会	木:昼休み	学生と大学側とのパイプラインの役割 定例学生大会 代議委員会 サークル・委員会代表者会議
大学祭実行委員会	火:5限	大学祭の企画から運営まで スポーツ祭典・前夜祭・模擬店・後夜祭等 ※大祭係…実行委員会とは別に、各ゼミに大祭 係をおきます。大祭係は大学祭実行委員会と ゼミのパイプ役としての役割を果たし、大学 祭子で委員会からの諸連絡などは大祭係を通 じて各ゼミへ伝えられます。大祭係は4月最 初のゼミで2名ずつ選出されます。
新入生歓迎実行委員会	隔週火: 昼休み	新入生向けの 交流イベントの企画・運営
卒業を祝う会実行委員会(桜花) 卒業を祝う会実行委員会(名短)	木: 昼休み 金: 昼休み	卒業を祝う会の準備・運営
ローターアクトクラブ	木: 昼休み 5限	他大学との交流 イベントの企画・運営

# 文化系サークル

ţ	t — 2	フル 名	í
軽	音	楽	部
, -		びの研 · 幼稚	, , , , , ,
茶	ŭ	道	部
児童文	化研究部	那「どかる	あん」
JAZ	Zサー:	クル「tu	ttiJ

	サ	- 2	7 ル	名	
吹		奏	楽		部
文	芸	サ	_	ク	ル
家	庭	サ	_	ク	ル
観	光	Ē	ij	好	会
手詞	サー	クル	「手	話っき	5]

## スポーツ系サークル

	サ	-	クル	名	
硬	式	テ	Ξ	ス	部
チ	アリ	-	ディ	ング	部
軟	式	テ	Ξ	ス	部
パ	スケ	ツ	トボ	ール	部
パ	ド	111	ント	、ン	部
ス	ノ — ラ	スポ	- ツ ·	サーク	ソル

	サ	-	ク	ル	名	
71	レ	_	ボ	_	ル	部
野			球			部
IJ	ズ	Д	ダ	ン	ス	部
ダ	ン	ス	. [	司	好	会
よ	さ	こし	ηţ	t –	- ク	ル

※詳しくは新入生歓迎実行委員会が配布する「何でもBOOK」で確認して下さい。

# 強化クラブ

桜花強化バスケットボール部 (女子)

桜花強化ハンドボール部 (男子)

### 「二者懇」

本学には、課外活動の質的な発展を期すとともに、学生のみなさんのニーズをさらに深く理解し教育運営に反映するために、「二者懇」(各分野の学生代表と、学生部長をはじめとする学生委員の教職員代表との懇談会)があります。

「学生会執行部」だけではなく、「新入生歓迎実行委員会」や「大学祭実行委員会」など、学生会会則に定める「特別委員会」の執行部と定期的に懇談会を行っています。新歓・大祭は、各企画ごとに行われる場合もあります。

# 13. 施 設

# 1. 学生会館

学生のみなさんの福利厚生と課外活動のための総合的な施設であるとともに、学生や教職員、そして同窓生のみなさんの交流の場であり、大学生活の憩の場ともなるところです。学生会館の使用にあたっては、定められたルールを守り、楽しくくつろげる場として、有効に利用して下さい。

## (1) 施設の名称

] 階 食堂・喫茶コーナー・放送室

2 階 ラウンジ・売店・委員会室1~4・名短同窓会室・印刷室・茶室

地 下 楽器演奏室1~2・スタジオ・倉庫

※使用許可を必要とする場所

茶室・楽器演奏室1~2・スタジオ・倉庫

放送室・印刷室

# (2) 学生会館の開館期間と開館時間

開館期間:キャンパス閉鎖期間を除く 開館時間:午前8時~午後7時30分



2F ラウンジ



1F 白販機コーナ-



1F 食堂



2F 売店



1F テラス

# (3) 食堂の営業時間

#### 平日 午前11時~午後2時

※なお、合宿などで、予約注文のある場合(最低10名以上)、朝食は、午前8時~9時30分まで、夕食は、午後4時~6時まで利用できます。 ※また、食堂は弁当の持込もできます。

# (4) 売店の営業時間

#### 平日 午前9時50分~午後4時50分

※長期休業中は、食堂・売店とも時間短縮及び休業する場合があります。

# (5) 使用手続きについて

- ① 茶室・楽器演奏室・スタジオー3日前までに施設使用願を提出して下さい。
- ② 特定の団体が行事などでラウンジを使用したい場合は、7日前までに学生 課へ使用願を提出して下さい。
- ③ 食堂(厨房を除く)を使用したい場合は、業者の同意を得ておいて下さい。

# (6) 鍵の受け渡しについて

茶室・楽器演奏室・スタジオ・倉庫

-当日学生課で貸出し、午後7時30分までに返却 午後7時30分以後の使用は、あらかじめ許可がなければ認められません。

なお、学生課受付にある「鍵の貸出し表」に必ず記入して下さい。

(委員会室など、年間使用を許可されたグループには、スペアキーを渡します。許可なくスペアキーのコピーを作ることは認められません。)

# (7) 会館の使用上の注意事項

- ①飲 食 禁 止 場 所一 スタジオ、楽器演奏室
- ②貼 紙 掲 示 等- 掲示板以外には絶対にしないで下さい。
- ③清掃と片付けー使用後は清掃と後片付けをして下さい。
- ④空調について- 委員会室、茶室、スタジオ、楽器演奏室等の空調は、各 自で行って下さい。また、消灯節電にご協力下さい。
- ⑤非 常 ベ ルー 各部屋にある非常ベルは警備員室に通じています。非常 時のみ使用して下さい。
- ⑥来 客 者 の 利 用一 来客届を提出後ご案内下さい。館内は禁煙ですので、来 客者にも協力を求めて下さい。
- ⑦器 物 の 破 損一 誤って器物を破損したり、汚してしまった場合は、速やかに学生課に連絡して下さい。
- ⑧館内放送の利用ー 館内放送を利用したい場合は、その旨を学生課に申し出 て下さい。
- ⑨演奏室等の使用ー 地下のスタジオ、楽器演奏室は土足で上がらないで下さい。

## ※ その他会館使用に関しては、学生課に問い合わせて下さい。



学生会館

# 2. チェリープラザ'99

チェリープラザ '99 (99年5月完成) は1階がサークルの部室及びシャワー室 (洗濯機・乾燥機)、3・4階はサークルの部室及びミーティングルーム、そして2階は第2学生食堂(自販機コーナー)を備えた課外活動の拠点となる施設です。全館内禁煙、冷暖房完備の施設ですので、皆さんの交流の場として大いに使用して下さい。

#### (1) 施設の名称

1階 部室、シャワー室

2階 第2学生食堂(座席約150席あります)

3階 部室、ミーティングルーム、湯沸し室

4階 部室、ミーティングルーム、湯沸し室

#### (2) チェリープラザ、99の開館期間と開館時間

開館期間:キャンパス閉鎖期間を除く

開館時間:午前8時~午後7時30分

第2食堂 営業時間:平日、午前10時30分~午後1時30分

#### (3) 使用手続きについて

特定の団体が行事などで第2学生食堂(厨房を除く)を使用したい場合は、7 日前までに使用願を学生課へ提出して下さい。

### (4) チェリープラザ 99の使用上の注意事項

・ミーティングルーム――ミーティングルームを使用する場合は、ミーティング ルーム入口の横にホワイトボード(受付表)がありま すので、使用日・時間を記入すること。 ただし、使用後はホワイトボード(受付表)に記入し た予約は必ず消すこと。

- ・部屋内の掲示等―――指定された場所以外には絶対にしないで下さい。
- ・空調について――――部室、ミーティングルーム等の空調は、各自で行って ください。また、消灯節電にで協力下さい。
- ・器物の破損――――誤って器物を破損したり、汚してしまった場合は、速やかに学生課に連絡して下さい。

# 3. セミナーハウス

キャンパス内にあるセミナーハウス(95年7月完成)は約100名が一度に宿泊でき、ゼミ・サークル・委員会活動での研修会議や親睦など多目的に利用できます。また、宿泊だけではなく昼間も利用できます。

なお、利用を希望する場合、事前に学生課まで申し込んで下さい。

(日曜・祝日は原則として利用できません)



1Fロビー

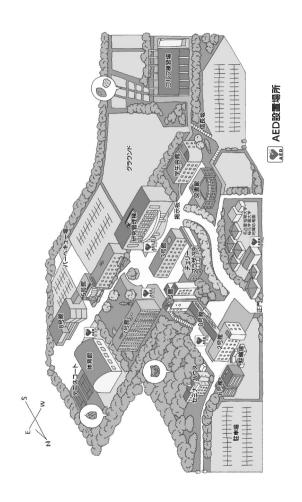


3F宿泊室兼作業室

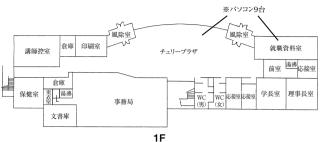


2 F宿泊室

※8号館の利用については、学生課で確認して下さい。

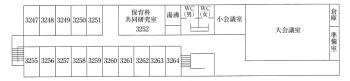


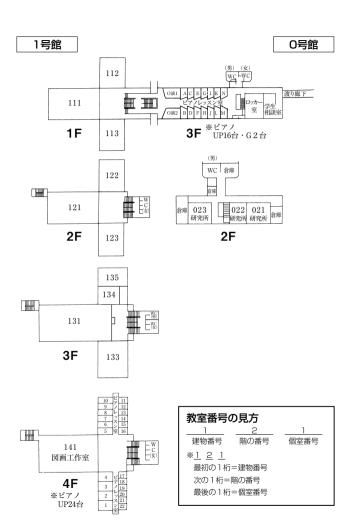
# 研究管理棟

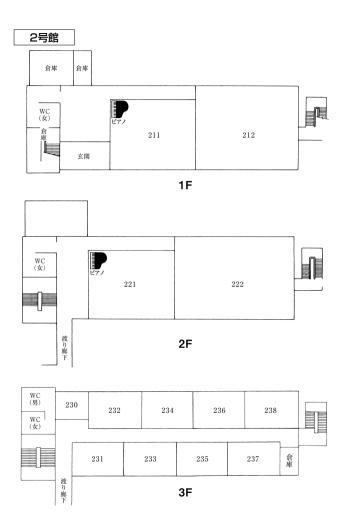


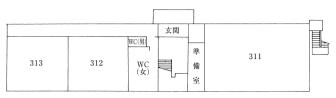
3216	3217	3218	3219	3220	3221	共同	式教養 引研究 3222	学科室	湯沸	WC (男)	WC (女)	英語 共同	ュニケーシ 研究室 3223	/32学科 E	3224	3225	3226	3227	3228
3229	3230	3231	3232	CaCoRo	3234	3235	3236	3237	3238			3239	3240	3241	3242	3243	3244	3245	3246

2F

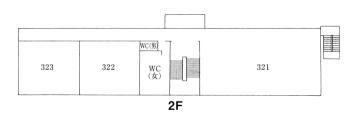


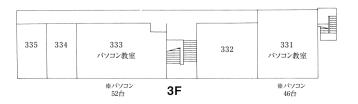


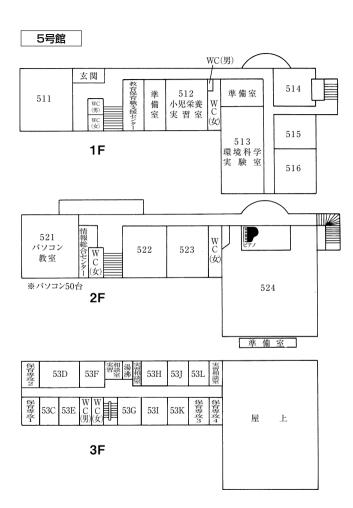




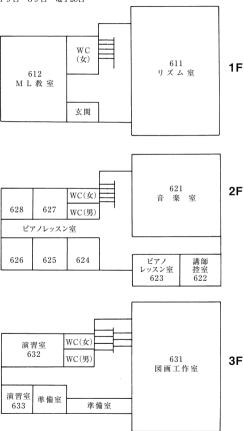
1F







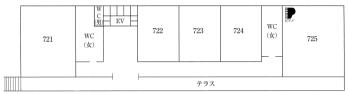
※ピアノUP9台・G9台・電子28台



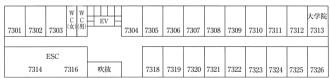
※ピアノUP5台・G5台



## 1F



# 2F



#### **3F** ※パソコン22台

7401	7402	7403	Ç		EV —	保育 共同研 74	<b>F</b> 究室	7406	7407	7408	7409	7410	7411	7412	7413
学芸学 共同研究 7414	□ ことも 国主	<b>开究室</b>	副学長:	<b>—</b>	吹抜		7417	7418	7419	7420	7421	7422	7423	7424	7425

4F

